

男女共同参画に関する
市民意識アンケート調査報告書

令和8年1月
鎌ヶ谷市

目 次

■ 調査の概要	1
■ 調査結果の概要	2
■ 回答者の属性	6
■ 調査結果	9
I 男女共同参画社会について	9
II 家庭生活や働き方について	25
III 教育について	71
IV 配偶者や恋人からの暴力などについて	79
V 性的少数者（セクシュアル・マイリティ）について	87
VI 社会活動等への参画について	92
VII 男女共同参画社会に関する行政への要望について	105
■ 調査票	123

調査の概要

1 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識、意見及び要望を集約、解析することにより、鎌ヶ谷市の現状、課題を把握し、次期男女共同参画計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査項目

- I 男女共同参画社会について
- II 家庭生活や働き方について
- III 教育について
- IV 配偶者や恋人からの暴力などについて
- V 性的少数者（セクシュアル・マイリティ）について
- VI 社会活動等への参画について
- VII 男女共同参画社会に関する行政への要望について

3 調査の方法

- (1) 調査対象 鎌ヶ谷市内に居住する18才以上の市民3,000人（無作為抽出）
- (2) 調査方法 調査票を各戸に郵送し、記入後アンケートを郵送にて回収
- (3) 調査実施時期 令和7年8月15日（金）～9月16日（火）
- (4) 回収結果 総回収数 1,048名 有効回収数 1,047名
有効回収率 34.9%

4 報告書を読む際の注意点

- ・ 前回調査は令和元年10月に実施しており、すべて「前回」と表記する。
- ・ 集計は小数点第2位を四捨五入した。したがって、数値の合計が100.0%にならないことがある。
- ・ 2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、数値の合計が100.0%を上回ることがある。
- ・ 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- ・ クロス分析の各属性の回答者数の合計は、「無回答」があるため、全回答者数とは一致しない。

調査結果の概要

1 回答者の属性（P6～P8）

市民全体の性別構成は、男性が 38.2%、女性が 58.6%となっている。

年齢構成は、男性は 60 歳代が 22.5%で最も高く、次いで 70 歳代（19.3%）、50 歳代（18.5%）となっている。70 歳以上（27.8%）が 4 分の 1 を超える一方、10・20 歳代（7.3%）は 1 割未満となっている。女性は 60 歳代が 21.8%で最も高く、次いで 50 歳代（18.9%）、40 歳代（15.5%）となっている。70 歳以上（18.3%）は男性に比べ 9.5 ポイント低い一方、10・20 歳代は 10.8%となっており、男性に比べ年代による差が小さくなっている。

職業は、男性は「正規の職員・従業員」が 43.5%で最も高く、次いで「無職（年金生活者を含む）」（26.8%）、「非正規の職員・従業員（パート、アルバイト、契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む）」（13.3%）となっており、上位 2 項目は女性より 1 割以上高くなっている。女性は「非正規の職員・従業員（パート、アルバイト、契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む）」が 33.6%で最も高く、次いで「正規の職員・従業員」（26.4%）、「専業主婦」（18.4%）となっている。女性は「非正規の職員・従業員（パート、アルバイト、契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む）」が男性に比べ 20.3 ポイント高く、「専業主婦」も「専業主夫」（0.3%）を 18.1 ポイント上回っている。

婚姻の状況は、全体では「結婚している」が 69.9%、「未婚」が 16.9%、「離死別」が 8.9%、「結婚していないがパートナーと暮らしている」が 1.2%となっており、男女差は 5 ポイント未満となっている。

配偶者または一緒に暮らしているパートナーの勤務状況は、男性は「特に働いていない」が 39.3%で最も高くなっているが、「フルタイムで働いている（週 5 日、1 日あたり 7 時間以上働いている）」（31.5%）、「フルタイムではないが働いている（週 5 日未満、1 日あたり 7 時間未満で働いている）」（28.1%）も 3 割前後となっている。女性は「フルタイムで働いている（週 5 日、1 日あたり 7 時間以上働いている）」（51.9%）が過半数となっている。

家族構成は、全体では「親と子」が 51.9%で最も高く、次いで「夫婦のみ」（27.9%）、「単身（ひとり暮らし）」（11.4%）、「親と子と孫（三世同居）」（4.7%）となっている。男女とも同様であるが、男性は「夫婦のみ」（34.3%）、女性は「親と子」（56.8%）が他方より 1 割ほど高くなっている。また、子どもの有無は、「いる」が 68.5%、「いない」が 28.7%、未子の属性は、「社会人（既婚+独身）」が 60.7%、「学生（小学生以上）」が 25.5%、「乳幼児（小学校入学前）」が 13.2%となっている。

2 男女共同参画社会について（P9～P24）

各分野における男女平等については、8 項目中 5 項目で「男性が優遇されている（計）」が 5 割以上、『政治、政策決定の場』は 72.5%となっている。一方、『学校教育』は「平等である」が 65.3%となっている。また、『職場』『学校教育』を除く 6 項目については、男性は「平等である」、女性は「男性が優遇されている（計）」が他方より 1 割以上高くなっている。

男女共同参画に関連した言葉の認知度については、「DV：ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）」が 93.7%で最も高く、「ジェンダー（社会的文化的につくられた性別）」（87.9%）、「LGBTQ+（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・クエスチョニング又はキア・プラス（分類できないその他の性）」（79.8%）など 15 項目中 6 項目が 6 割以上となっている。そのうち、「DV：ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）」は男女ともすべての年代で 8 割以上となる一方、他項目は 70 歳以上など高齢層で低下する傾向がみられる。また、「SOGI（性自認・性的指向を表す言葉）」（6.8%）など 3 項目は 1 割未満となっている。

「鎌ケ谷市男女共同参画推進センター」の認知度は、「見聞きしたことはない」が 66.8%となっている。一方、「男女共同参画推進センターのセミナーや講座・展示会などの催しに参加したことがある」は、女性 70 歳以上で 5.4%となっている。

3 家庭生活や働き方について (P25～P70)

ワーク・ライフ・バランスについては、男女とも『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が最も高く、男性は 31.8%、女性は 26.4%となっている。また、男性は『家庭生活を優先したい』、女性は『家庭生活を優先したい』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』も 2 割台となっている。一方、現実的に『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している』は男女とも 1 割以上低く、『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』も、一部の年代で 1 割以上低くなっている。また、『「仕事」を優先している』は男性で 23.5 ポイント、女性で 13.0 ポイント希望より高く、男性 50 歳代は 41.9 ポイント上回っている。

仕事と家庭の両立のための環境整備については、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」、「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が 4 割以上となっている。特に男性の家事等への参加については、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」などが 7 割以上となっている。

女性の就労については、「結婚や出産にかかわらず仕事をもつ方がよい」が 57.9%と半数を超え、女性 (63.4%) は男性 (50.0%) より 1 割以上高くなっている。また、女性の起業については、「資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい」(肯定 46.5%、否定 41.4%) と「時間を有効に使うことができ、子育て等家庭との両立が図りやすい」(肯定 29.0%、否定 55.6%) 以外の 4 項目については、全体として肯定が過半数となっている。しかし、女性は「男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある」に肯定的な意見が 62.2%となる一方、男性は否定が肯定をやや上回り、「資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい」についても、男性は否定、女性は肯定が 5 割台となるなど、男女による差もみられる。

有給休暇や育児・介護休業の取得のしやすさについては、有給休暇が「取りやすい(計)」は男性職員が 65.4%、女性職員 73.8%となっており、ほとんどの年代で 5 割以上となっている。育児休業が「取りやすい(計)」は男性職員が 42.9%、女性職員が 66.5%となっており、男性職員は 30 歳代以下、女性職員は 60 歳代以下で 5 割以上となっている。介護休業が「取りやすい(計)」は男性職員が 36.6%、女性職員が 50.7%となっており、女性職員は 30～40 歳代、60 歳代などで 5 割以上となる一方、男性職員はほとんどの年代で 5 割未満となっている。3 項目いずれも女性職員が男性職員より取得しやすい環境にあり、育児休業については 23.6 ポイントの差が生じている。

未就労者が現在働いていない理由は、「年齢面の制約のため」が 53.4%、「健康面の理由から」が 39.0%となっている。

1 年前と比較した「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」の進捗状況については、3 項目いずれも「変わらない」が 5 割前後で最も高くなっているが、『多様な働き方・生き方が選択できる社会』は、男女とも「良くなったと思う(計)」が「悪くなったと思う(計)」より 2 割以上高くなっている。

家庭における日常的な仕事については、すべての項目で『どちらも同じくらい行う』を理想とする割合が 5 割以上となっている。一方、実際には 8 項目中 6 項目で女性が『主に自分が行う』割合が 5 割以上となるなど、女性に負担が集中する傾向となっており、実際に家事等を行う平均時間は、男性が 2.6 時間、女性が 6.8 時間と女性の方が 4 時間以上長くなっている。また、「役所等への用事・書類の作成」は男女とも『主に自分が行う』が最も高く、「町内会などの地域活動』については、男性は『どちらも同じくらい行う』、女性は『主に自分が行う』が最も高くなるなど、男女間で認識の差もみられる。

4 教育について (P71～P78)

こどもの教育における男女平等の意識については、「性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である」は、男女ともすべての年代で「そう思う（計）」が8割以上となっている。他3項目は全体として反対が上回っているが、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい」は男性40歳代以上で賛成が5割以上、「小学校や中学校で、名簿について男女で分けず、男女混合の名簿を使用する方がよい」は男性30歳代で賛成が48.8%となるなど、一部の年代では異なる傾向となっている。

こどもへの性教育については、男女ともすべての年代で6割以上が必要だと感じており、5割以上が「保護者や学校が、こどもに対し教育を行うこと」、「こどもや保護者が困った時に相談できる窓口を設けること」、「相談したこどもや保護者の支援体制を構築すること」などの対策が必要だと考えている。

5 配偶者や恋人からの暴力などについて (P79～P86)

DVの認識については、『なぐったり、けったりする』、『平手で打つ』、『性的な行為を強要する』、『大声でどなる、ののしる』の4項目は「DVだと思う」が9割以上となっている。16項目いずれも「DVだと思う」が5割以上となっている。一方、「DVだと思わない」は『お金の使い道を細かくチェックする』で22.3%となっている。

これまでに受けたことがあるDVの内容については、「心理的攻撃」が26.3%で最も高く、「身体的暴行」、「経済的圧迫」、「性的強要」は1割台となっている。4項目いずれも女性が男性より高く、「心理的攻撃」は女性30歳代、50歳代以上で3割以上、「性的強要」は女性50歳代で20.3%が経験している。

被害の相談については、全体の半数以上、男性は74.3%が「どこ（だれ）にも相談しなかった」としている。理由としては、男女とも半数以上が「相談するほどのことではないと思ったから」をあげ、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」（45.5%）、女性は「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（32.0%）なども高くなっている。また、男女とも2割以上が「相談しても無駄だと思ったから」と考えている。

6 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について (P87～P91)

性的少数者が生活しづらい社会だと思うかについては、女性70歳以上を除き「思う（計）」が5割以上となっており、女性10・20歳代、40歳代、60歳代は7割以上が肯定している。一方、その対策として「性の多様性を理解するための学校教育を行う」（45.9%）をあげる割合が、60歳代を除き最も高くなっている。

7 社会活動等への参画について (P92～P104)

現在参画している地域活動については、「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」が25.9%などとなっている。一方、男女とも5割以上が「現在参画している活動はひとつもない」と回答しており、10・20歳代などは7割前後と高くなっている。また、40歳代、70歳以上は、「現在参画している活動はひとつもない」男性が女性より1割以上高くなっている。一方、今後（継続して）参画してみたい活動は、「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が34.8%となっている。

女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについては、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が53.7%、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が42.0%となっている。

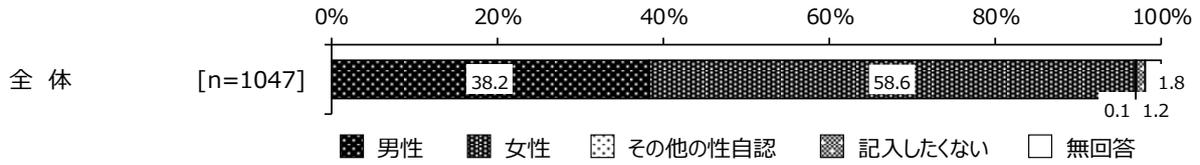
男女平等推進のために心がけていることについては、『家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う』と『男性は仕事、女性は家庭』と、性別によって役割を決めつけない』が5割台となっている。

8 男女共同参画社会に関する行政への要望について（P105～P122）

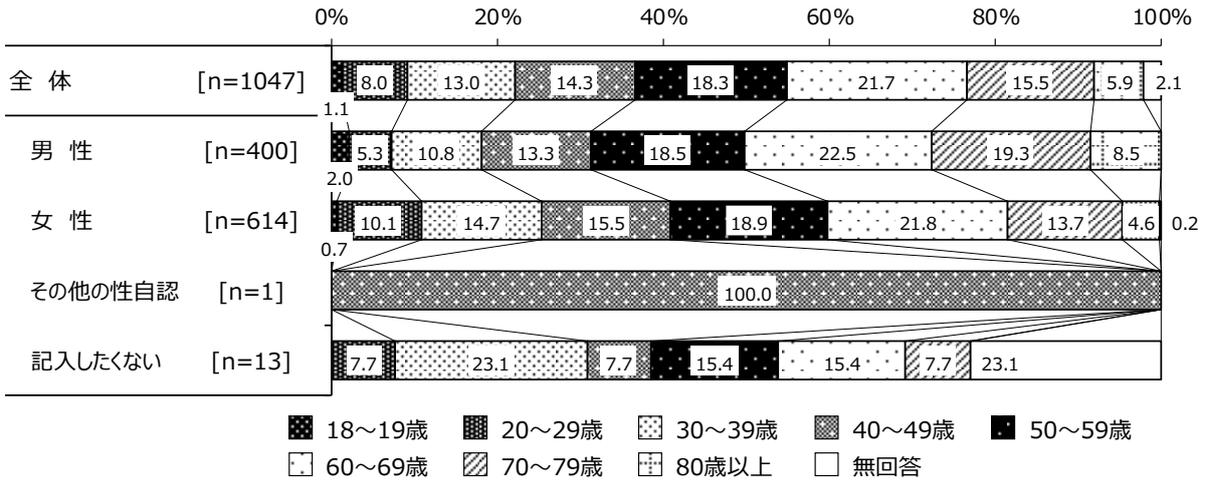
「男女共同参画社会」実現のために注力すべきことについては、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような社会的支援の充実」が54.3%で最も高く、「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が4割台となっている。これらは女性が男性より高く、特に女性30歳代は「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」、「女性や子ども等の人権が侵害されないような防犯環境の整備」なども含め、取組の強化を求める意見が高くなっている。また、男性70歳以上も「鎌ヶ谷市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」、「民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する」など複数の項目が全体より高くなっている。

回答者の属性

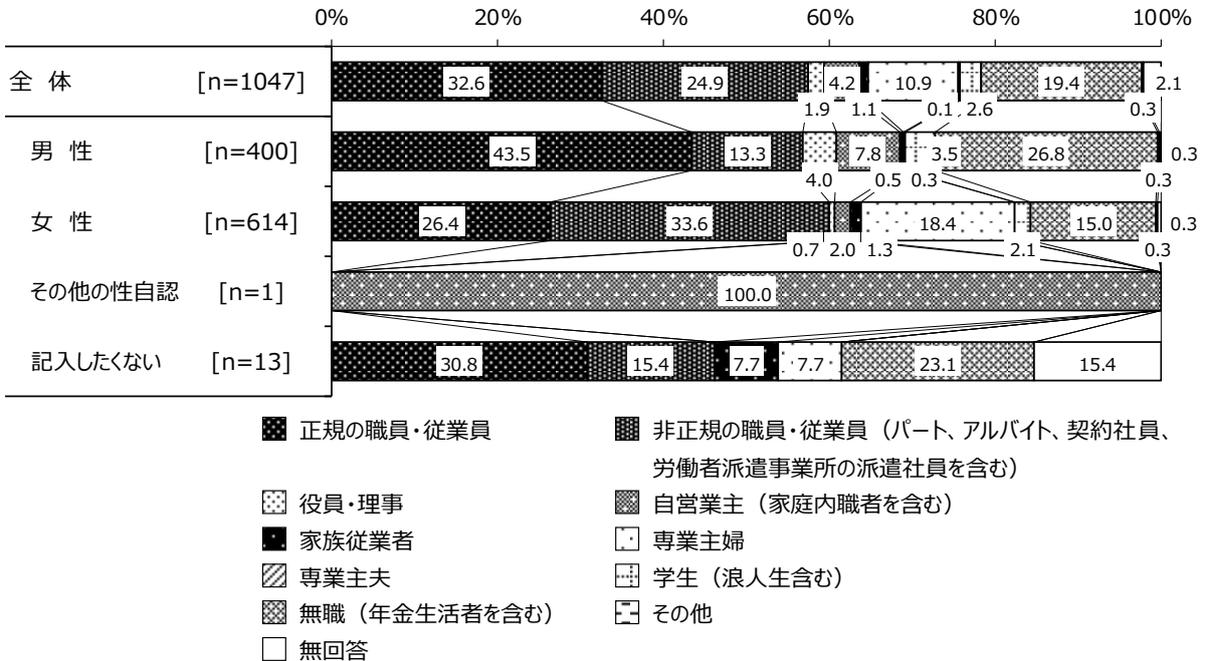
1 性別



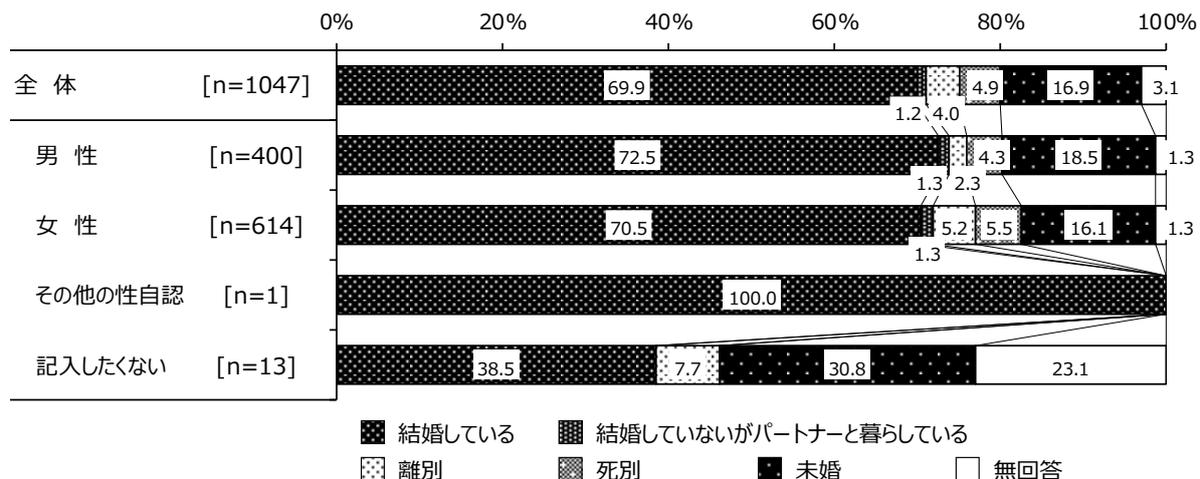
2 年齢



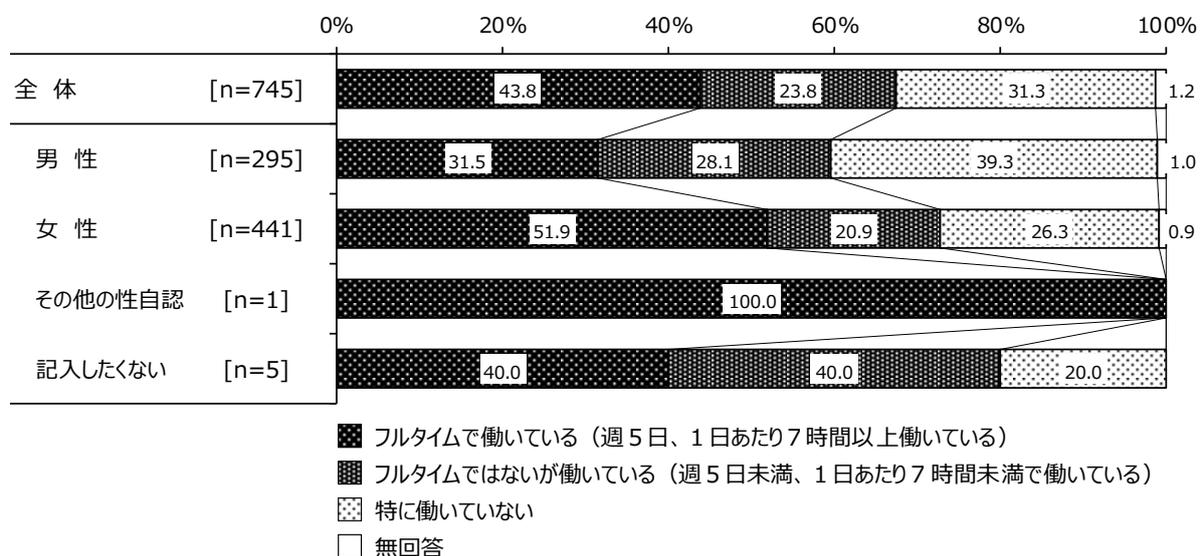
3 職業



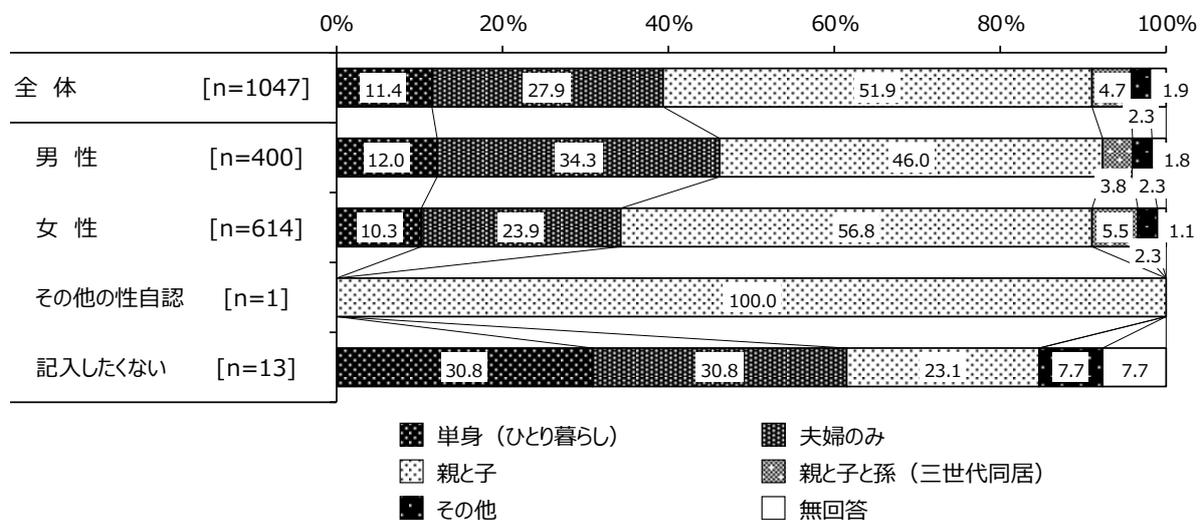
4 婚姻



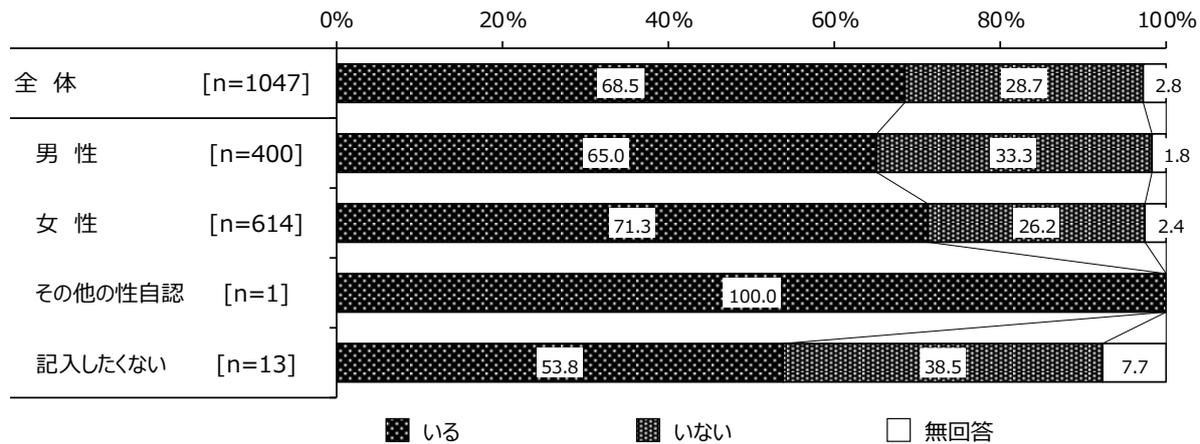
5 配偶者または一緒に暮らしているパートナーの現在の勤務状況



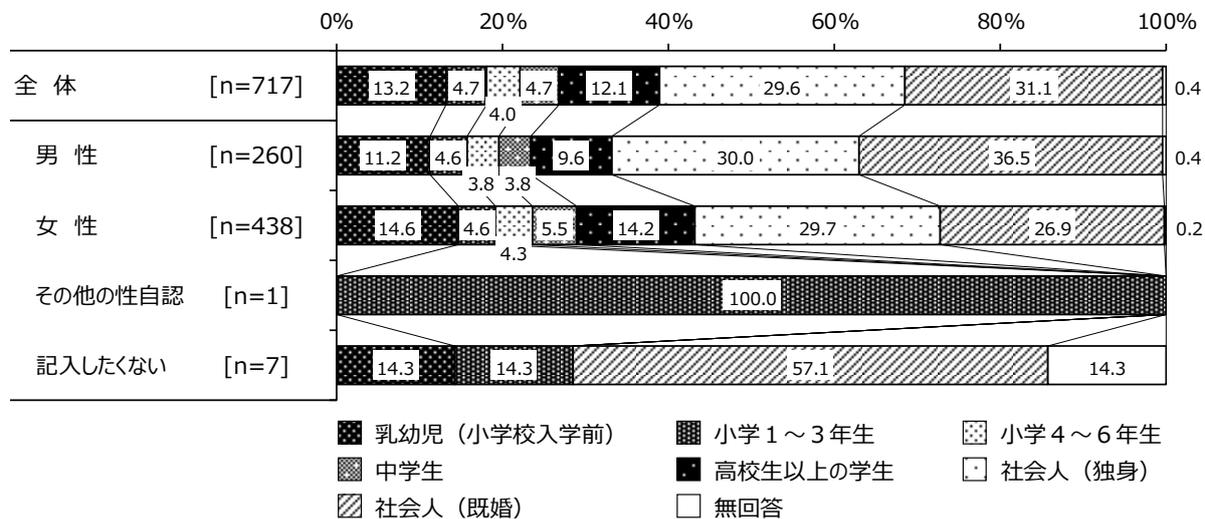
6 家族構成



7 子どもの有無



8 末子の属性



調査結果

I 男女共同参画社会について

「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことです。（男女共同参画基本法より抜粋）

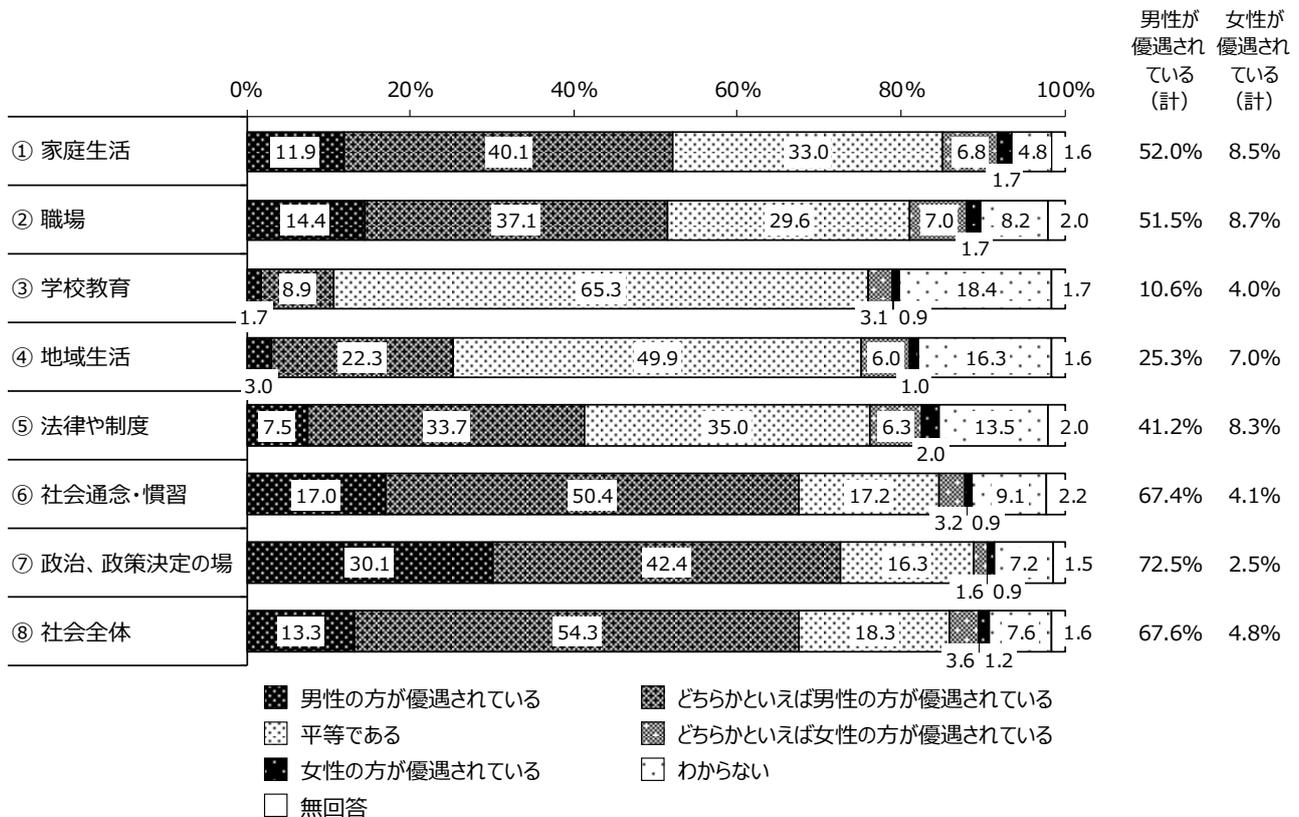
問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

項目ごとに、あなたのお考えに近い番号に1つずつ○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

「平等である」は『学校教育』が65.3%で最も高く、次いで『地域生活』が49.9%、『法律や制度』が35.0%、『家庭生活』が33.0%となっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性が優遇されている（計）」は『政治、政策決定の場』が72.5%で最も高く、次いで『社会全体』が67.6%、『社会通念・慣習』が67.4%、『家庭生活』が52.0%、『職場』が51.5%となっている。8項目中5項目で5割以上となっており、『学校教育』、『地域生活』を除く6項目で「平等である」、「女性が優遇されている（計）」より高くなっている。

「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性が優遇されている（計）」は『職場』が8.7%で最も高く、すべての項目で1割未満となっている。

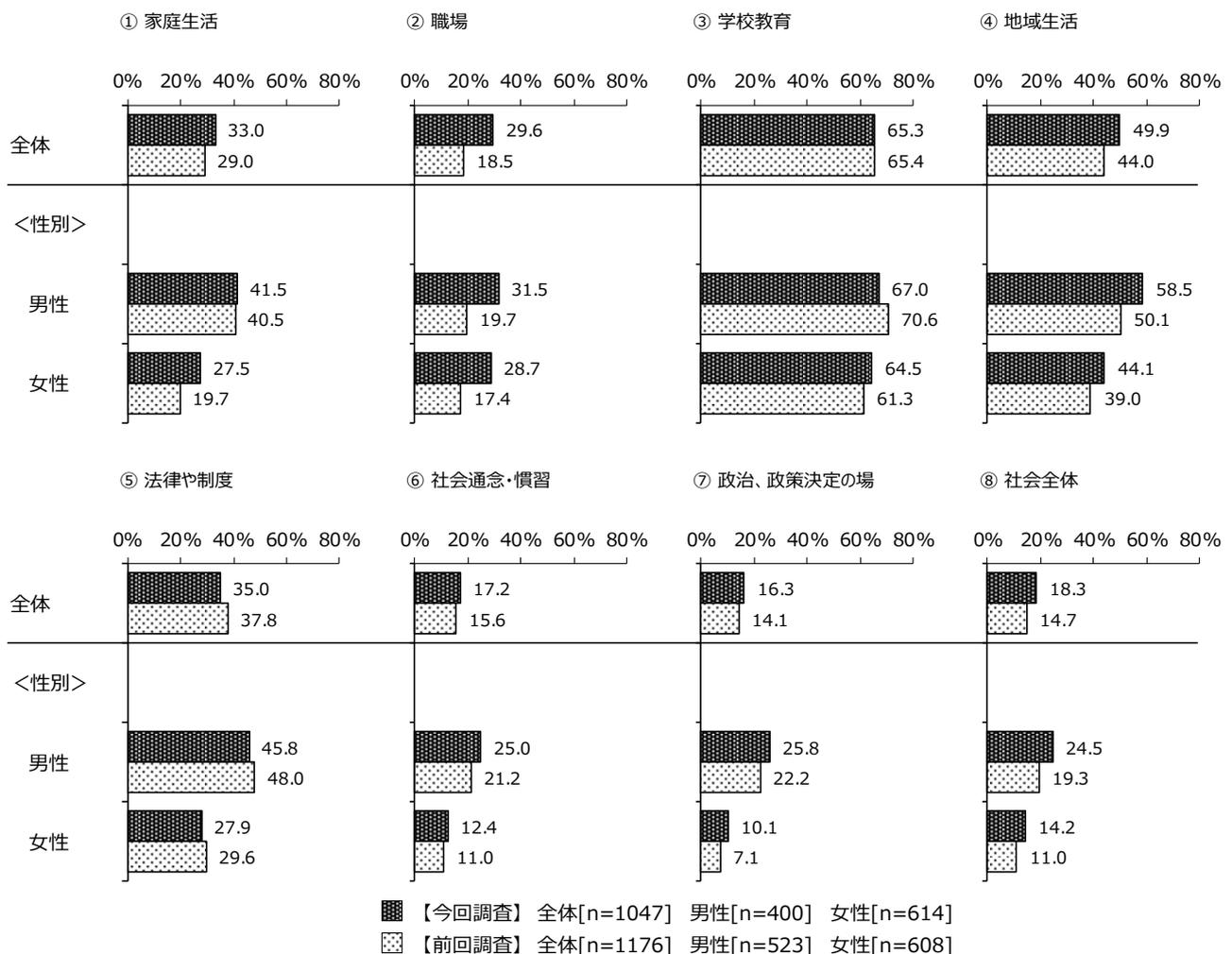


問1 ①～⑧ 「平等である」 前回調査との比較

全体では、「平等である」は『学校教育』、『法律や制度』以外の6項目で前回調査より高くなっており、『職場』は11.1ポイント、『地域生活』は5.9ポイント上回っている。

性別にみると、「平等である」は男性は『学校教育』、『法律や制度』以外の6項目、女性は『法律や制度』以外の7項目で前回調査より高くなっており、『職場』は男女とも1割以上上回っている。また、男性は『地域生活』が8.4ポイント、『社会全体』が5.2ポイント、女性は『家庭生活』が7.8ポイント、『地域生活』が5.1ポイント高くなっている。『学校教育』は男女とも「平等である」が6割以上となっているが、男性が前回調査より3.6ポイント減少する一方、女性は3.2ポイント増加している。

「平等である」は今回調査、前回調査とも8項目いずれも男性が女性より高くなっている。今回調査は『職場』、『学校教育』以外の6項目、前回調査は5項目で1割以上男性が女性を上回っているが、『家庭生活』、『学校教育』については、前回調査に比べ6.8ポイント差が縮小している。

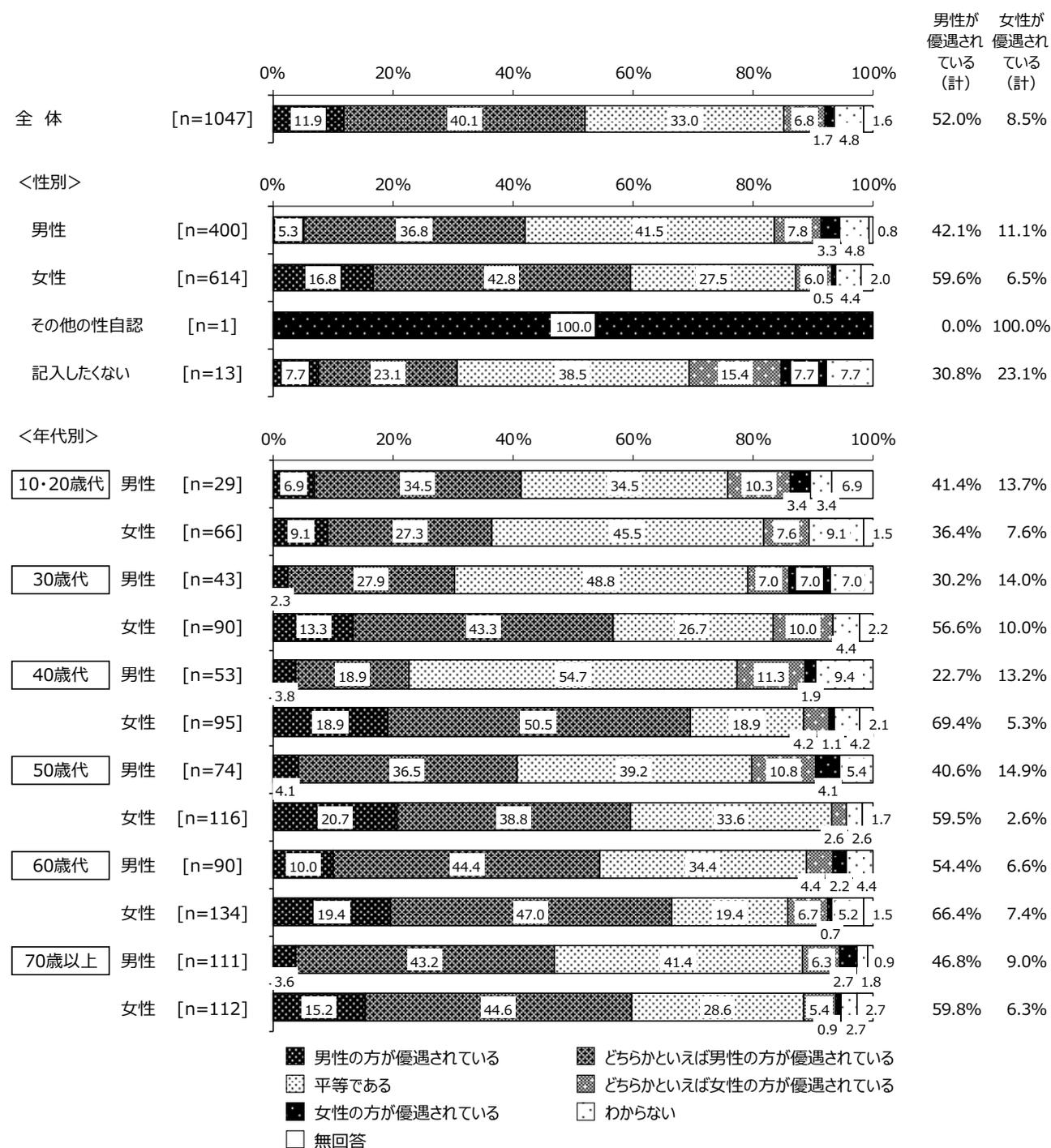


問1① 家庭生活 <性別・年代別>

全体では、「男性が優遇されている（計）」が52.0%で最も高く、「平等である」が33.0%、「女性が優遇されている（計）」が8.5%、「わからない」が4.8%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも「男性が優遇されている（計）」が最も高くなっているが、男性は「男性が優遇されている（計）」（42.1%）と「平等である」（41.5%）がほぼ同率となる一方、女性は「男性が優遇されている（計）」（59.6%）が「平等である」（27.5%）より32.1ポイント高くなっている。

男性30～40歳代、女性10・20歳代は「平等である」が最も高く、男性40歳代は全体を21.7ポイント上回っている。それ以外は「男性が優遇されている（計）」が最も高く、男性60歳代、女性30歳代以上で5割以上となっている。

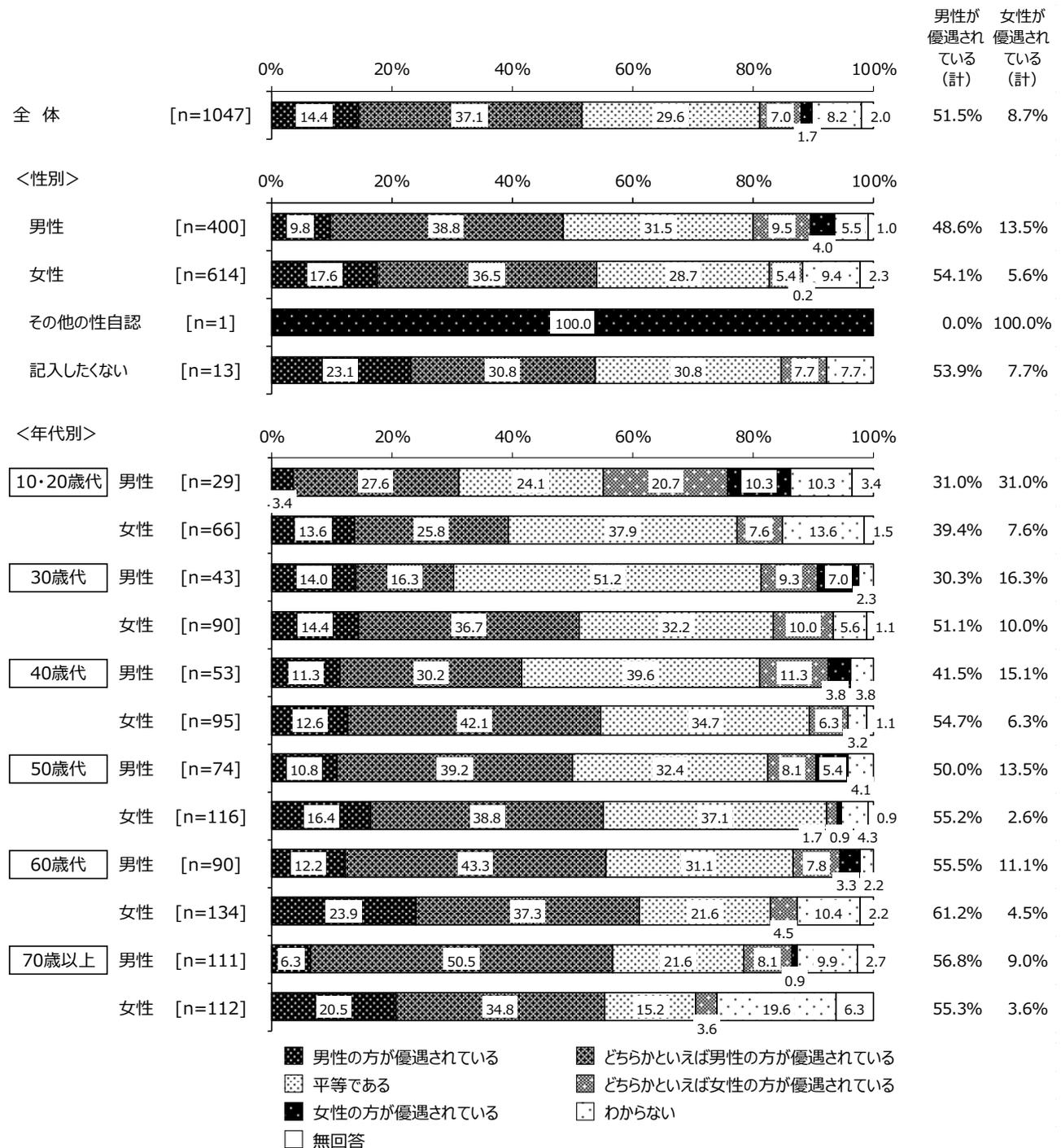


問1② 職場 <性別・年代別>

全体では、「男性が優遇されている（計）」が51.5%で最も高く、「平等である」が29.6%、「女性が優遇されている（計）」が8.7%、「わからない」が8.2%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも「男性が優遇されている（計）」が最も高く、女性（54.1%）は男性（48.6%）を5.5ポイント上回っている。一方、「女性が優遇されている（計）」は男性（13.5%）が女性（5.6%）より7.9ポイント高くなっている。

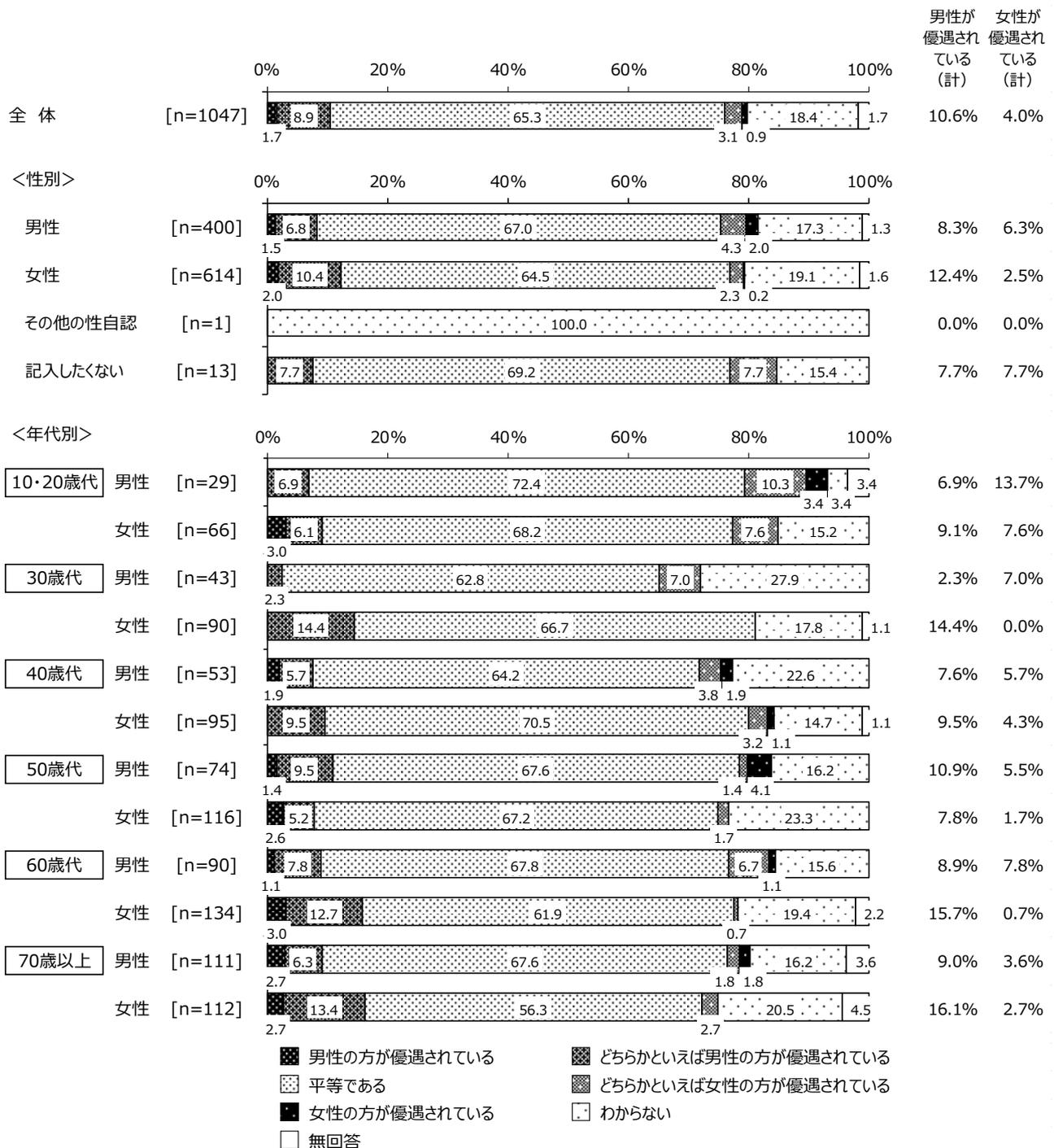
男性30歳代は「平等である」（51.2%）が最も高く、全体を21.6ポイント上回っている。それ以外は「男性が優遇されている（計）」が最も高く（男性10・20歳代は「女性が優遇されている（計）」と同率）、男性50歳代以上、女性30歳代以上で5割以上となっている。



問1③ 学校教育 <性別・年代別>

全体では、「平等である」が 65.3%で最も高く、「わからない」が 18.4%、「男性が優遇されている（計）」が 10.6%、「女性が優遇されている（計）」が 4.0%となっている。

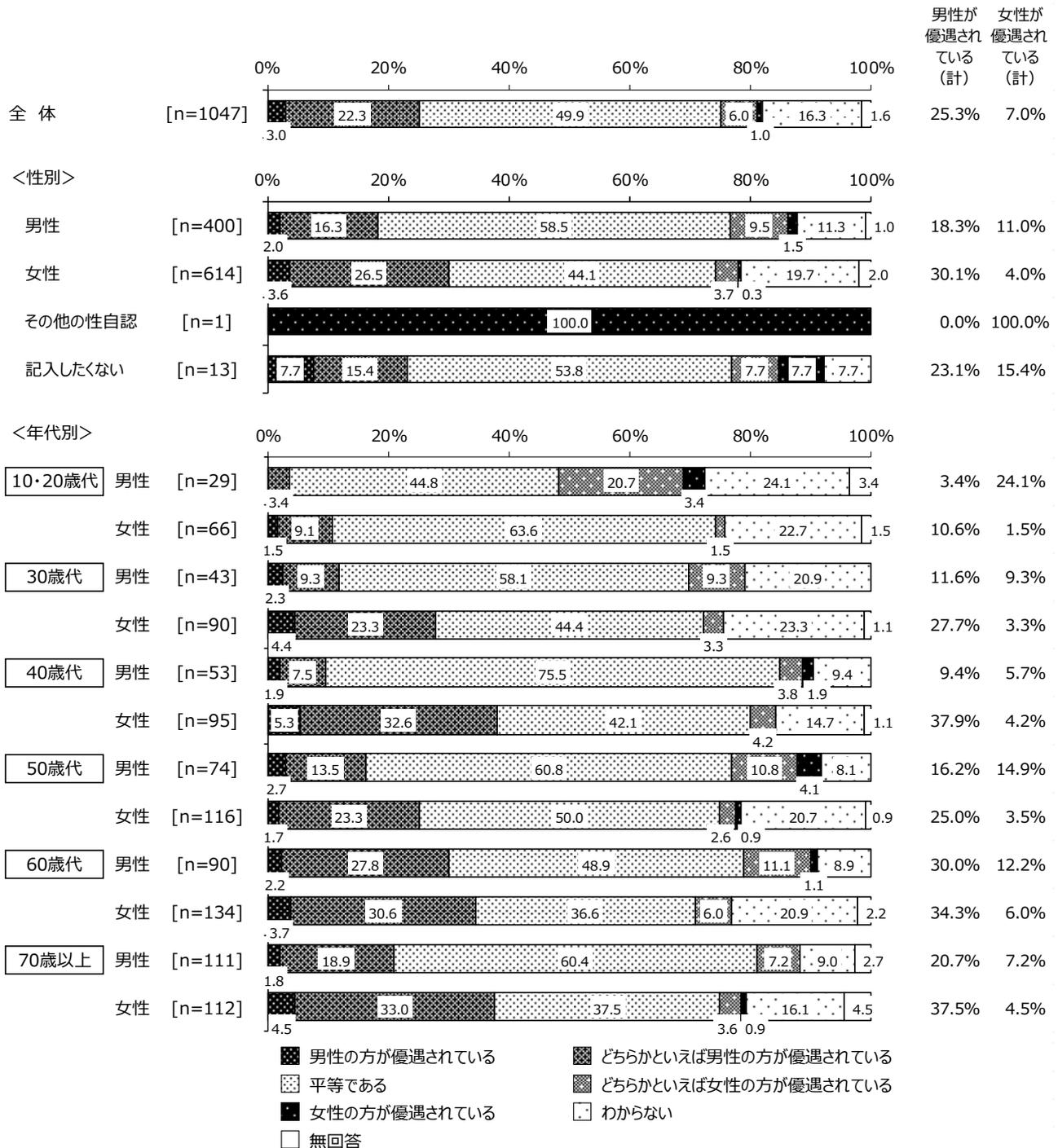
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「平等である」が5割以上となっている。



問1④ 地域生活 <性別・年代別>

全体では、「平等である」が49.9%で最も高く、「男性が優遇されている（計）」が25.3%、「わからない」が16.3%、「女性が優遇されている（計）」が7.0%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「平等である」が最も高くなっている（女性70歳以上は「男性が優遇されている（計）」と同率）が、男性（58.5%）は女性（44.1%）を14.4ポイント上回っている。「男性が優遇されている（計）」は女性（30.1%）が男性（18.3%）より11.8ポイント高く、男性60歳代、女性40歳代、60歳代以上で3割台となっている。

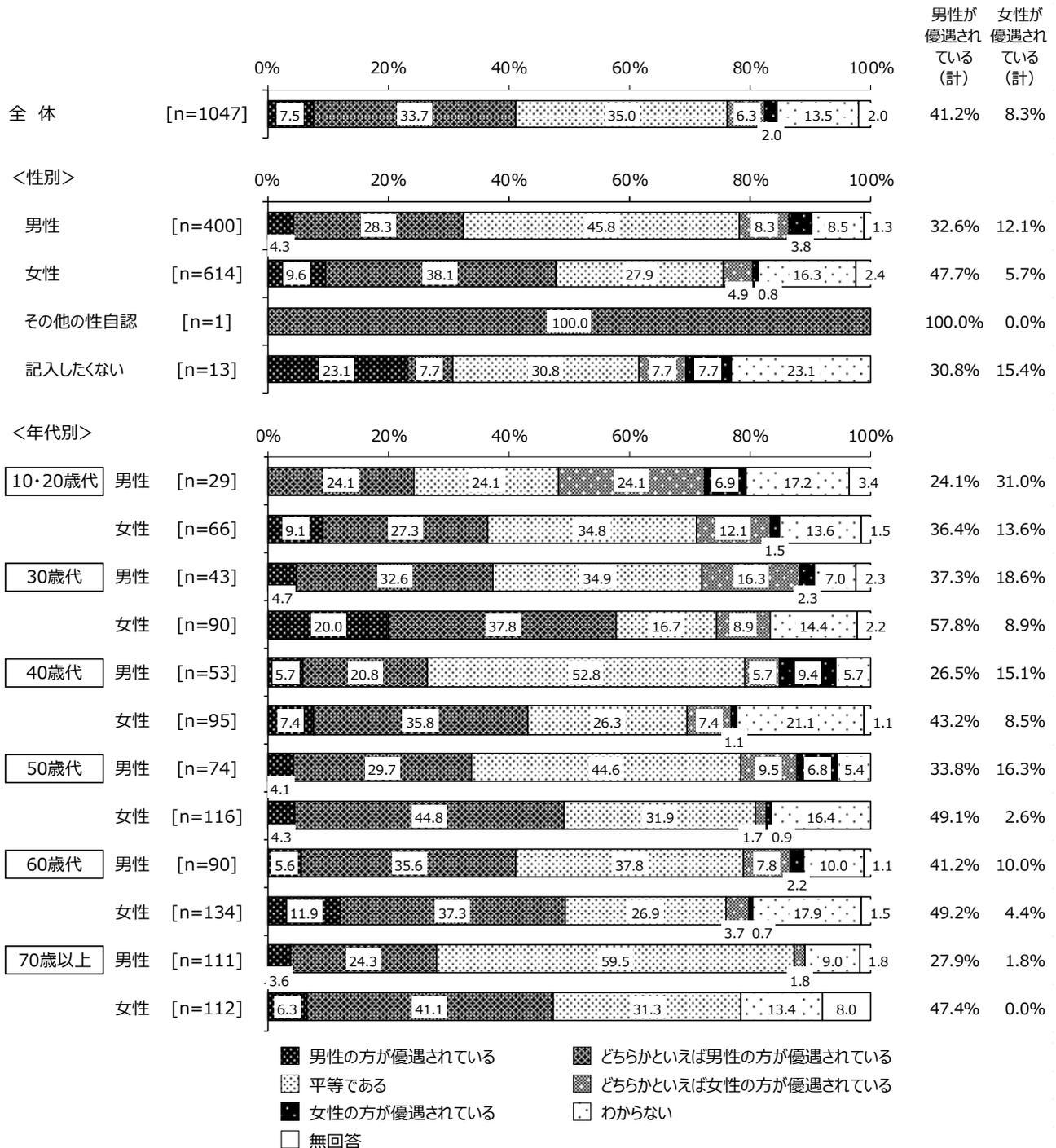


問1⑤ 法律や制度 <性別・年代別>

全体では、「男性が優遇されている（計）」が41.2%で最も高く、「平等である」が35.0%、「わからない」が13.5%、「女性が優遇されている（計）」が8.3%となっている。

性別・年代別にみると、男性は「平等である」、女性は「男性が優遇されている（計）」が最も高く、それぞれ他方を1割以上上回っている。

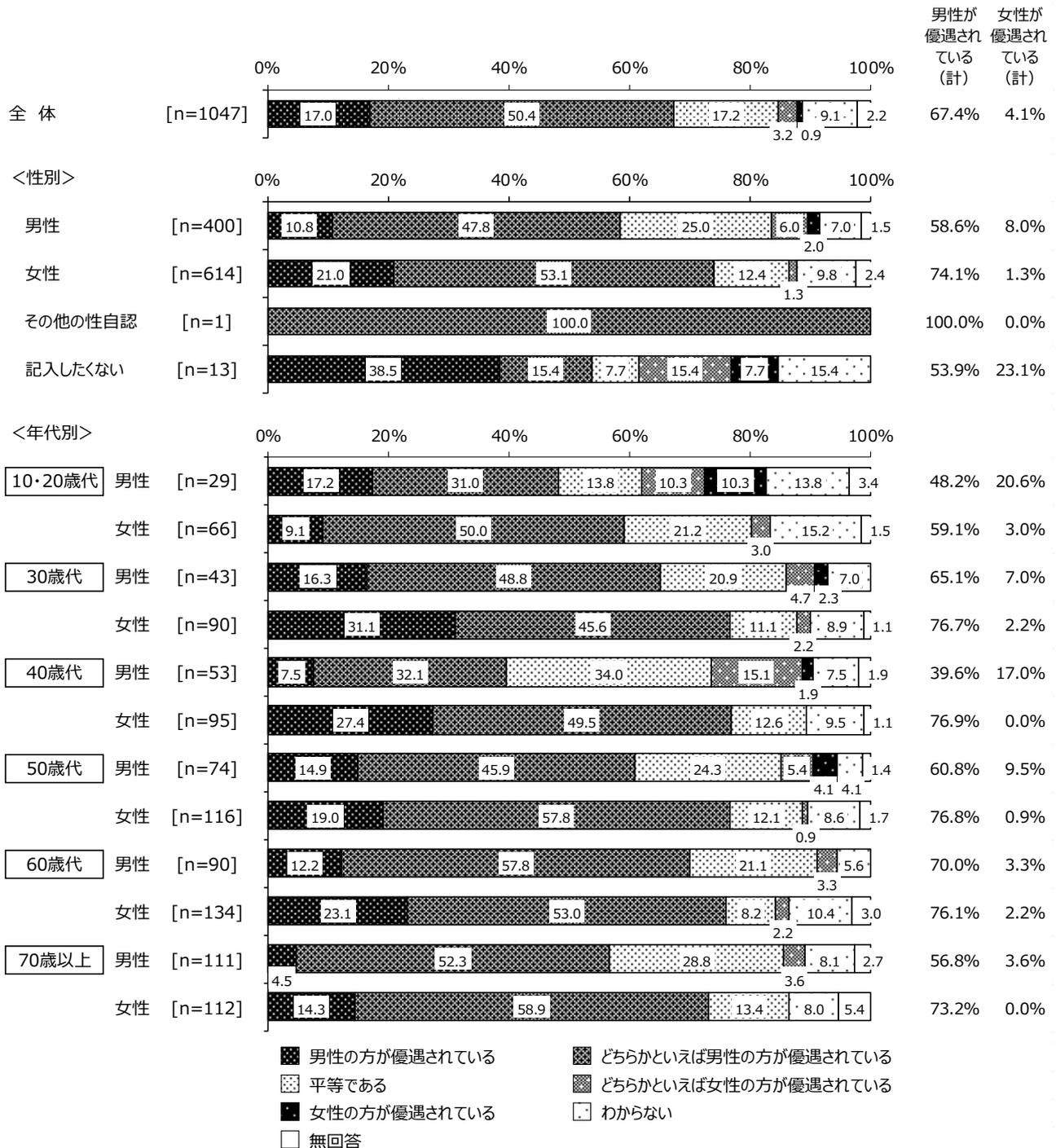
「平等である」は男性40歳代、70歳以上、「男性が優遇されている（計）」は女性30歳代で5割台となっている。



問1⑥ 社会通念・慣習 <性別・年代別>

全体では、「男性が優遇されている（計）」が67.4%で最も高く、「平等である」が17.2%、「わからない」が9.1%、「女性が優遇されている（計）」が4.1%となっている。

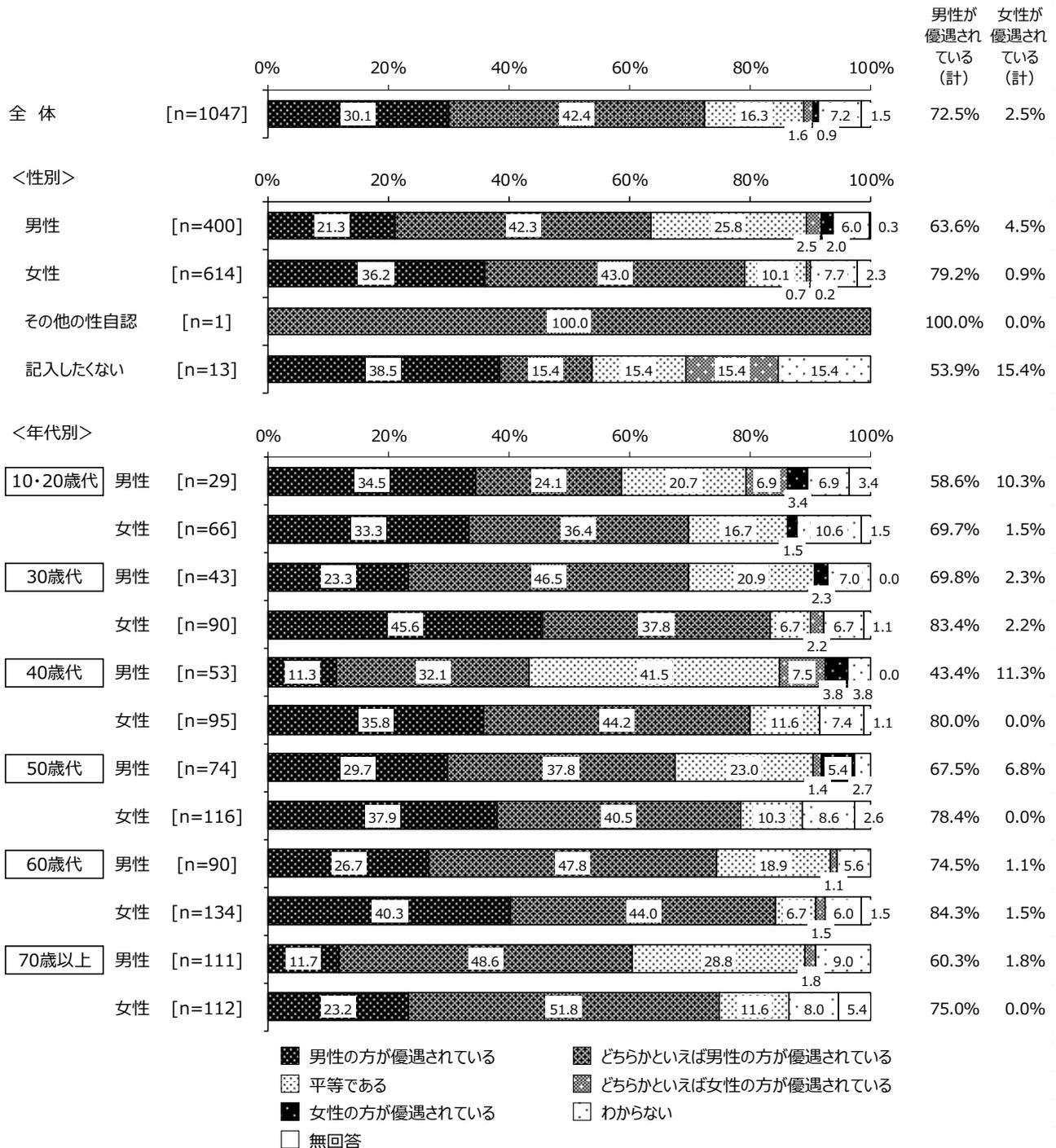
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「男性が優遇されている（計）」が最も高くなっているが、女性（74.1%）は男性（58.6%）を15.5ポイント上回っている。「男性が優遇されている（計）」は男性10・20歳代、40歳代を除き5割以上となっている。一方、「平等である」は男性40歳代、70歳以上、「女性が優遇されている（計）」は男性10・20歳代、40歳代で全体を1割以上上回っている。



問1⑦ 政治、政策決定の場 <性別・年代別>

全体では、「男性が優遇されている（計）」が72.5%で最も高く、「平等である」が16.3%、「わからない」が7.2%、「女性が優遇されている（計）」が2.5%となっている。

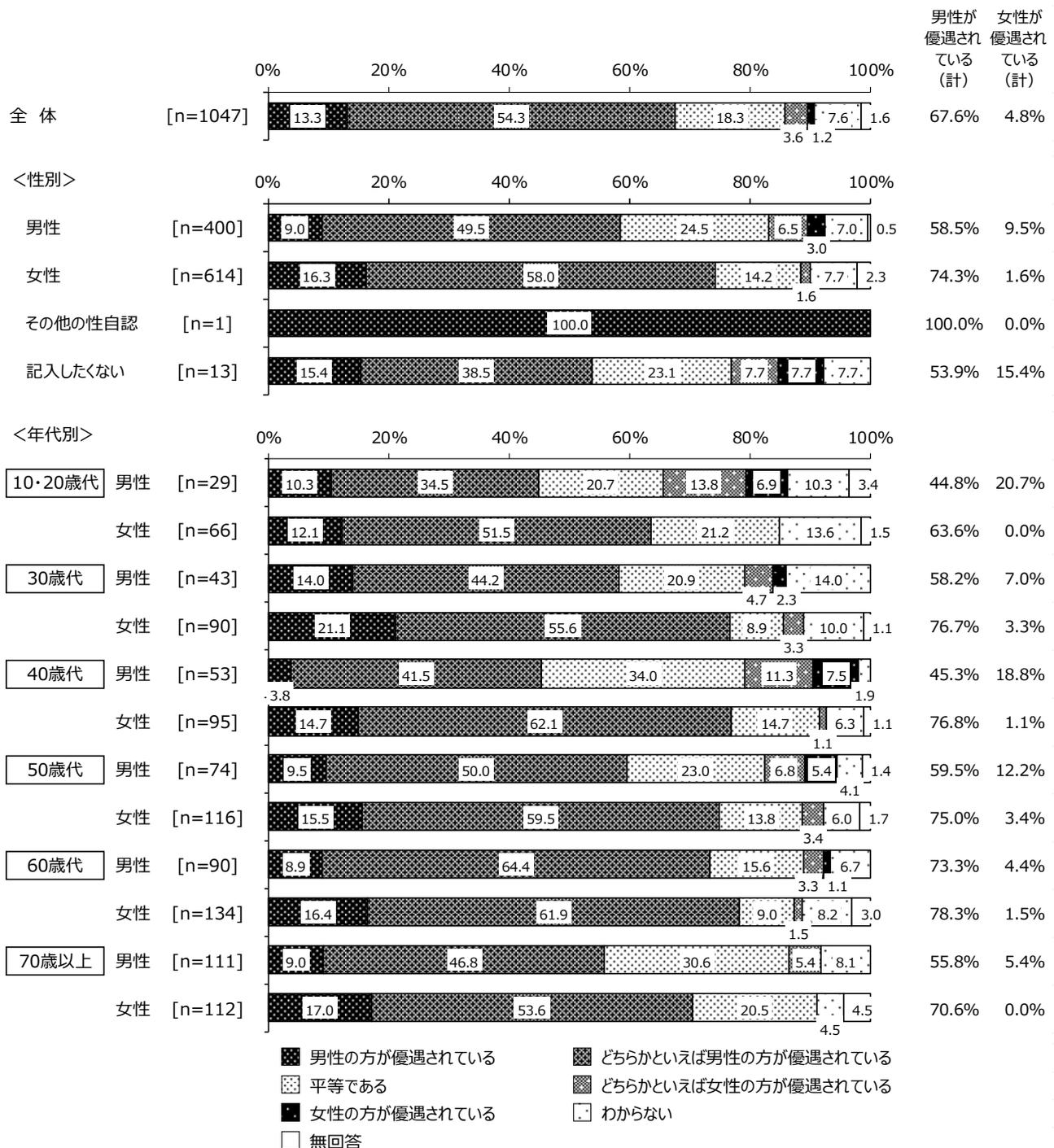
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「男性が優遇されている（計）」が最も高くなっているが、女性（79.2%）は男性（63.6%）を15.6ポイント上回っている。「男性が優遇されている（計）」は男性40歳代を除き5割以上、女性30～40歳代、60歳代は8割台となっている。一方、男性40歳代は「男性が優遇されている（計）」（43.4%）と「平等である」（41.5%）がほぼ同率となっている。



問1⑧ 社会全体 <性別・年代別>

全体では、「男性が優遇されている（計）」が67.6%で最も高く、「平等である」が18.3%、「わからない」が7.6%、「女性が優遇されている（計）」が4.8%となっている。

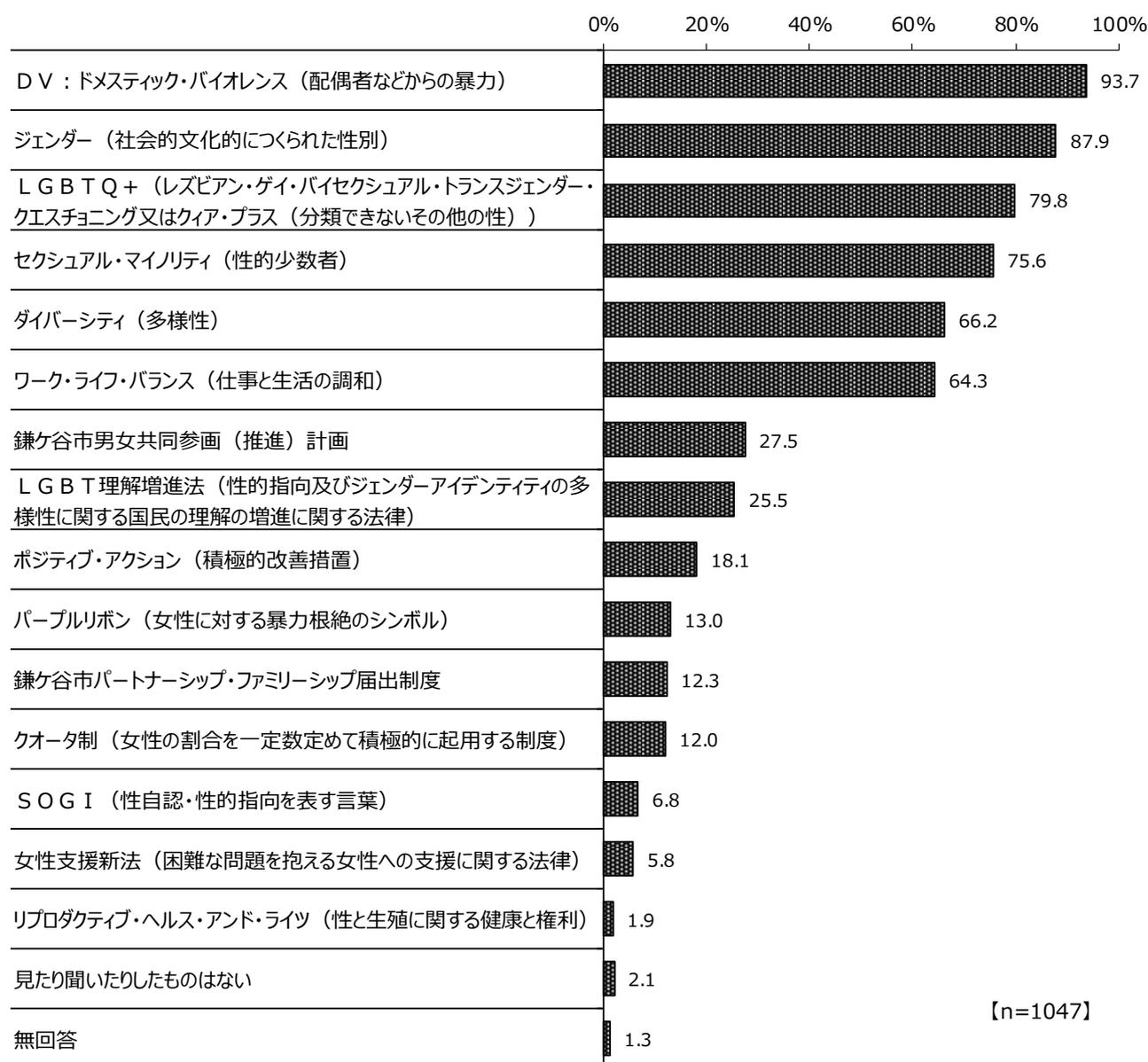
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「男性が優遇されている（計）」が最も高くなっているが、女性（74.3%）は男性（58.5%）を15.8ポイント上回っている。「男性が優遇されている（計）」は男性10・20歳代、40歳代を除き5割以上、男性60歳代、女性30歳代以上は7割台となっている。一方、「平等である」は男性40歳代、70歳以上で3割台、「女性が優遇されている（計）」は男性10・20歳代、40歳代で2割前後となっている。



問2 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも可)

全体では、「DV：ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）」が93.7%で最も高く、次いで「ジェンダー（社会的文化的につくられた性別）」が87.9%、「LGBTQ+（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・クエスチョニング又はキア・プラス（分類できないその他の性）」が79.8%、「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」が75.6%となっており、15項目中6項目で6割以上となっている。一方、「SOGI（性自認・性的指向を表す言葉）」（6.8%）など3項目は1割未満、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（18.1%）など4項目は1割台となっている。

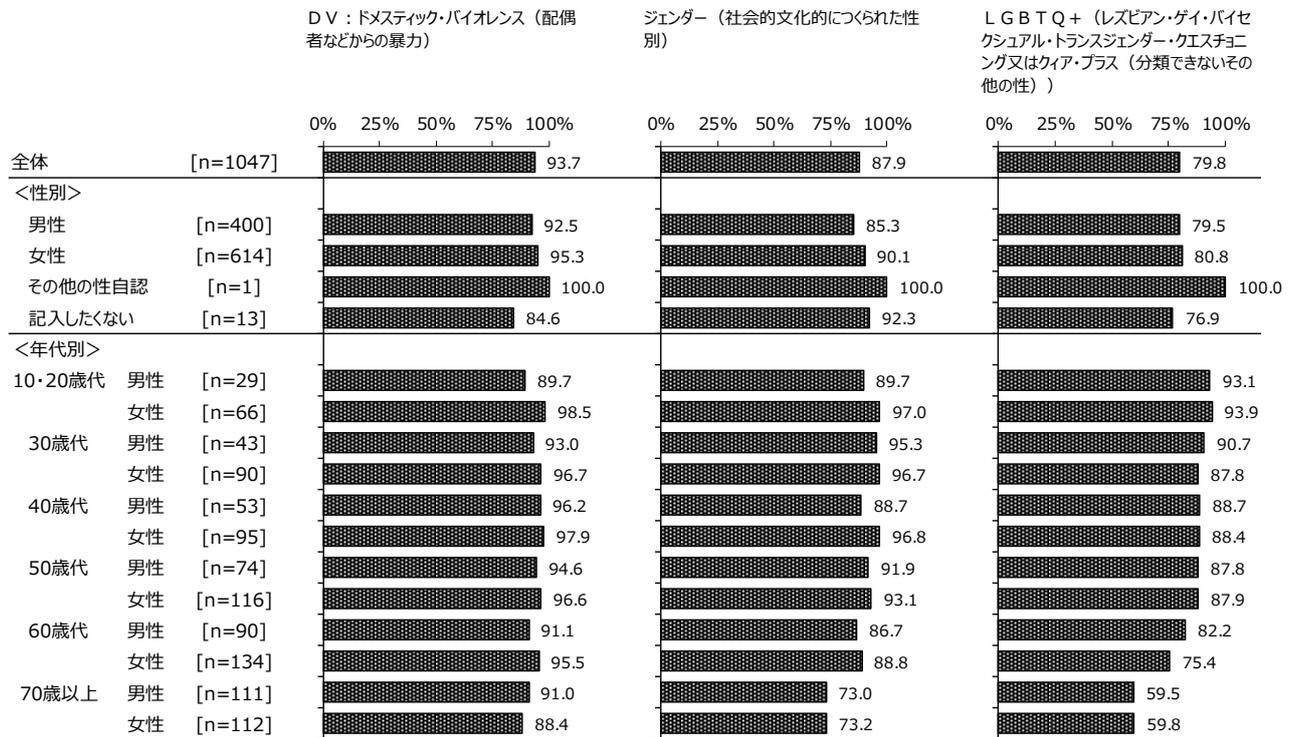


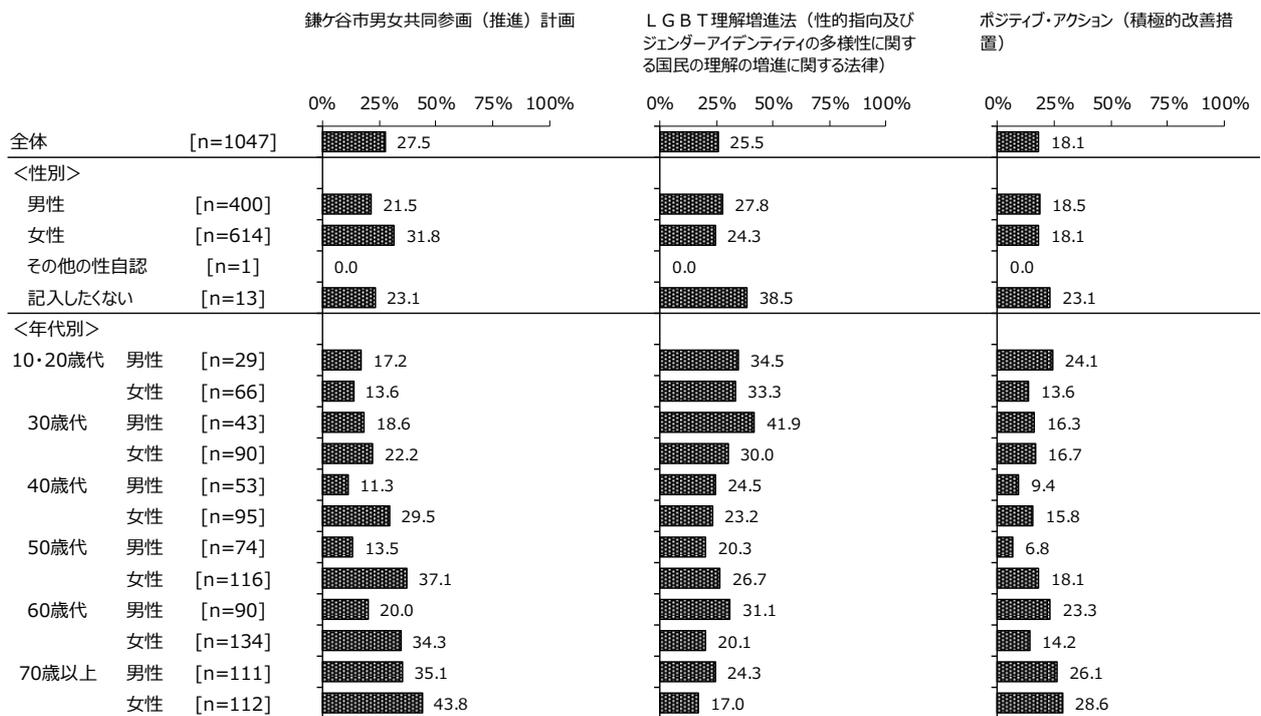
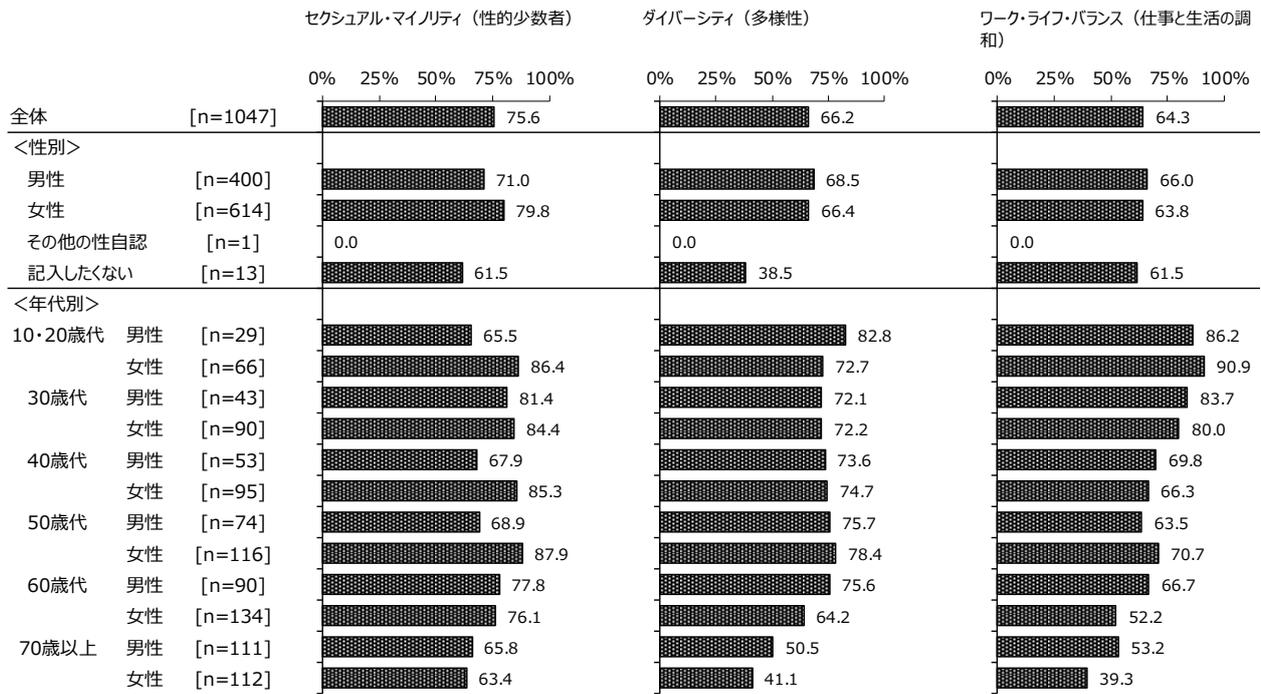
※アンケート実施時は「リプロダクティブライツ・アンドヘルス」と表記

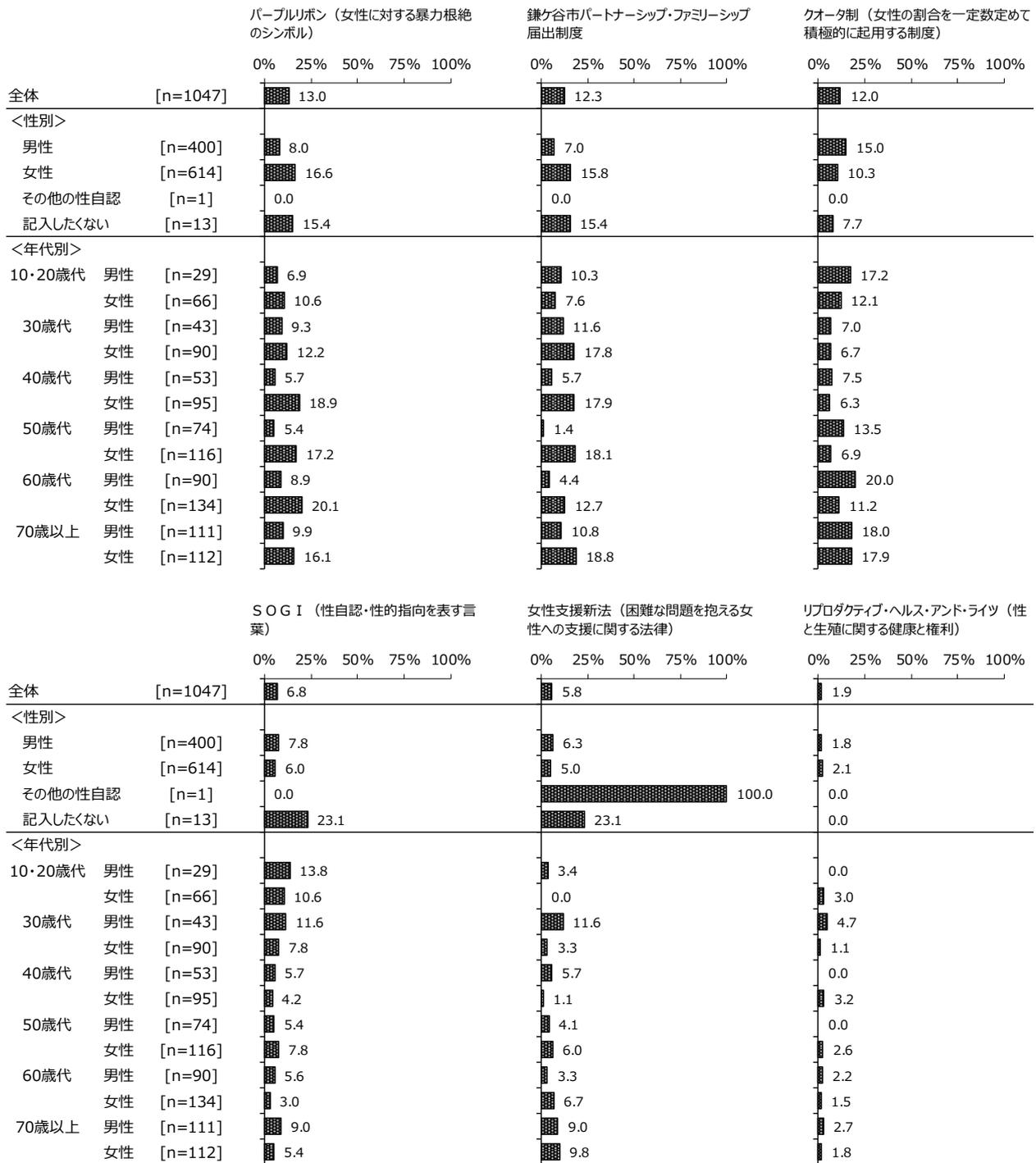
問2 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、「クォータ制（女性の割合を一定数定めて積極的に起用する制度）」は男性（15.0%）が女性（10.3%）を4.7ポイント上回っている。一方、「鎌ヶ谷市男女共同参画（推進）計画」は10.3ポイント、「セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）」、「パープルリボン（女性に対する暴力根絶のシンボル）」、「鎌ヶ谷市パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度」は8ポイント以上、女性が男性より高くなっている。

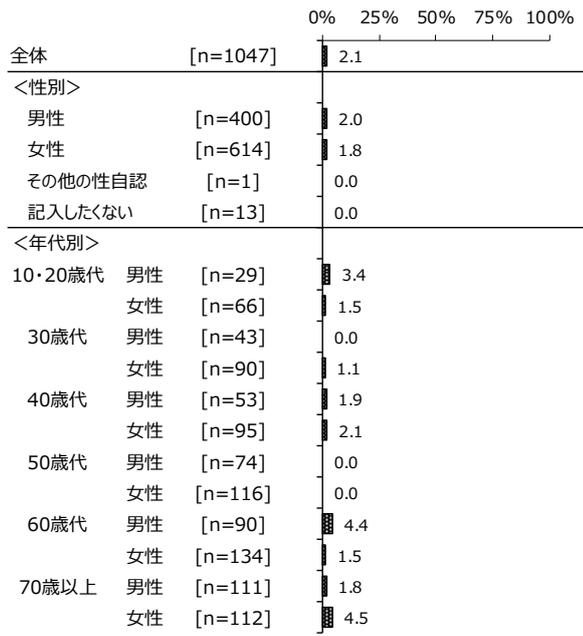
「DV：ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）」は男女ともすべての年代で8割以上となっている。2～6位も8割以上となる年代がある一方、高齢層では減少する傾向もみられ、女性70歳以上は「ダイバーシティ（多様性）」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が5割未満となっている。一方、「鎌ヶ谷市男女共同参画（推進）計画」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」などは70歳以上で全体より高くなっている。







見たり聞いたりしたものはない

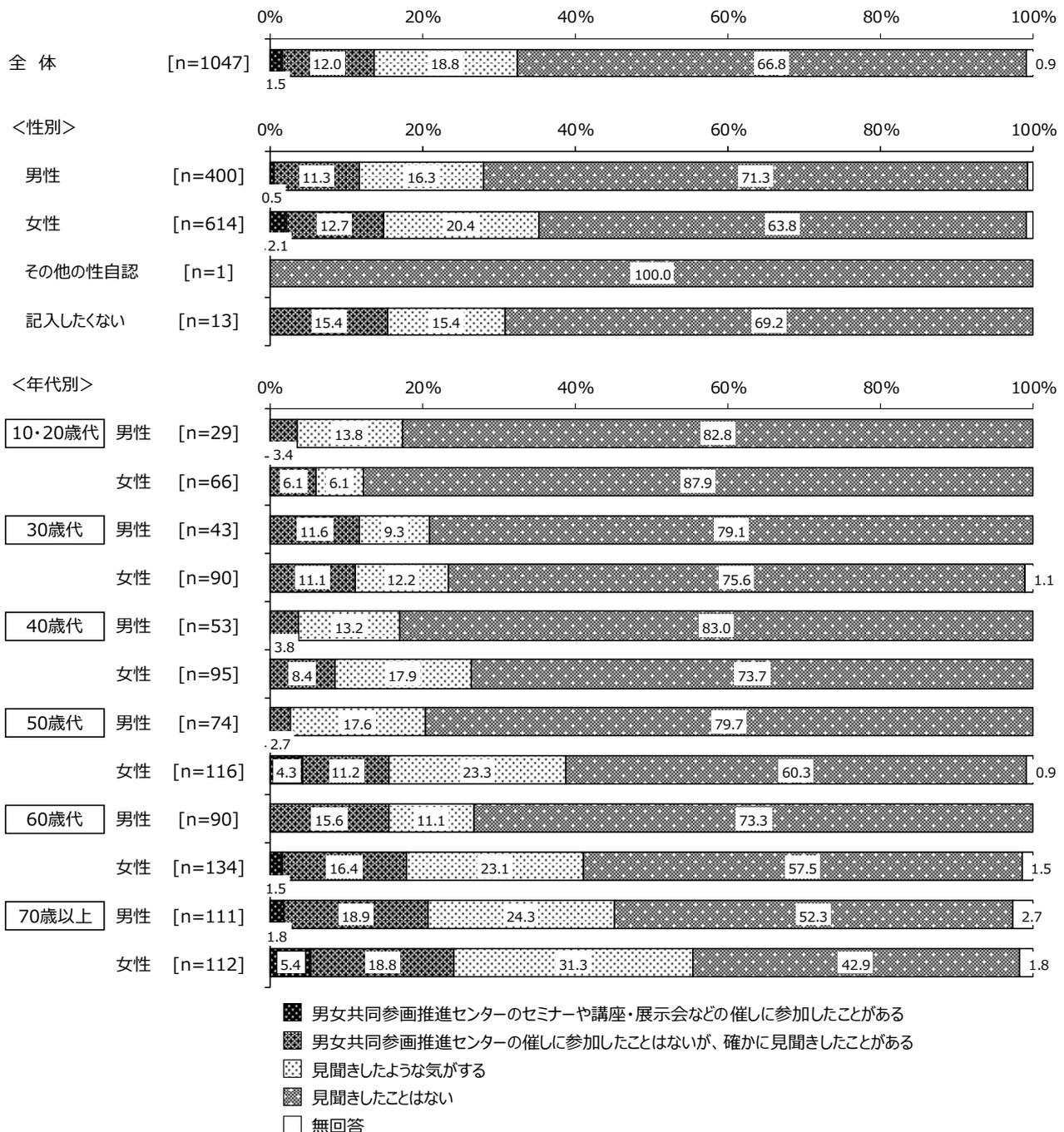


問3 鎌ケ谷市は、男女が互いに個性と能力を十分発揮できる男女共同参画社会を推進するための拠点施設として、男女共同参画推進センターを設置し、「男女が互いに人間として平等に尊重されつつ、責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすまち鎌ケ谷」を基本理念とした男女共同参画推進に向けたさまざまな取組を行っています。

あなたは、「鎌ケ谷市男女共同参画推進センター」についてご存知でしたか。 (○は1つ)

全体では、「見聞きしたことはない」が 66.8%で最も高く、次いで「見聞きしたような気がする」が 18.8%、「男女共同参画推進センターの催しに参加したことはないが、確かに見聞きしたことがある」が 12.0%、「男女共同参画推進センターのセミナーや講座・展示会などの催しに参加したことがある」が 1.5%となっている。

性別・年代別にみると、「見聞きしたことはない」は女性 70 歳以上を除き 5 割以上となっている。

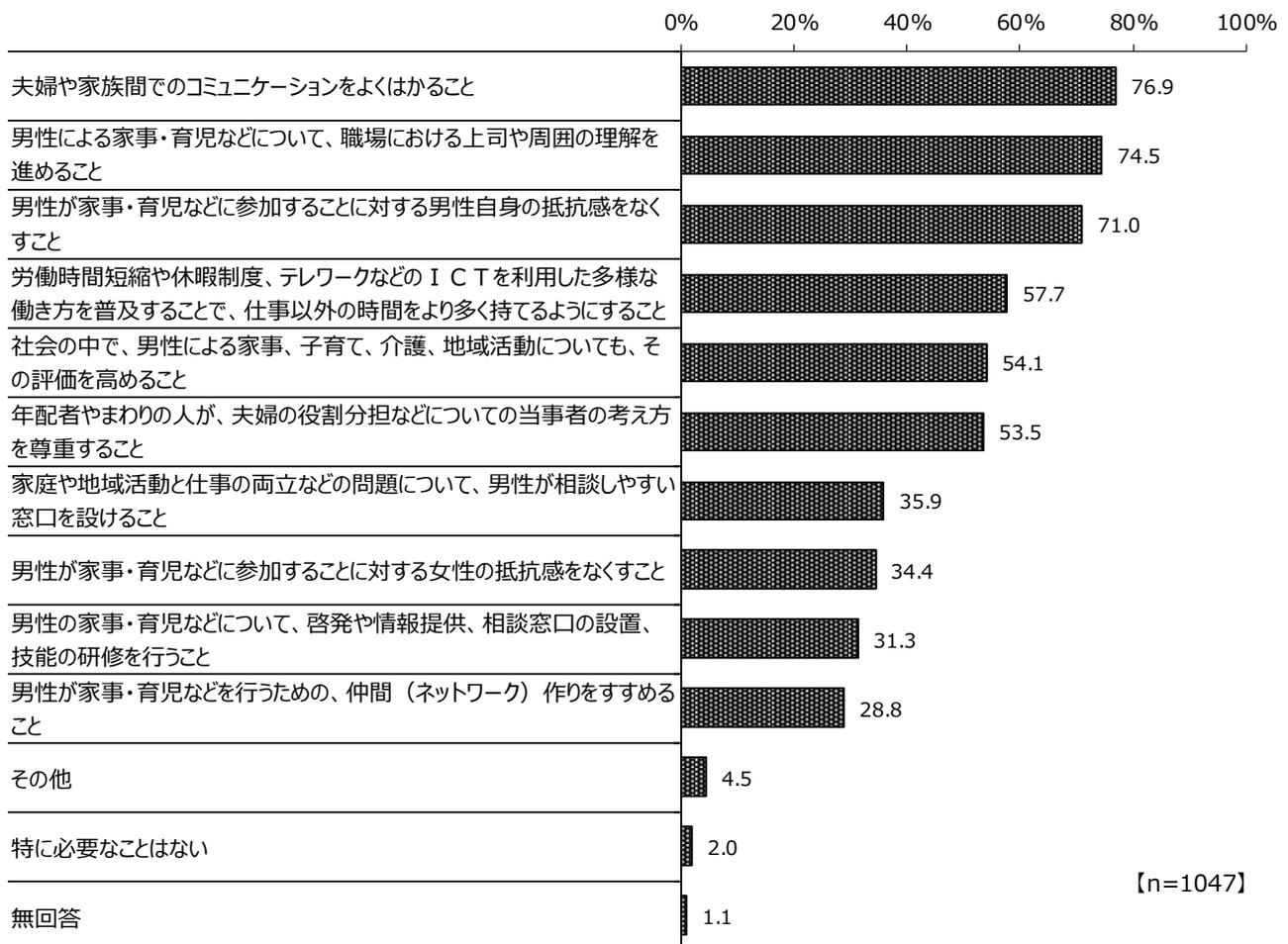


II 家庭生活や働き方について

問4 全員の方にお伺いします。

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

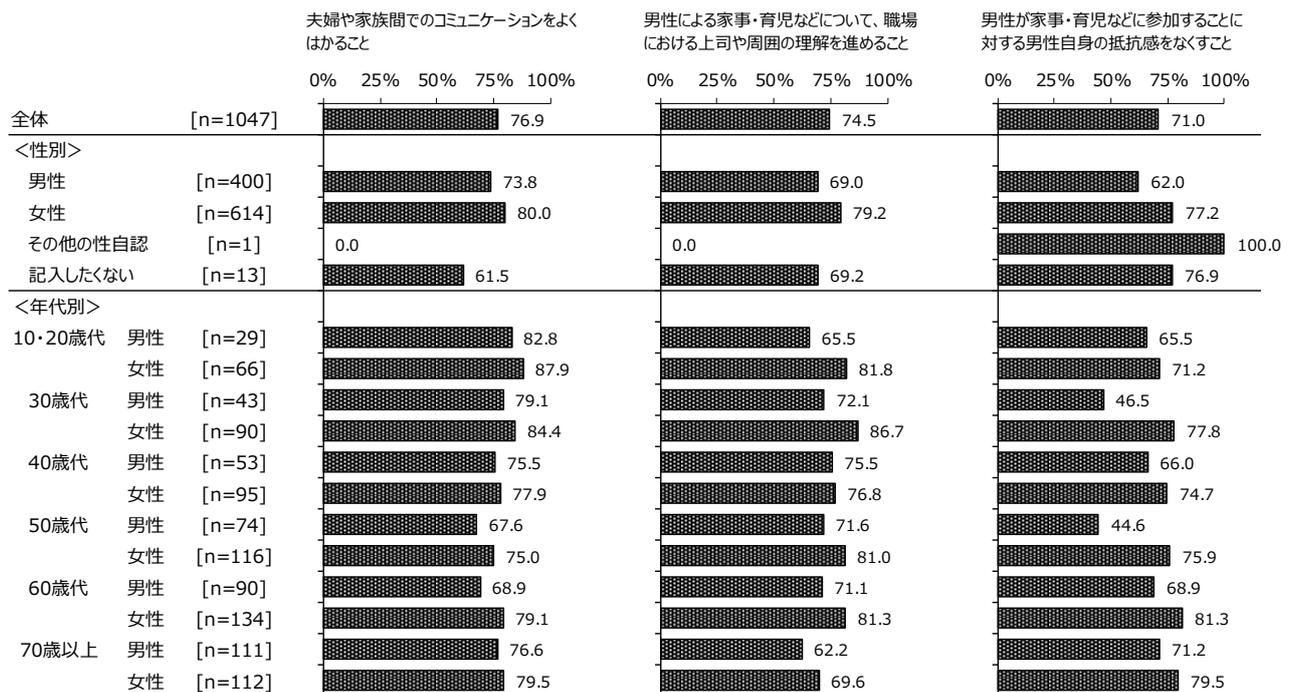
全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が76.9%で最も高く、次いで「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が74.5%、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が71.0%、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が57.7%となっている。



問4 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、男女とも上位3項目は共通となっているが、いずれも女性が男性より6ポイント以上高くなっている。女性は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」も男性より8ポイント以上高くなっている。

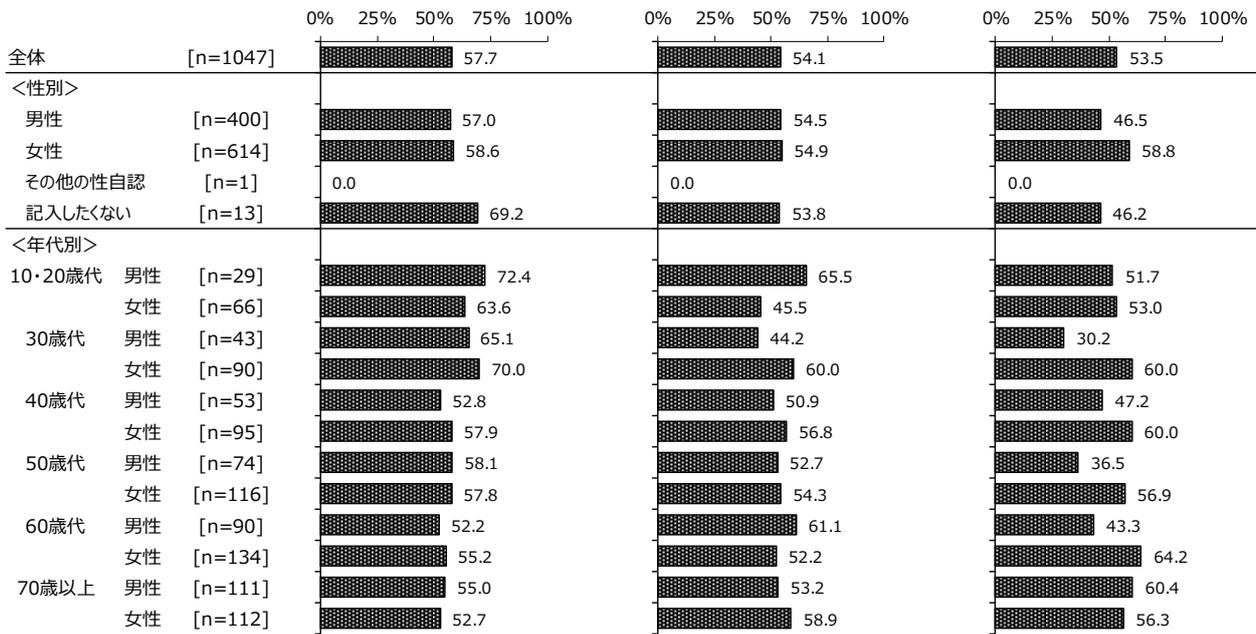
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は、男女ともすべての年代で5割以上となっており、特に女性10・20歳代は「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」、女性30歳代は後2者で全体を1割以上上回っている。一方、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は男性30歳代、50歳代、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること」は男性30歳代、女性10・20歳代、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」は男性30～60歳代で5割を下回っている。また、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」は女性60歳代以上で4割台と、他の年代に比べ高くなっている。上位10項目のうち、女性30歳代は9項目が全体より5ポイント以上高くなる一方、男性30歳代は6項目が全体より5ポイント以上低くなっており、男女間で差が大きくなっている。



労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること

社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること

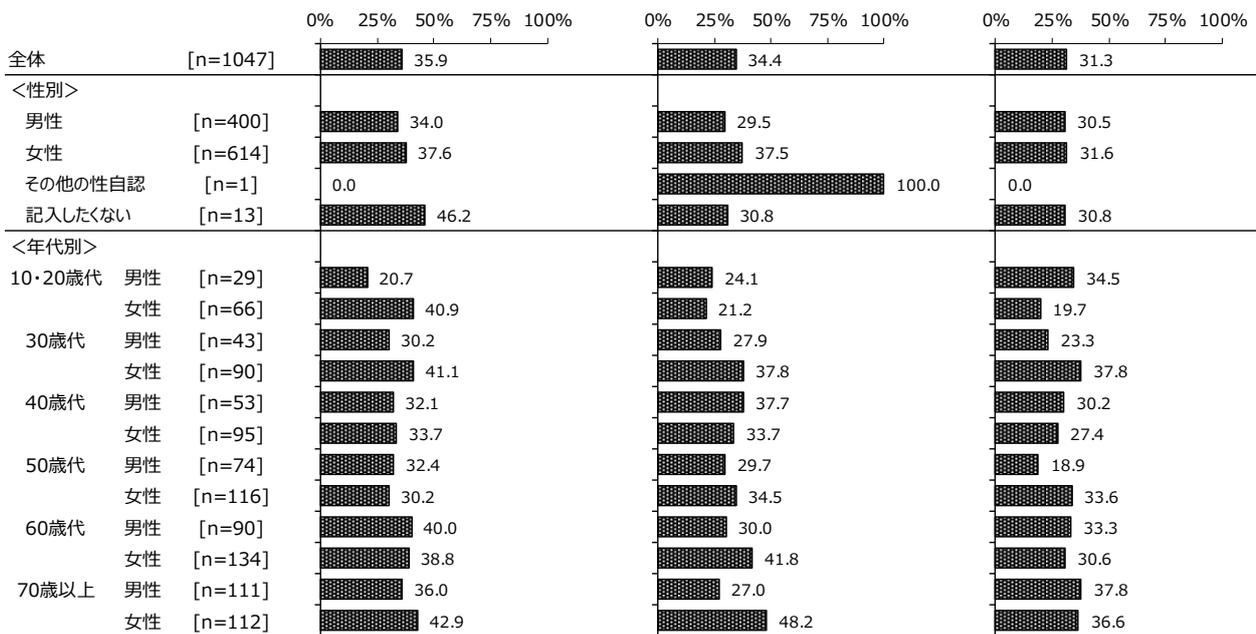
年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること

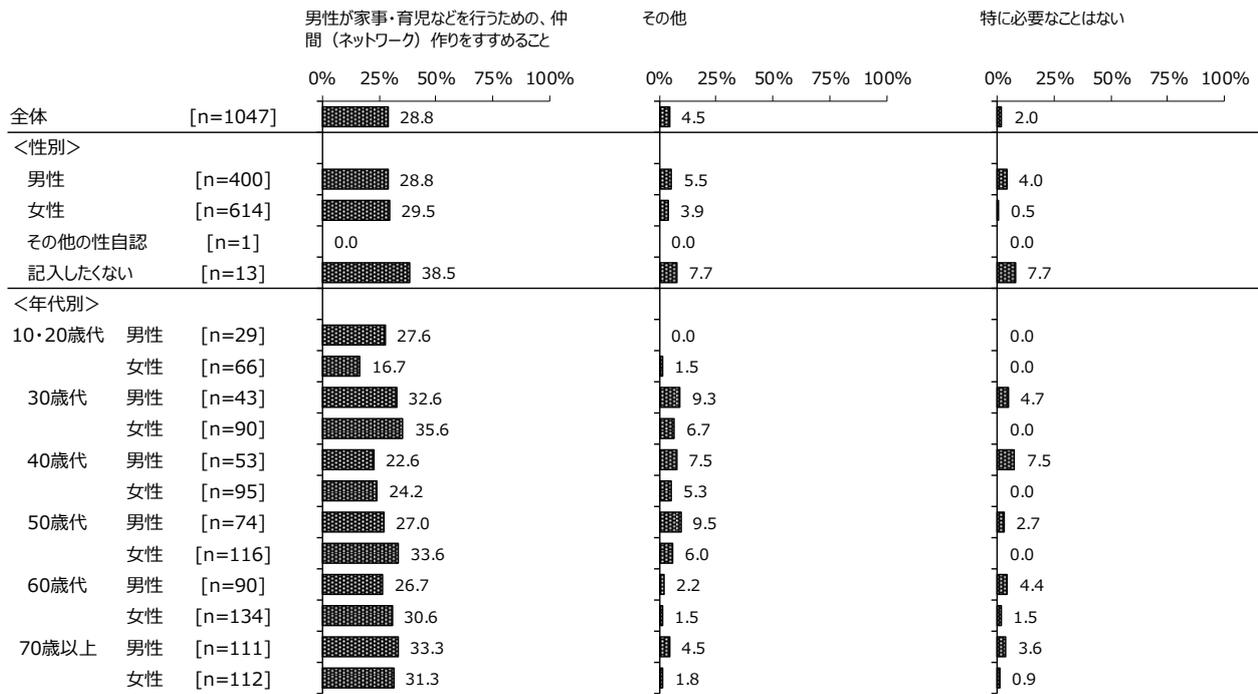


家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること

男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと

男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと

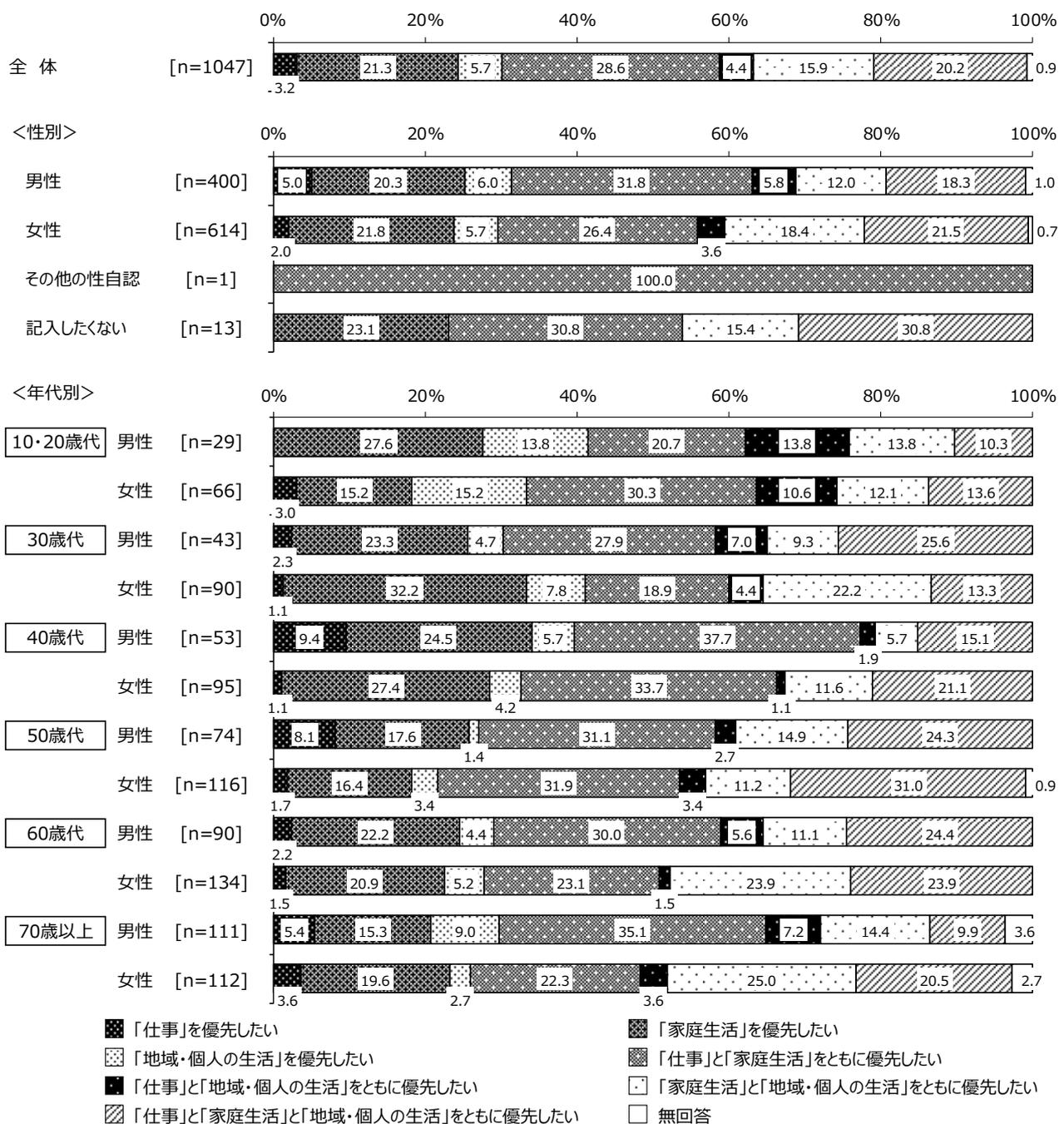




問5 生活の中での「仕事」、家族と過ごすこと、家事・育児・介護などの「家庭生活」、地域活動・スポーツ・学習・趣味・娯楽・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。
 まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。(○は1つ)

全体では『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が28.6%で最も高く、次いで『「家庭生活」を優先したい』が21.3%、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』が20.2%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が最も高くなっているが、男性(31.8%)は女性(26.4%)を5.4ポイント上回っている。また、男性10・20歳代、女性30歳代は『「家庭生活」を優先したい』、女性60歳代は『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』と『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』、女性70歳以上は『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい』がそれぞれ最も高く、女性30歳代は全体を10.9ポイント上回っている。

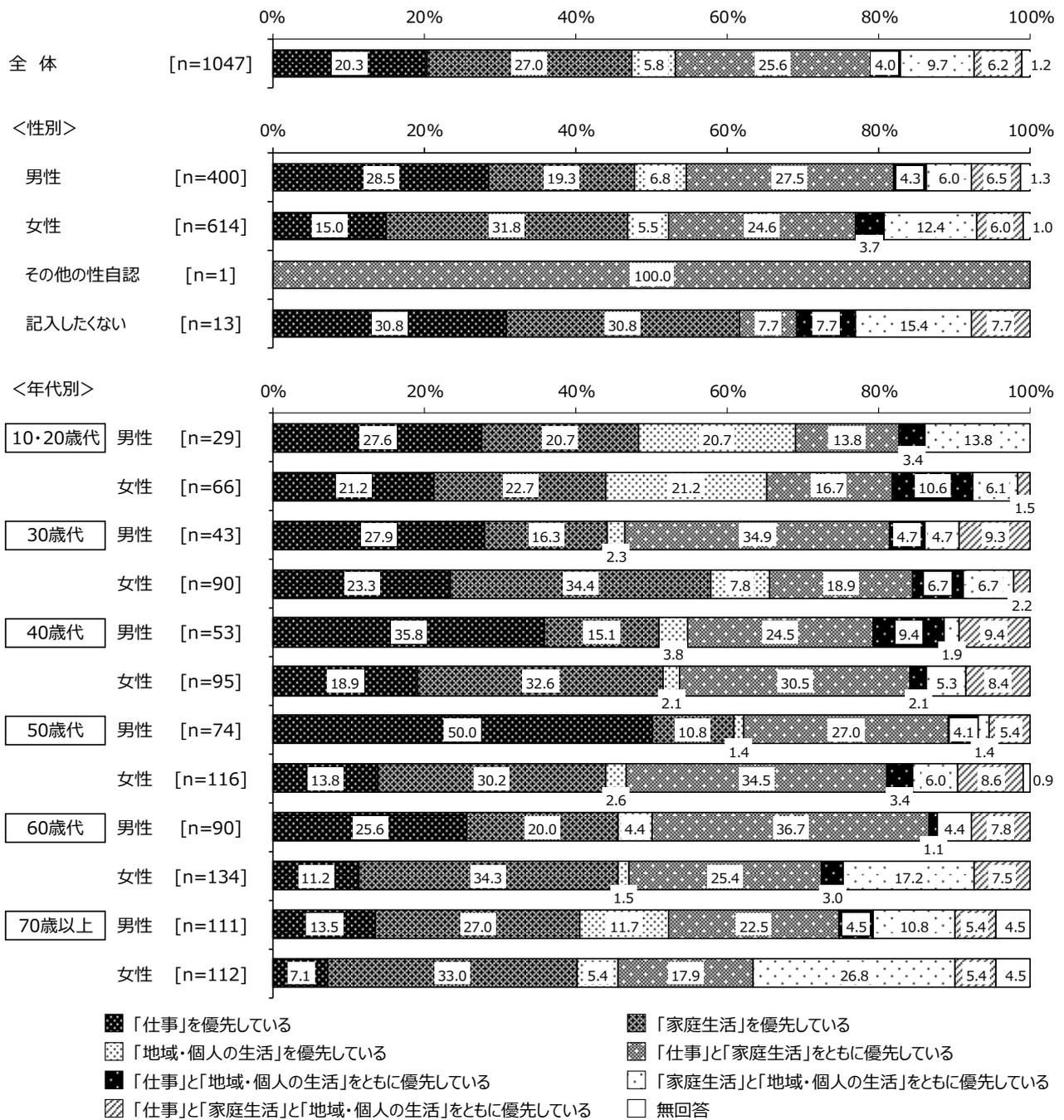


問6 引き続き、生活の中での「仕事」、家族と過ごすこと、家事・育児・介護などの「家庭生活」、地域活動・スポーツ・学習・趣味・娯楽・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。
それでは、あなたの現実・現状に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。 (○は1つ)

全体では『「家庭生活」を優先している』が27.0%で最も高く、次いで『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』が25.6%、『「仕事」を優先している』が20.3%となっている。

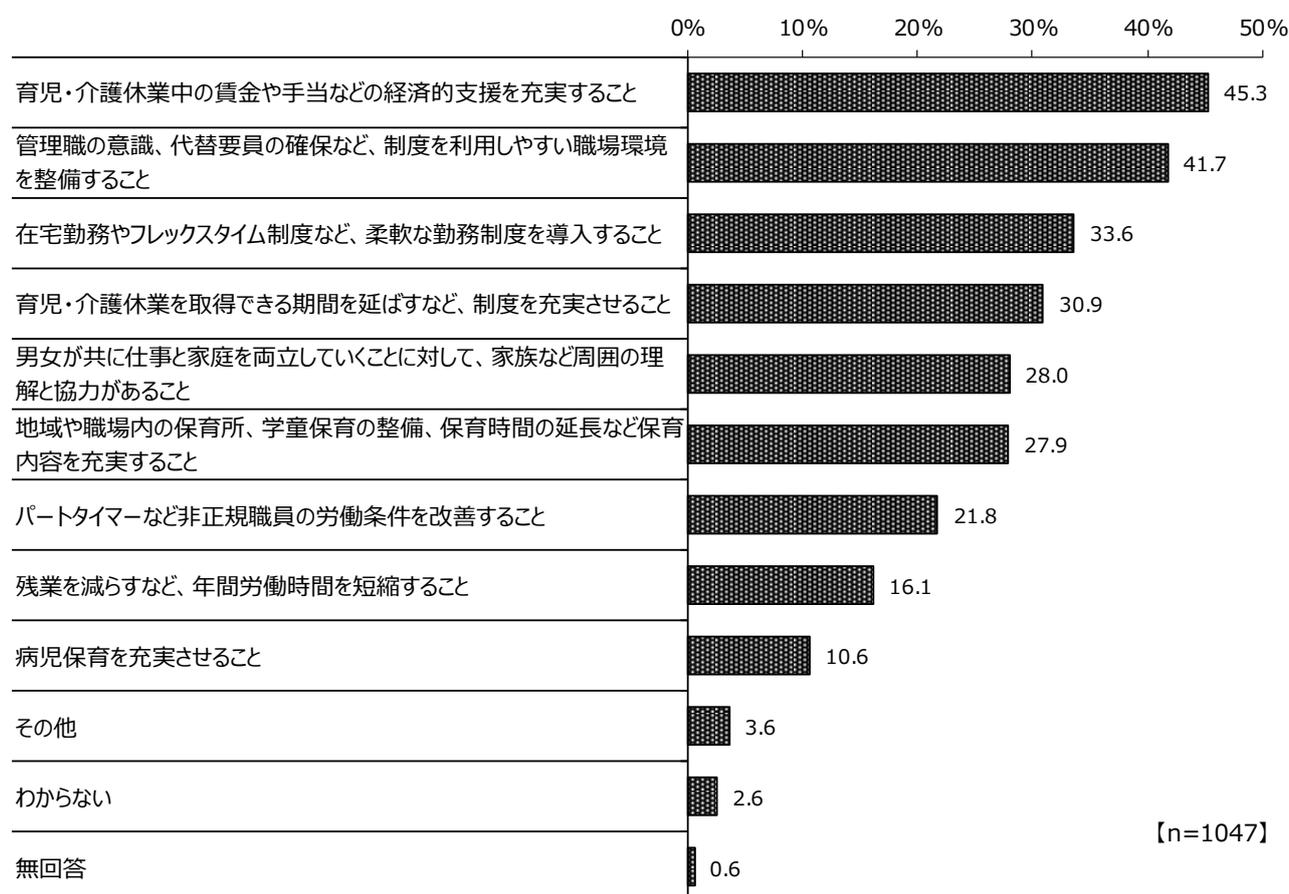
性別・年代別にみると、男性は『「仕事」を優先している』、女性は『「家庭生活」を優先している』が最も高く、それぞれ他方を1割以上上回っている。『「仕事」を優先している』は男性50歳代で50.0%、40歳代で35.8%と特に高くなっているが、男性30歳代、60歳代は『「仕事」と「家庭生活」をともに優先している』、男性70歳以上は『「家庭生活」を優先している』が最も高くなっている。また、女性は50歳代を除き『「家庭生活」を優先している』が最も高くなっている。

希望と現実の差については、『「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』(希望20.2%、現実6.2%)は14.0ポイント、『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』(希望15.9%、現実9.7%)は6.2ポイント、希望が現実を上回っている。前者は男性40歳代、70歳以上以外、後者は男性50歳代、女性30歳代で希望が1割以上高くなっている。一方、『「仕事」を優先』(希望3.2%、現実20.3%)は17.1ポイント、『「家庭生活」を優先』(希望21.3%、現実27.0%)は5.7ポイント、現実が希望を上回っており、前者は特に男性50歳代で41.9ポイント差が生じている。また、希望する割合が最も高い『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』(希望28.6%、現実25.6%)については、全体として大きな差はみられないが、男性40歳代、70歳以上、女性10・20歳代は希望が1割以上上回る一方、男性60歳代、女性30歳代は現実が6ポイント以上高くなっており、年代による差がみられる。



問7 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。
必要だと思う番号を最大3つまで○をつけてください。(○は3つまで)

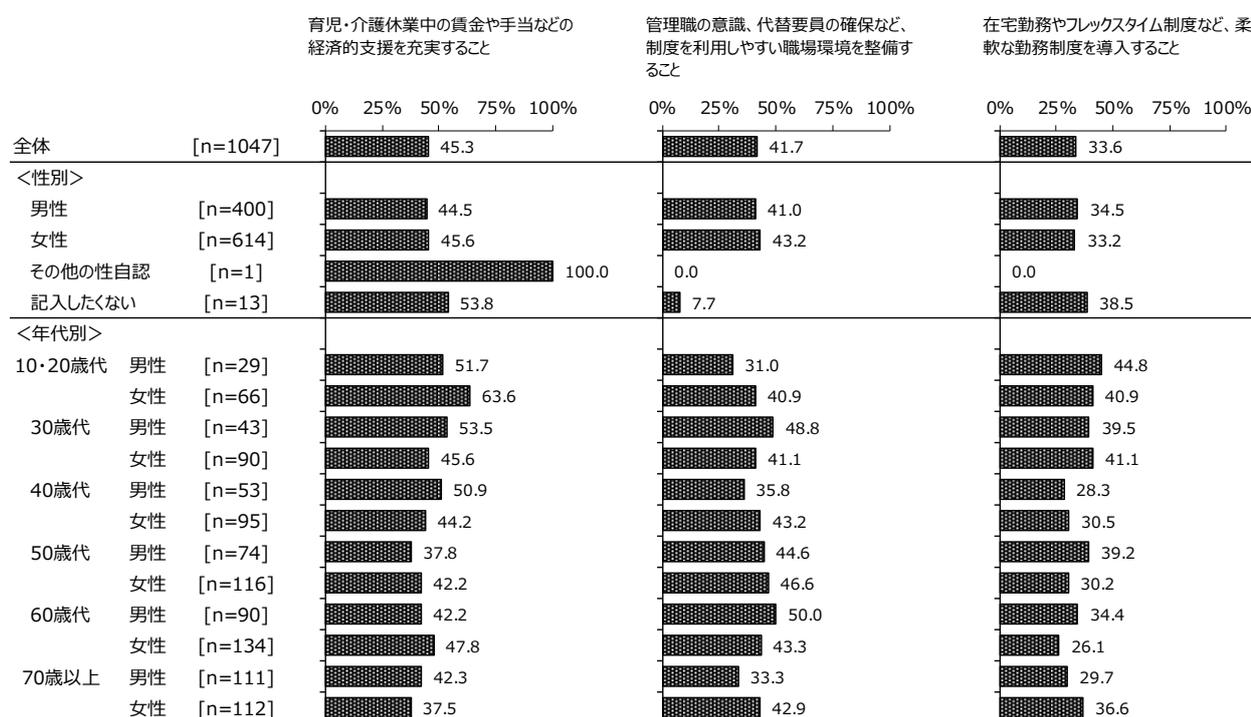
全体では、「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が45.3%で最も高く、次いで「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること」が41.7%、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が33.6%、「育児・介護休業を取得できる期間を延ばすなど、制度を充実させること」が30.9%となっている。

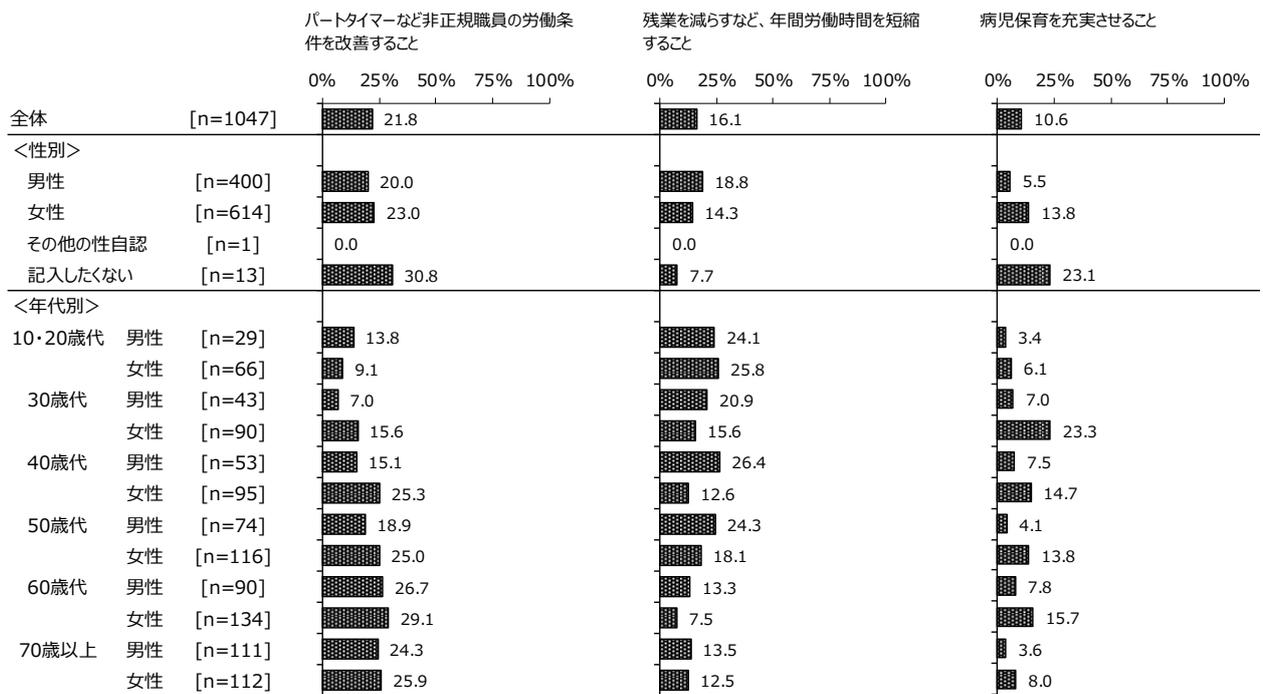
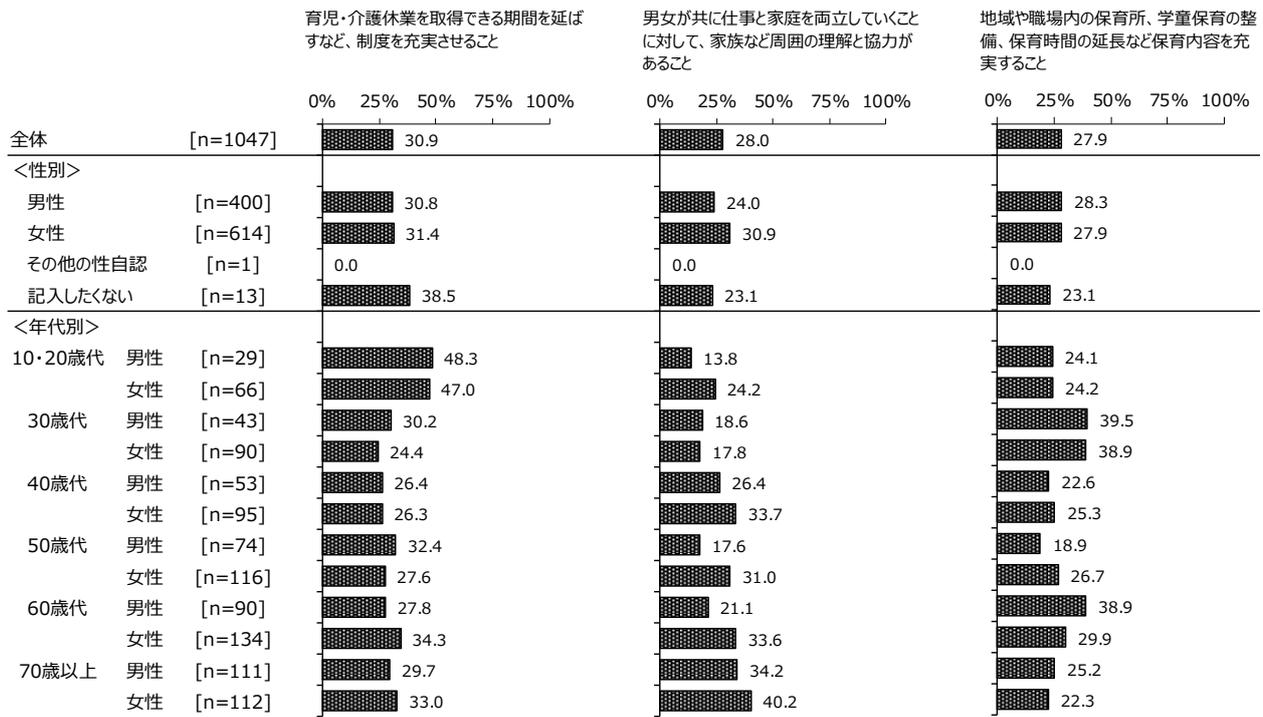


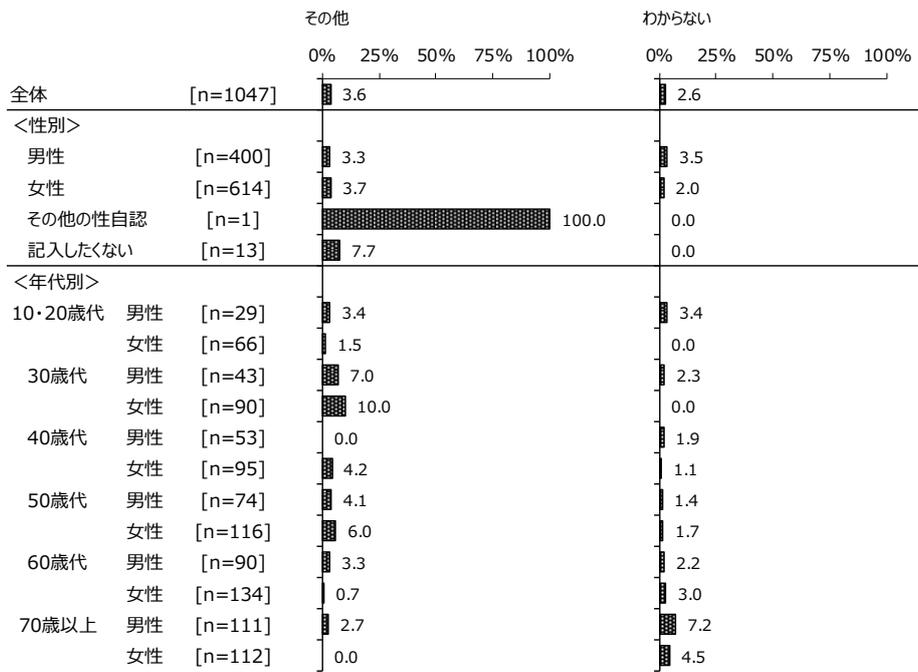
問7 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、「病児保育を充実させること」は 8.3 ポイント、「男女が共に仕事と家庭を両立していくこと」に対して、家族など周囲の理解と協力があること」は 6.9 ポイント、女性が男性より高くなっている。

男性 50～60 歳代、女性 50 歳代、70 歳以上は「管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること」、それ以外は「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること」が最も高くなっている。また、男女とも 10・20 歳代は「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」、「育児・介護休業を取得できる期間を延ばすなど、制度を充実させること」、「残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること」、30 歳代は「地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること」などが他の年代に比べ高く、女性 30 歳代は「病児保育を充実させること」も全体を 12.7 ポイント上回っている。



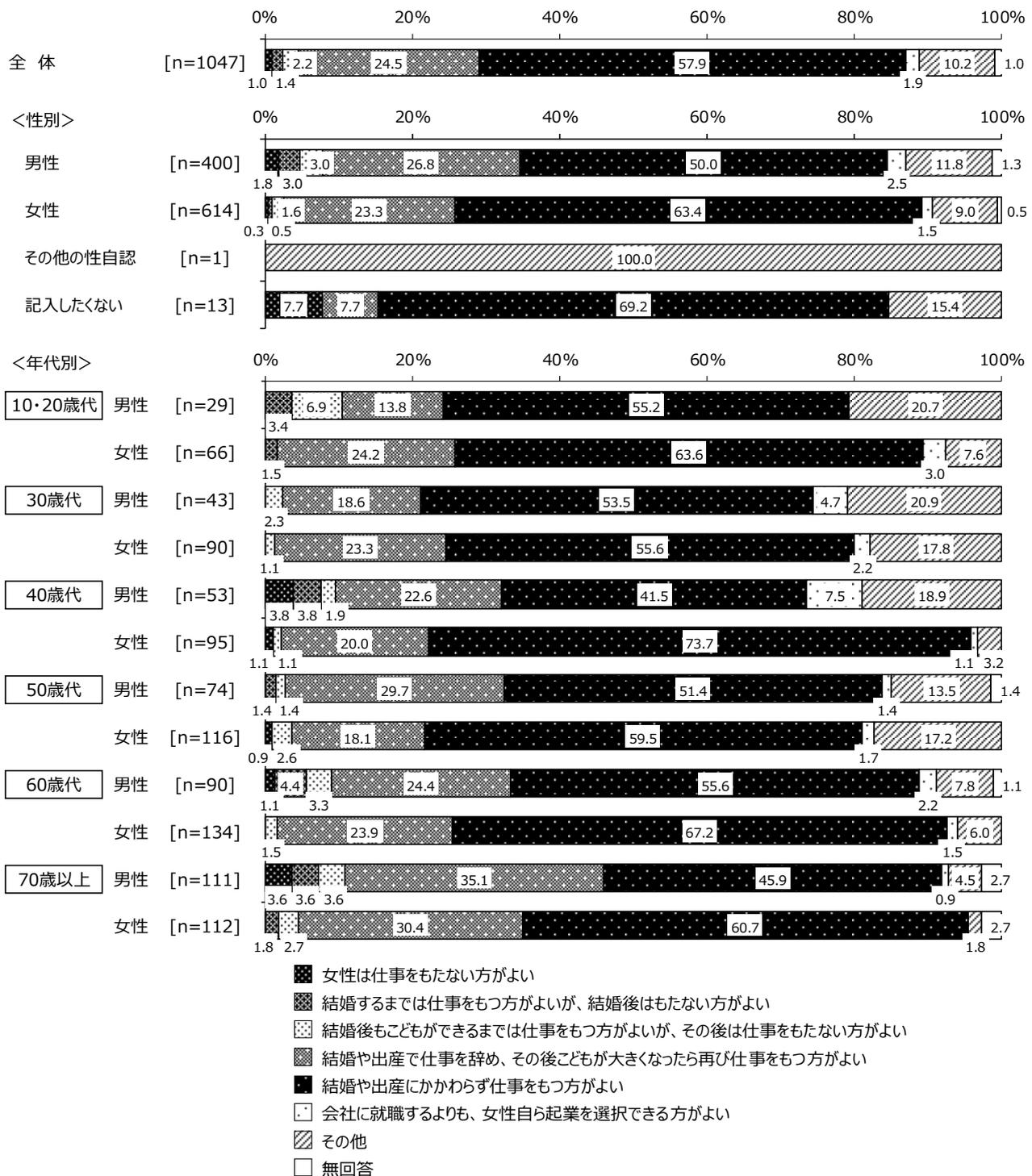




問8 女性が働くことについてあなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。(○は1つ)

全体では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもつ方がよい」が57.9%で最も高く、次いで「結婚や出産で仕事を辞め、その後子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が24.5%となっており、「その他」を除くほかの4項目は1割未満となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「結婚や出産にかかわらず仕事をもつ方がよい」が最も高くなっているが、女性(63.4%)は男性(50.0%)を13.4ポイント上回っている。「結婚や出産にかかわらず仕事をもつ方がよい」は男性40歳代、70歳以上を除き5割以上、女性40歳代は73.7%と、全体を15.8ポイント上回っている。一方、「結婚や出産で仕事を辞め、その後子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」は男女とも70歳以上で3割台と、他の年代に比べ高くなっている。



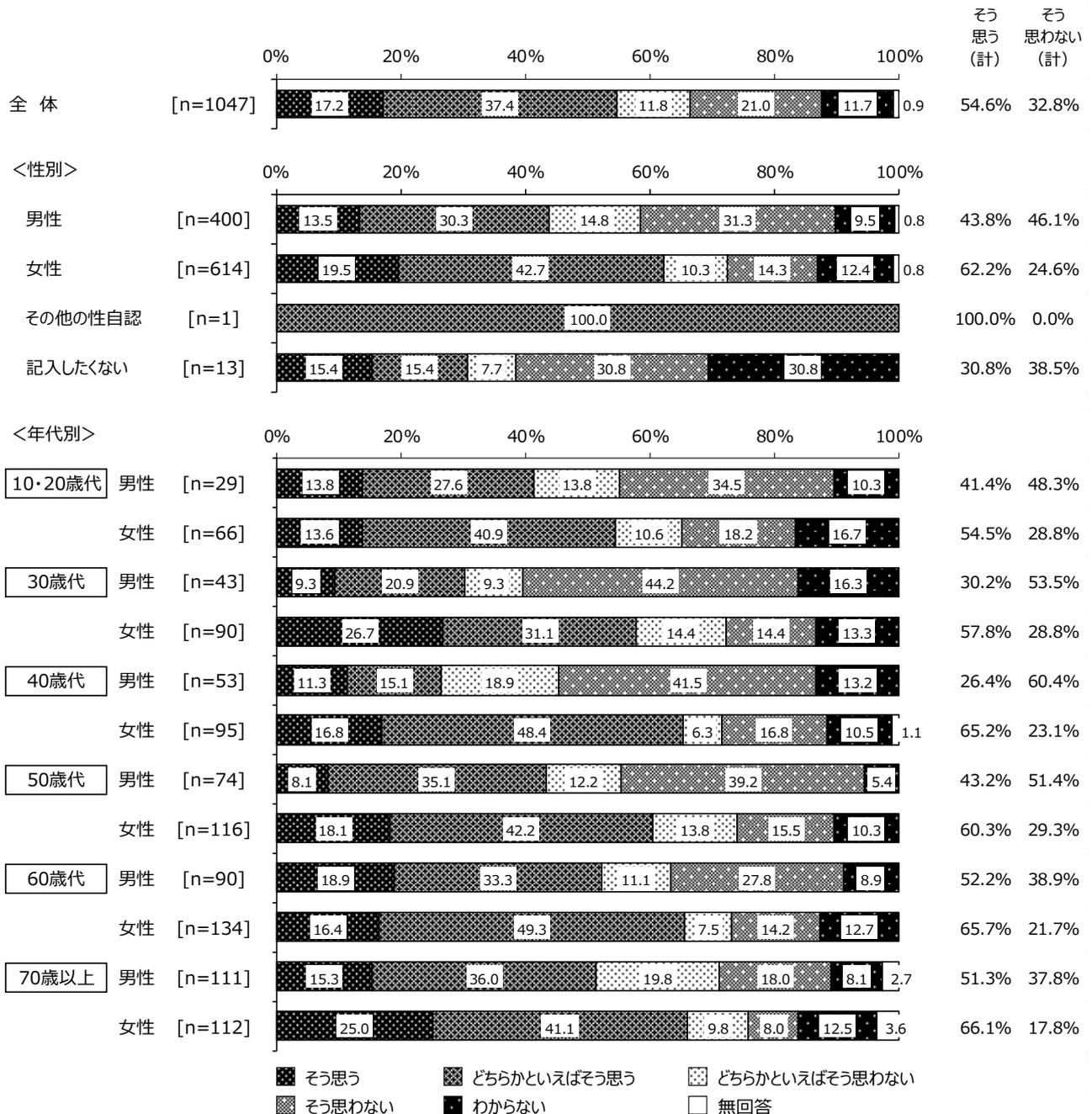
問9 あなたは、女性が起業することについてどう思いますか。

それぞれについて、一番近い考え方の番号ひとつに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

問9① 男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある

全体では、「どちらかといえばそう思う」が37.4%で最も高く、次いで「そう思わない」が21.0%、「そう思う」が17.2%、「どちらかといえばそう思わない」が11.8%、「わからない」が11.7%となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う(計)」は54.6%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせた「そう思わない(計)」は32.8%となっている。

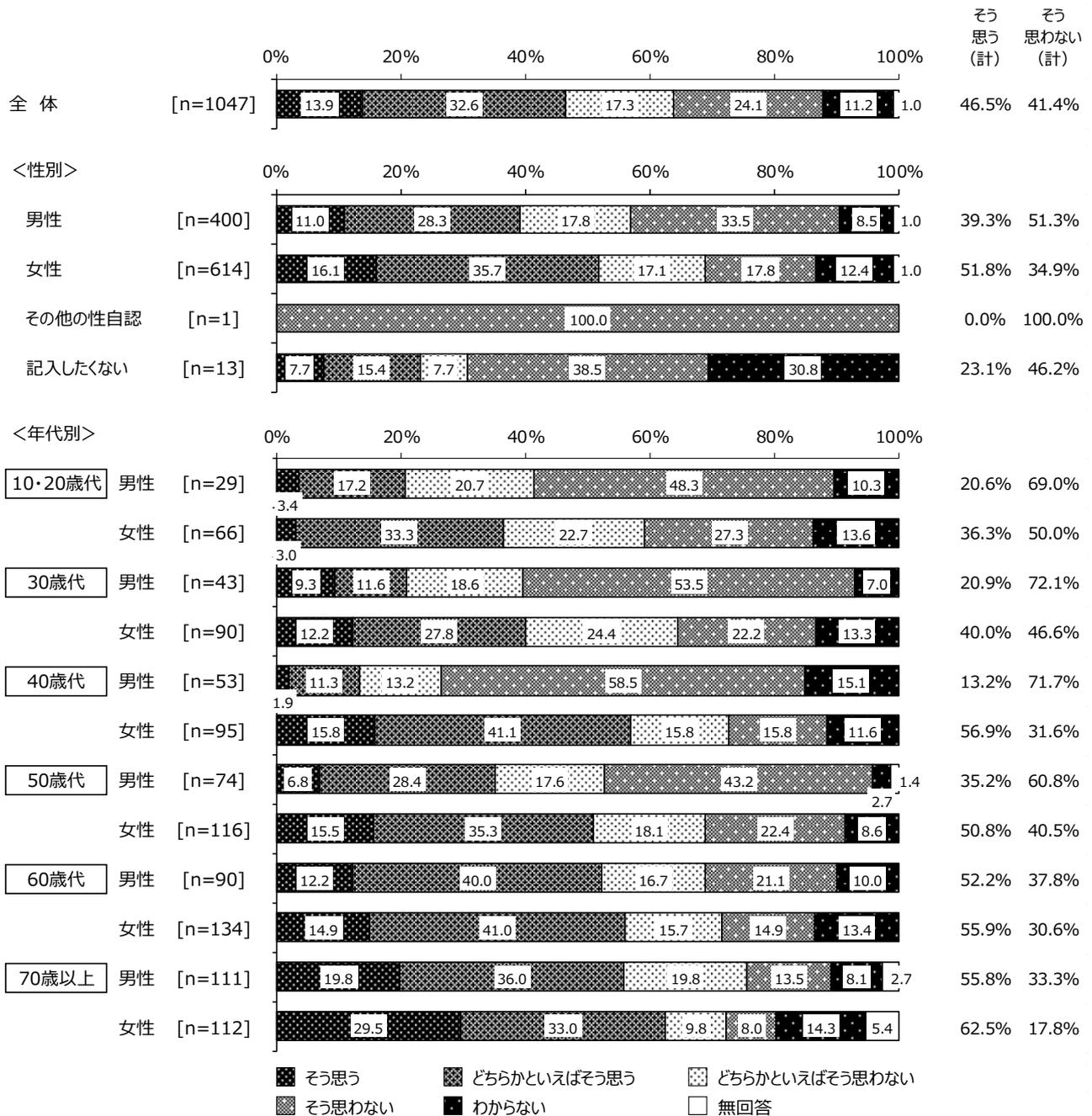
性別・年代別にみると、「そう思う(計)」は女性(62.2%)が男性(43.8%)より18.4ポイント高く、男性60歳代以上、女性はすべての年代で5割以上となっている。一方、男性30~50歳代は「そう思わない(計)」が5割以上となっている。



問9② 資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい

全体では、「どちらかといえばそう思う」が32.6%で最も高く、次いで「そう思わない」が24.1%、「どちらかといえばそう思わない」が17.3%、「そう思う」が13.9%、「わからない」が11.2%となっている。「そう思う（計）」は46.5%、「そう思わない（計）」は41.4%となっている。

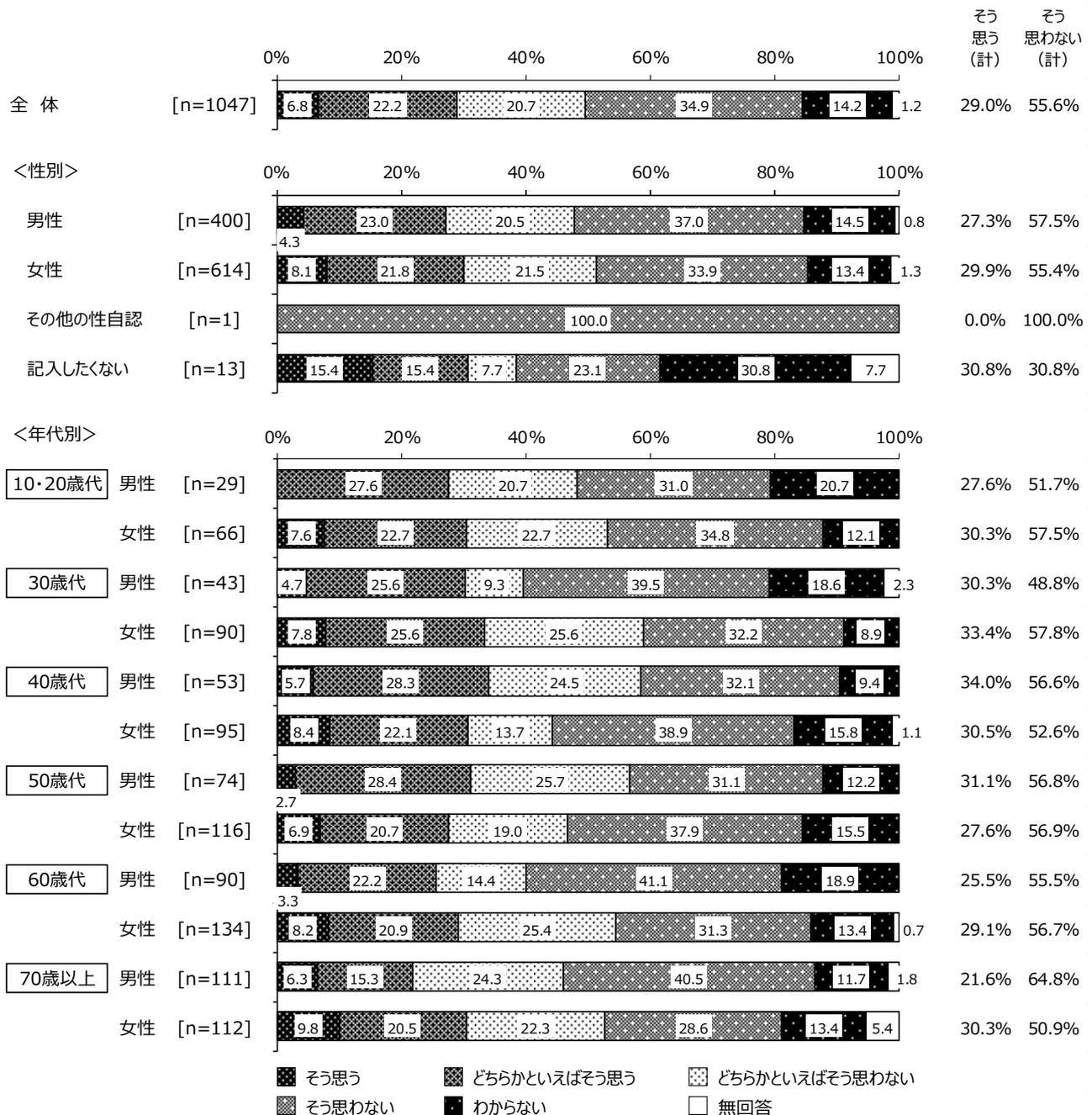
性別・年代別にみると、「そう思う（計）」は女性（51.8%）が男性（39.3%）より12.5ポイント高く、男性60歳代以上、女性40歳代以上で5割以上となっている。一方、男性50歳代以下、女性10・20歳代は「そう思わない（計）」が5割以上となっており、男性30～40歳代は7割台と、他の年代に比べ高くなっている。



問9③ 時間を有効に使うことができ、子育て等家庭との両立が図りやすい

全体では、「そう思わない」が34.9%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が22.2%、「どちらかといえばそう思わない」が20.7%、「わからない」が14.2%、「そう思う」が6.8%となっている。「そう思う（計）」は29.0%、「そう思わない（計）」は55.6%となっている。

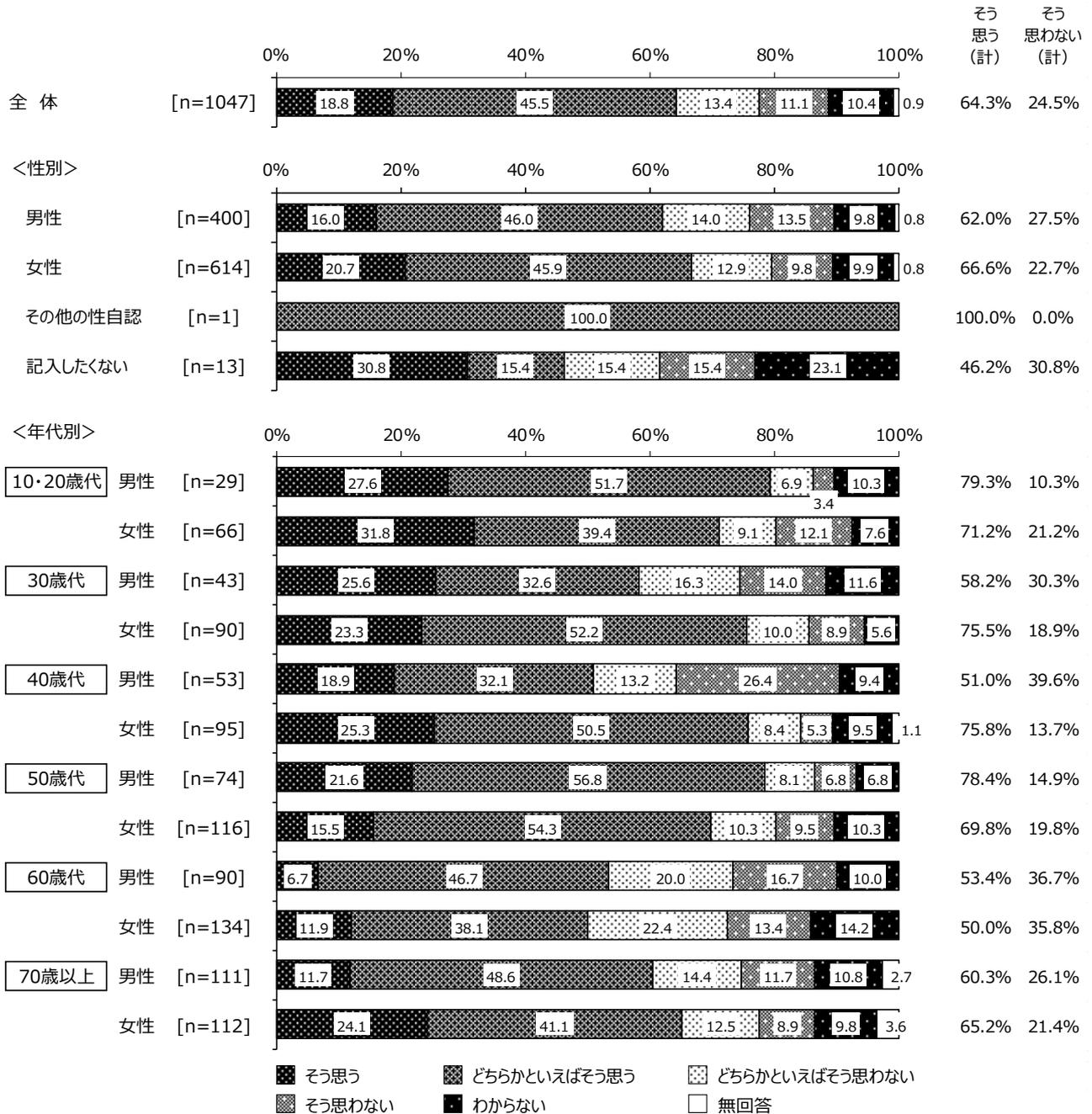
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「そう思わない」が最も高く、「そう思わない（計）」は男性30歳代を除き5割以上となっている。一方、「そう思う（計）」は男性40歳代が34.0%で最も高くなっている。



問9④ 趣味や資格を活かし、好きな仕事ができる

全体では、「どちらかといえばそう思う」が45.5%で最も高く、次いで「そう思う」が18.8%、「どちらかといえばそう思わない」が13.4%、「そう思わない」が11.1%、「わからない」が10.4%となっている。「そう思う（計）」は64.3%、「そう思わない（計）」は24.5%となっている。

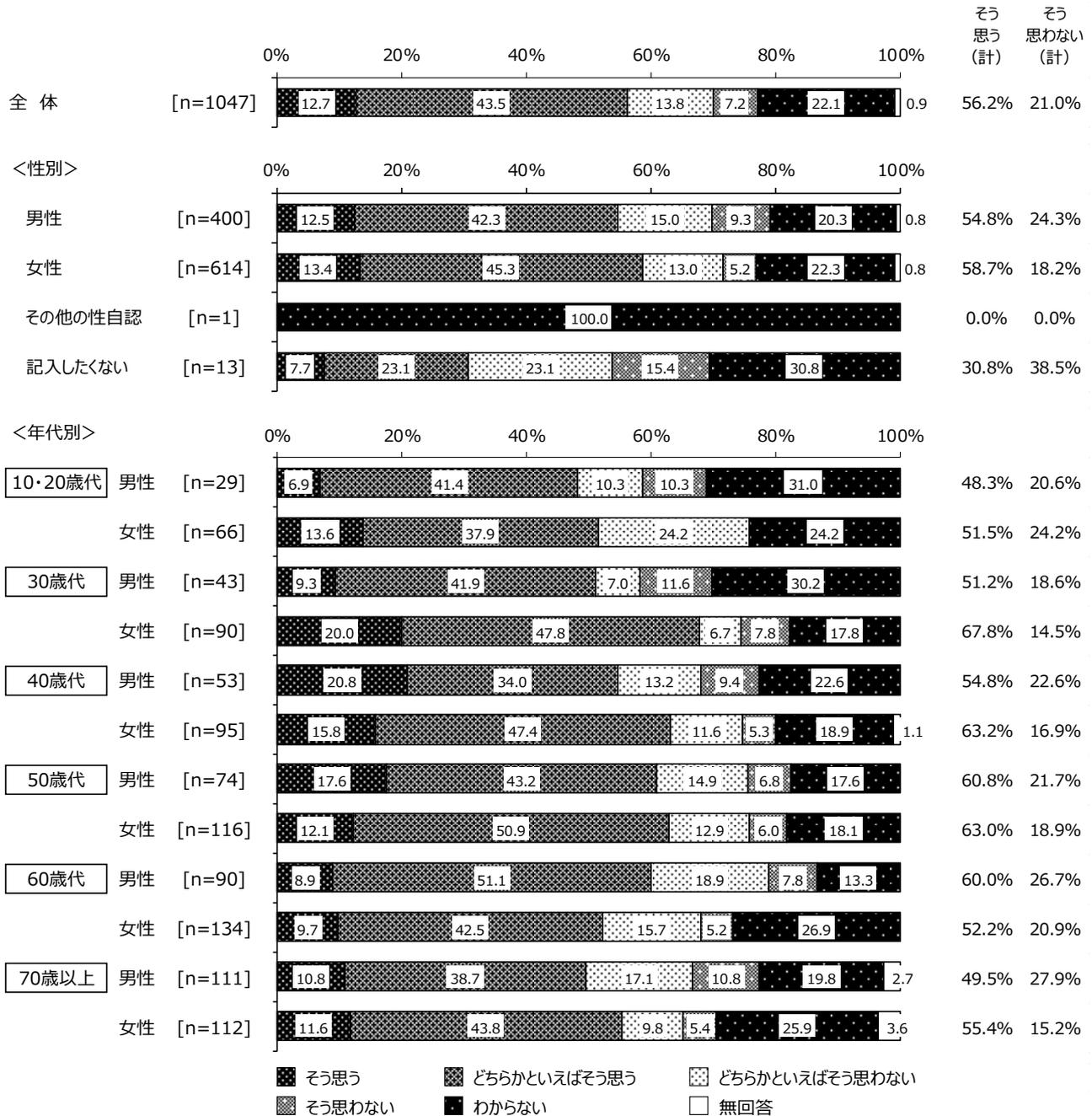
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらかといえばそう思う」が最も高く、「そう思う（計）」は5割以上となっている。一方、「そう思わない（計）」は男性30～40歳代、60歳代、女性60歳代で3割台と、他の年代に比べ高くなっている。



問9⑤ 生活者としての視点や、地域資源を活かすことができる

全体では、「どちらかといえばそう思う」が43.5%で最も高く、次いで「わからない」が22.1%、「どちらかといえばそう思わない」が13.8%、「そう思う」が12.7%、「そう思わない」が7.2%となっている。「そう思う（計）」は56.2%、「そう思わない（計）」は21.0%となっている。

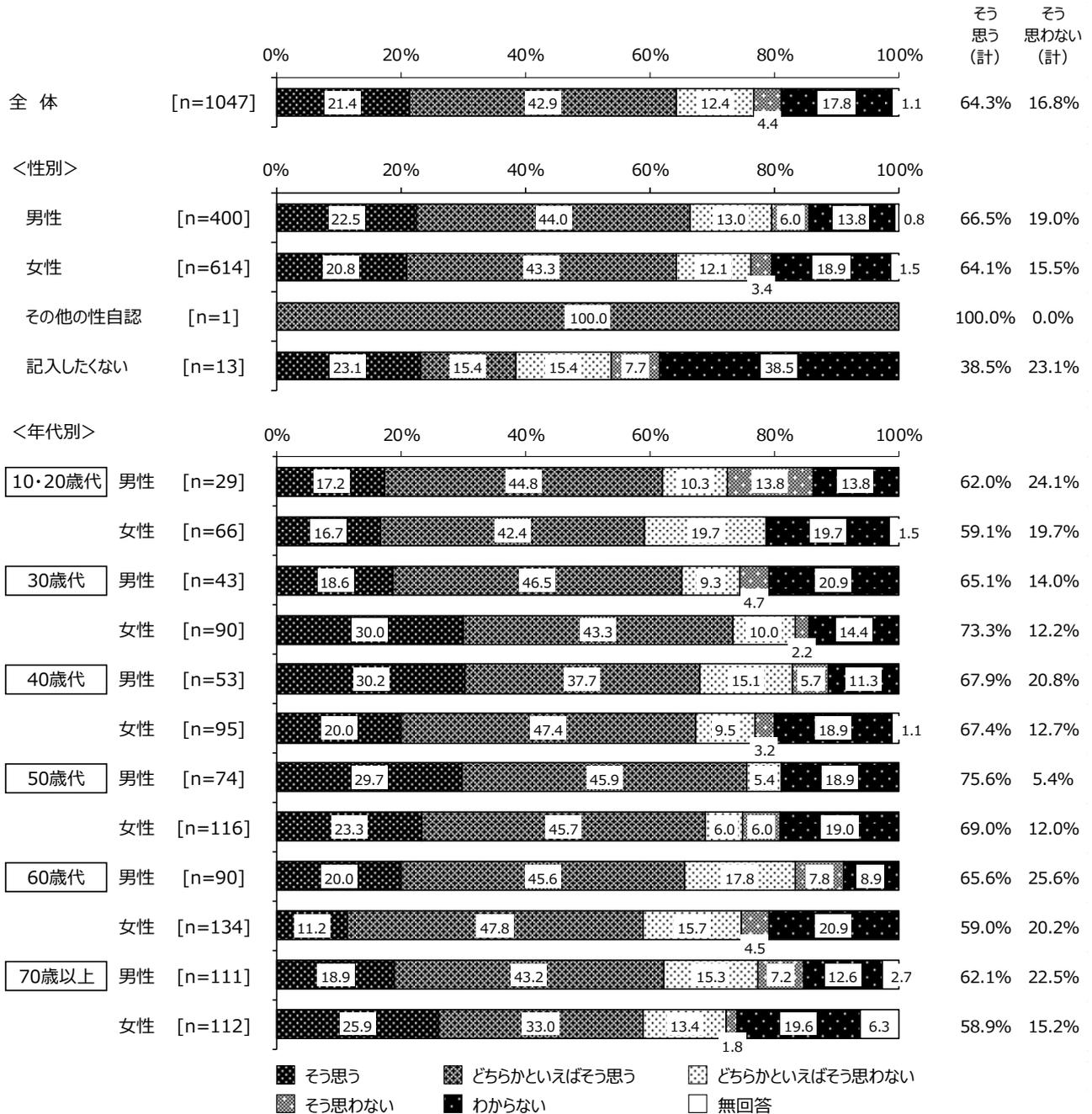
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらかといえばそう思う」が最も高く、「そう思う（計）」は男性10・20歳代、70歳以上を除き5割以上となっている。一方、「そう思わない（計）」は男性（24.3%）が女性（18.2%）より6.1ポイント高く、男性70歳以上が27.9%で最も高くなっている。



問9⑥ 女性の潜在労働力を活かすことができ、雇用の拡大や社会の活力に資する

全体では、「どちらかといえばそう思う」が42.9%で最も高く、次いで「そう思う」が21.4%、「わからない」が17.8%、「どちらかといえばそう思わない」が12.4%、「そう思わない」が4.4%となっている。「そう思う（計）」は64.3%、「そう思わない（計）」は16.8%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっている。「そう思う（計）」は男女ともすべての年代で5割以上となっており、男性50歳代、女性30歳代は7割台と、他の年代に比べ高くなっている。一方、「そう思わない（計）」は男性60歳代が25.6%で最も高くなっている。



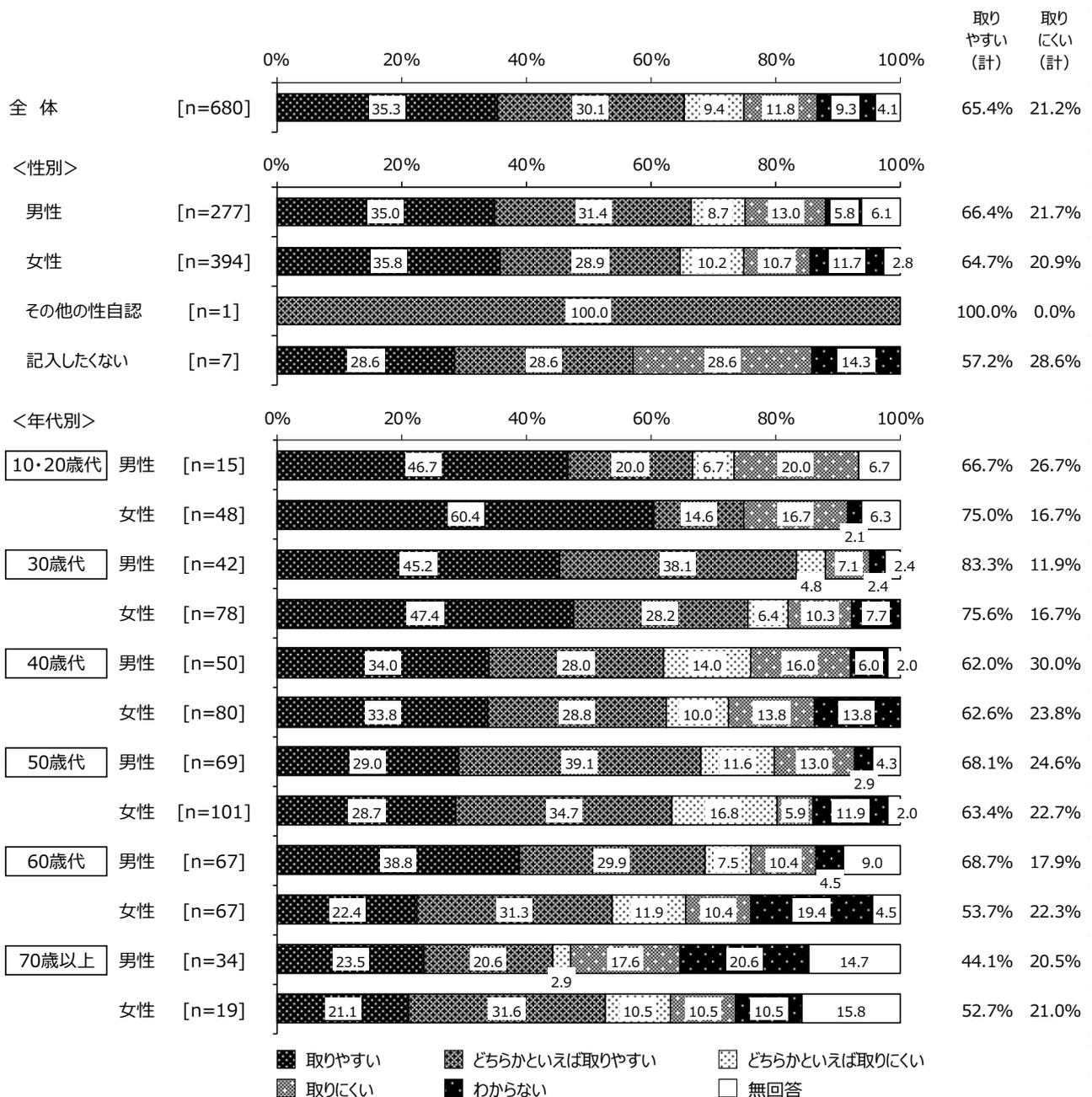
問 10 働いている方（自営業主、家族従業者の方、パートの方を含む）のみお答えください。

あなたの職場では、**男性職員**が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。
それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

問 10 ① 有給休暇

全体では、「取りやすい」が 35.3%で最も高く、次いで「どちらかといえば取りやすい」が 30.1%、「取りにくい」が 11.8%、「どちらかといえば取りにくい」が 9.4%、「わからない」が 9.3%となっている。「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」を合わせた「取りやすい（計）」は 65.4%、「取りにくい」と「どちらかといえば取りにくい」を合わせた「取りにくい（計）」は 21.2%となっている。

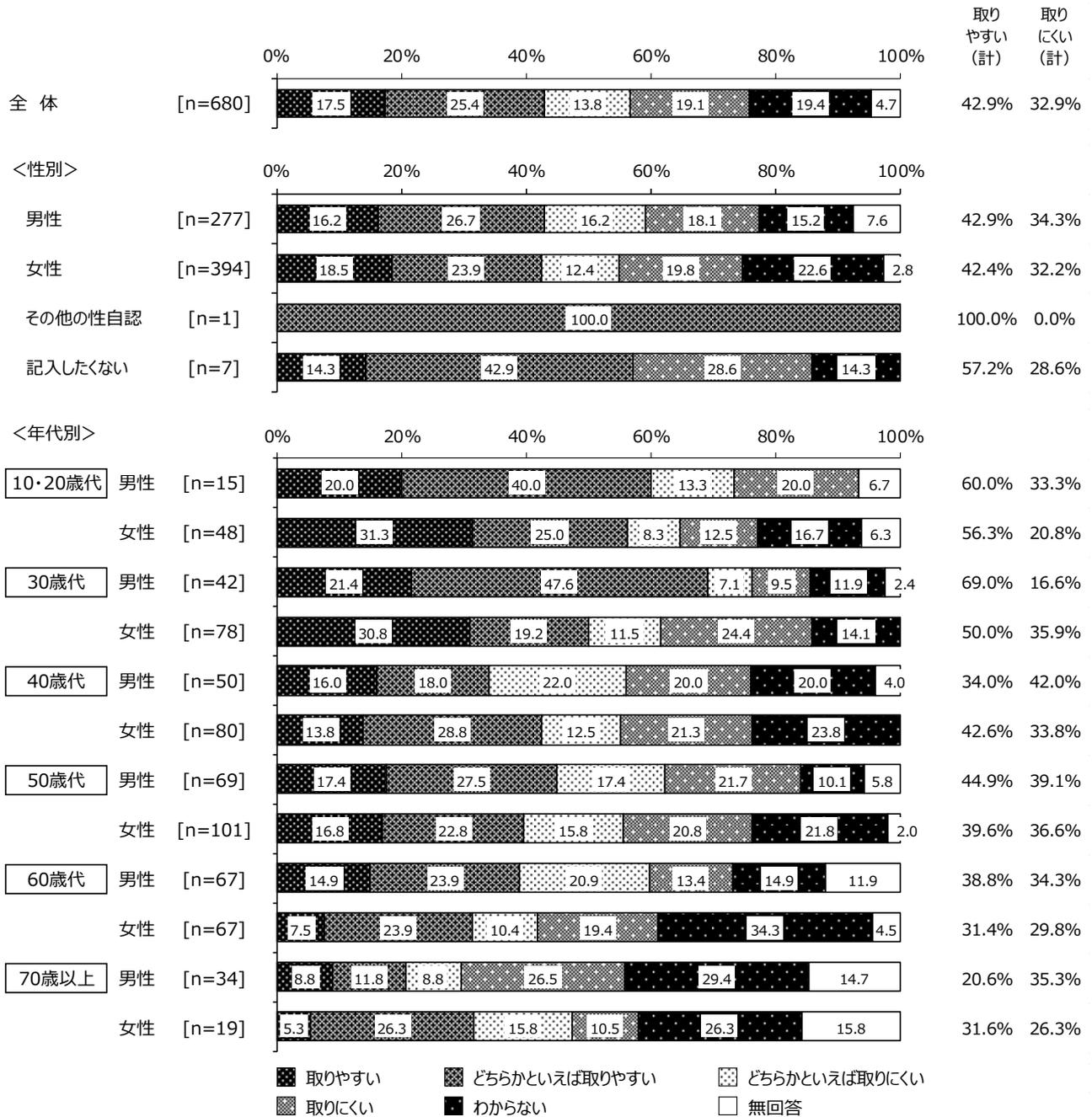
性別・年代別にみると、「取りやすい（計）」は男女ともすべての年代で「取りにくい（計）」より高く、男性 70 歳以上を除き 5 割以上となっている。男性 30 歳代は 83.3%、女性 30 歳代以下は 7 割台と、他の年代に比べ高くなっている。一方、「取りにくい（計）」は男性 40 歳代が 30.0%で最も高くなっている。



問 10 ② 育児休業

全体では、「どちらかといえば取りやすい」が 25.4%で最も高く、次いで「わからない」が 19.4%、「取りにくい」が 19.1%、「取りやすい」が 17.5%、「どちらかといえば取りにくい」が 13.8%となっている。「取りやすい（計）」は 42.9%、「取りにくい（計）」は 32.9%となっている。

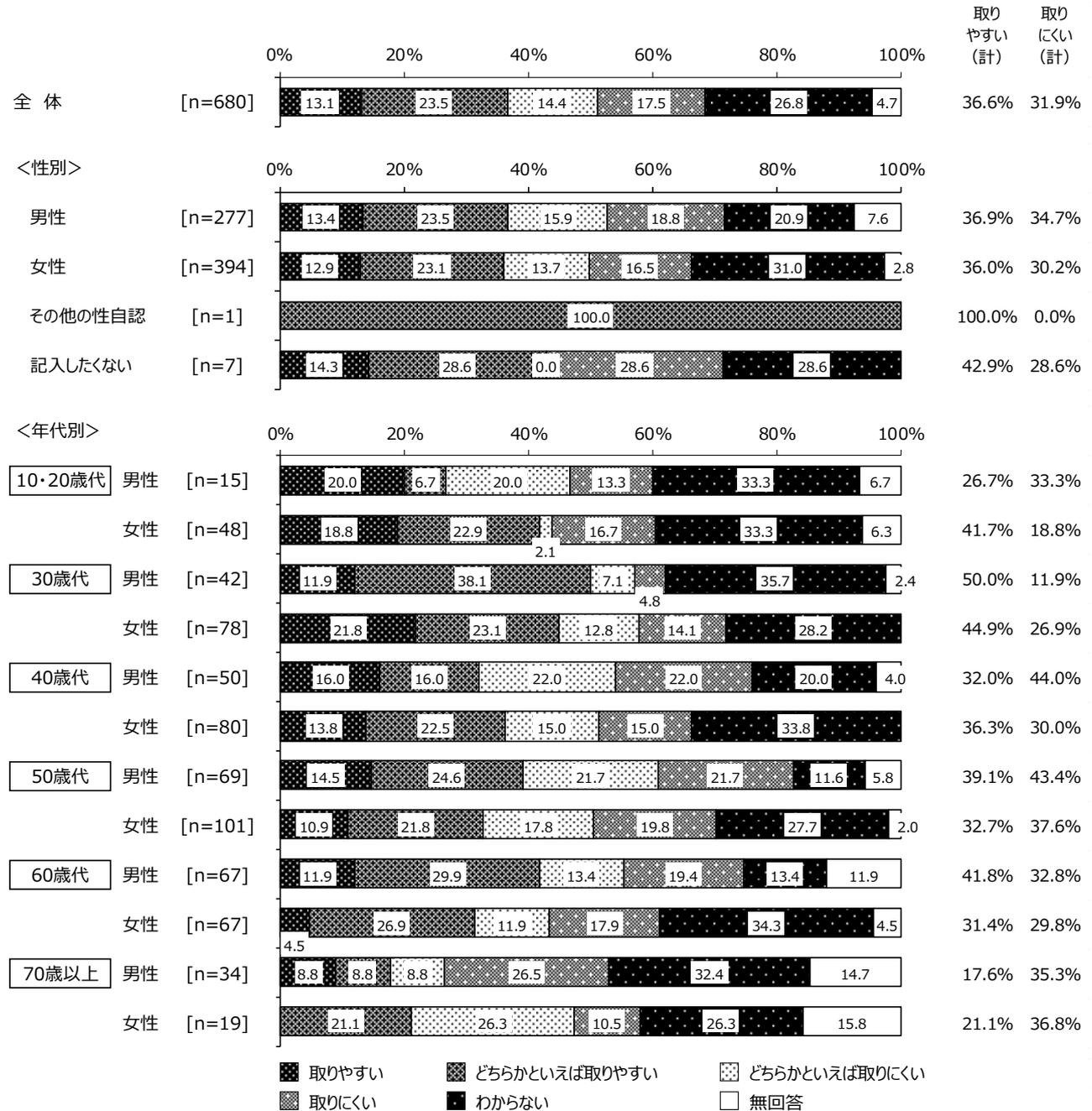
性別・年代別にみると、「取りやすい（計）」は男女とも 30 歳代以下で 5 割以上となっている。一方、男性 40 歳代、70 歳以上は「取りにくい（計）」が「取りやすい（計）」より高くなっている。



問 10 ③ 介護休業

全体では、「わからない」が 26.8%で最も高く、次いで「どちらかといえば取りやすい」が 23.5%、「取りにくい」が 17.5%、「どちらかといえば取りにくい」が 14.4%、「取りやすい」が 13.1%となっている。「取りやすい（計）」は 36.6%、「取りにくい（計）」は 31.9%となっている。

性別・年代別にみると、「取りやすい（計）」は男性 30 歳代が 50.0%で最も高く、男性 60 歳代、女性 30 歳代以下も 4 割台と、他の年代に比べ高くなっている。一方、男性 40 歳代、70 歳以上などは「取りにくい（計）」が「取りやすい（計）」より 1 割以上高くなっている。



問 11 続いて、働いている方（自営業主、家族従業者の方、パートの方を含む）のみお答えください。

あなたの職場では、**女性職員**が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。

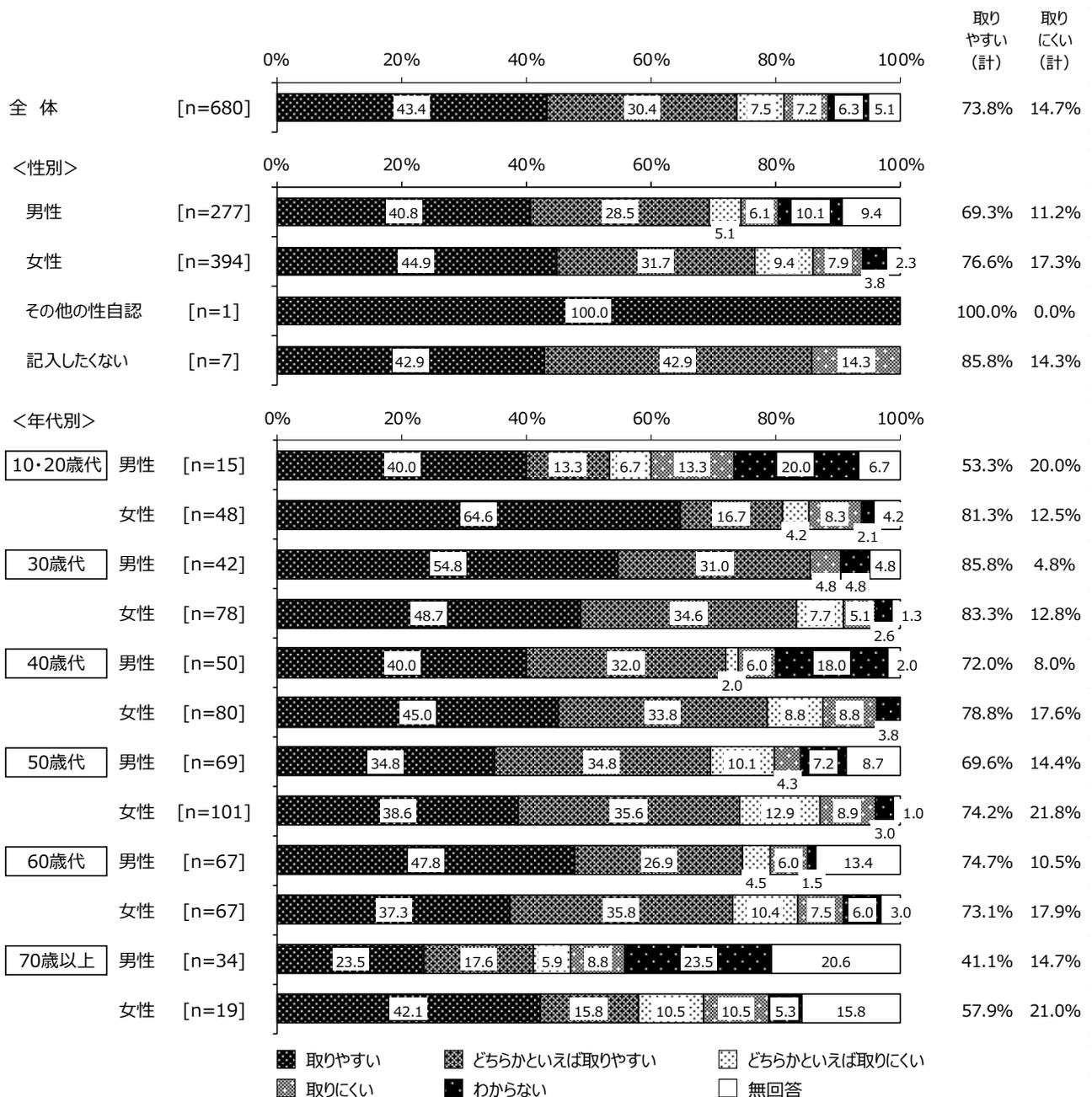
それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。 （○はそれぞれ1つずつ）

問 11 ① 有給休暇

全体では、「取りやすい」が 43.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば取りやすい」が 30.4%、「どちらかといえば取りにくい」が 7.5%、「取りにくい」が 7.2%、「わからない」が 6.3%となっている。「取りやすい（計）」は 73.8%、「取りにくい（計）」は 14.7%となっている。

性別・年代別にみると、「取りやすい（計）」は男女ともすべての年代で「取りにくい（計）」より高く、男性 70 歳以上を除き 5 割以上となっている。男性 30 歳代、女性 30 歳代以下は 8 割台と、他の年代に比べ高くなっている。

男性職員と女性職員の比較については、「取りやすい（計）」は女性職員（73.8%）が男性職員（65.4%）より 8.4 ポイント高く、男性 40 歳代、女性 40～60 歳代は 1 割以上上回っている。

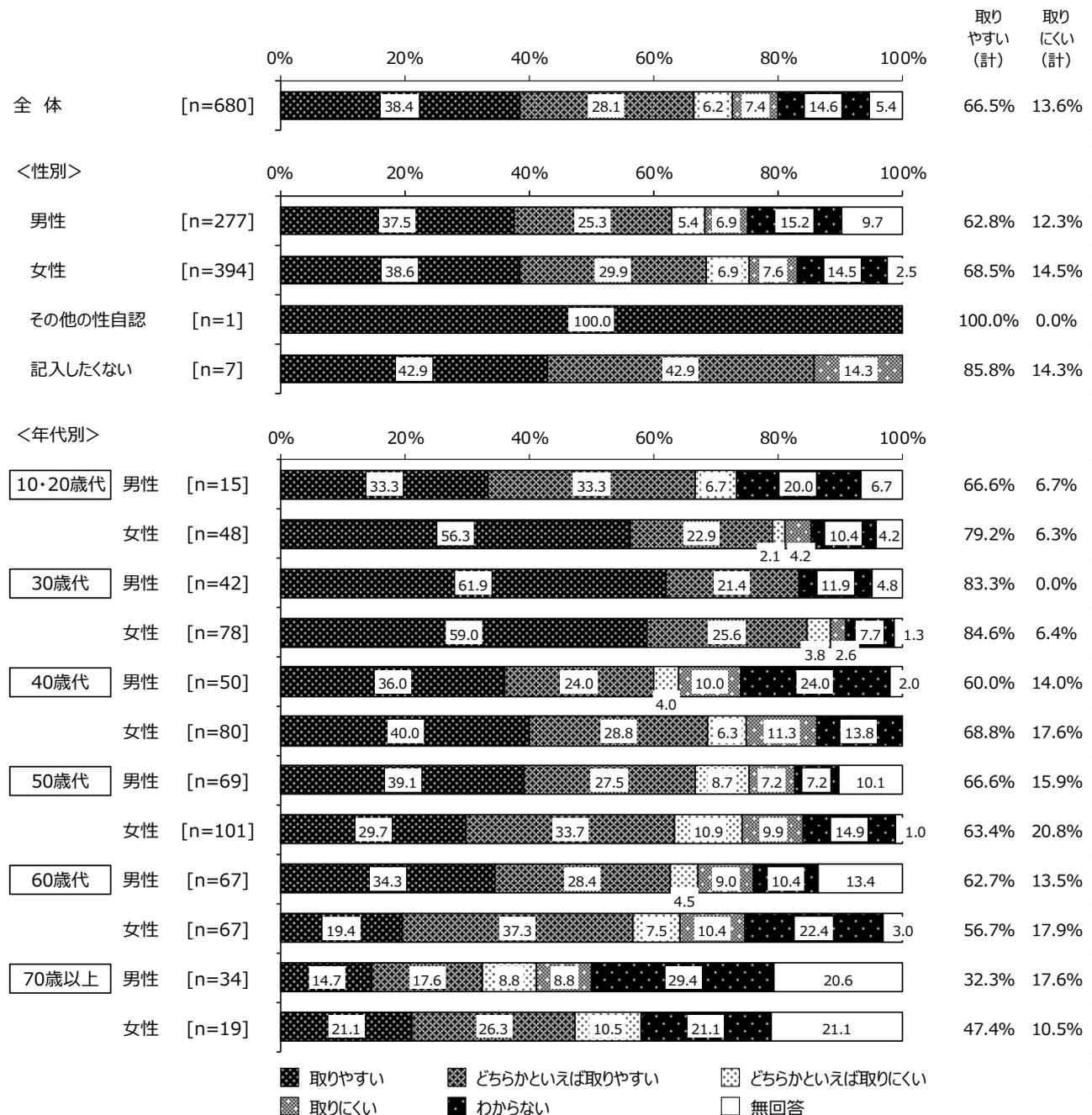


問 11 ② 育児休業

全体では、「取りやすい」が 38.4%で最も高く、次いで「どちらかといえば取りやすい」が 28.1%、「わからない」が 14.6%、「取りにくい」が 7.4%、「どちらかといえば取りにくい」が 6.2%となっている。「取りやすい（計）」は 66.5%、「取りにくい（計）」は 13.6%となっている。

性別・年代別にみると、「取りやすい（計）」は男女ともすべての年代で「取りにくい（計）」より高く、70 歳以上を除き 5 割以上、30 歳代は 8 割台となっている。

男性職員と女性職員の比較については、「取りやすい（計）」は女性職員（66.5%）が男性職員（42.9%）より 23.6 ポイント高くなっている。男女ともすべての年代で女性職員が男性職員より高く、女性 30 歳代は 34.6 ポイント、男性 40～60 歳代、女性 10・20 歳代、40～60 歳代は 2 割以上上回っている。

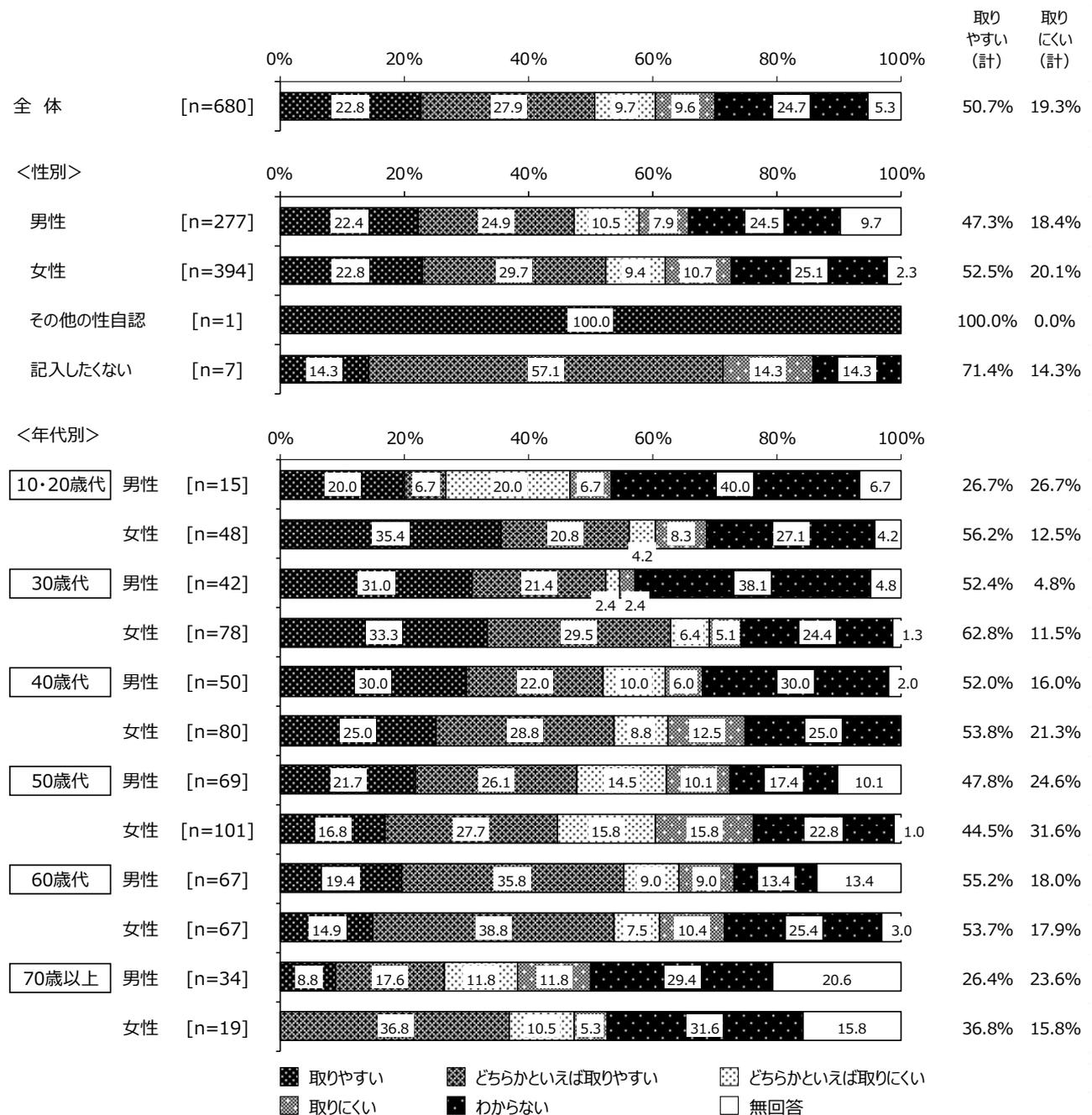


問 11 ③ 介護休業

全体では、「どちらかといえば取りやすい」が 27.9%で最も高く、次いで「わからない」が 24.7%、「取りやすい」が 22.8%、「どちらかといえば取りにくい」が 9.7%、「取りにくい」が 9.6%となっている。「取りやすい（計）」は 50.7%、「取りにくい（計）」は 19.3%となっている。

性別・年代別にみると、「取りやすい（計）」は男性 10・20 歳代を除き「取りにくい（計）」より高く、男性 30～40 歳代、60 歳代、女性 40 歳代以下、60 歳代で 5 割以上となっている。

男性職員と女性職員の比較については、「取りやすい（計）」は女性職員（50.7%）が男性職員（36.6%）より 14.1 ポイント高く、男性 10・20 歳代を除き女性職員が上回っている。



問 12 **現在働いていない方（予備校生を含む学生は除く）のみお答えください。**

あなたが働いていない理由は何ですか。その理由としてあてはまるものを3つまで選んで、第1位から第3位までの順位をつけて、番号をご記入ください。

全体では、「年齢面の制約のため」が53.4%で最も高く、次いで「健康面の理由から」が39.0%、「経済的に働く必要がないから」が27.1%、「希望する勤務条件（時間、場所、給与等）の仕事がなかったから」が23.9%となっている。

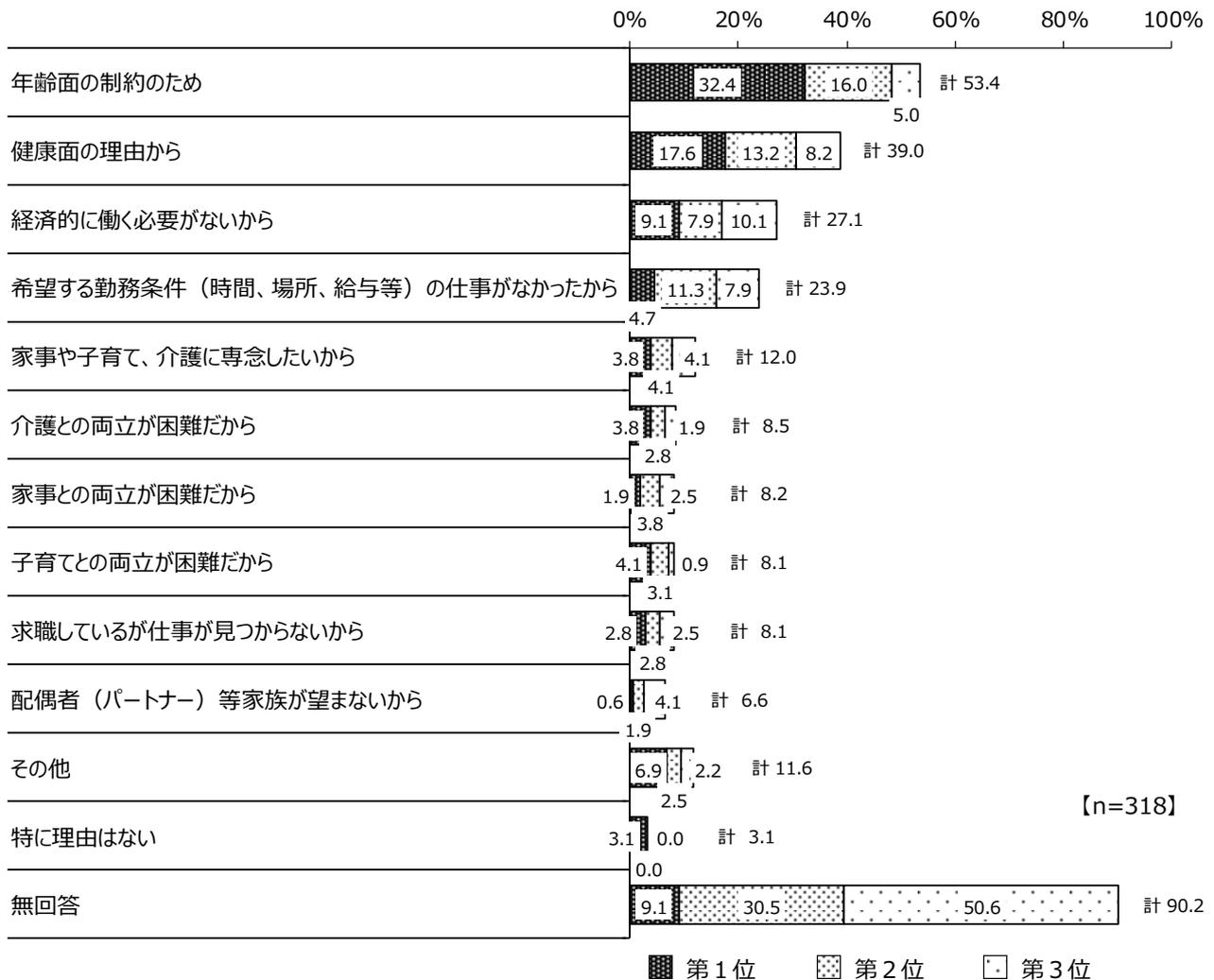
「年齢面の制約のため」は1位、2位とも最も高く、3位は4番目となっている。

「健康面の理由から」は1～3位いずれも2番目に高くなっている。

「経済的に働く必要がないから」は1位が3番目、2位が4番目、3位は最も高くなっている。

「希望する勤務条件（時間、場所、給与等）の仕事がなかったから」は1位が4番目、2～3位が3番目に高くなっている。

上位4項目は1～3位いずれについても4位以内となっている。また、「子育てとの両立が困難だから」は全体として8位（8.2%）となっているが、1位については5番目（4.1%）に高くなっている。



問 13 **全員の方にお伺いします。**

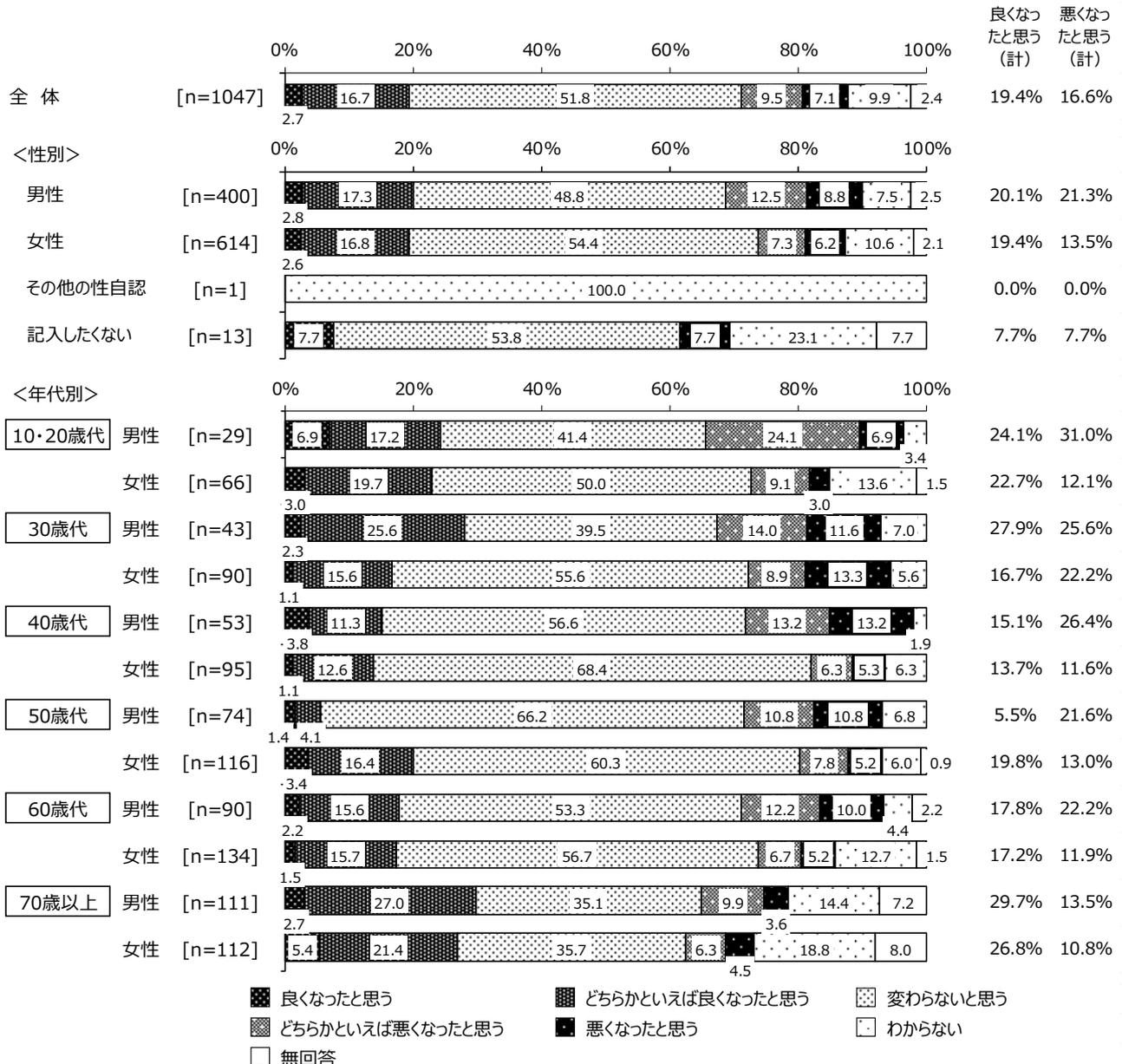
「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する以下の3つの項目について、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が1年前と比較してどのように変化していると思いますか。最も近いものをそれぞれ1つだけお答えください。 (○はそれぞれ1つずつ)

問 13 ① 就労による経済的自立が可能な社会

(経済的に自立し、いきいきとした働き方ができるなど、暮らしの基盤が確保できる)

全体では、「変わらないと思う」が51.8%で最も高く、「良くなったと思う」(2.7%)と「どちらかといえば良くなったと思う」(16.7%)を合わせた「良くなったと思う(計)」が19.4%、「悪くなったと思う」(7.1%)と「どちらかといえば悪くなったと思う」(9.5%)を合わせた「悪くなったと思う(計)」が16.6%、「わからない」が9.9%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「変わらないと思う」が最も高くなっている。男性は「悪くなったと思う(計)」と「良くなったと思う(計)」が同程度、女性は「良くなったと思う(計)」が高く、男性70歳以上、女性10・20歳代、70歳以上は「良くなったと思う(計)」、男性40～50歳代は「悪くなったと思う(計)」が1割以上上回っている。

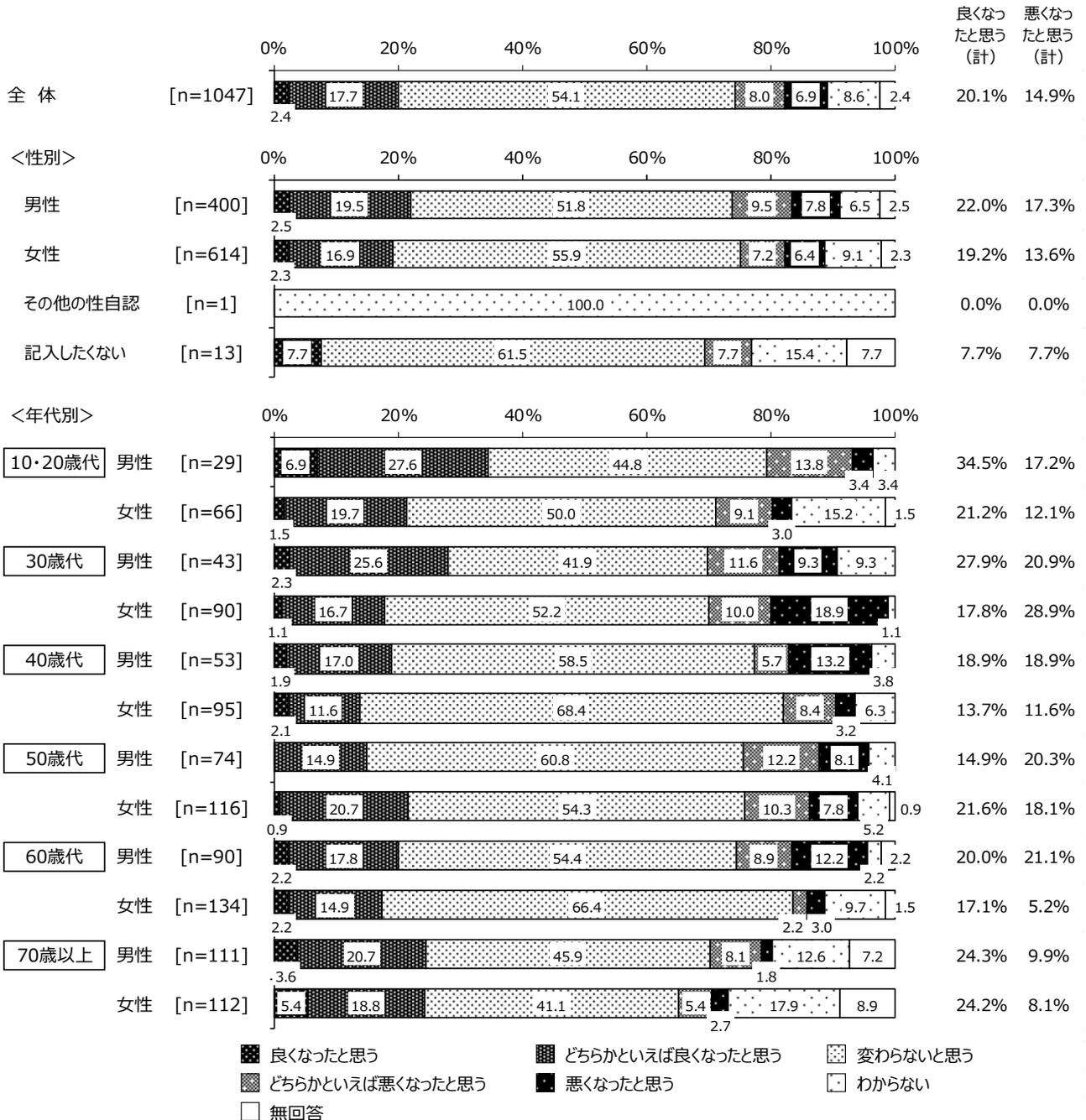


問 13 ② 健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

(健康で、家族や友人と過ごしたり、自己啓発や地域活動に参加する時間を持てる豊かな生活ができる)

全体では、「変わらないと思う」が 54.1%で最も高く、「良くなったと思う（計）」が 20.1%、「悪くなったと思う（計）」が 14.9%、「わからない」が 8.6%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも「変わらないと思う」が最も高く、「良くなったと思う（計）」は「悪くなったと思う（計）」より 5 ポイント前後高くなっている。男性 10・20 歳代、70 歳以上、女性 60 歳代以上は「良くなったと思う（計）」、女性 30 歳代は「悪くなったと思う（計）」が 1 割以上上回っている。

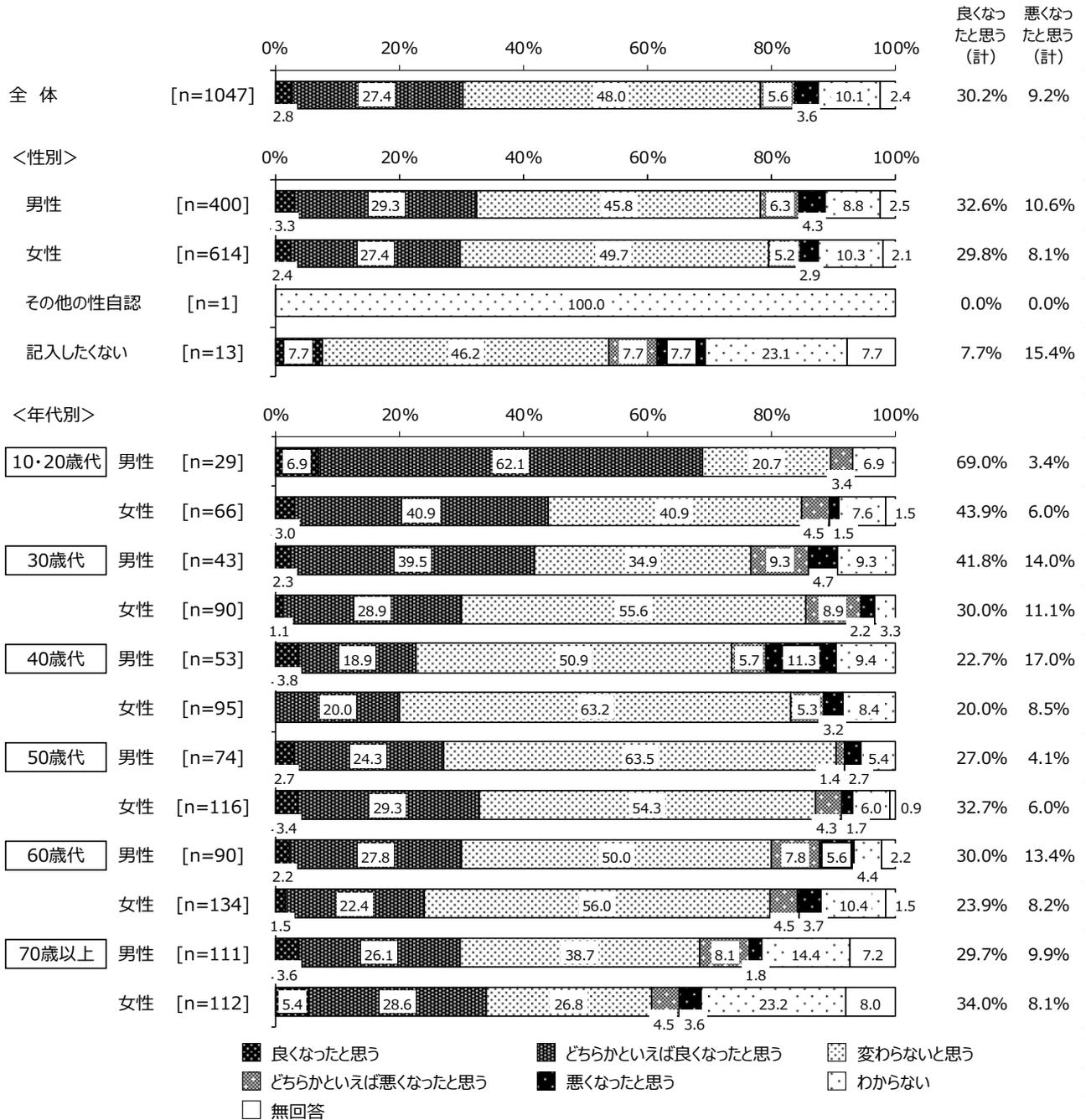


問 13 ③ 多様な働き方・生き方が選択できる社会

(誰もが、子育てや介護など個人の状況に応じて多様で柔軟な働き方や生き方ができる)

全体では、「変わらないと思う」が48.0%で最も高く、「良くなったと思う(計)」が30.2%、「わからない」が10.1%、「悪くなったと思う(計)」が9.2%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも「変わらないと思う」が最も高く、「良くなったと思う(計)」は「悪くなったと思う(計)」より2割以上高くなっている。男性30歳代、女性10・20歳代は『良くなったと思う(計)』が4割以上と、他の年代に比べ高くなっている。また、男性10・20歳代は「良くなったと思う(計)」が69.0%とさらに高くなっている。



問 14 **現在結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。**

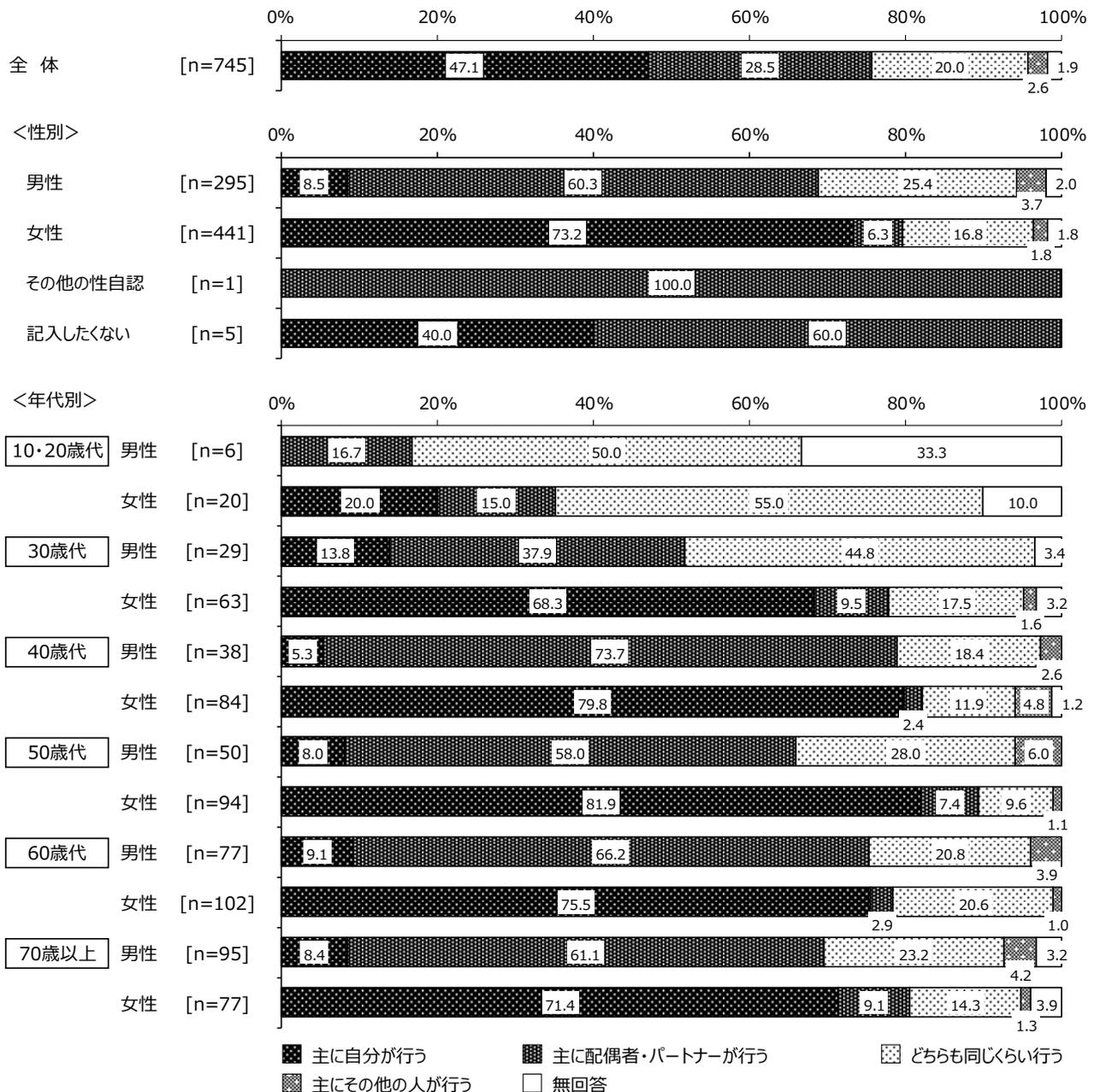
あなたのご家庭では現在、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

①～⑧それぞれについて、一番近い番号ひとつに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

問 14 ① 食事の支度・あとかたづけ

全体では、「主に自分が行う」が 47.1%で最も高く、次いで「主に配偶者・パートナーが行う」が 28.5%、「どちらも同じくらい行う」が 20.0%、「主にその他の人が行う」が 2.6%となっている。

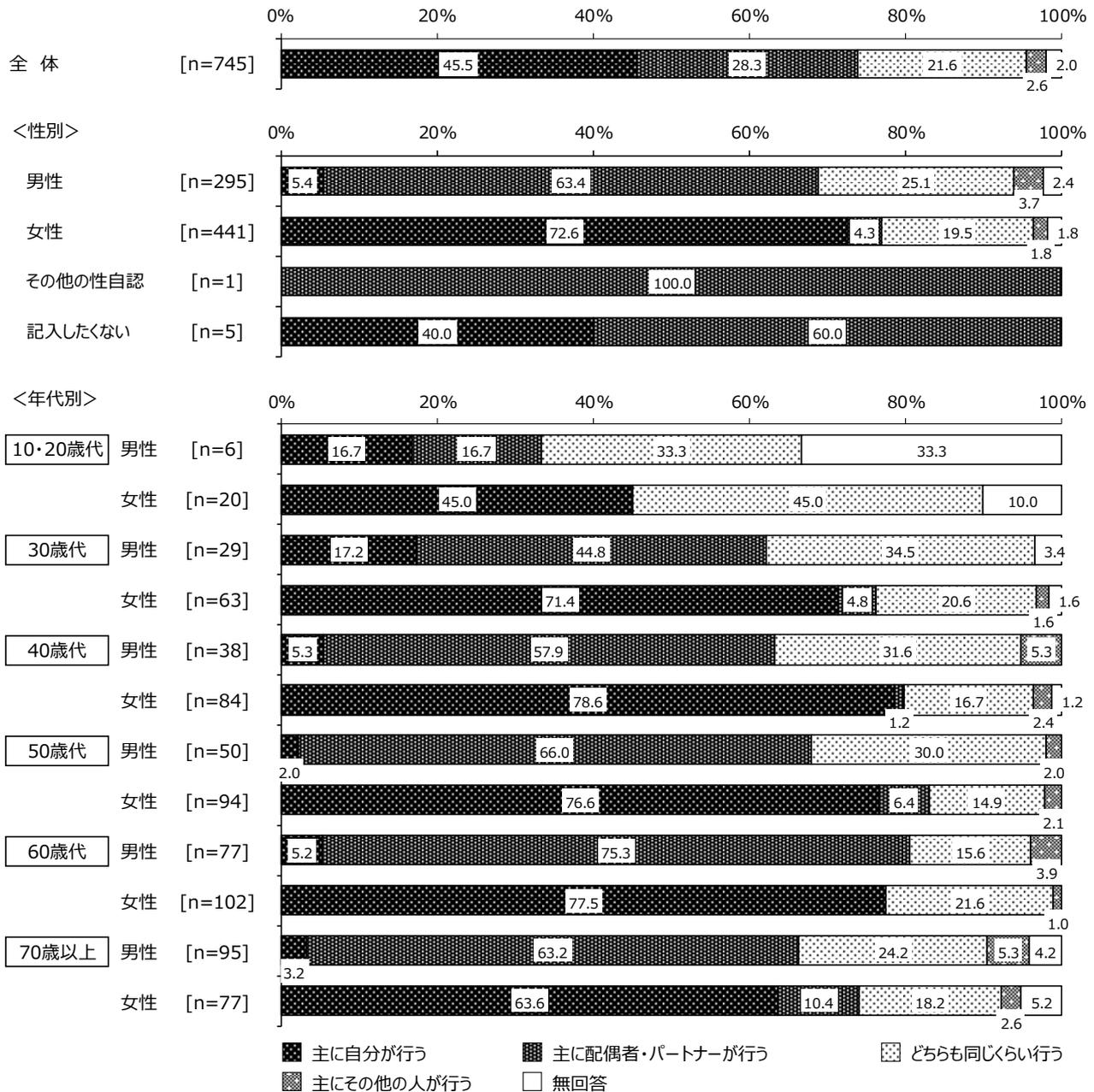
性別・年代別にみると、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（60.3%）が最も高く、40 歳代以上で 5 割以上となっている。女性は「主に自分が行う」（73.2%）が最も高く、30 歳代以上で 6 割以上となっている。一方、「主に自分で行う」男性は 1 割未満となっている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（25.4%）が女性（16.8%）より 8.6 ポイント高くなっている。



問 14 ② 掃除・洗濯

全体では、「主に自分が行う」が 45.5%で最も高く、次いで「主に配偶者・パートナーが行う」が 28.3%、「どちらも同じくらい行う」が 21.6%、「主にその他の人が行う」が 2.6%となっている。

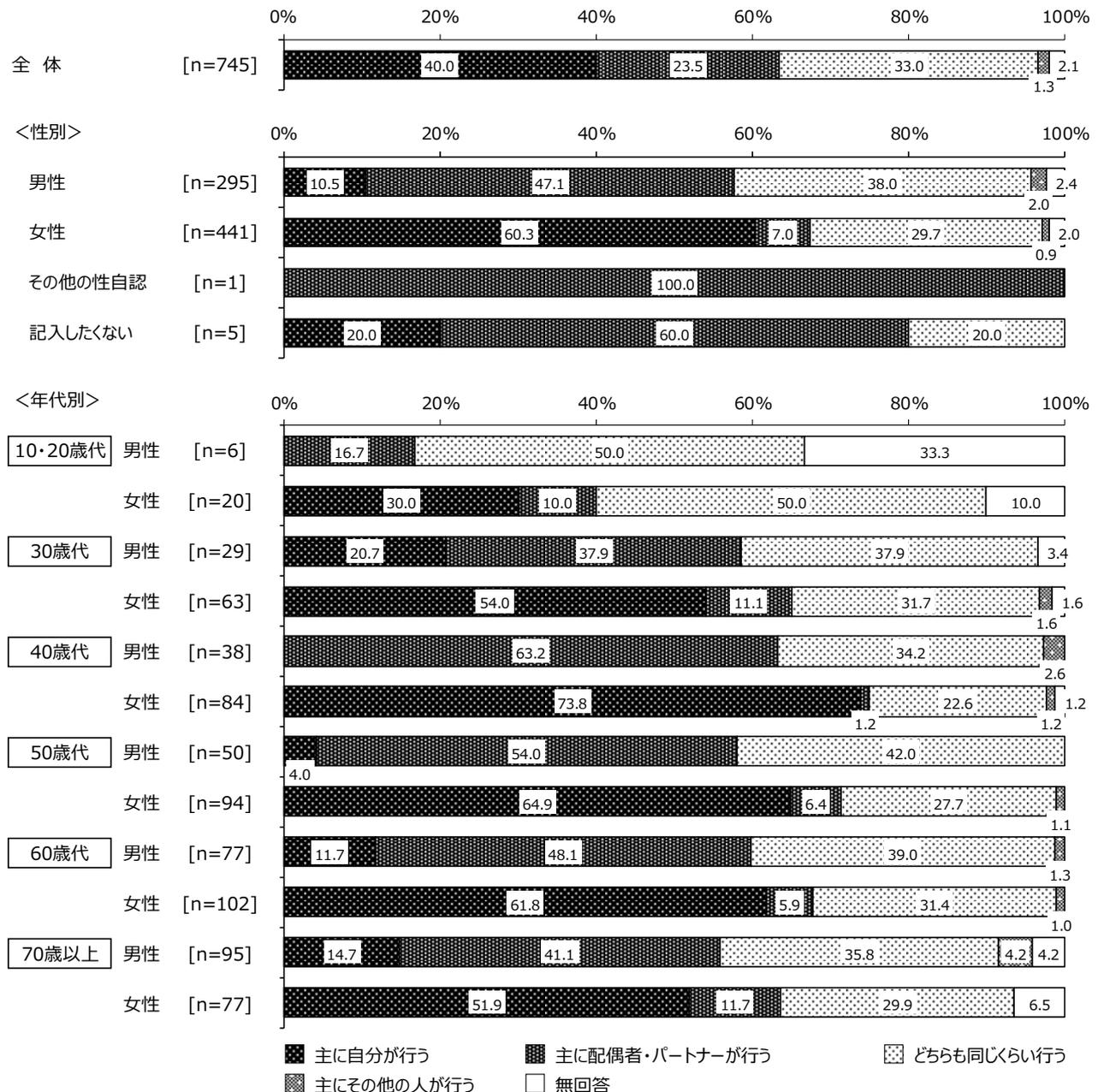
性別・年代別にみると、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（63.4%）が最も高く、40 歳代以上で 5 割以上となっている。女性は「主に自分が行う」（72.6%）が最も高く、30 歳代以上で 6 割以上となっている。一方、「主に自分で行う」男性は 1 割未満となっている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（25.1%）が女性（19.5%）より 5.6 ポイント高くなっている。



問 14 ③ 食料品・日用品等の買物

全体では、「主に自分が行う」が 40.0%で最も高く、次いで「どちらも同じくらい行う」が 33.0%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 23.5%、「主にその他の人が行う」が 1.3%となっている。

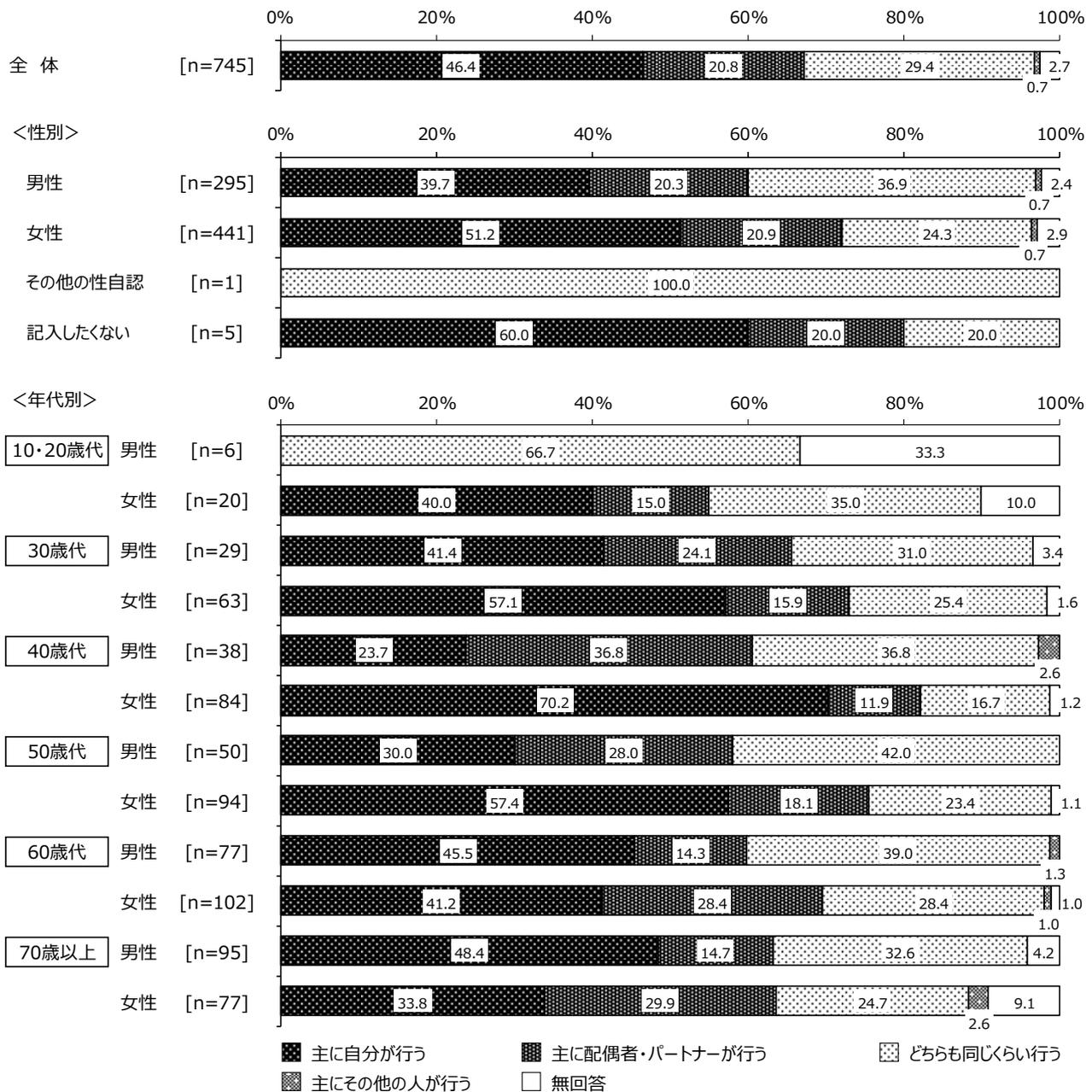
性別・年代別にみると、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（47.1%）が最も高く、40～50 歳代は 5 割以上となっている。女性は「主に自分が行う」（60.3%）が最も高く、30 歳代以上で 5 割以上となっている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（38.0%）が女性（29.7%）より 8.3 ポイント高くなっている。



問 14 ④ 役所等への用事・書類の作成

全体では、「主に自分が行う」が 46.4%で最も高く、次いで「どちらも同じくらい行う」が 29.4%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 20.8%、「主にその他の人が行う」が 0.7%となっている。

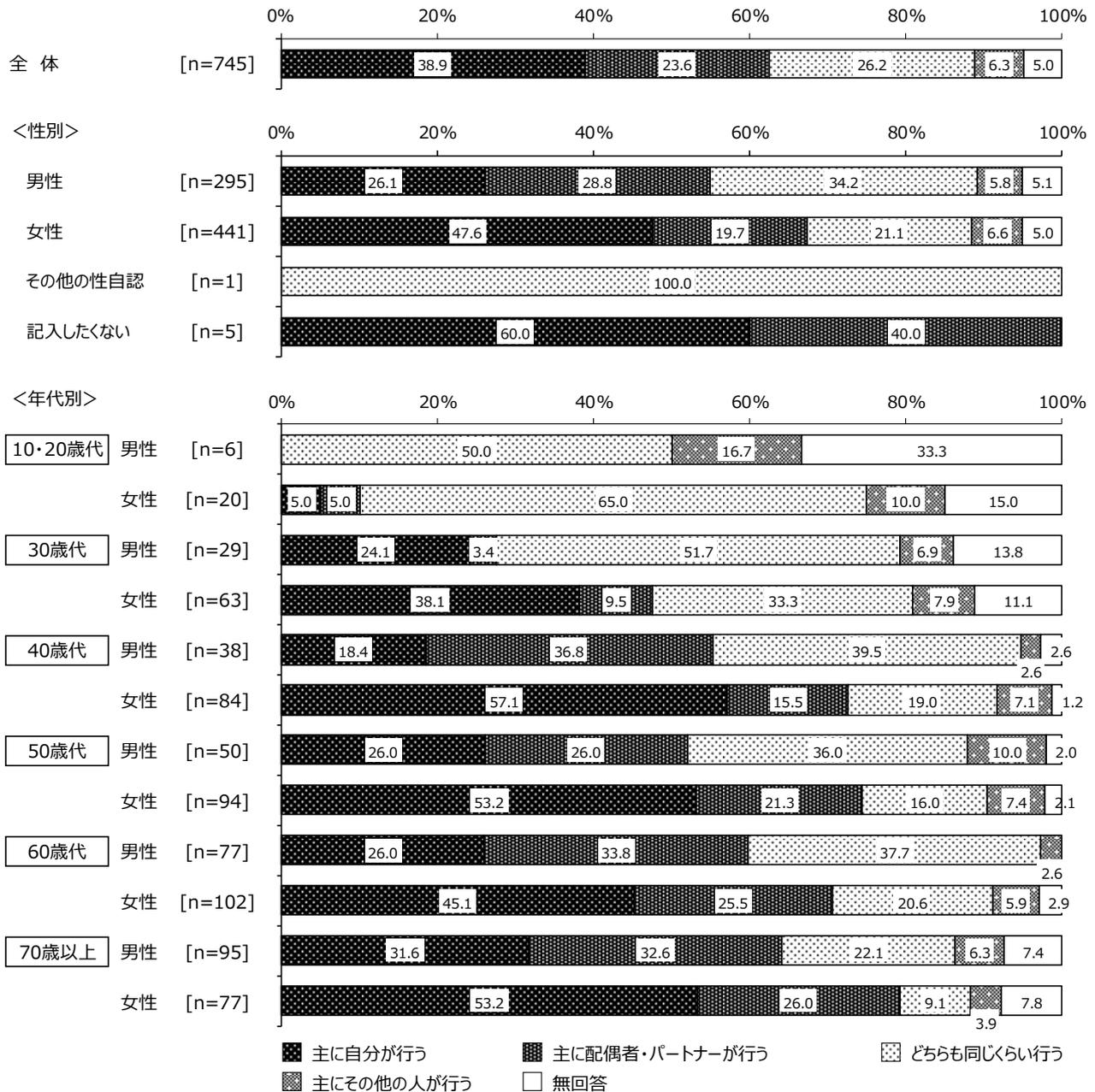
性別・年代別にみると、男女とも「主に自分が行う」が最も高くなっているが、女性（51.2%）は男性（39.7%）を 11.5 ポイント上回っている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（36.9%）が女性（24.3%）より 12.6 ポイント高く、男性 40～50 歳代などは「主に自分が行う」より高くなっている（男性 40 歳代は「主に配偶者・パートナーが行う」も同率）。



問 14 ⑤ 町内会などの地域活動

全体では、「主に自分が行う」が 38.9%で最も高く、次いで、「どちらも同じくらい行う」が 26.2%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 23.6%、「主にその他の人が行う」が 6.3%となっている。

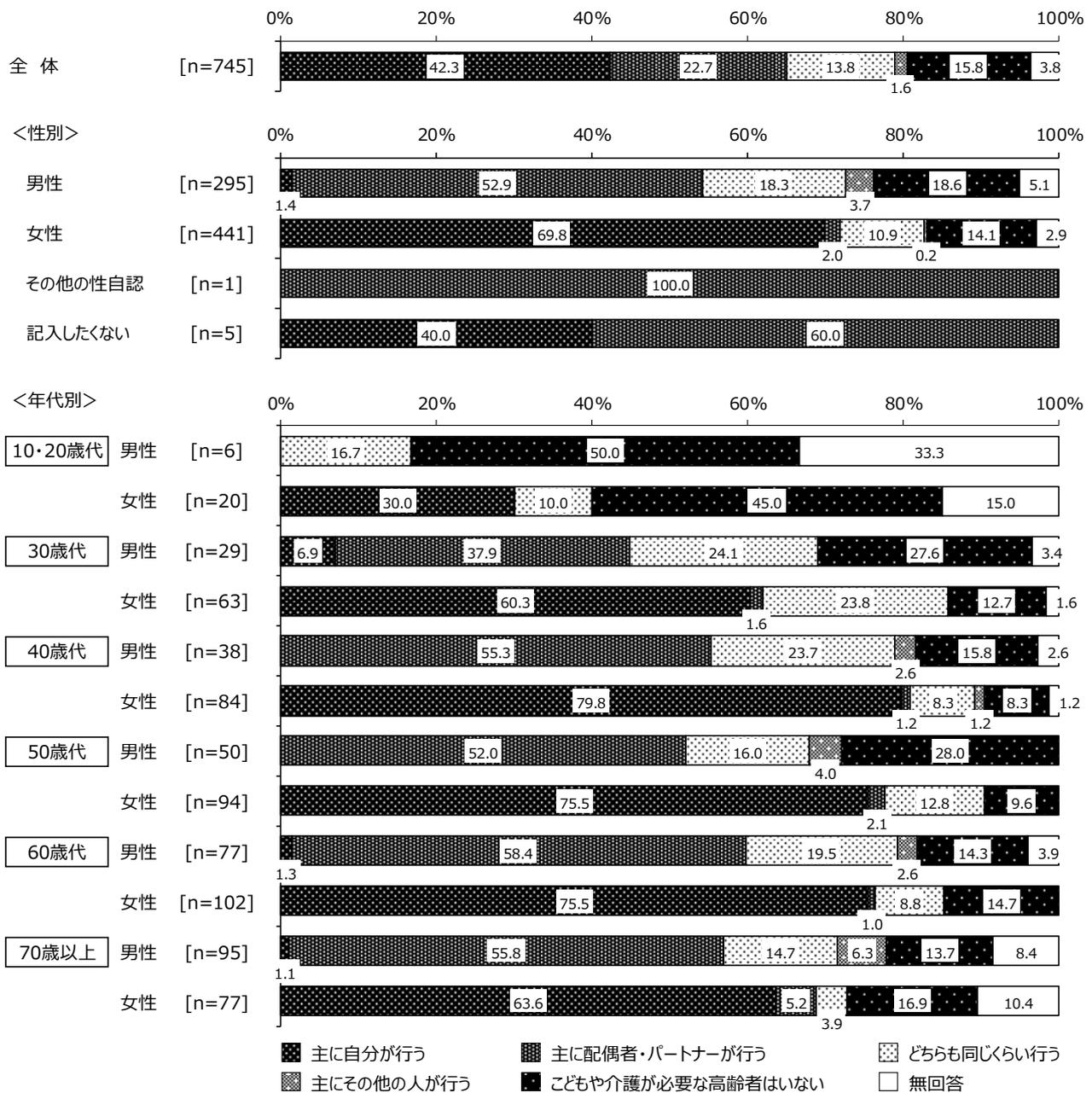
性別・年代別にみると、男性は「どちらも同じくらい行う」（34.2%）が最も高く、女性（21.1%）を 13.1 ポイント上回っている。男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（28.8%）も、女性（19.7%）より 9.1 ポイント高くなっている。女性は「主に自分が行う」（47.6%）が最も高く、男性（26.1%）を 21.5 ポイント上回っている。女性は 40～50 歳代、70 歳以上で「主に自分が行う」が 5 割台となっている。



問 14 ⑥ 乳児・幼児の世話（現在、または過去に）

全体では、「主に自分が行う」が 42.3%で最も高く、次いで「主に配偶者・パートナーが行う」が 22.7%、「こどもや介護が必要な高齢者はいない」が 15.8%、「どちらも同じくらい行う」が 13.8%、「主にその他の人が行う」が 1.6%となっている。

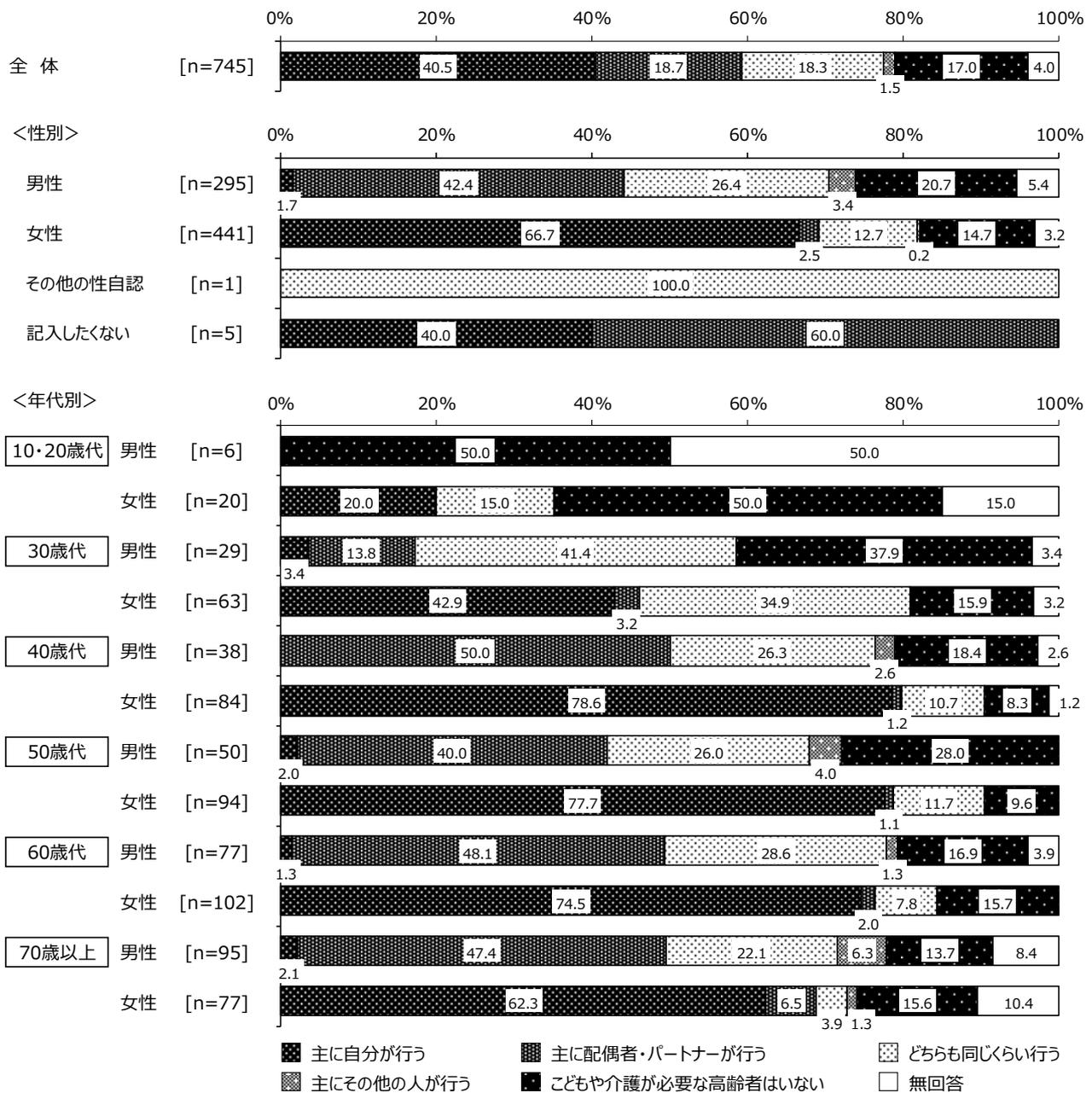
性別・年代別にみると、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（52.9%）が最も高く、40歳代以上で5割台となっている。女性は「主に自分が行う」（69.8%）が最も高く、30歳代以上で6割以上となっている。一方、「主に自分で行う」男性は1割未満となっている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（18.3%）が女性（10.9%）より7.4ポイント高くなっている。



問 14 ⑦ こどもの学校行事等への参加（現在、または過去に）

全体では、「主に自分が行う」が 40.5%で最も高く、次いで「主に配偶者・パートナーが行う」が 18.7%、「どちらも同じくらい行う」が 18.3%、「子どもや介護が必要な高齢者はいない」が 17.0%、「主にその他の人が行う」が 1.5%となっている。

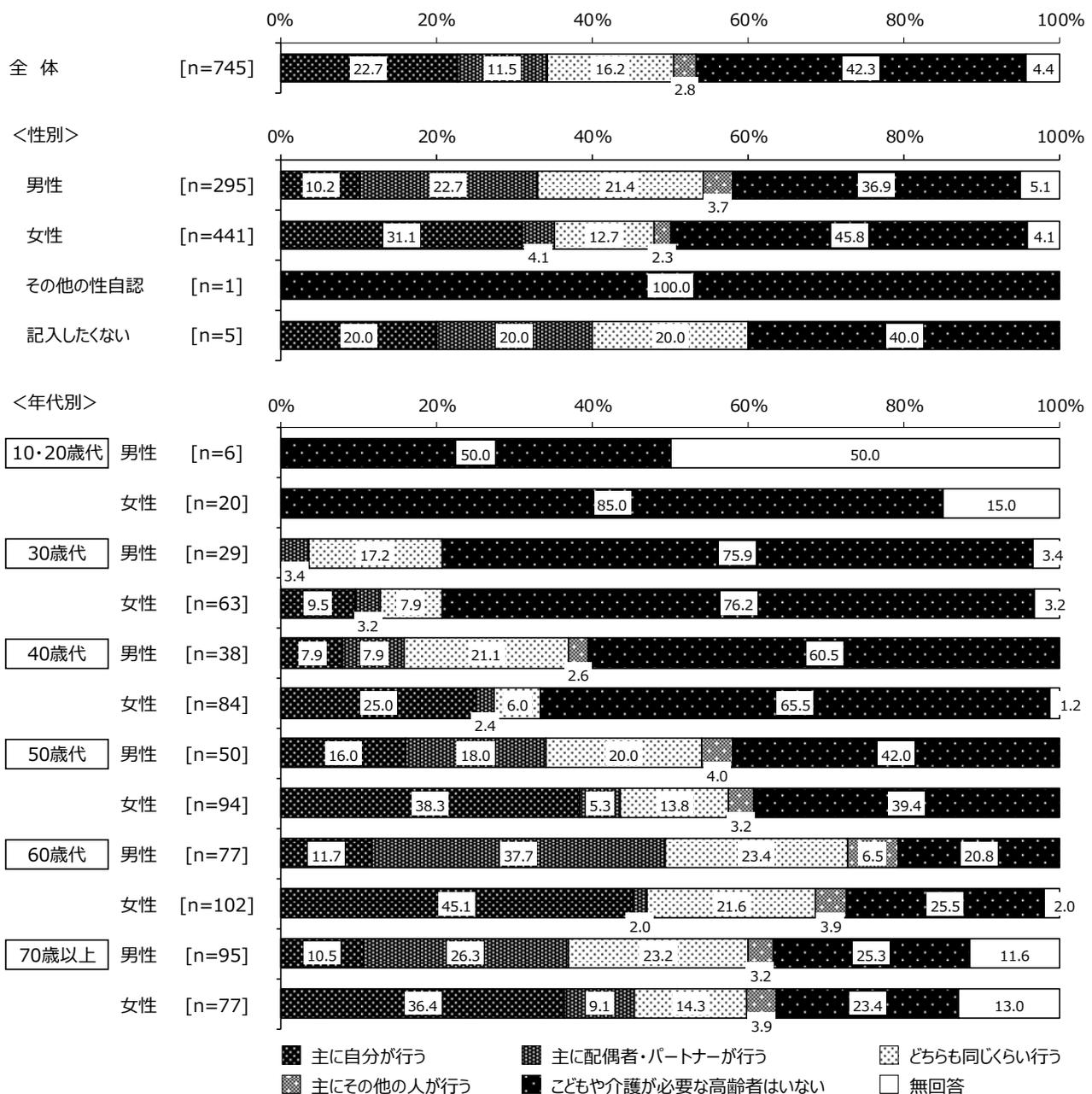
性別・年代別にみると、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（42.4%）が最も高く、40 歳代は 50.0%となっている。女性は「主に自分が行う」（66.7%）が最も高く、40 歳代以上で 6 割以上となっている。一方、「主に自分で行う」男性は 1 割未満となっている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（26.4%）が女性（12.7%）より 13.7 ポイント高くなっている。



問 14 ⑧ 高齢者の世話（介護）（現在、または過去に）

全体では、「子どもや介護が必要な高齢者はいない」が 42.3%で最も高く、次いで「主に自分が行う」が 22.7%、「どちらも同じくらい行う」が 16.2%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 11.5%、「主にその他の人が行う」が 2.8%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも 50 歳代以下では「子どもや介護が必要な高齢者はいない」が最も高くなっている。それを除くと、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」（22.7%）が最も高く、女性（4.1%）を 18.6 ポイント上回っている。女性は「主に自分が行う」（31.1%）が最も高く、男性（10.2%）を 20.9 ポイント上回っている。また、「どちらも同じくらい行う」は男性（21.4%）が女性（12.7%）より 8.7 ポイント高くなっている。



問 15 引き続き、現在結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。

また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。

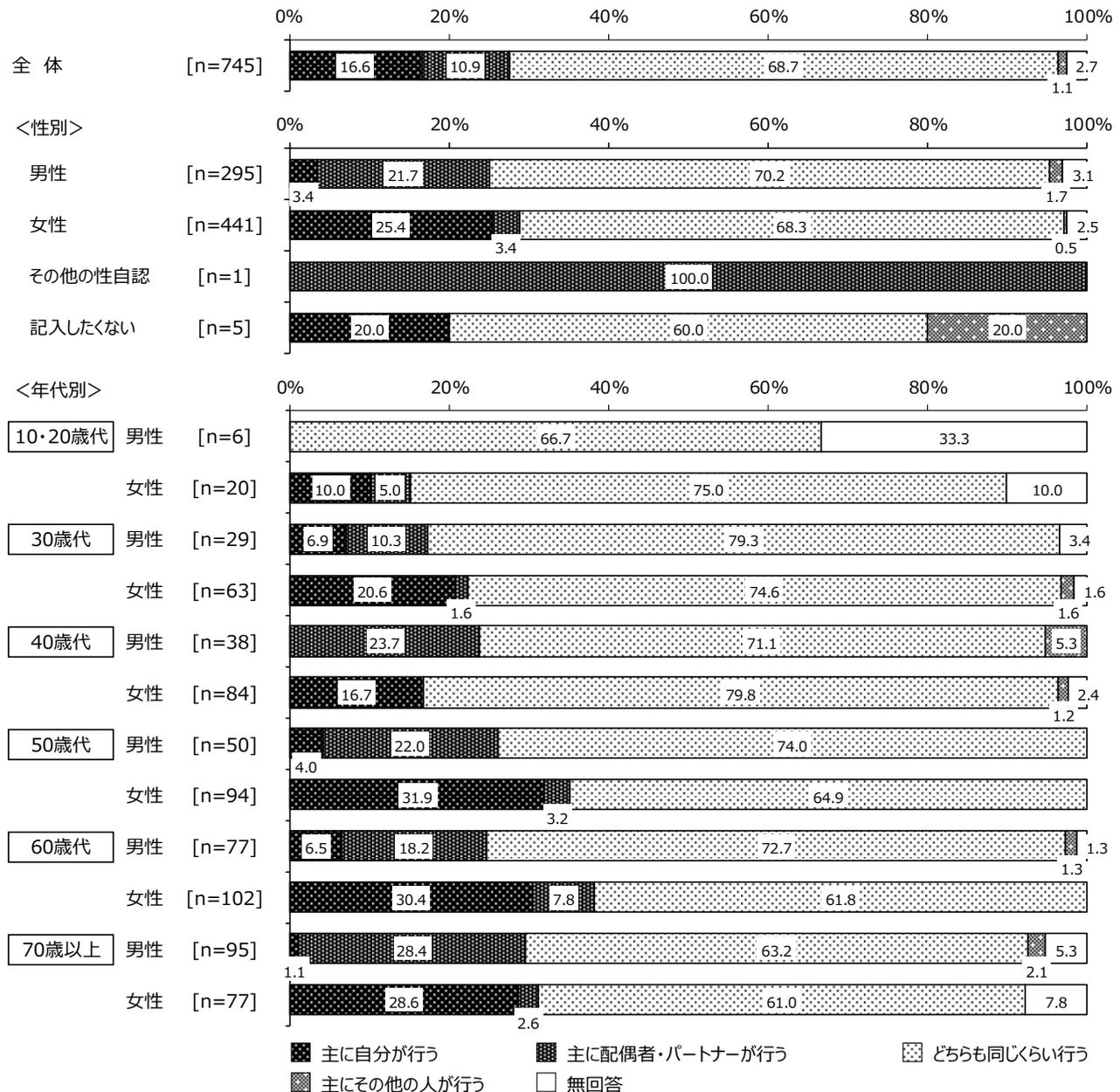
①～⑧それぞれについて、一番近い番号ひとつに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

問 15 ① 食事の支度・あとかたづけ

全体では、「どちらも同じくらい行う」が 68.7%で最も高く、次いで「主に自分が行う」が 16.6%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 10.9%、「主にその他の人が行う」が 1.1%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらも同じくらい行う」が 6 割以上となっている。また、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」、女性は「主に自分が行う」が 2 割台となっており、後者は女性 50～60 歳代で 3 割台と、他の年代に比べ高くなっている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行う」は理想が現実より 48.7 ポイント高くなっている。一方、現実には男性は「主に配偶者・パートナーが行う」が 38.6 ポイント、女性は「主に自分が行う」が 47.8 ポイント、理想より高くなっている。

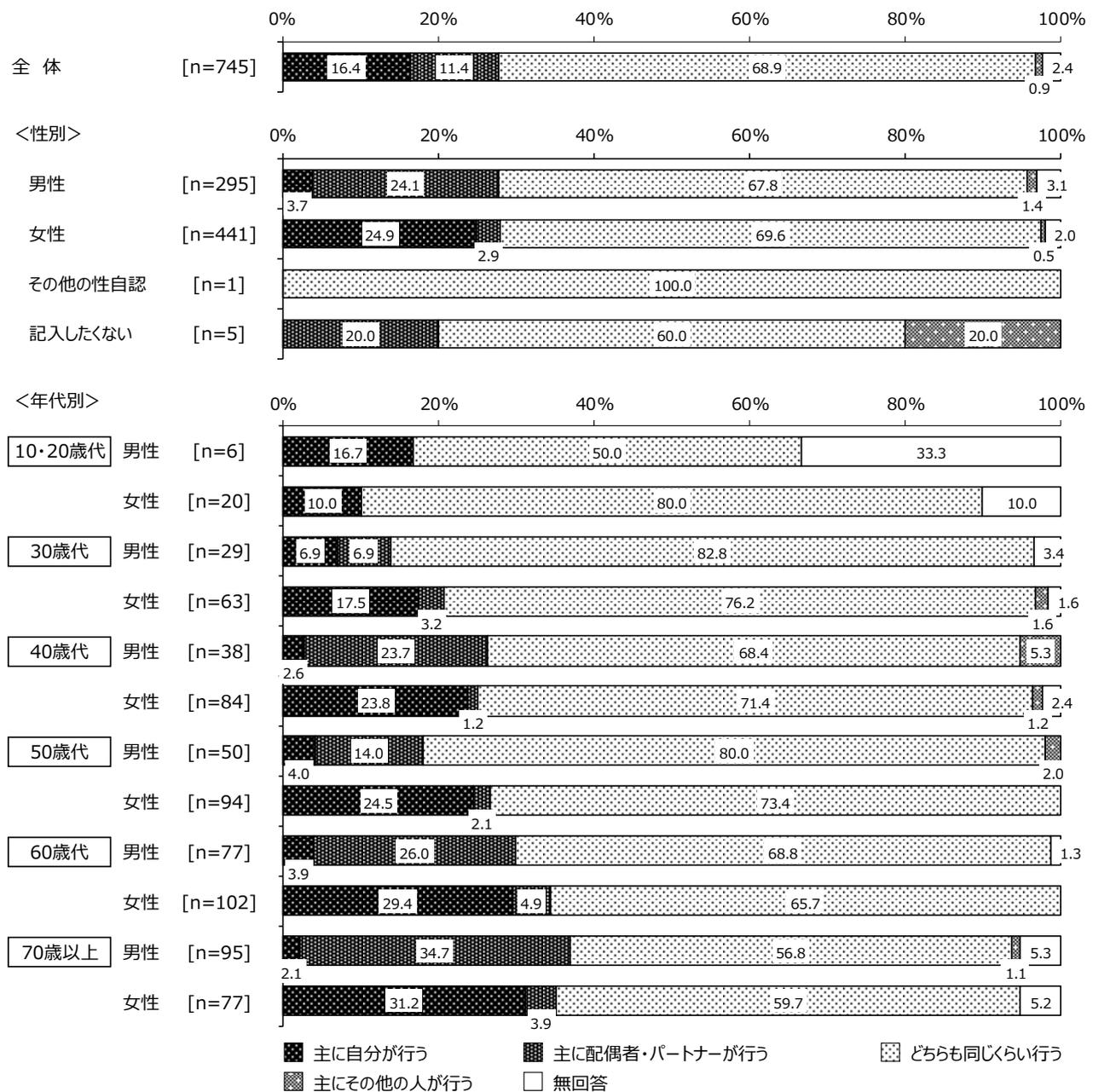


問 15 ② 掃除・洗濯

全体では、「どちらも同じくらい行う」が 68.9%で最も高く、次いで「主に自分が行う」が 16.4%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 11.4%、「主にその他の人が行う」が 0.9%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらも同じくらい行う」が 5 割以上となっている。また、男性は「主に配偶者・パートナーが行う」、女性は「主に自分が行う」が 2 割台となっており、前者は男性 70 歳以上、後者は女性 70 歳以上で 3 割台と、他の年代に比べ高くなっている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行う」は理想が現実より 47.3 ポイント高くなっている。一方、現実には男性は「主に配偶者・パートナーが行う」が 39.3 ポイント、女性は「主に自分が行う」が 47.7 ポイント、理想より高くなっている。

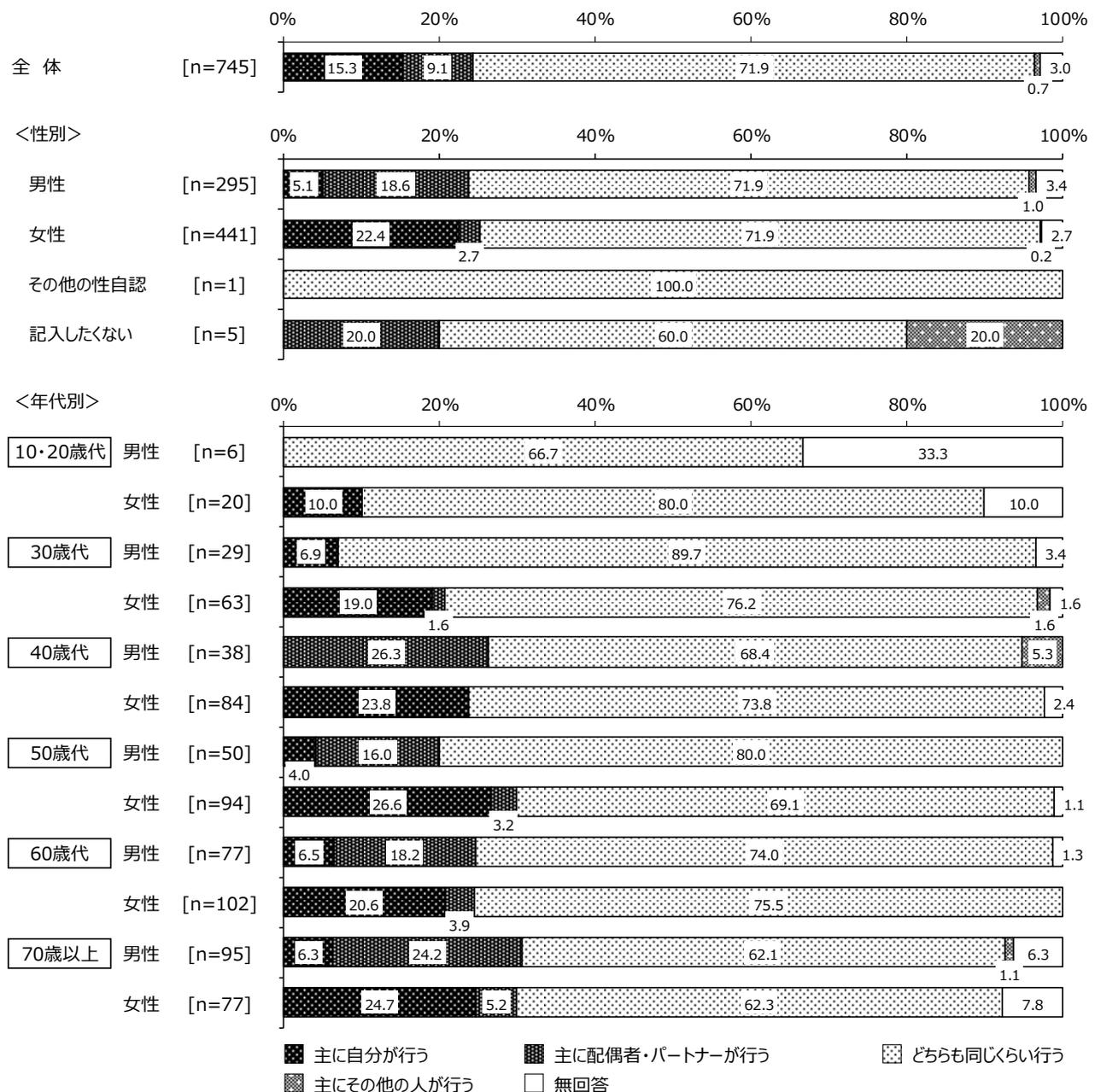


問 15 ③ 食料品・日用品等の買物

全体では、「どちらも同じくらい行く」が 71.9%で最も高く、次いで「主に自分が行く」が 15.3%、「主に配偶者・パートナーが行く」が 9.1%、「主にその他の人が行く」が 0.7%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらも同じくらい行く」が 6 割以上となっている。また、男性は「主に配偶者・パートナーが行く」、女性は「主に自分が行く」が 2 割前後となっており、前者は男性 40 歳代、70 歳以上、後者は女性 50 歳代で全体を 1 割以上上回っている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行く」は理想が現実より 38.9 ポイント高くなっている。一方、現実には男性は「主に配偶者・パートナーが行く」が 28.5 ポイント、女性は「主に自分が行く」が 37.9 ポイント、理想より高くなっている。

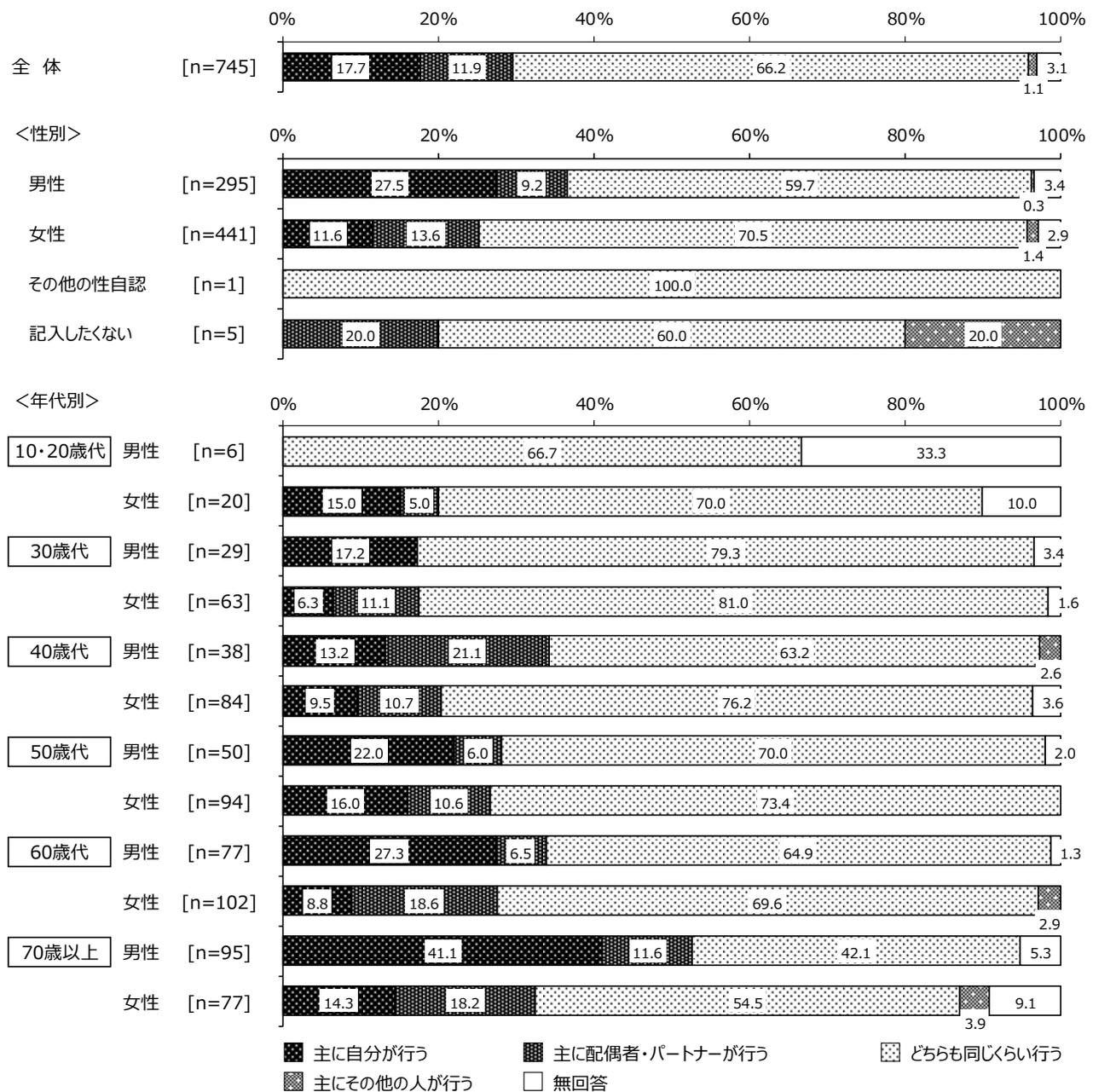


問 15 ④ 役所等への用事・書類の作成

全体では、「どちらも同じくらい行う」が 66.2%で最も高く、次いで「主に自分が行う」が 17.7%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 11.9%、「主にその他の人が行う」が 1.1%となっている。

性別・年代別にみると、男性 70 歳以上を除き「どちらも同じくらい行う」が 5 割以上となっている。「主に自分が行う」は男性（27.5%）が女性（11.6%）より 15.9ポイント高く、男性 70 歳以上は「どちらも同じくらい行う」（42.1%）と「主に自分が行う」（41.1%）が同程度となっている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行う」は理想が現実より 36.8ポイント高く、女性（46.2ポイント）は男性（22.8ポイント）より差が大きくなっている。一方、現実には男性は「主に自分が行う」と「主に配偶者・パートナーが行う」が各 1割以上、女性は「主に自分が行う」が 39.6ポイント、理想より高くなっている。

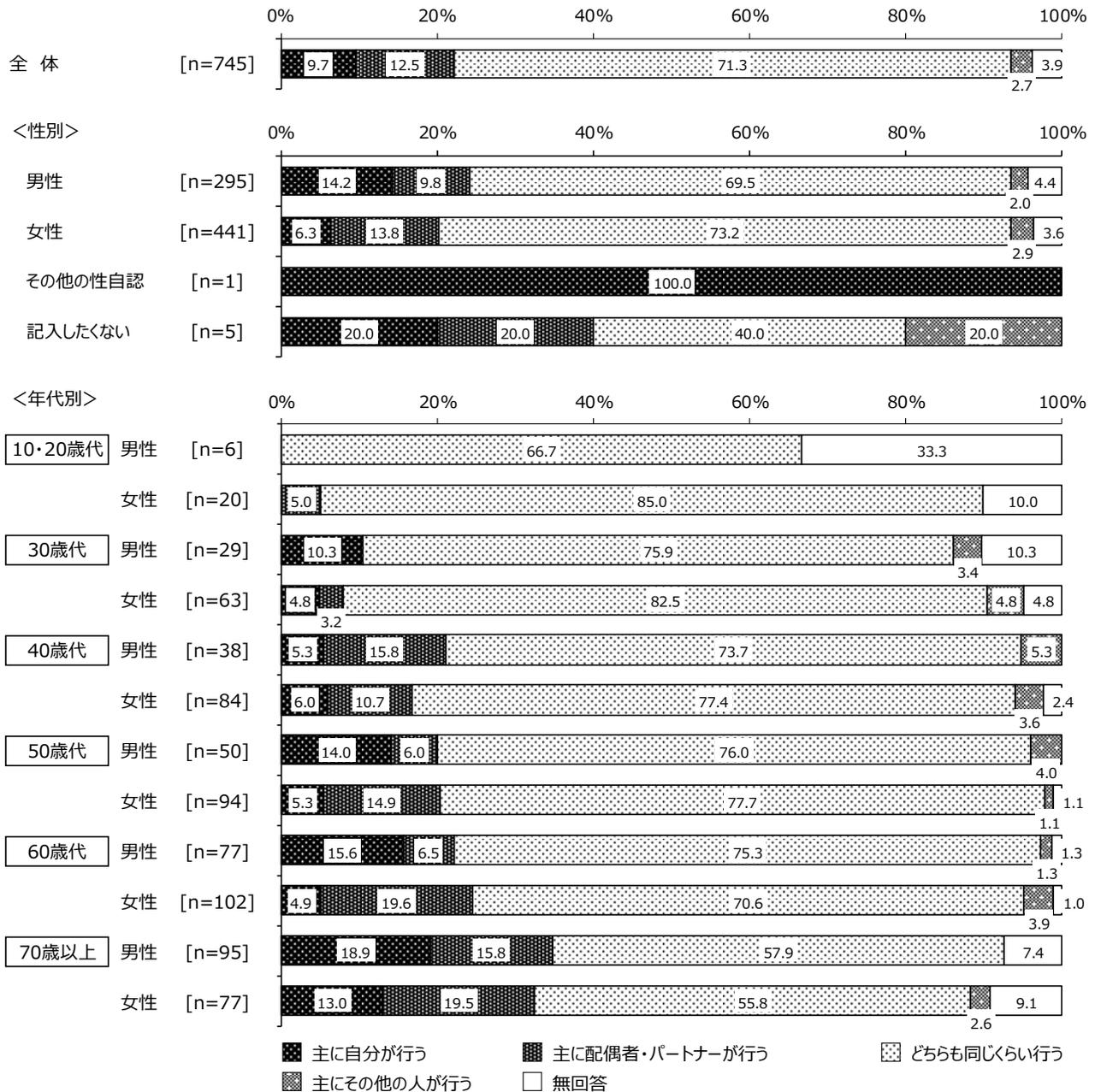


問 15 ⑤ 町内会などの地域活動

全体では、「どちらも同じくらい行く」が 71.3%で最も高く、次いで「主に配偶者・パートナーが行く」が 12.5%、「主に自分が行く」が 9.7%、「主にその他の人が行く」が 2.7%となっている。

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「どちらも同じくらい行く」が 5 割以上となっている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行く」は理想が現実より 45.1 ポイント高く、女性（52.1 ポイント）は男性（35.3 ポイント）より差が大きくなっている。一方、現実には男性は「主に自分が行く」と「主に配偶者・パートナーが行く」が各 1 割以上、女性は「主に自分が行く」が 41.3 ポイント、理想より高くなっている。

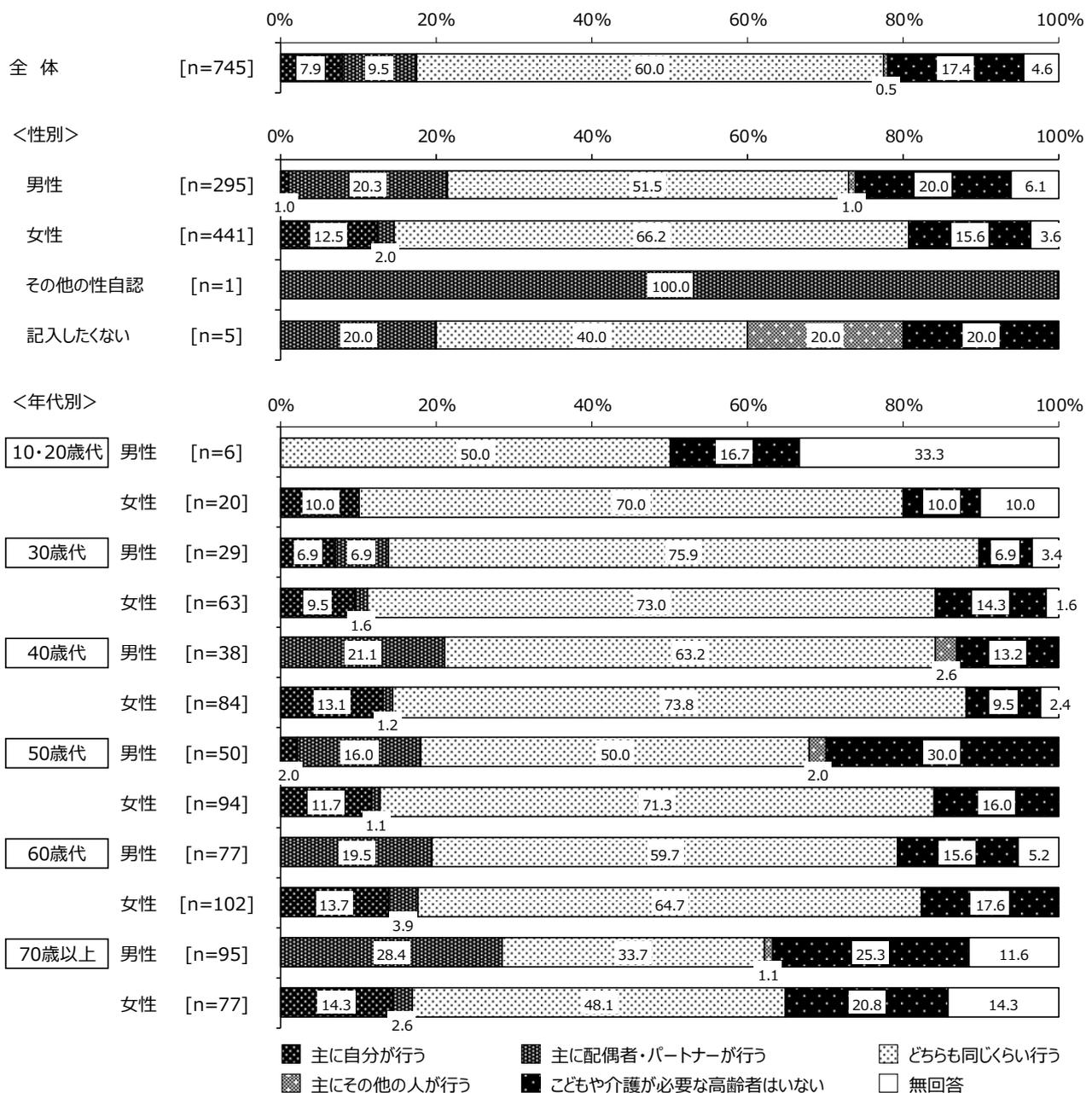


問 15 ⑥ 乳児・幼児の世話

全体では、「どちらも同じくらい行う」が 60.0%で最も高く、次いで「こどもや介護が必要な高齢者はいない」が 17.4%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 9.5%、「主に自分が行う」が 7.9%、「主にその他の人が行う」が 0.5%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも 70 歳以上を除き「どちらも同じくらい行う」が 5 割以上となっている。「主に配偶者・パートナーが行う」は男性（20.3%）が女性（2.0%）より 18.3 ポイント高く、男性 40 歳代、70 歳以上は 2 割台となっている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行う」は理想が現実より 46.2 ポイント高く、女性（55.3 ポイント）は男性（33.2 ポイント）より差が大きくなっている。一方、現実には男性は「主に配偶者・パートナーが行う」が 32.6 ポイント、女性は「主に自分が行う」が 57.3 ポイント、理想より高くなっている。

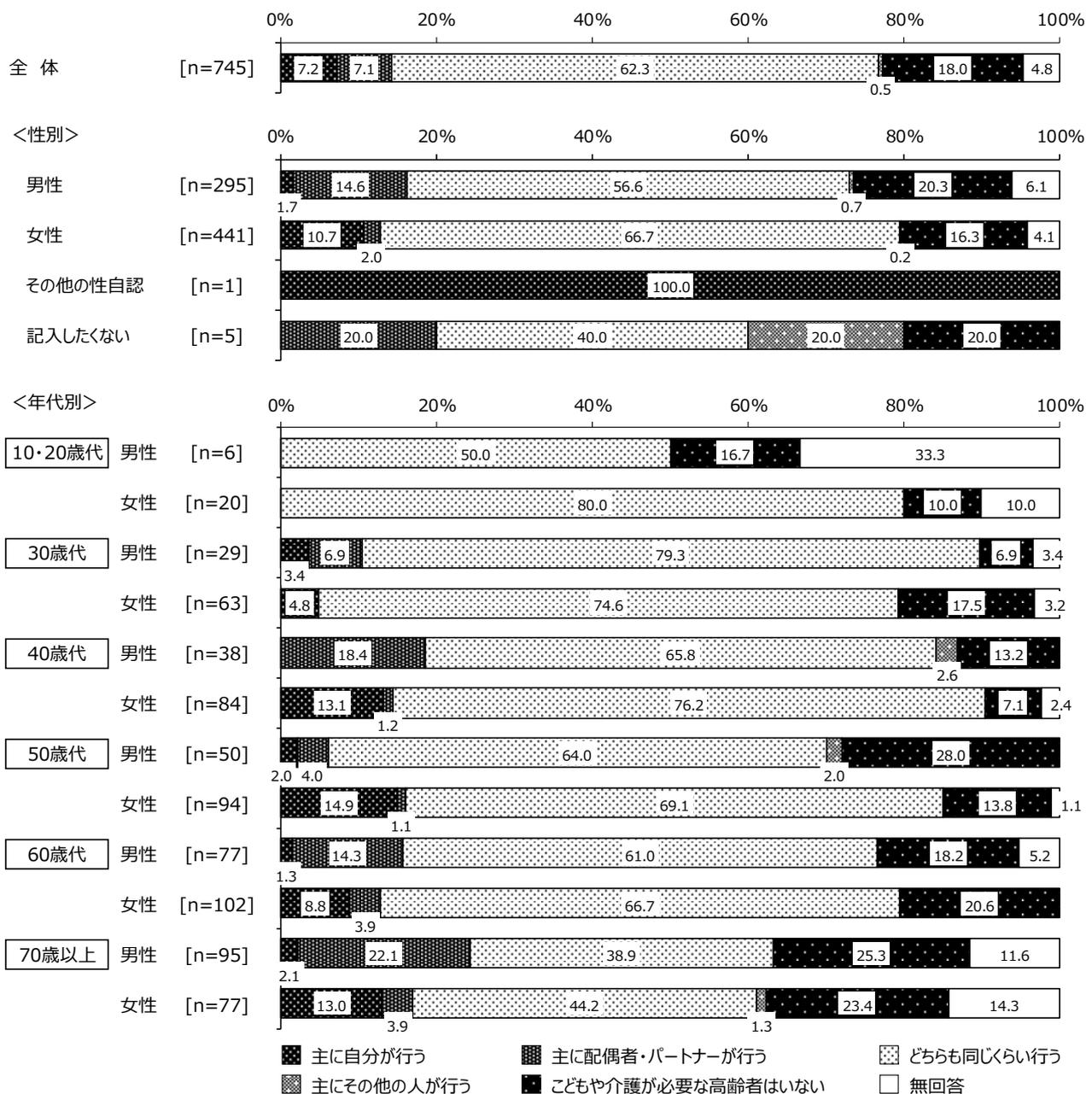


問 15 ⑦ こどもの学校行事等への参加

全体では、「どちらも同じくらい行く」が 62.3%で最も高く、次いで「子どもや介護が必要な高齢者はいない」が 18.0%、「主に自分が行く」が 7.2%、「主に配偶者・パートナーが行く」が 7.1%、「主にその他の人が行く」が 0.5%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも 70 歳以上を除き「どちらも同じくらい行く」が 5 割以上となっている。また、「主に配偶者・パートナーが行く」は男性（14.6%）が女性（2.0%）より 12.6 ポイント高く、男性 70 歳以上は 22.1%となっている。

現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行く」は理想が現実より 44.0 ポイント高く、女性（54.0 ポイント）は男性（30.2 ポイント）より差が大きくなっている。一方、現実には男性は「主に配偶者・パートナーが行く」が 27.8 ポイント、女性は「主に自分が行く」が 56.0 ポイント、理想より高くなっている。

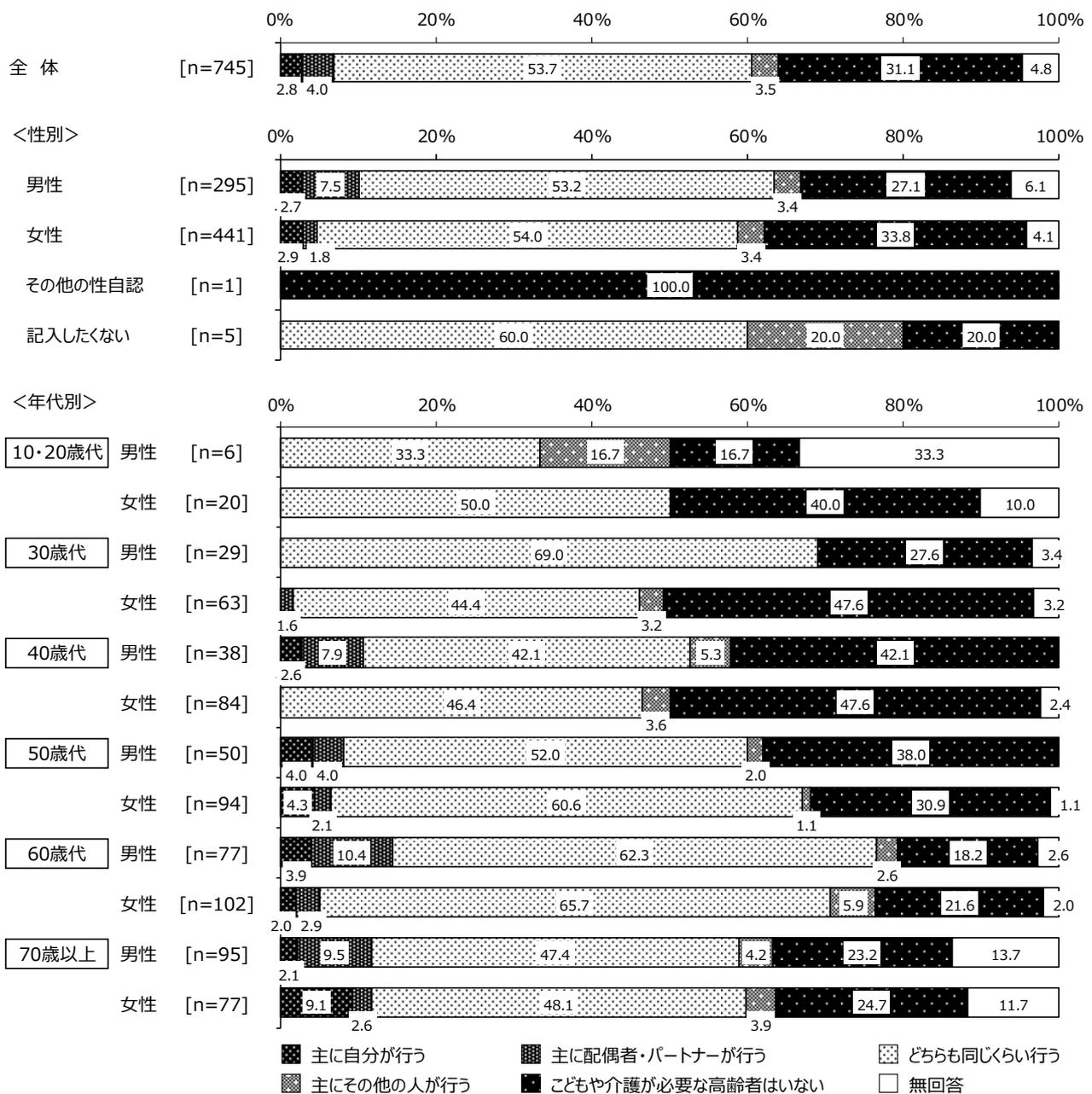


問 15 ⑧ 高齢者の世話（介護）

全体では、「どちらも同じくらい行う」が 53.7%で最も高く、次いで「子どもや介護が必要な高齢者はいない」が 31.1%、「主に配偶者・パートナーが行う」が 4.0%、「主にその他の人が行う」が 3.5%、「主に自分が行う」が 2.8%となっている。

性別・年代別にみると、「どちらも同じくらい行う」は男女とも 50～60 歳代で 5 割以上となっている。また、「子どもや介護が必要な高齢者はいない」を除くと、回答者数の少ない男性 10・20 歳代を除き、「どちらも同じくらい行う」が過半数を占めている。

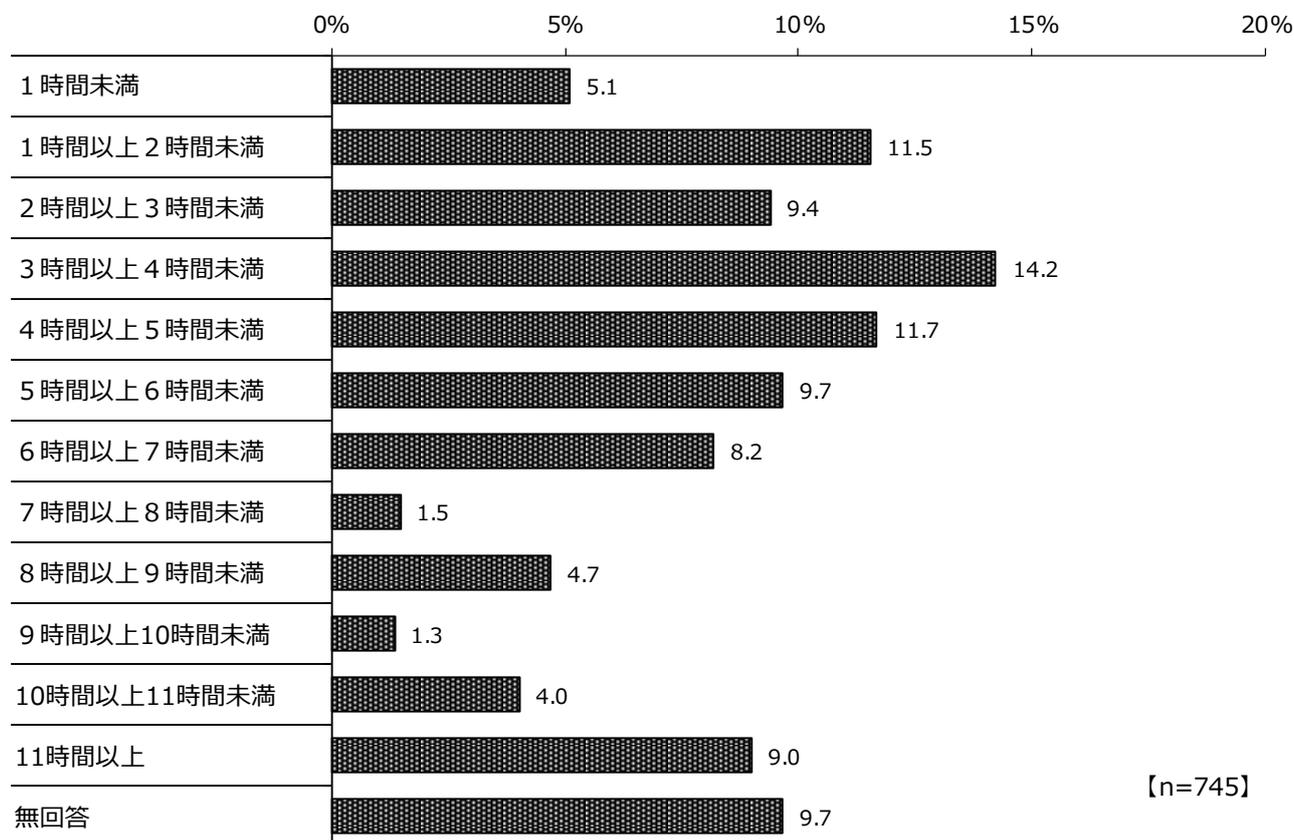
現実と理想の差については、「どちらも同じくらい行う」は理想が現実より 37.5 ポイント高くなっている。一方、現実には男性は「主に配偶者・パートナーが行う」が 15.2 ポイント、女性は「主に自分が行う」が 28.2 ポイント、理想より高くなっている。



問 16 引き続き、現在結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。

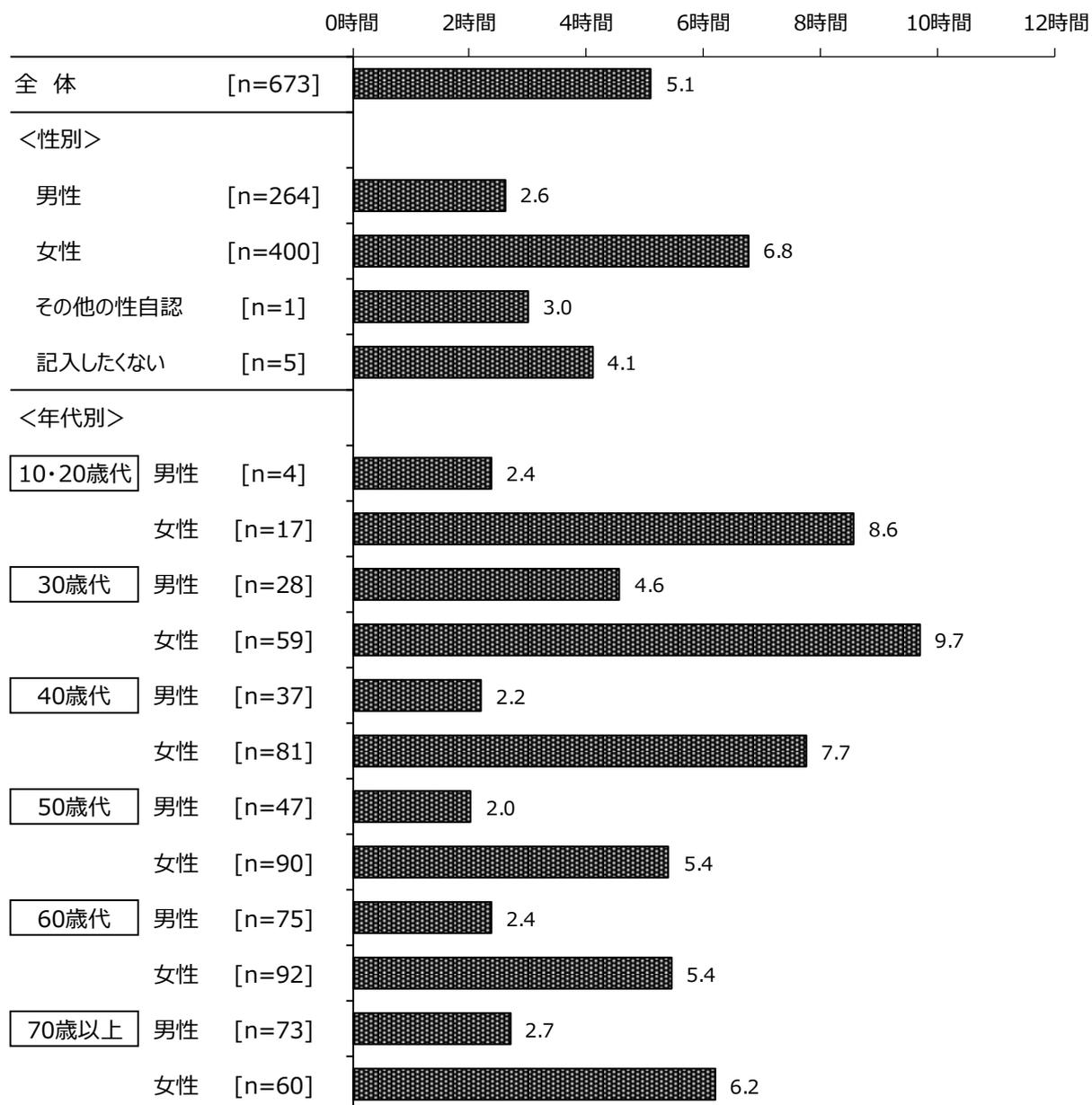
1日24時間のうち、家事や育児や介護などに携わっている時間は、平均して何時間くらいですか。
日曜日・祝日なども含めて、およその1日あたりの平均時間をご記入ください。

全体では、「3時間以上4時間未満」が14.2%で最も高く、次いで「4時間以上5時間未満」が11.7%、「1時間以上2時間未満」が11.5%、「5時間以上6時間未満」が9.7%となっている。



問 16 平均時間 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、平均時間は男性 2.6 時間、女性 6.8 時間となっており、女性の方が 4 時間以上長くなっている。特に女性 30 歳代は 9.7 時間で最も長く、女性 40 歳代以下は 7 時間以上となっている。一方、男性は 30 歳代を除き 3 時間未満となっており、すべての年代で女性より 3 時間以上短くなっている。



Ⅲ 教育について

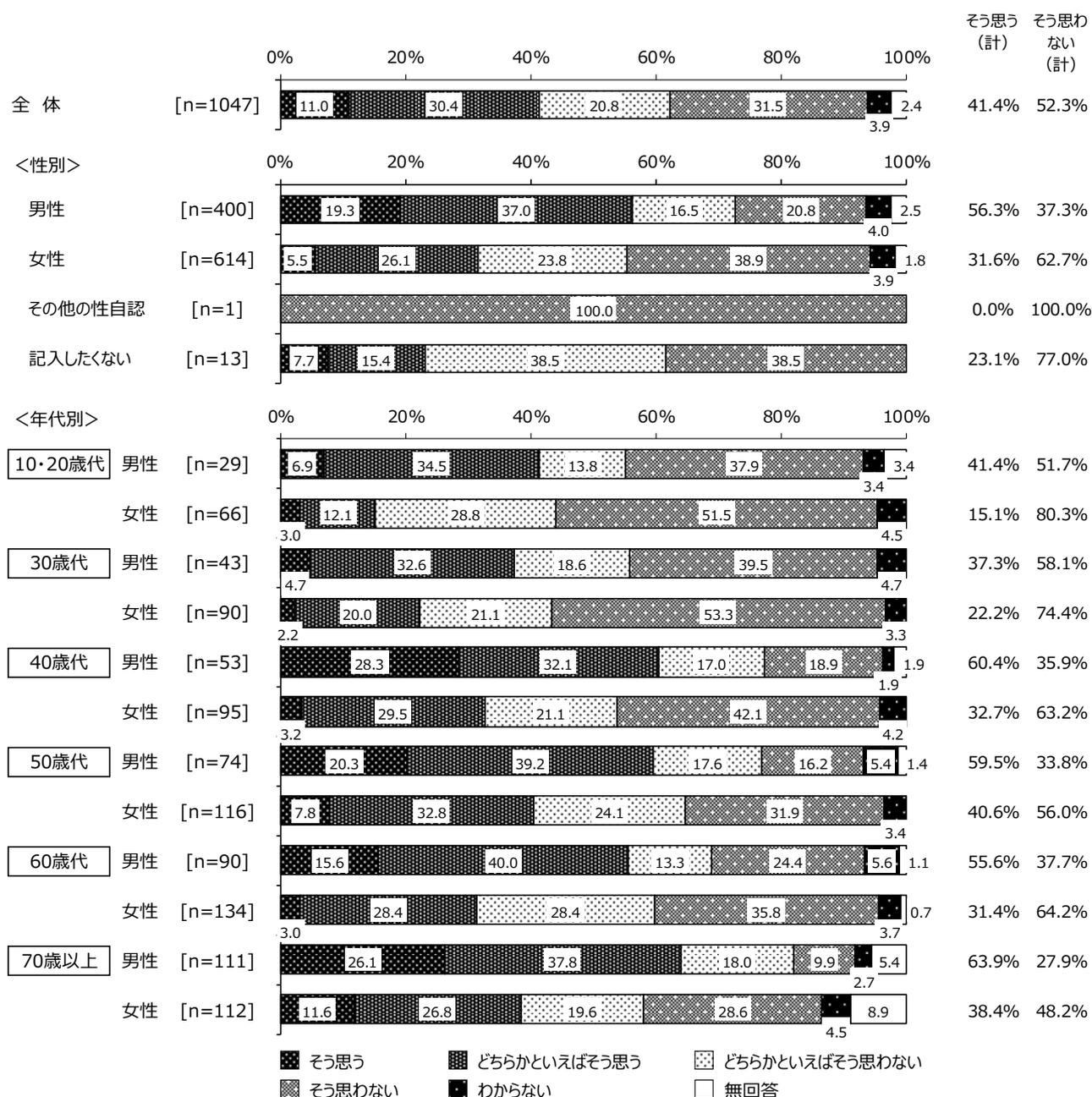
問 17 あなたは、こどもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。

①～④それぞれについて、一番近い考え方の番号ひとつに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

問 17 ① 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい

全体では、「そう思わない」が 31.5%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 30.4%、「どちらかといえばそう思わない」が 20.8%、「そう思う」が 11.0%、「わからない」が 3.9%となっている。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う(計)」は 41.4%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」とを合わせた「そう思わない(計)」は 52.3%となっている。

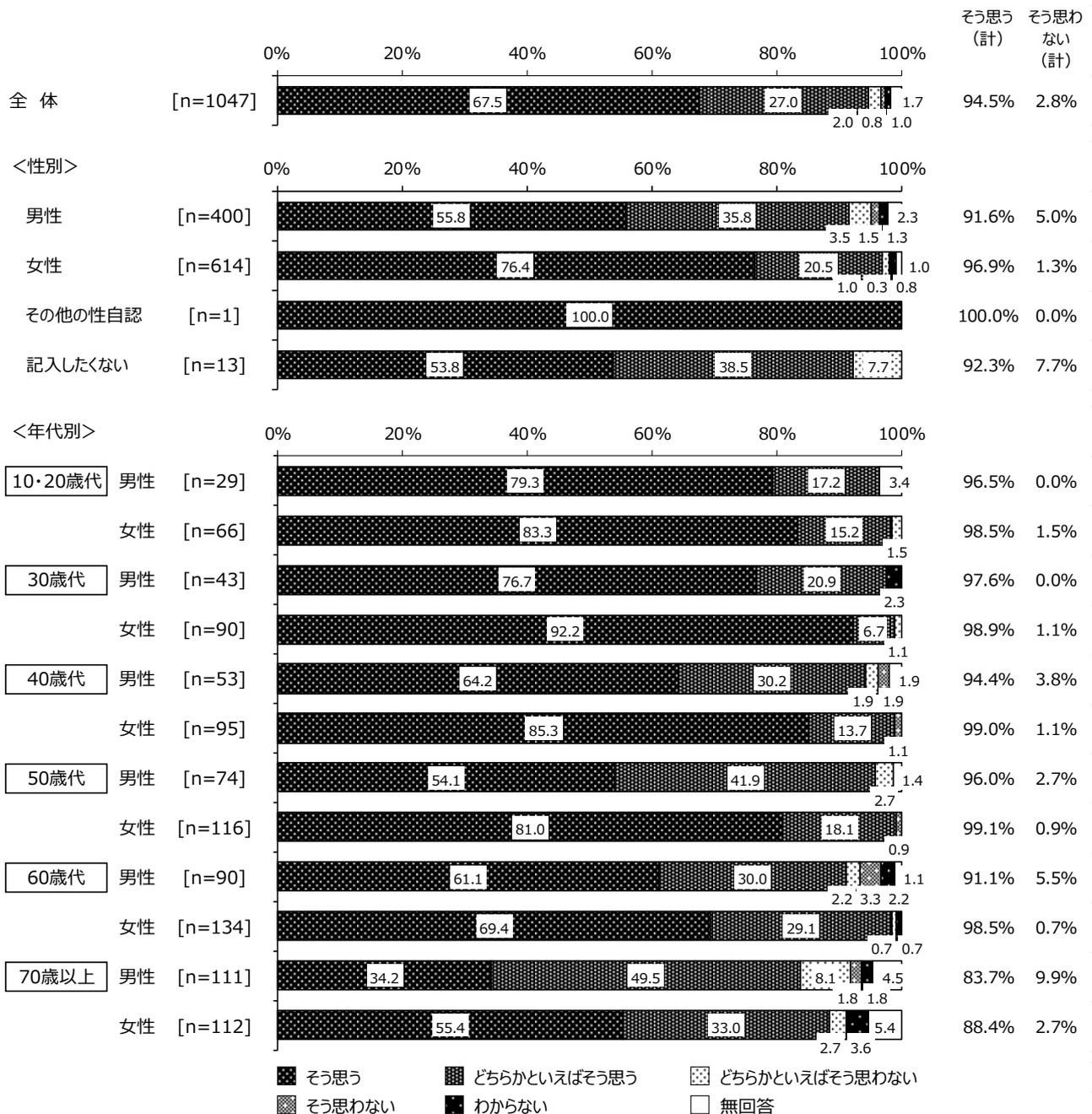
性別・年代別にみると、男性は「そう思う(計)」が 56.3%、女性は「そう思わない(計)」が 62.7%となっている。男性 40 歳代以上は「そう思う(計)」が 5 割以上となる一方、30 歳代以下は男女とも「そう思わない(計)」が 5 割以上となっており、女性はすべての年代で「そう思わない(計)」が「そう思う(計)」より高くなっている。



問 17 ② 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である

全体では、「そう思う」が 67.5%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 27.0%、「どちらかといえばそう思わない」が 2.0%、「わからない」が 1.0%、「そう思わない」が 0.8%となっている。「そう思う（計）」は 94.5%、「そう思わない（計）」は 2.8%となっている。

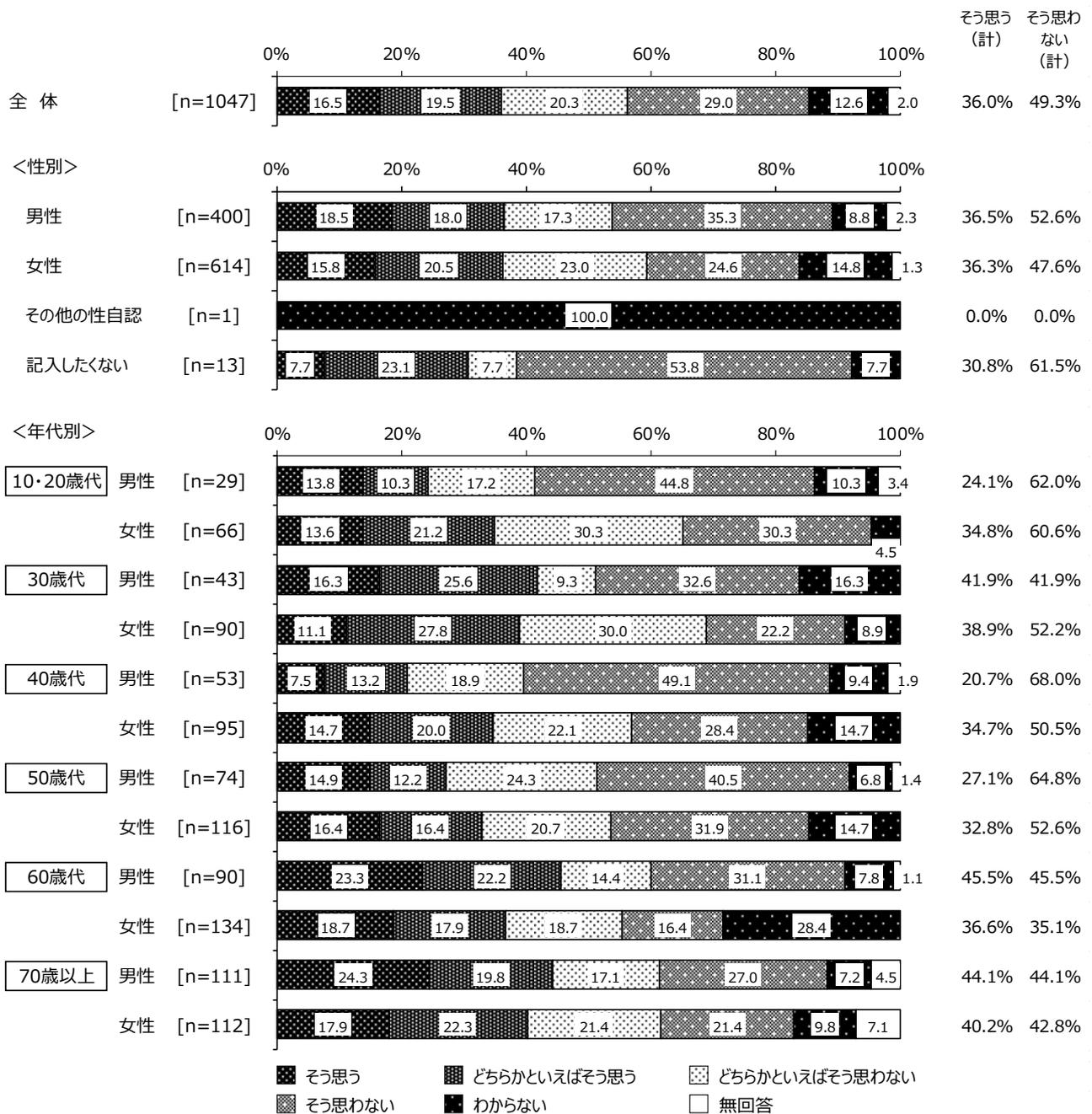
性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「そう思う（計）」が 8 割以上となっており、女性 30 歳代は「そう思う」が 92.2%となっている。一方、「そう思わない（計）」は男性 70 歳以上が 9.9%で最も高く、男女ともすべての年代で 1 割未満となっている。



問 17 ③ 小学校や中学校で、教師が児童・生徒の名前を呼ぶときは、性別で「くん」「さん」を使い分け
方がよい

全体では、「そう思わない」が 29.0%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 20.3%、「どちらかといえ
ばそう思う」が 19.5%、「そう思う」が 16.5%、「わからない」が 12.6%となっている。「そう思う（計）」は 36.0%、「そ
う思わない（計）」は 49.3%となっている。

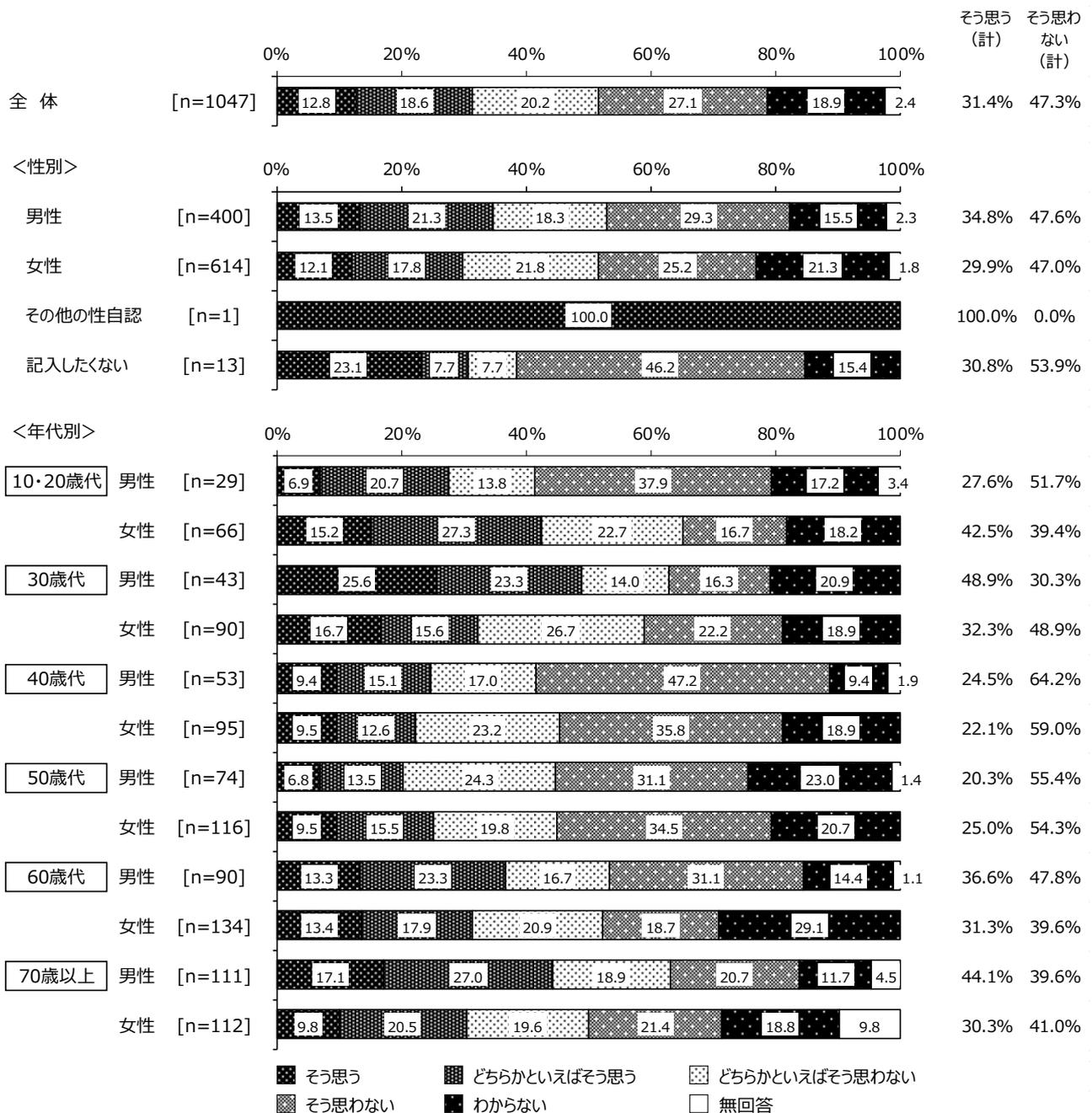
性別・年代別にみると、男女とも「そう思わない（計）」が「そう思う（計）」より 1 割以上高くなっている。男性 30
歳代、60 歳代以上、女性 60 歳代以上は「そう思う（計）」と「そう思わない（計）」が同率、もしくは僅差となってい
る。それ以外の年代は「そう思わない（計）」が 5 割以上となっており、男性 40 歳代は「そう思わない（計）」
(68.0%) が「そう思う（計）」(20.7%) より 47.3 ポイント高くなっている。



問 17 ④ 小学校や中学校で、名簿について男女で分けず、男女混合の名簿を使用する方がよい

全体では、「そう思わない」が 27.1%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思わない」が 20.2%、「わからない」が 18.9%、「どちらかといえばそう思う」が 18.6%、「そう思う」が 12.8%となっている。「そう思う（計）」は 31.4%、「そう思わない（計）」は 47.3%となっている。

性別・年代別にみると、男女とも「そう思わない（計）」が「そう思う（計）」より 1 割以上高くなっている。男性 30 歳代は「そう思う（計）」（48.9%）が「そう思わない（計）」（30.3%）より 18.6 ポイント高く、男性 70 歳以上、女性 10・20 歳代も「そう思う（計）」がやや上回っている。一方、それ以外の年代は「そう思わない（計）」が「そう思う（計）」より高く、男性 40～50 歳代、女性 40 歳代は 3 割以上上回っている。

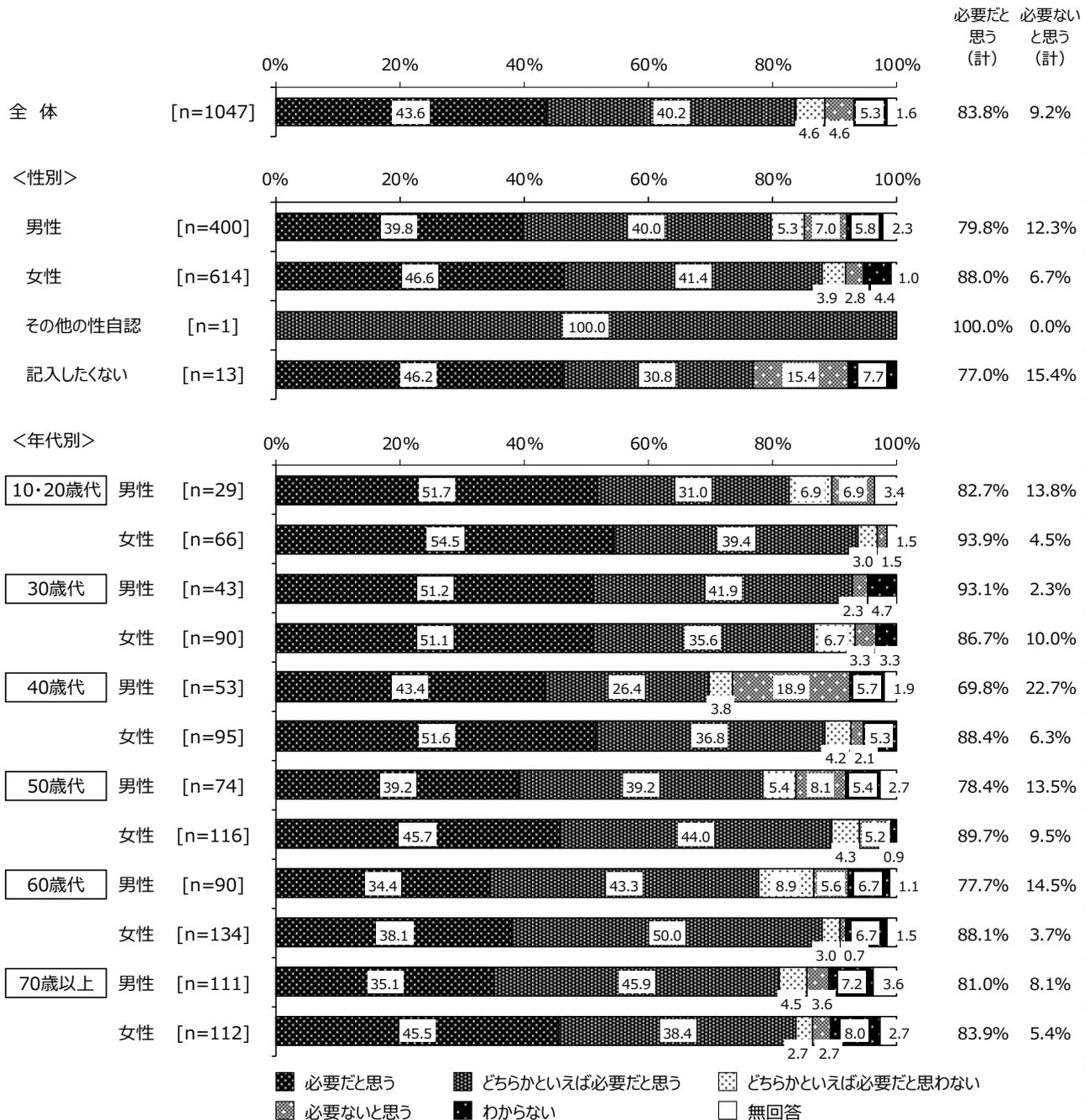


問 18 こどもへの性の多様性に関する教育の必要性について、どの程度必要だと思いますか。

一番近い考え方の番号に○をつけてください。 (○は1つ)

全体では、「必要だと思う」が43.6%で最も高く、次いで「どちらかと言えば必要だと思う」が40.2%、「わからない」が5.3%、「どちらかと言えば必要だと思わない」と「必要ないと思う」が各 4.6%となっている。「必要だと思う」と「どちらかと言えば必要だと思う」を合わせた「必要だと思う(計)」は 83.8%、「必要ないと思う」と「どちらかと言えば必要だと思わない」を合わせた「必要ないと思う(計)」は 9.2%となっている。

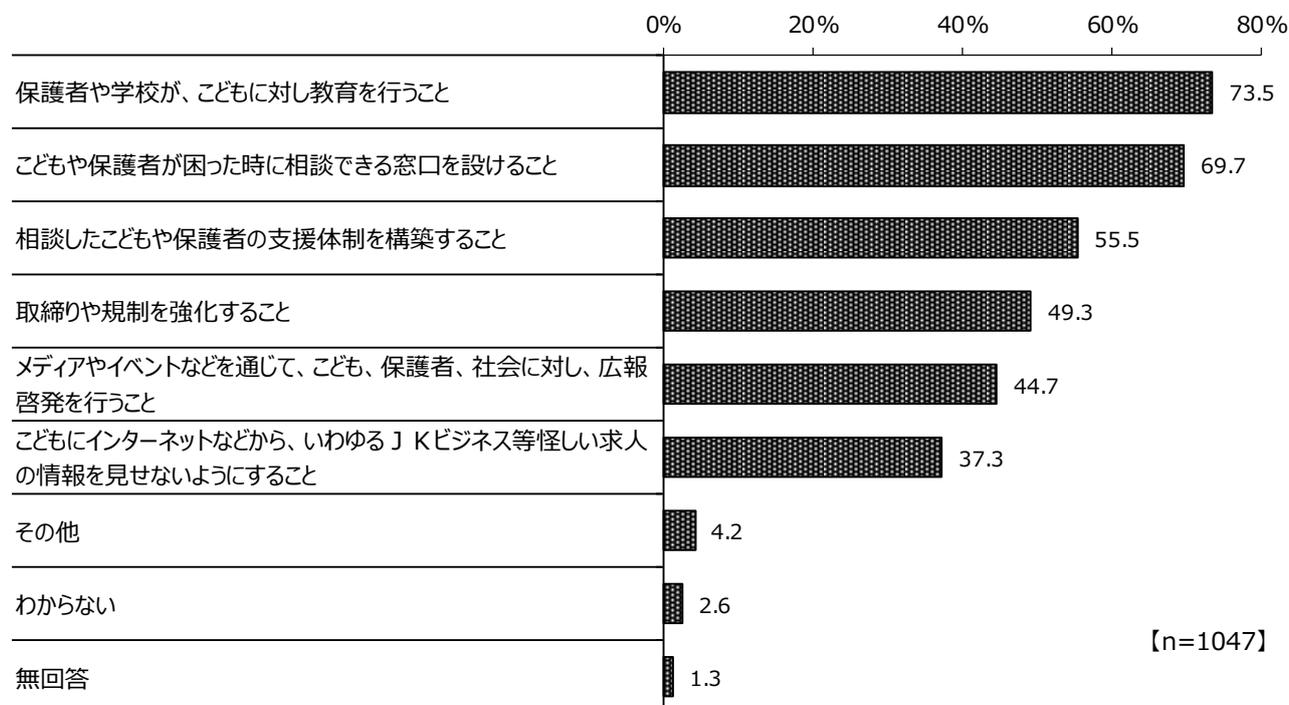
性別・年代別にみると、「必要だと思う(計)」は女性(88.0%)が男性(79.8%)より8.2ポイント高く、男女ともすべての年代で6割以上、男性30歳代、女性10・20歳代は9割台となっている。一方、「必要ないと思う(計)」は男性40歳代が22.7%で最も高くなっている。



問 19 あなたは、子どもを性被害から守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。

この中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも可)

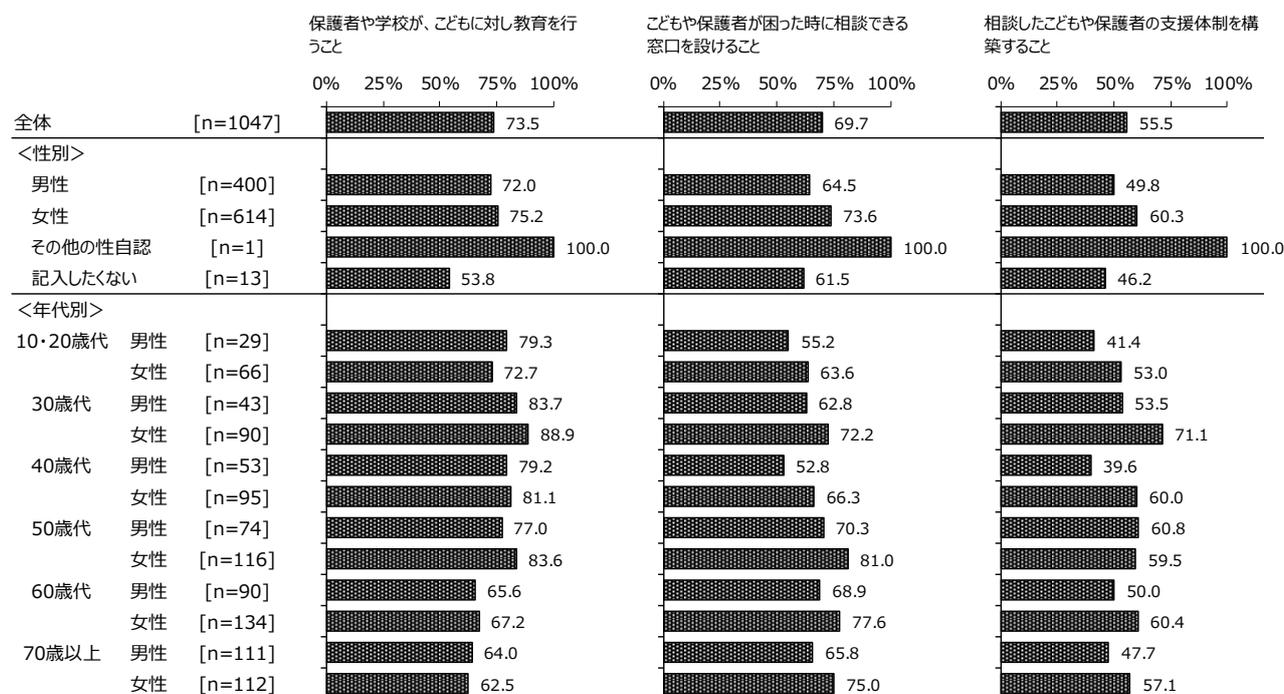
「保護者や学校が、子どもに対し教育を行うこと」が 73.5%で最も高く、次いで「子どもや保護者が困った時に相談できる窓口を設けること」が 69.7%、「相談した子どもや保護者の支援体制を構築すること」が 55.5%、「取締りや規制を強化すること」が 49.3%となっている。



問 19 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、男女とも順位は全体と同一となっているが、すべての項目で女性が男性より高く、「相談した子どもや保護者の支援体制を構築すること」は 10.5 ポイント、「子どもや保護者が困った時に相談できる窓口を設けること」は 9.1 ポイント、「子どもにインターネットなどから、いわゆる J K ビジネス等怪しい求人の情報を見せないようにすること」は 6.6 ポイント、「メディアやイベントなどを通じて、子ども、保護者、社会に対し、広報啓発を行うこと」は 5.3 ポイント上回っている。

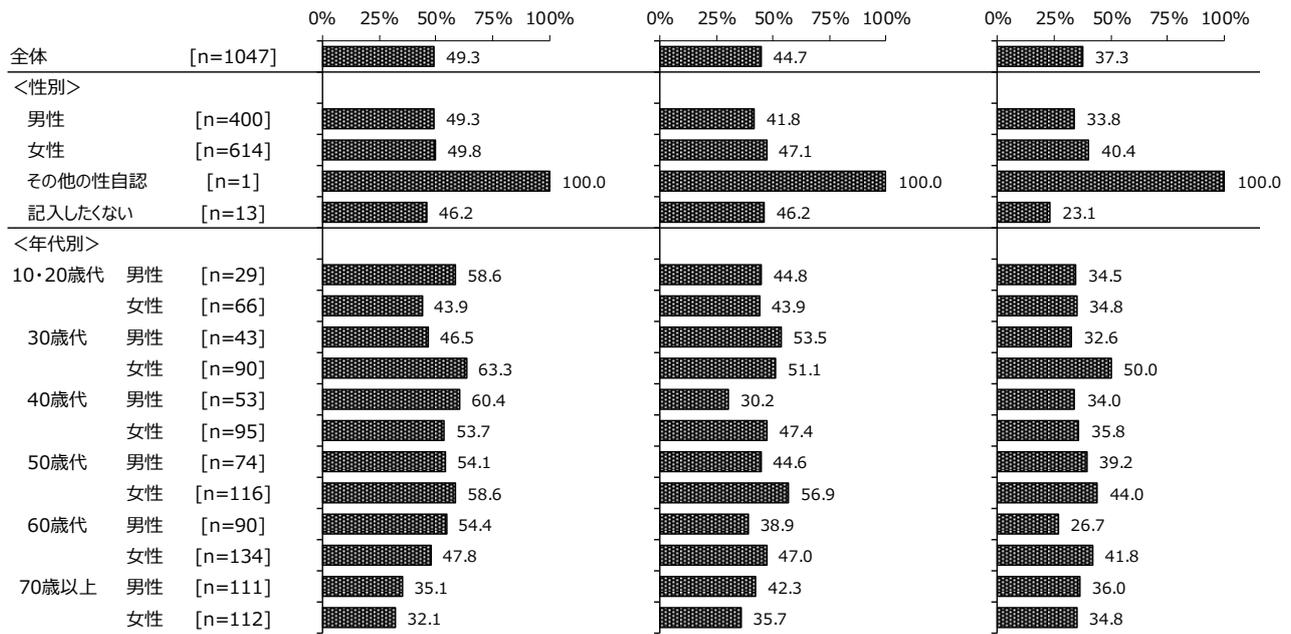
上位 2 項目は男女ともすべての年代で 5 割以上となっているが、50 歳代以下は「保護者や学校が、子どもに対し教育を行うこと」が最も高く、男性 30 歳代、女性 30～50 歳代は 8 割台となっている。一方、60 歳代以上は「子どもや保護者が困った時に相談できる窓口を設けること」が最も高く、女性 50 歳代は 81.0%、女性 30 歳代、60 歳代以上も 7 割台となっている。また、女性 30 歳代、50 歳代は 6 項目すべてが全体より高く、前者は「相談した子どもや保護者の支援体制を構築すること」、「取締りや規制を強化すること」、「子どもにインターネットなどから、いわゆる J K ビジネス等怪しい求人の情報を見せないようにすること」など 4 項目、後者は「メディアやイベントなどを通じて、子ども、保護者、社会に対し、広報啓発を行うこと」など 3 項目で、全体を 1 割以上上回っている。



取締りや規制を強化すること

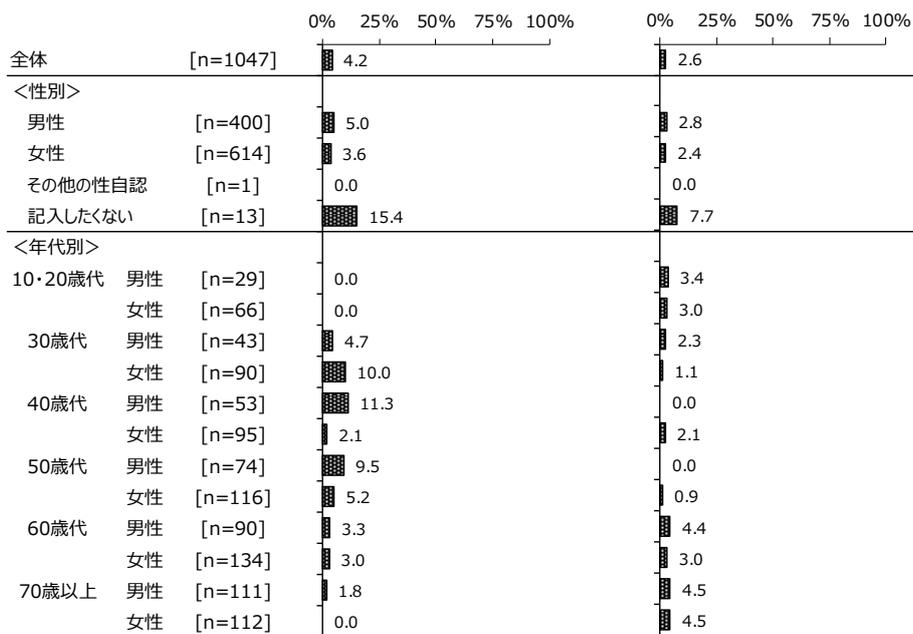
メディアやイベントなどを通じて、子ども、保護者、社会に対し、広報啓発を行うこと

子どもにインターネットなどから、いわゆるJKビジネス等怪しい求人の情報を見せないようにすること



その他

わからない

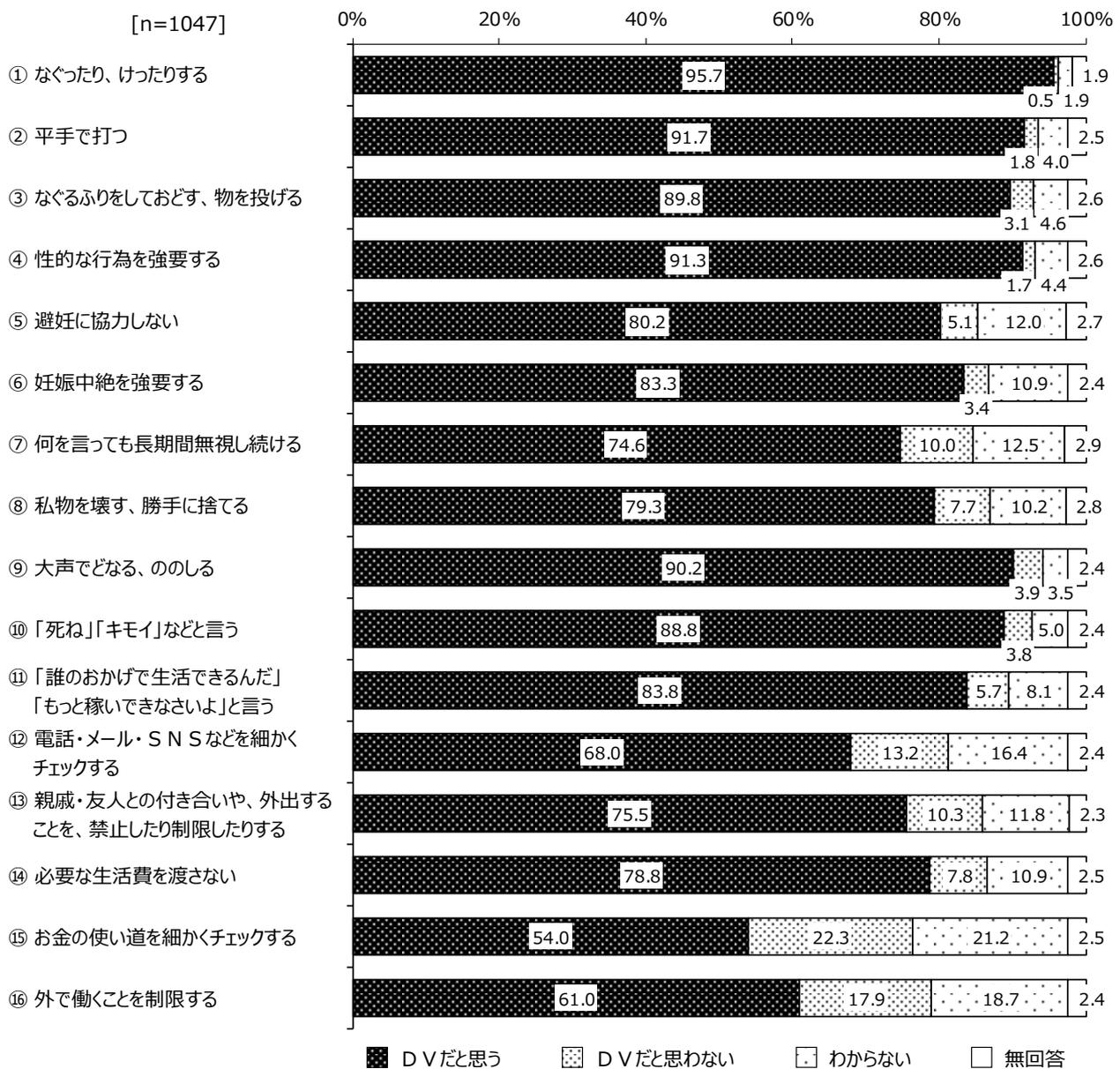


IV 配偶者や恋人からの暴力などについて

問 20 配偶者や恋人からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）と言いますが、あなたは次のような行為をDVだと思いますか。

①～⑯の項目ごとにあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

「DVだと思う」は『なぐったり、けったりする』が95.7%で最も高く、次いで『平手で打つ』が91.7%、『性的な行為を強要する』が91.3%、『大声でどなる、ののしる』が90.2%となっており、4項目が9割台となっている。また、『なぐるふりをしておどす、物を投げる』（89.8%）など5項目が8割台、『私物を壊す、勝手に捨てる』（79.3%）など4項目が7割台となっており、16項目すべてが5割以上となっている。一方、「DVだと思わない」は『お金の使い道を細かくチェックする』が22.3%で最も高く、ほか『外で働くことを制限する』（17.9%）など4項目が1割台となっている。



問 21 **配偶者や恋人がいる方（いた方）にお伺いします。** ⇒ **いない方は問 24 にお進みください。**

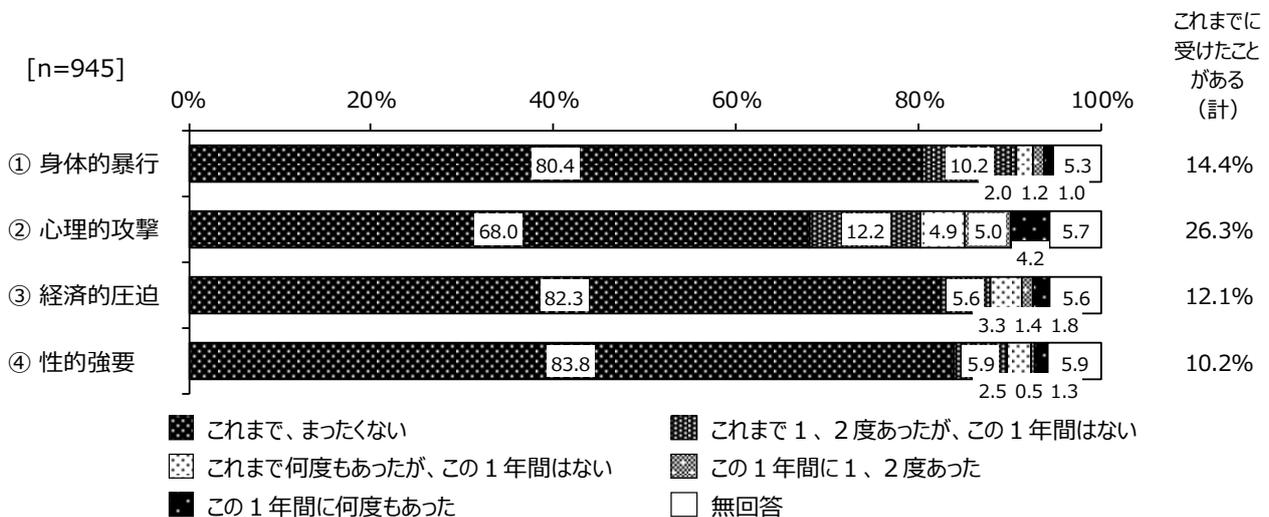
あなたはこれまでに、配偶者や恋人から次の①～④のようなことをされたことがありますか。

①～④のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

※なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

すべての項目で「これまで、まったくない」が6割以上、『心理的攻撃』（68.0%）以外の3項目は8割台となっている。

一方、「これまで1、2度あったが、この1年間はない」、「これまで何度もあったが、この1年間はない」、「この1年間に1、2度あった」、「この1年間に何度もあった」を合わせた「これまでに受けたことがある（計）」は、『心理的攻撃』が26.3%で最も高く、次いで『身体的暴行』が14.4%、『経済的圧迫』が12.1%、『性的強要』が10.2%となっている。



身体的暴行：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行

心理的攻撃：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など

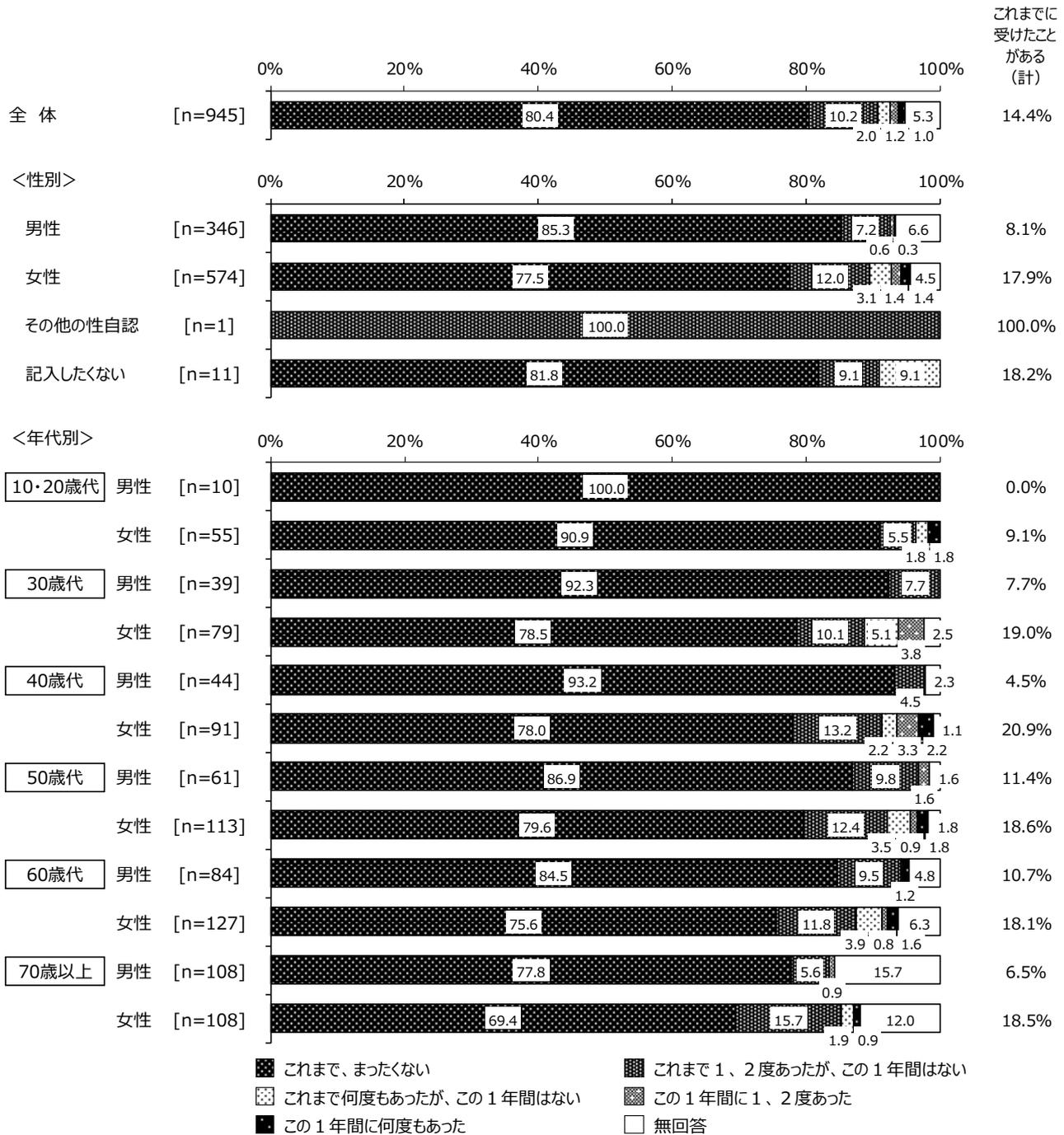
経済的圧迫：生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

性的強要：嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど

問 21 ① 身体的暴行

全体では、「これまでに受けたことがある（計）」が 14.4%、「これまで、まったくない」が 80.4%となっている。

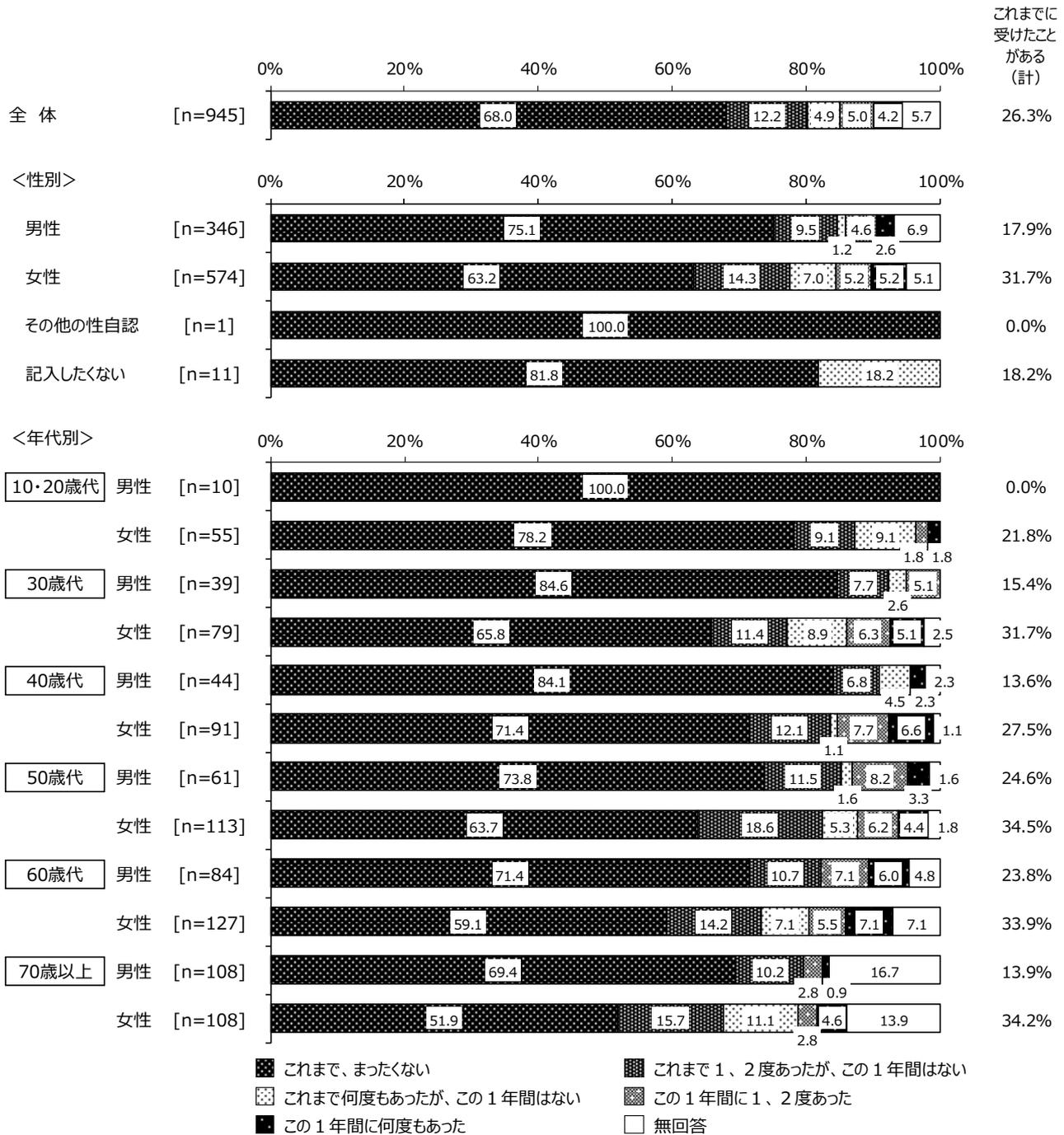
性別・年代別にみると、「これまでに受けたことがある（計）」は女性（17.9%）が男性（8.1%）より 9.8 ポイント高くなっている。「これまでに受けたことがある（計）」は女性 40 歳代が 20.9%で最も高く、男性 50～60 歳代、女性 30 歳代、50 歳代以上で 1 割台となっている。



問 21 ② 心理的攻撃

全体では、「これまでに受けたことがある（計）」が 26.3%、「これまで、まったくない」が 68.0%となっている。

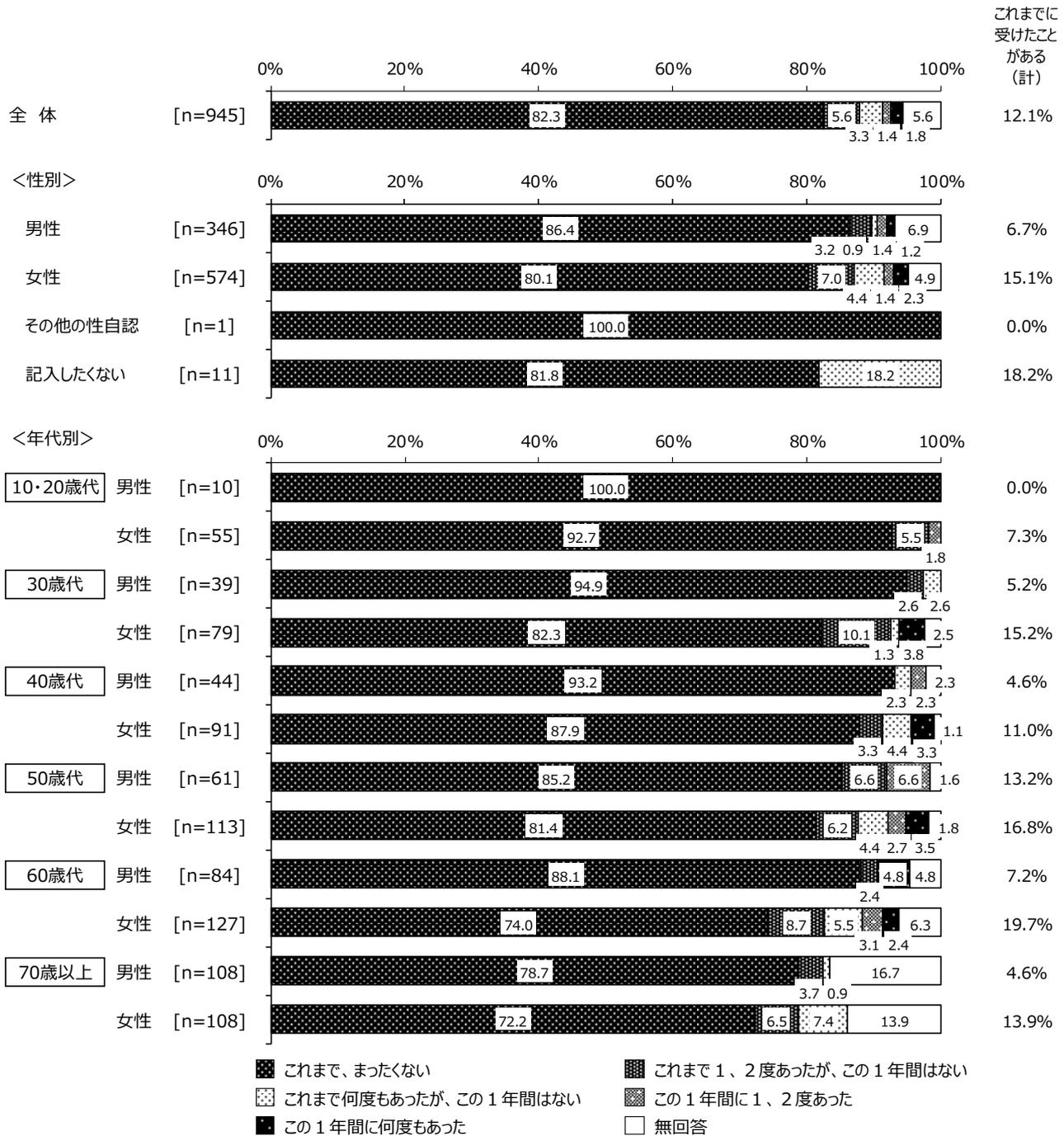
性別・年代別に見ると、「これまでに受けたことがある（計）」は女性（31.7%）が男性（17.9%）より 13.8 ポイント高くなっている。「これまでに受けたことがある（計）」は女性 50 歳代が 34.5%で最も高く、女性 30 歳代、60 歳代以上も 3 割台となっている。



問 21 ③ 経済的圧迫

全体では、「これまでに受けたことがある（計）」が 12.1%、「これまで、まったくない」が 82.3%となっている。

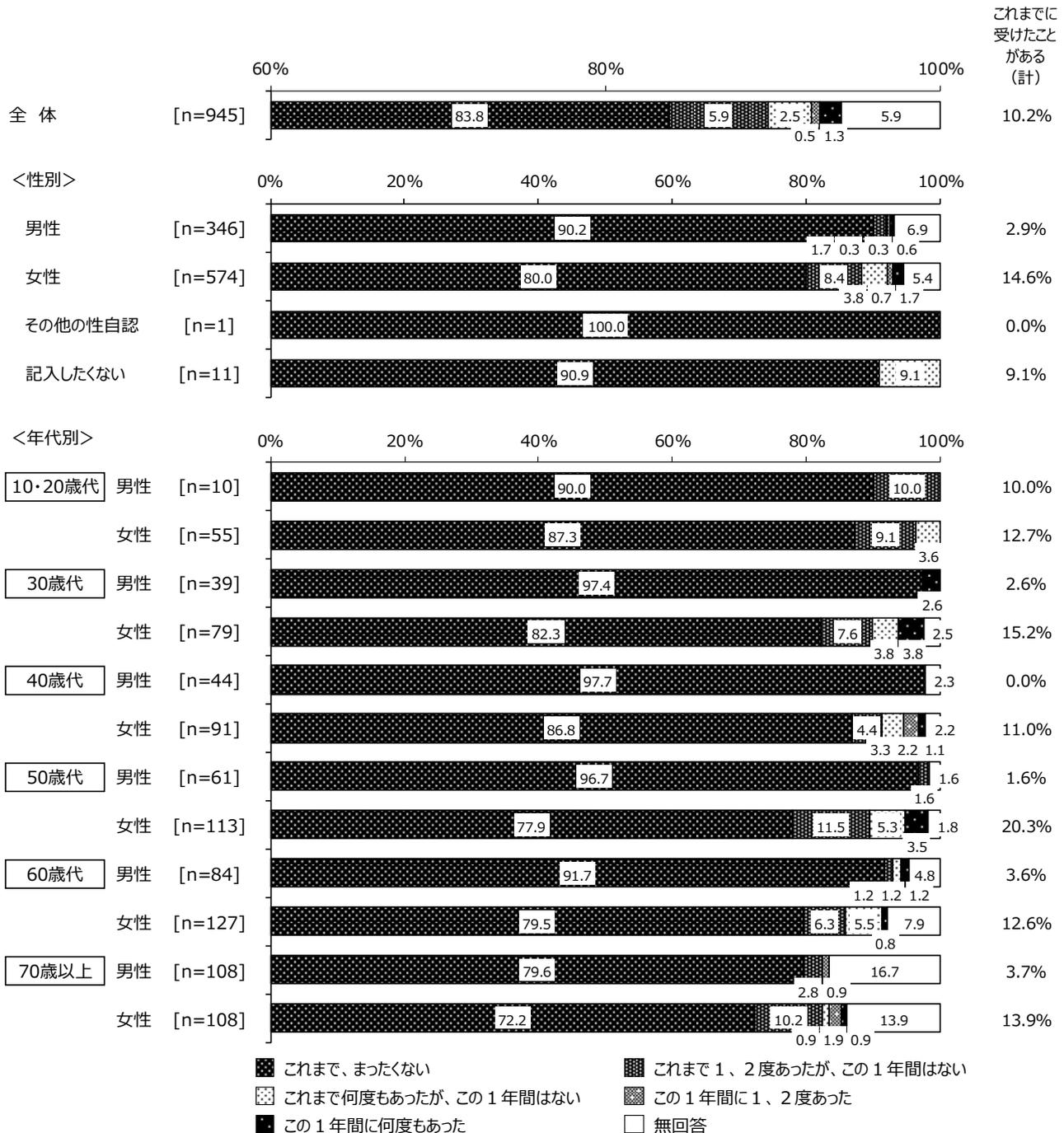
性別・年代別にみると、「これまでに受けたことがある（計）」は女性（15.1%）が男性（6.7%）より 8.4 ポイント高くなっている。「これまでに受けたことがある（計）」は女性 60 歳代が 19.7%で最も高く、男性 50 歳代、女性 30 歳代以上で 1 割台となっている。



問 21 ④ 性的強要

全体では、「これまでに受けたことがある（計）」が 10.2%、「これまで、まったくない」が 83.8%となっている。

性別・年代別にみると、「これまでに受けたことがある（計）」は女性（14.6%）が男性（2.9%）より 11.7 ポイント高くなっている。「これまでに受けたことがある（計）」は女性 50 歳代が 20.3%で最も高く、女性はすべての年代で 1 割以上となっている。



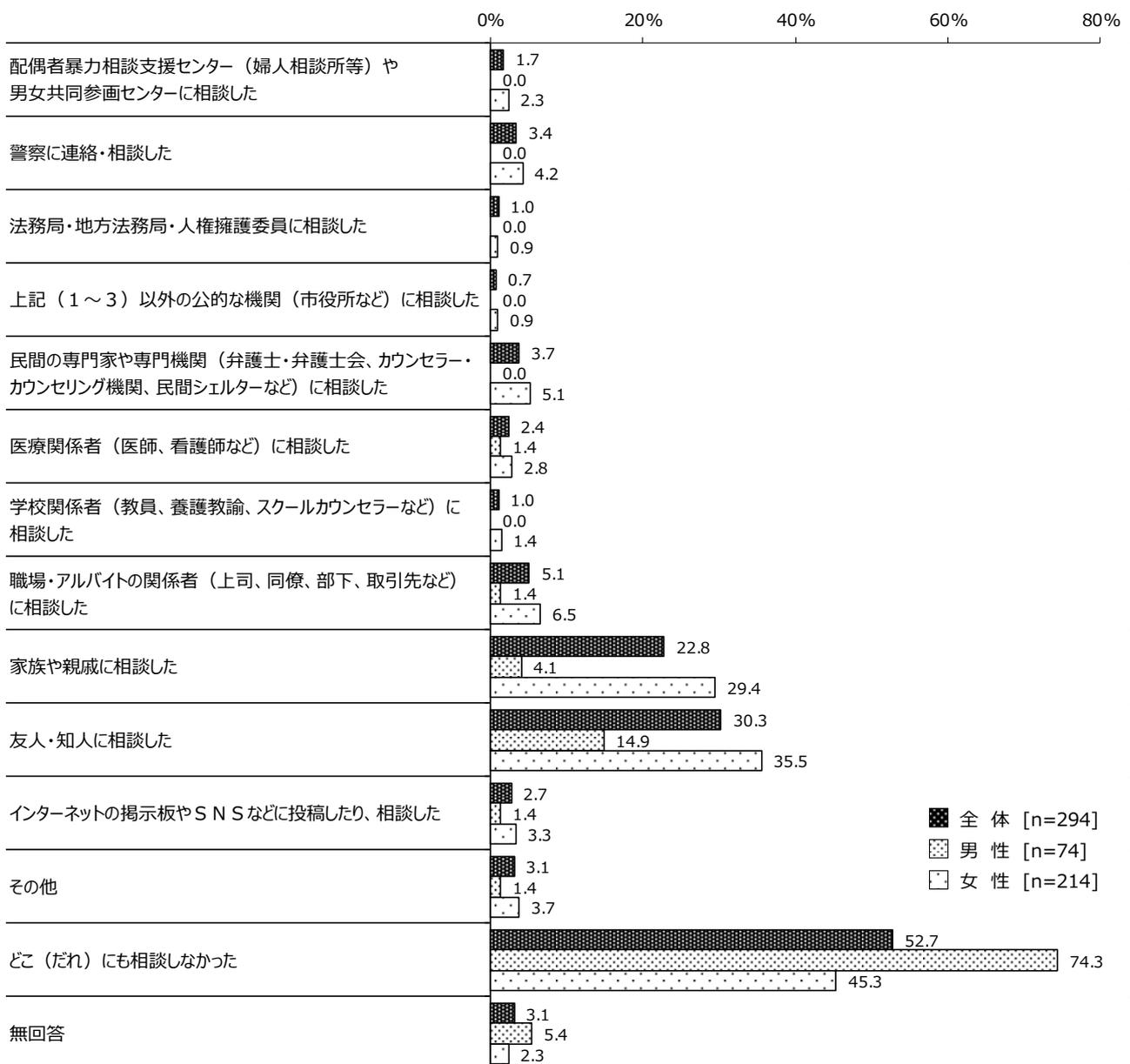
問 22 問 21 の①～④のうち、1つでも「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた方にお伺いします。

⇒ 問 21 の①～④のすべてが「これまで、まったくない」という方は、問 24 にお進みください。

あなたはこれまでに、配偶者や恋人から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

全体では、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が 52.7%で最も高く、次いで「友人・知人に相談した」が 30.3%、「家族や親戚に相談した」が 22.8%となっており、「職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した」（5.1%）以下の項目は1割未満となっている。

性別にみると、男女とも上位3項目は全体と共通となっているが、「友人・知人に相談した」、「家族や親戚に相談した」は女性が男性より2割以上高くなっている。一方、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性（74.3%）が女性（45.3%）より29.0ポイント高くなっている。



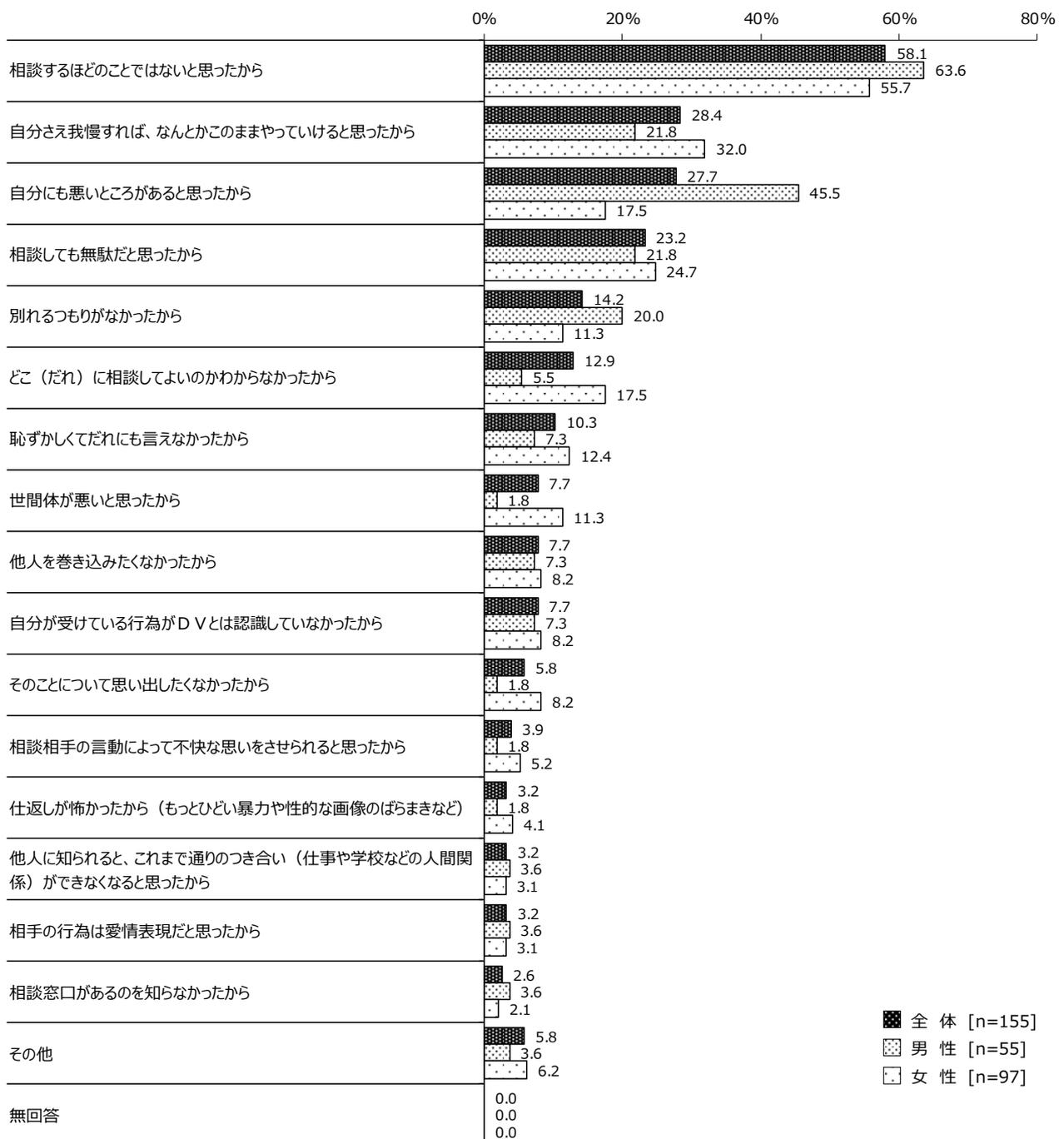
問 23 問 22 で「13 どころ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお伺いします。

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

（○はいくつでも可）

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が 58.1%で最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 28.4%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 27.7%、「相談しても無駄だと思ったから」が 23.2%となっている。

性別にみると、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高くなっているが、男性（63.6%）は女性（55.7%）を 7.9 ポイント上回っている。男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」、「別れるつもりがなかったから」などが女性より高く、前者は 28.0 ポイント上回っている。一方、女性は「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」が男性より 1 割以上高く、「世間体が悪いと思ったから」など 3 項目も 5 ポイント以上上回っている。



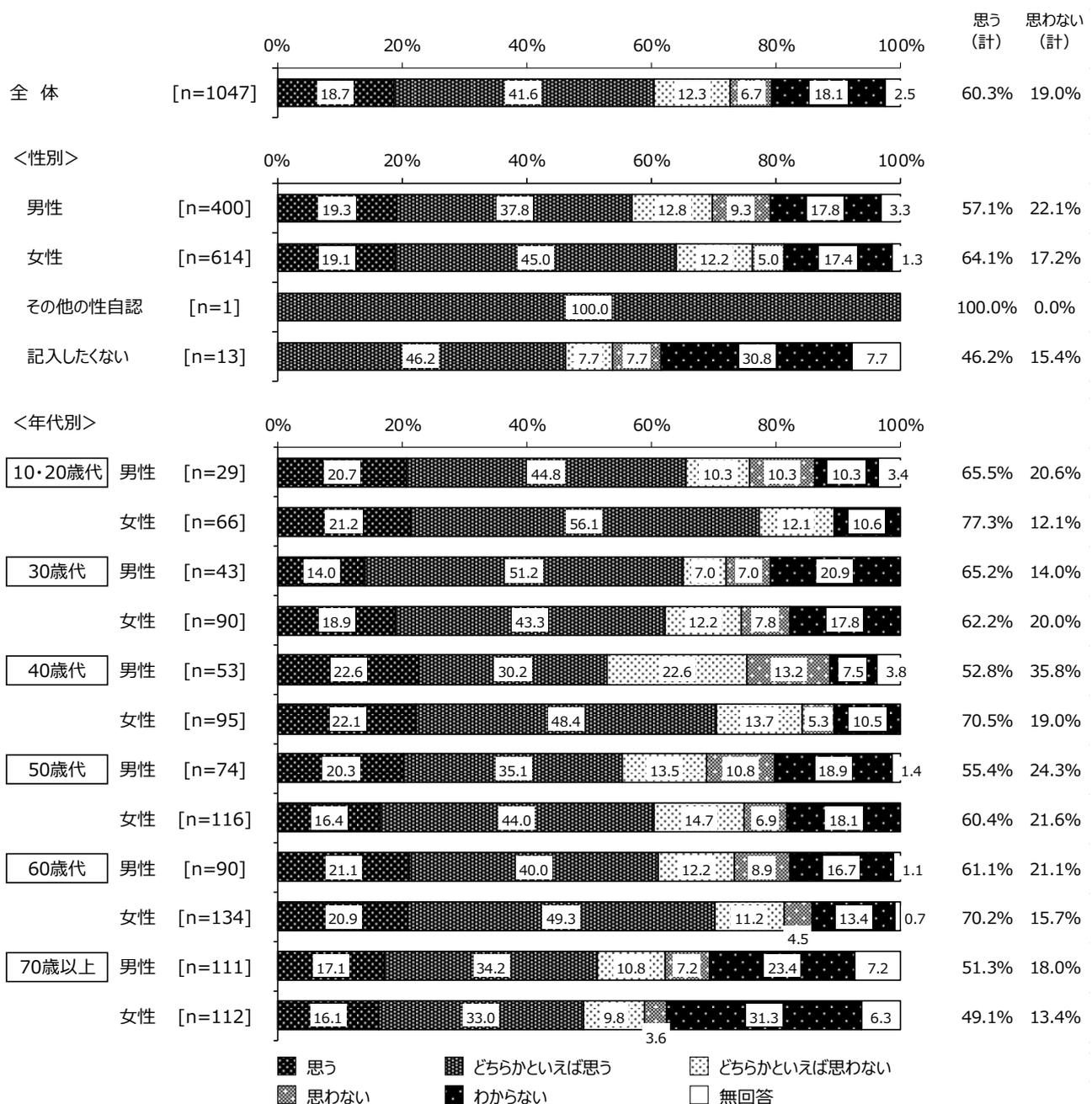
V 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）について

問 24 あなたは、現在、性的少数者の方にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

(○は1つ)

全体では、「どちらかといえば思う」が 41.6%で最も高く、次いで「思う」が 18.7%、「わからない」が 18.1%、「どちらかといえば思わない」が 12.3%、「思わない」が 6.7%となっている。「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせた「思う（計）」は 60.3%、「思わない」と「どちらかといえば思わない」を合わせた「思わない（計）」は 19.0%となっている。

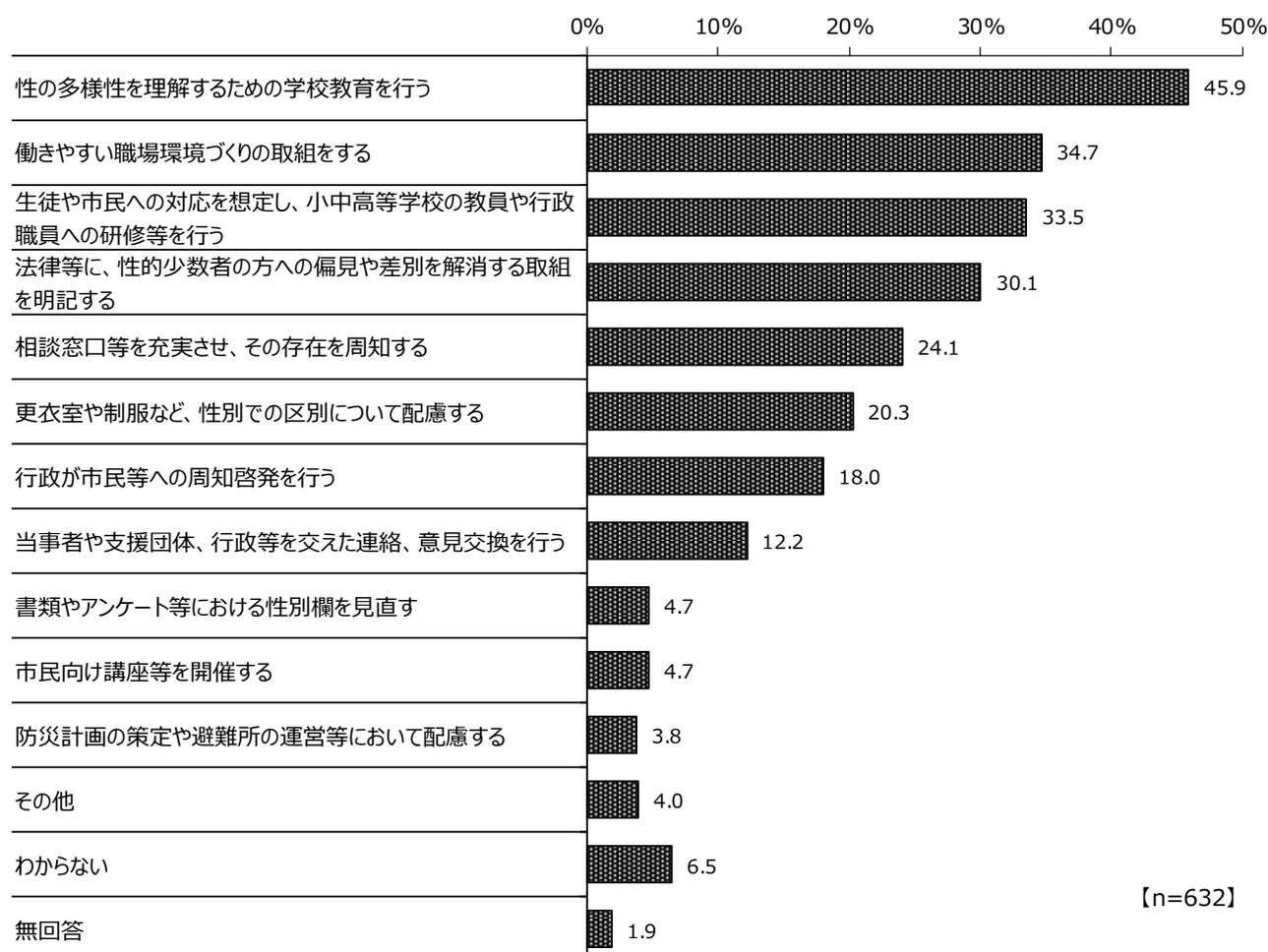
性別・年代別にみると、「思う（計）」は女性（64.1%）が男性（57.1%）より 7.0 ポイント高くなっている。女性 70 歳以上を除き「思う（計）」が 5 割以上となっており、女性 10・20 歳代、40 歳代は 7 割台と、他の年代に比べ高くなっている。一方、「思わない（計）」は男性 40 歳代が 35.8%で最も高く、「わからない」は女性 70 歳以上で 31.3%となっている。



問 25 問 24 で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と答えた方にお伺いします。

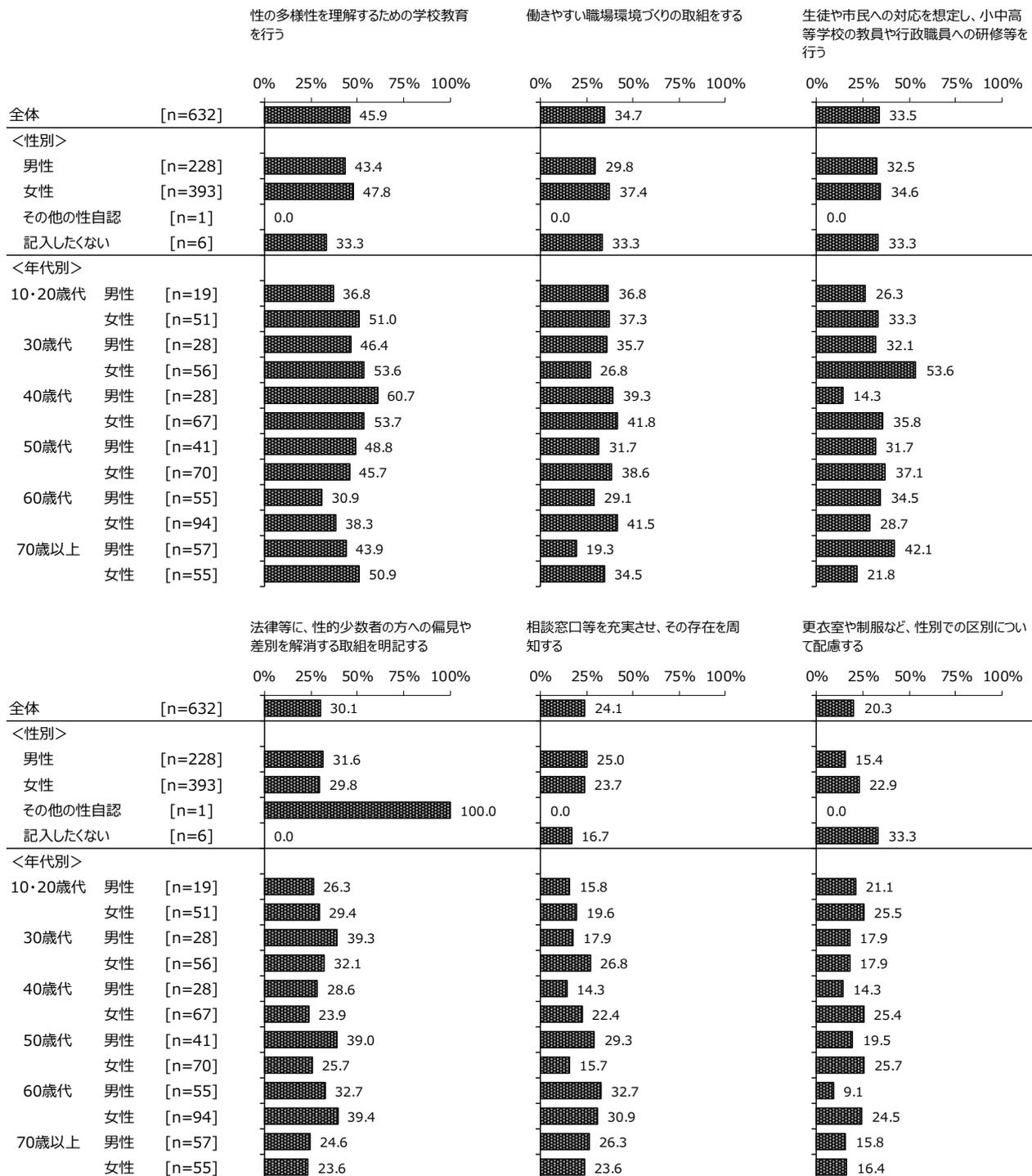
性的少数者の方に対する偏見や差別などをなくし、生活しやすくなるために、どのような対策が必要だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。(○は3つまで)

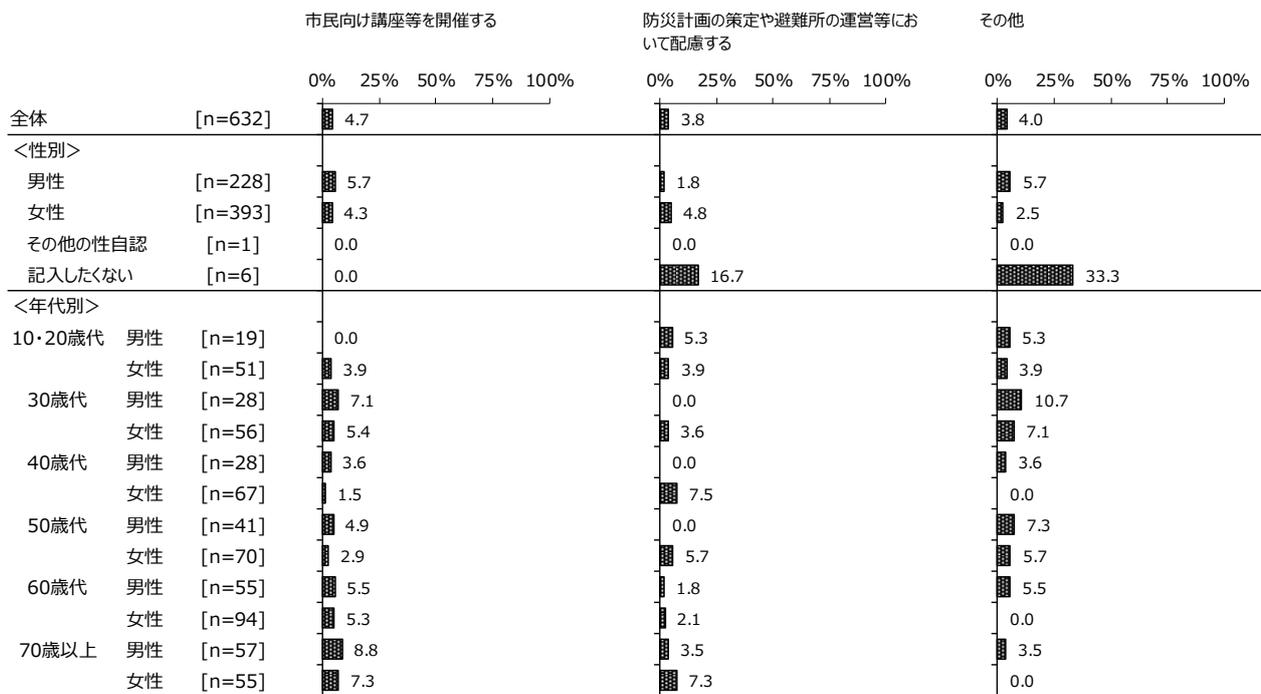
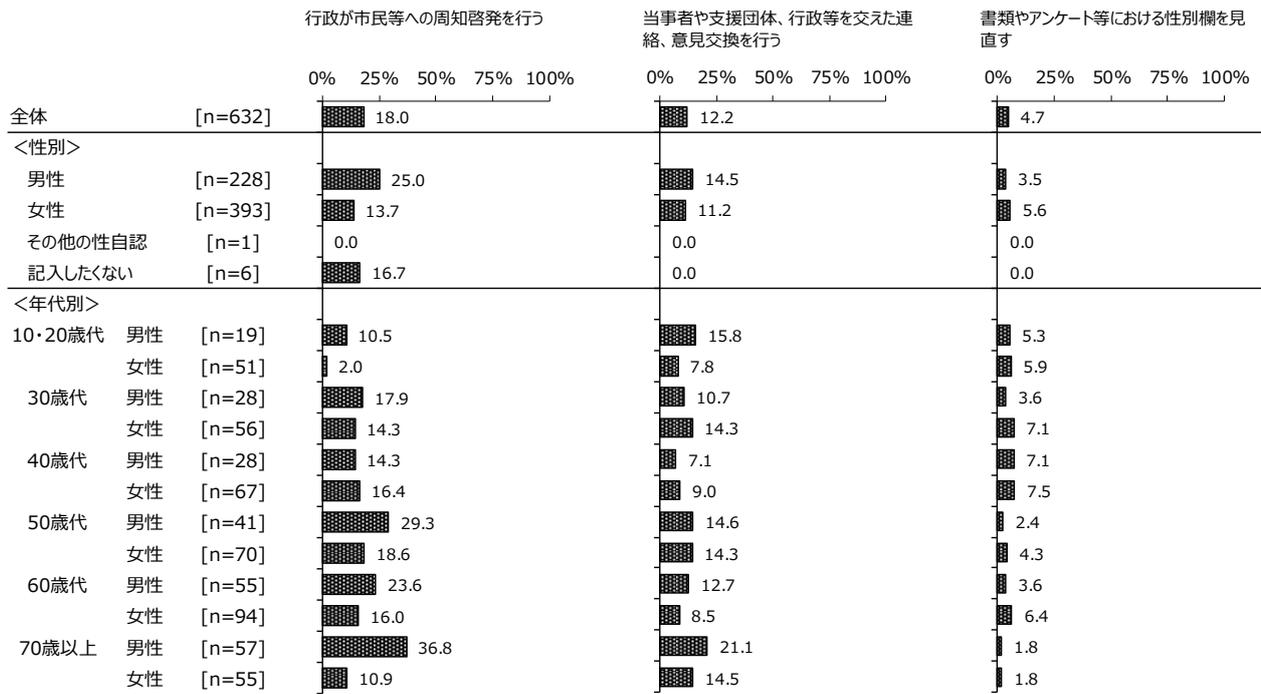
全体では、「性の多様性を理解するための学校教育を行う」が 45.9%で最も高く、次いで「働きやすい職場環境づくりの取組をする」が 34.7%、「生徒や市民への対応を想定し、小中高等学校の教員や行政職員への研修等を行う」が 33.5%、「法律等に、性的少数者の方への偏見や差別を解消する取組を明記する」が 30.1%となっている。

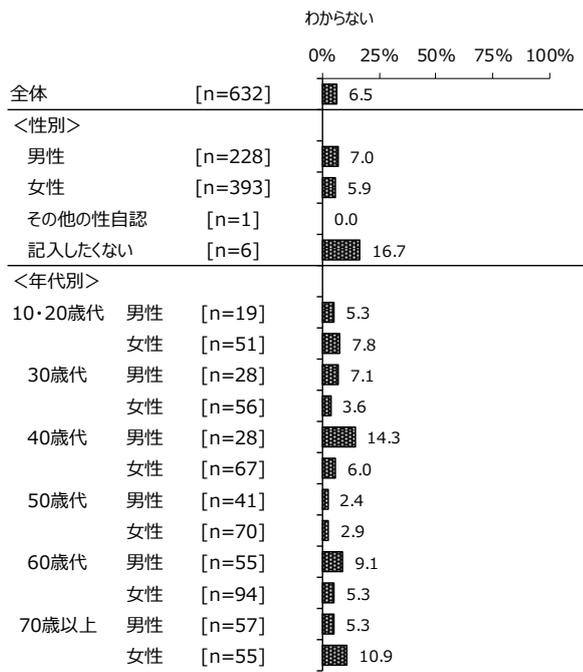


問 25 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、男女とも 60 歳代を除き「性の多様性を理解するための学校教育を行う」が最も高く（同率含む）、女性 40 歳代以下、70 歳以上などで 5 割以上となっている。一方、男性 60 歳代は「生徒や市民への対応を想定し、小中高等学校の教員や行政職員への研修等を行う」（34.5%）、女性 60 歳代は「法律等に、性的少数者の方への偏見や差別を解消する取組を明記する」（39.4%）が最も高く、前者は女性 30 歳代（53.6%）も「性の多様性を理解するための学校教育を行う」と同率になっている。また、男性は「行政が市民等への周知啓発を行う」（25.0%）が女性（13.7%）より 11.3 ポイント高くなる一方、女性は「働きやすい職場環境づくりの取組をする」、「更衣室や制服など、性別での区別について配慮する」が 7 ポイント以上男性より高くなっている。



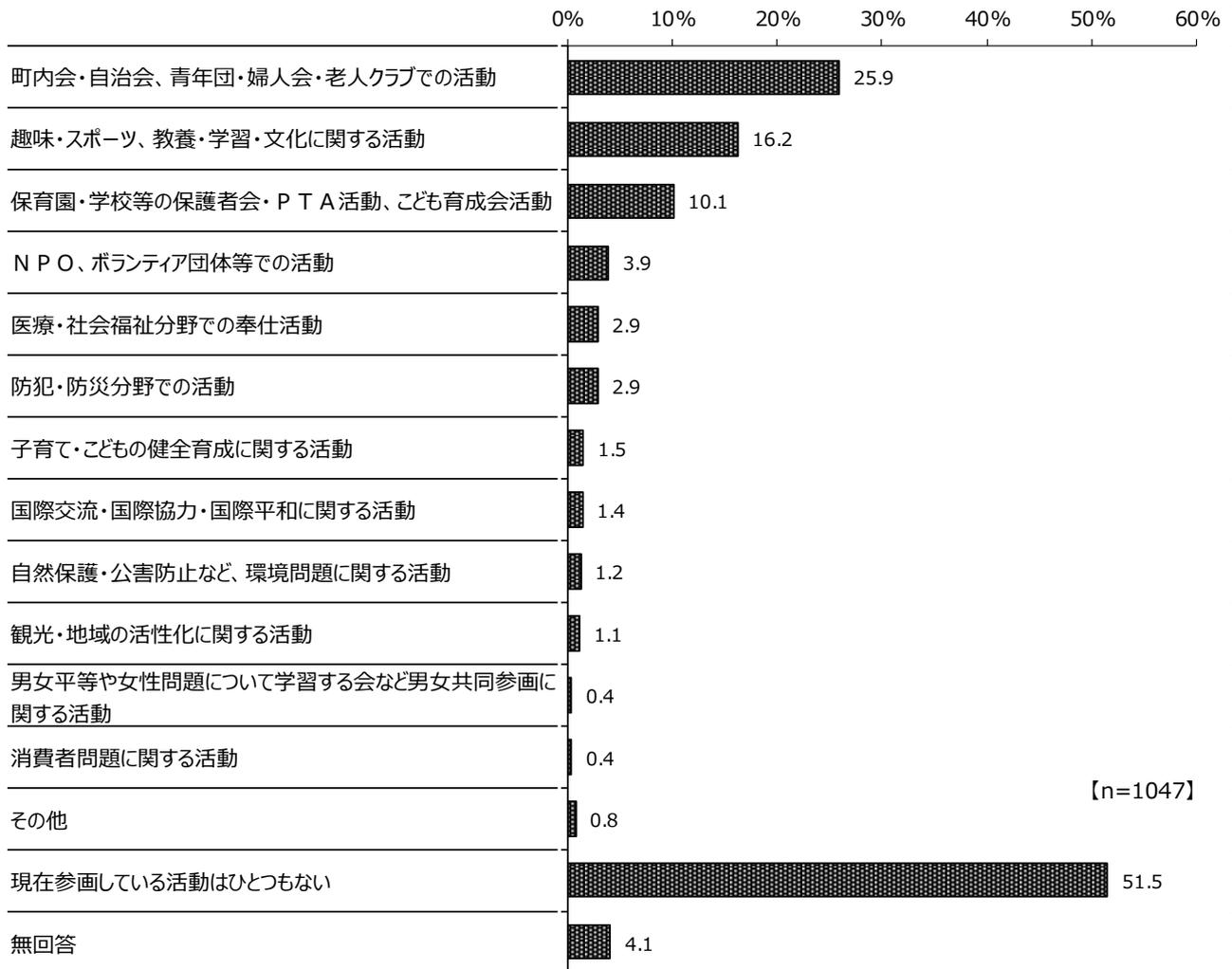




VI 社会活動等への参画について

問 26 次の地域活動の中で、あなたが「現在参画している（事業の運営に関わるなど）活動」すべてに○をつけてください。（○はいくつでも可）

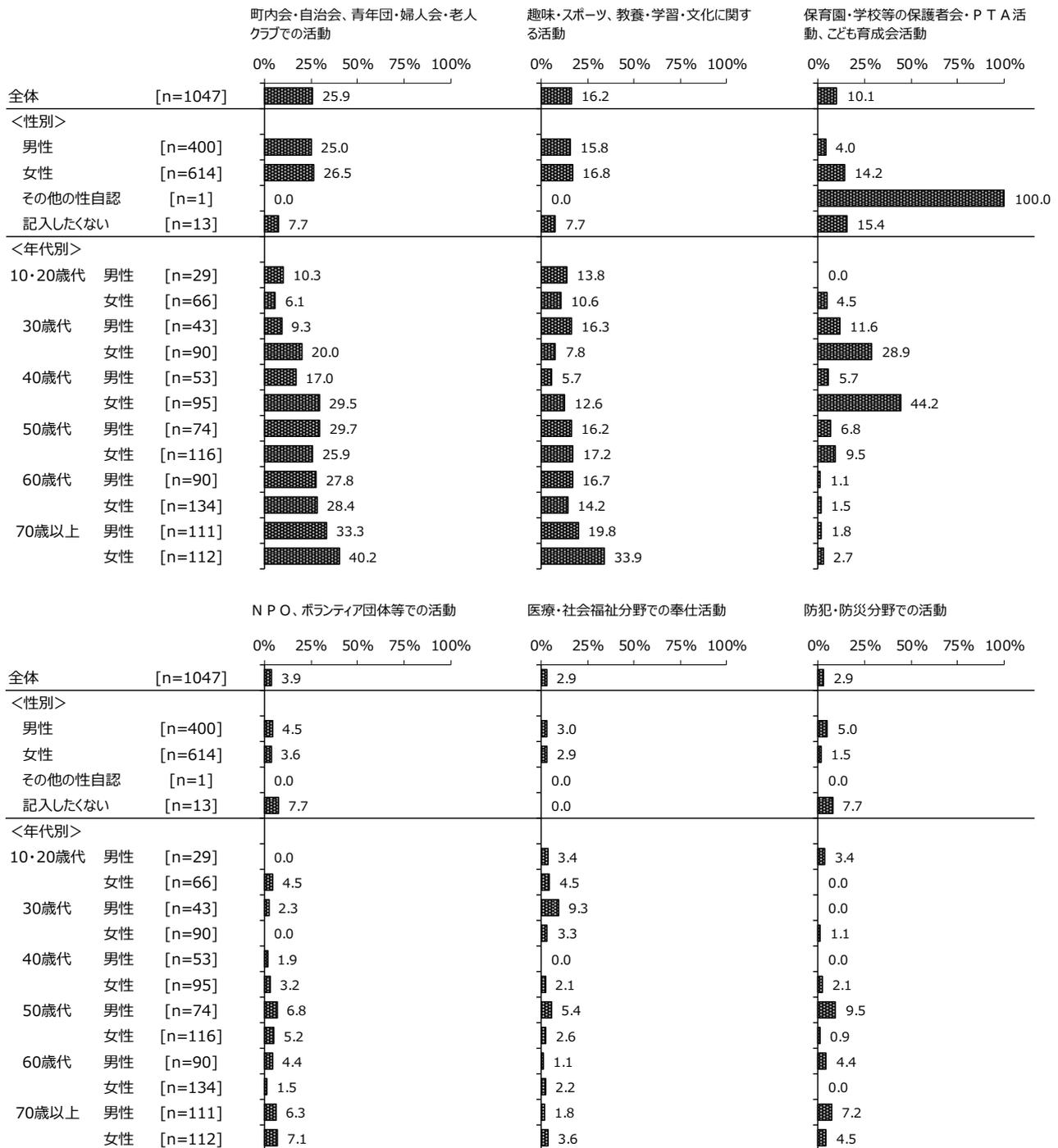
全体では、「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」が 25.9%で最も高く、次いで「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が 16.2%、「保育園・学校等の保護者会・PTA活動、こども育成会活動」が 10.1%となっており、「NPO、ボランティア団体等での活動」（3.9%）以下の項目は1割未満となっている。一方、「現在参画している活動はひとつもない」は 51.5%となっている。

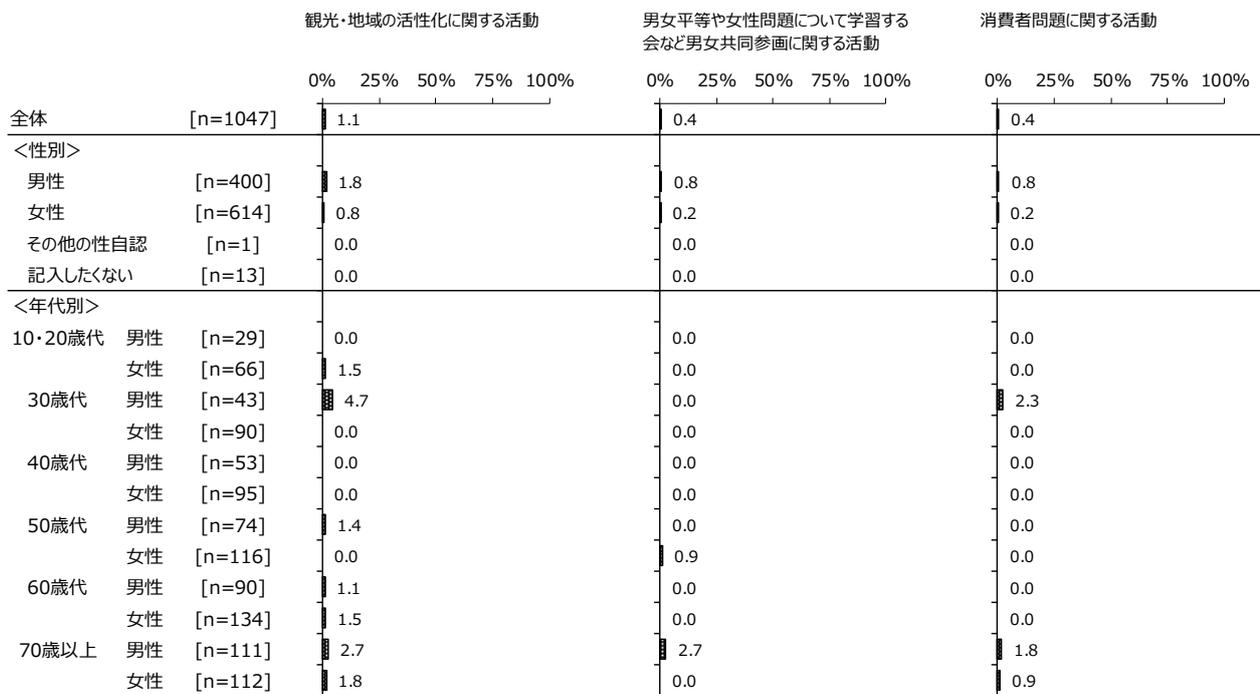
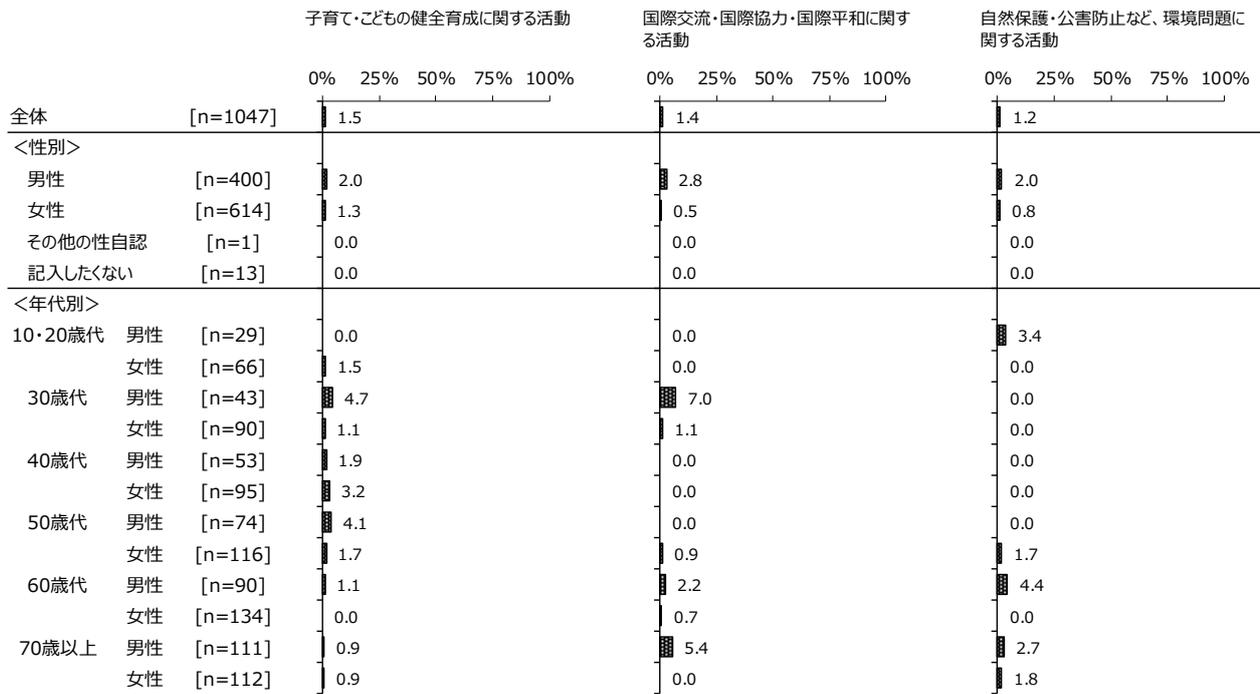


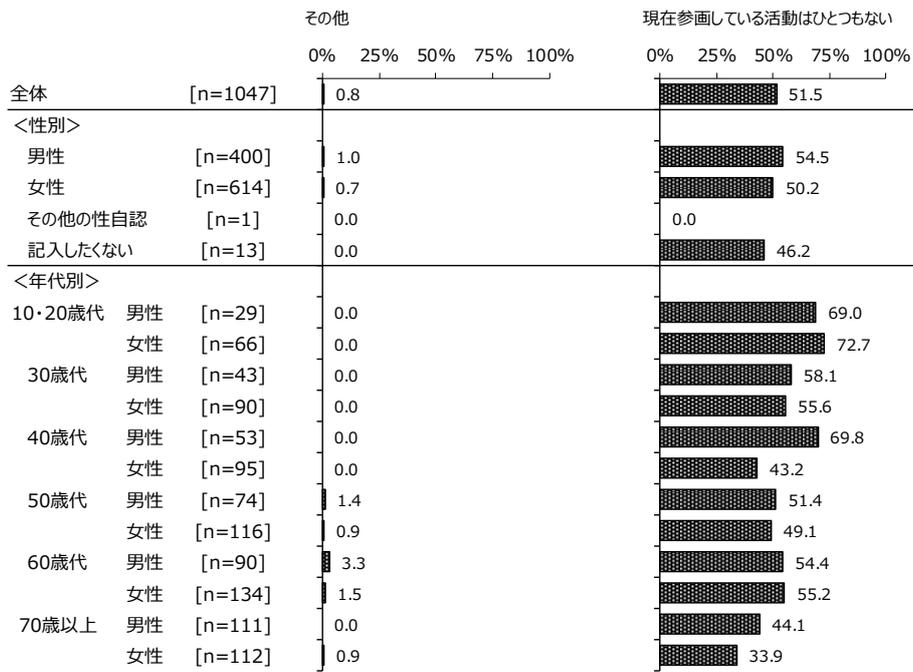
問 26 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、男女とも上位 2 項目は全体と共通となっており、女性 70 歳以上はいずれも全体より 1 割以上高くなっている。「保育園・学校等の保護者会・P T A 活動、こども育成会活動」は女性 40 歳代（44.2%）、30 歳代（28.9%）で特に高くなる一方、それ以外の年代は男性 30 歳代（11.6%）を除き 1 割未満となっている。また、上記 3 項目以外は男女ともすべての年代で 1 割未満となっている。

一方、「現在参画している活動はひとつもない」は男性 60 歳代以下、女性 30 歳代以下、60 歳代で 5 割以上となっており、男女 10・20 歳代、男性 40 歳代は 7 割前後と、他の年代に比べ高くなっている。

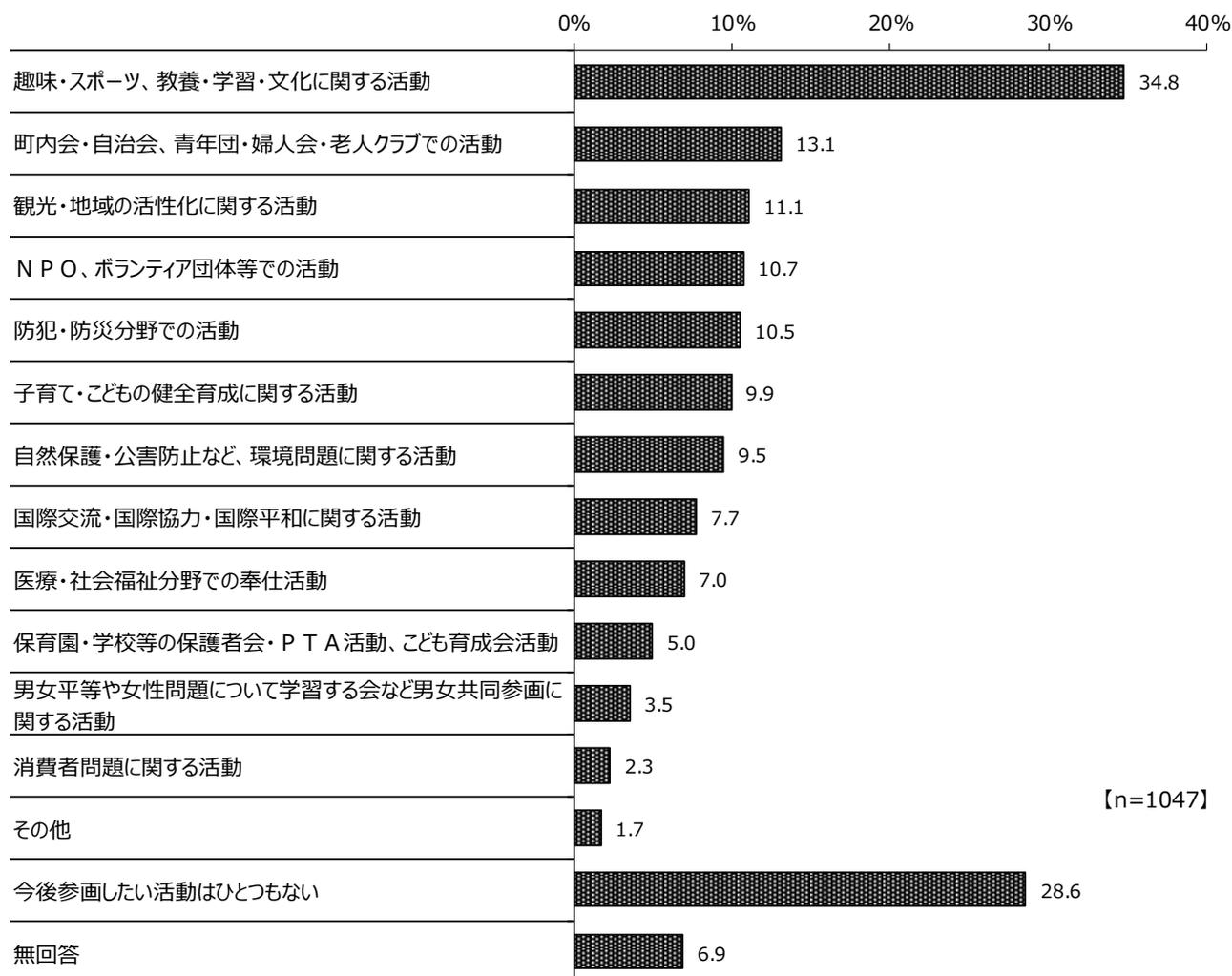






問 27 また、「今後参画してみたい地域活動、または引き続き参画したい地域活動」がありましたら、すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

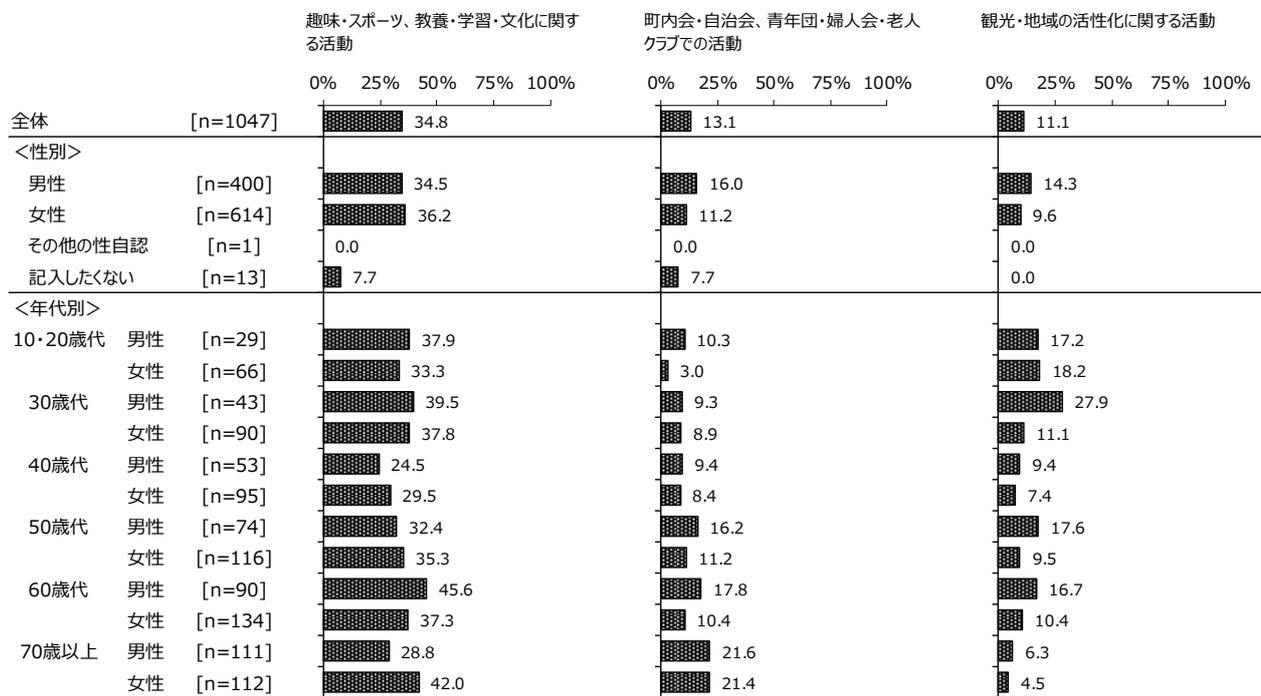
全体では、「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が 34.8%で最も高く、次いで「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」が 13.1%、「観光・地域の活性化に関する活動」が 11.1%、「N P O、ボランティア団体等での活動」が 10.7%となっている。一方、「今後参画したい活動はひとつもない」は 28.6%となっている。

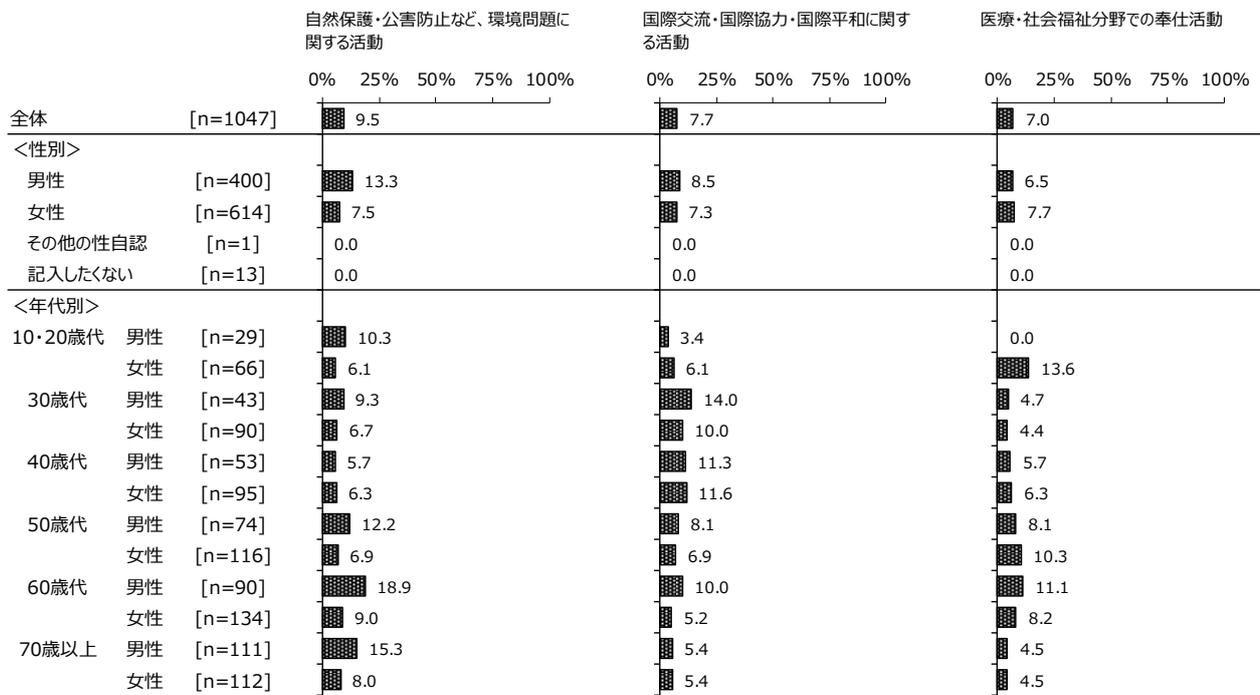
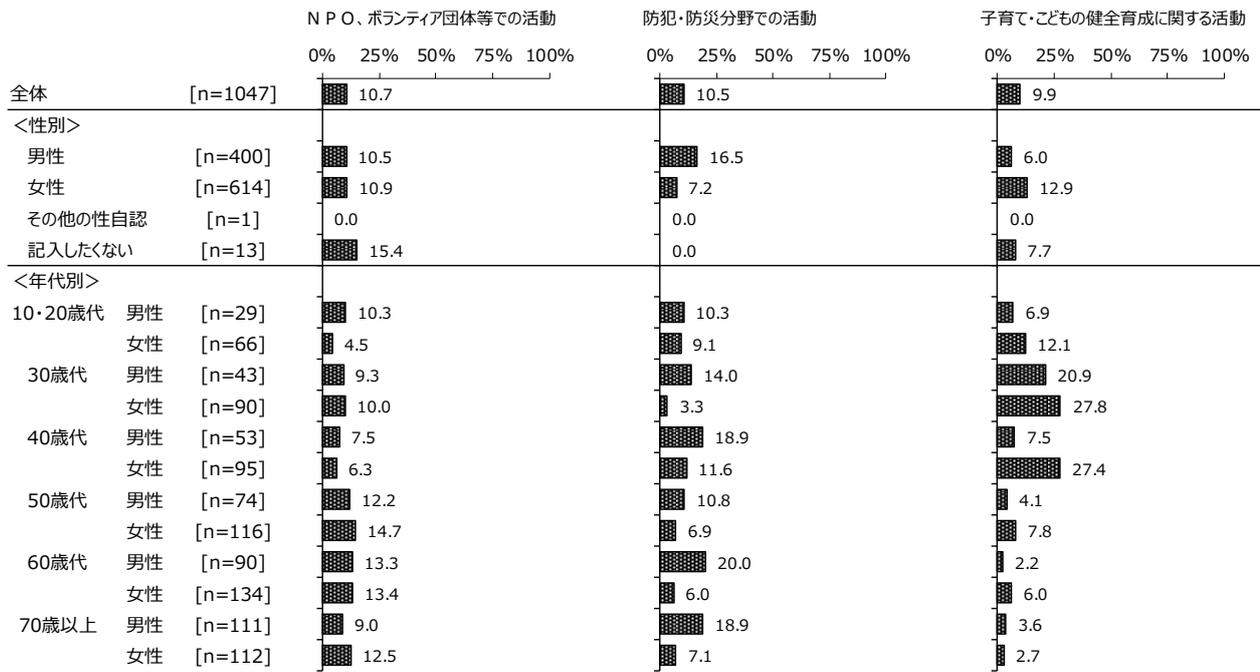


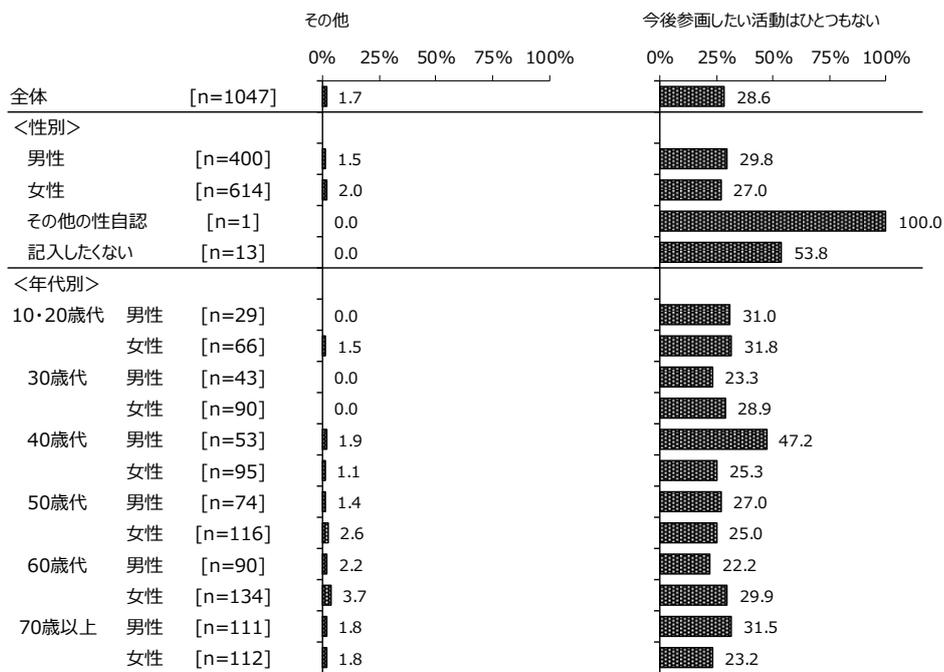
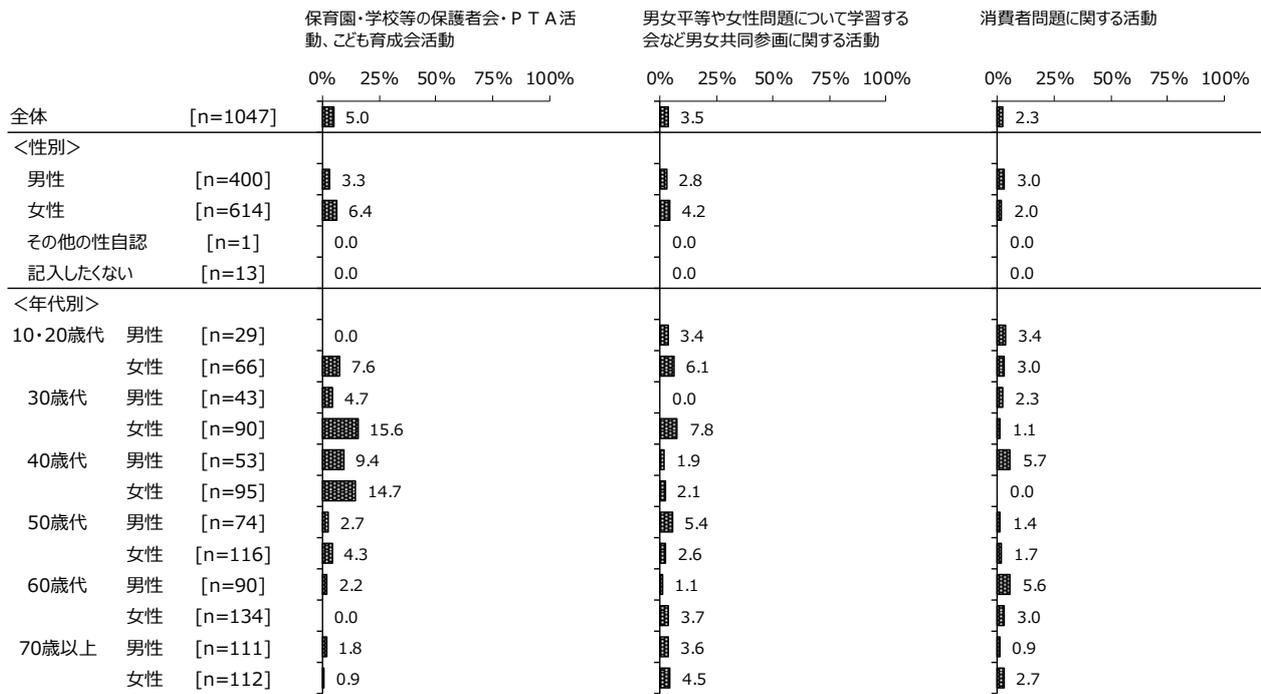
問 27 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、男女ともすべての年代で「趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動」が最も高く、男性 60 歳代、女性 70 歳以上は 4 割台となっている。男性は「防犯・防災分野での活動」（16.5%）、女性は「子育て・こどもの健全育成に関する活動」（12.9%）が 2 番目に高くなっているが、前者は男性がすべての年代で 1 割以上となる一方、後者は男性 30 歳代、女性 30～40 歳代で 2 割台と、一部の年代で高くなっている。「保育園・学校等の保護者会・P T A 活動、こども育成会活動」も女性 30～40 歳代で高くなっている。また、「町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動」は男女 70 歳以上、「観光・地域の活性化に関する活動」は男性 30 歳代で 2 割台となっている。

一方、「今後参画したい活動はひとつもない」は男性 40 歳代が 47.2%で最も高く、男女ともすべての年代で 2 割以上となっている。

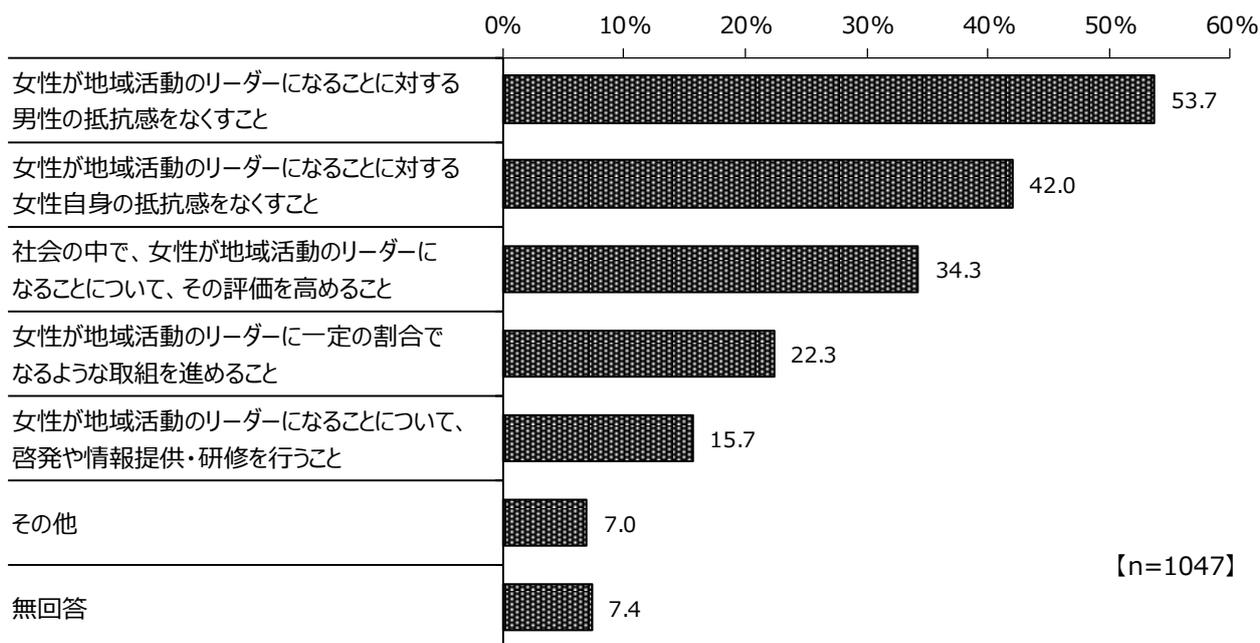






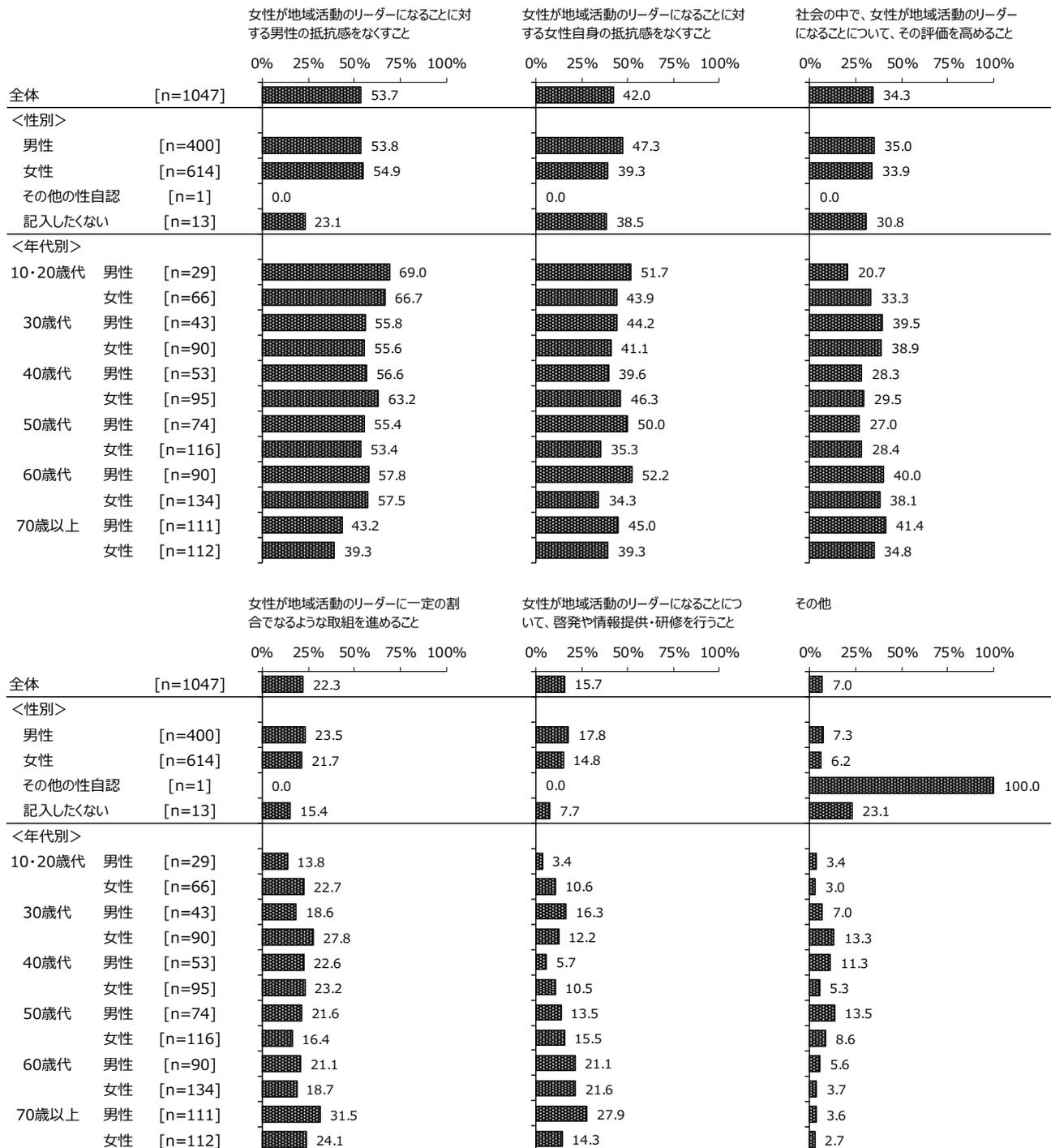
問 28 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも可)

全体では「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が 53.7%で最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が 42.0%、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」が 34.3%、「女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること」が 22.3%、「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」が 15.7%となっている。



問 28 <性別・年代別>

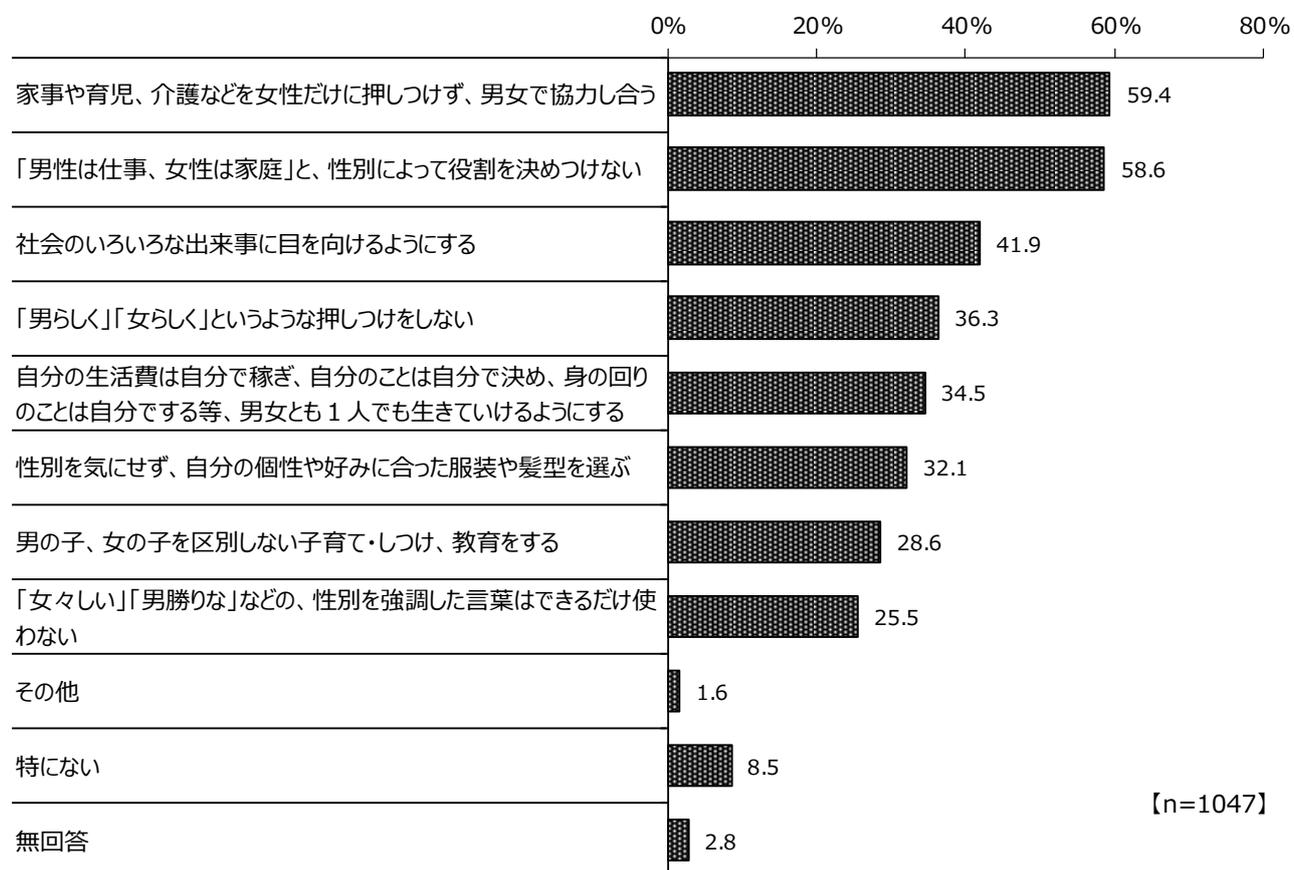
性別・年代別にみると、男性 70 歳以上を除き「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高く、男女とも 60 歳代以下は 5 割以上となっている。一方、70 歳以上は男女とも「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっている（女性は同率）。「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」は男性（47.3%）が女性（39.3%）より 8.0 ポイント高く、男性 50～60 歳代などで 5 割台となっている。また、男性 70 歳以上は「女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと」（27.9%）が全体を 12.2 ポイント上回っている。



問 29 男女平等をいっそう進めるため、日ごろから心がけていることがありますか。

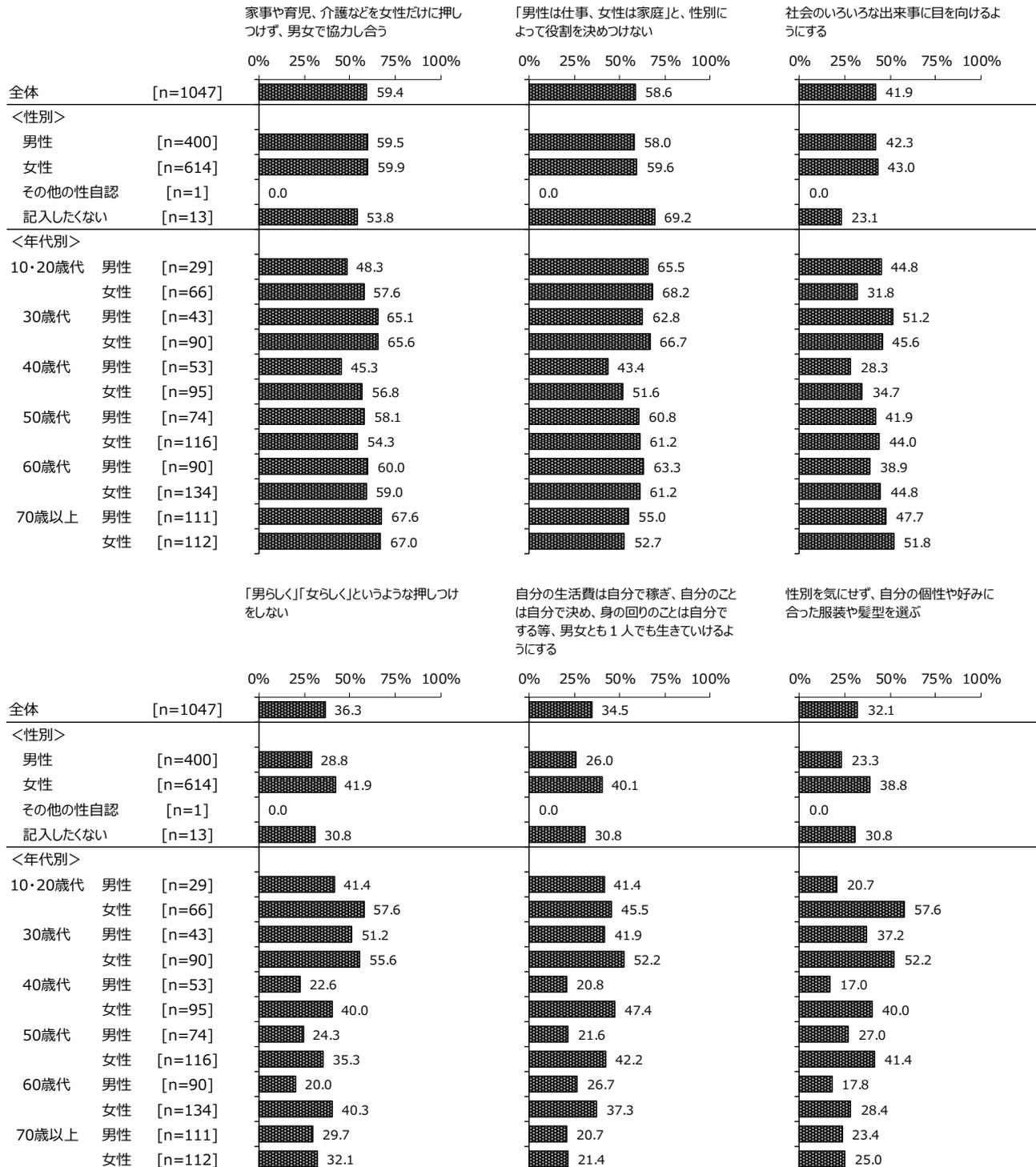
該当するすべての番号に○をつけてください。(○はいくつでも可)

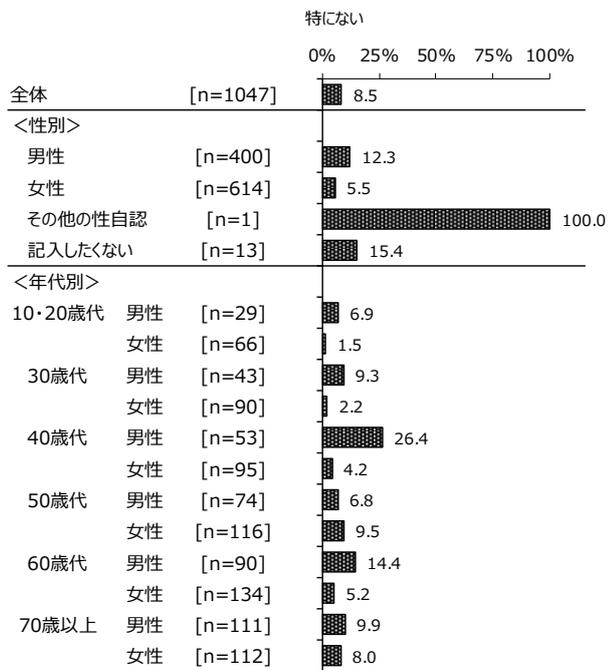
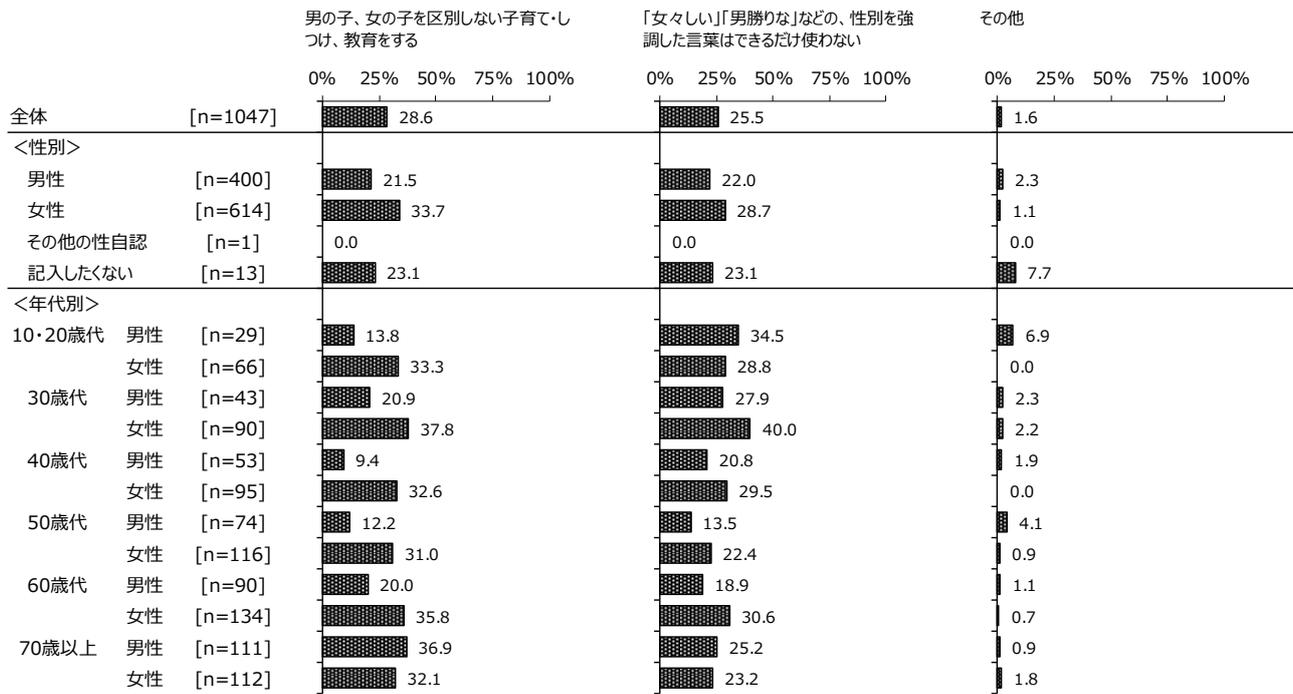
全体では、『家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う』が 59.4%で最も高く、次いで『「男性は仕事、女性は家庭」と、性別によって役割を決めつけない』が 58.6%、『社会のいろいろな出来事に目を向けるようにする』が 41.9%、『「男らしく」「女らしく」というような押しつけをしない』が 36.3%となっている。



問 29 <性別・年代別>

性別・年代別にみると、男女とも上位 6 項目は全体と共通となっている。そのうち上位 3 項目については大きな差はみられず、『家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う』は男性 10・20 歳代、40 歳代以外、『「男性は仕事、女性は家庭」と、性別によって役割を決めつけない』は男性 40 歳代以外で 5 割以上となっている。一方、4～6 位は女性が男性より 1 割以上高く、女性 10・20 歳代は『「男らしく」「女らしく」というような押しつけをしない』と『性別を気にせず、自分の個性や好みに合った服装や髪型を選ぶ』の 2 項目、女性 30 歳代は 3 項目いずれも 5 割以上となっている。これら 3 項目は、男性 30 歳代も全体より高くなっている。

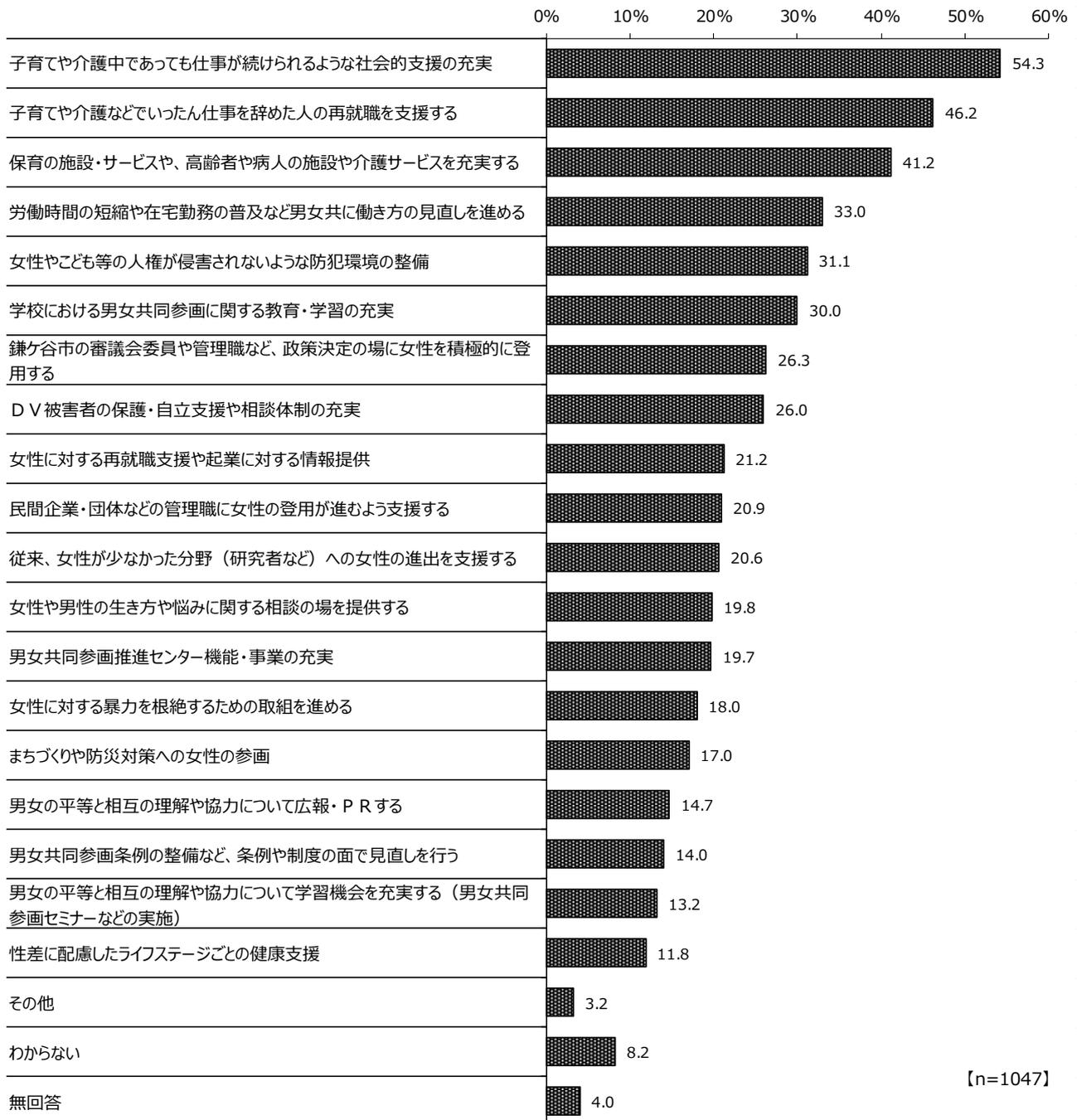




VII 男女共同参画社会に関する行政への要望について

問 30 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、鎌ヶ谷市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。この中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

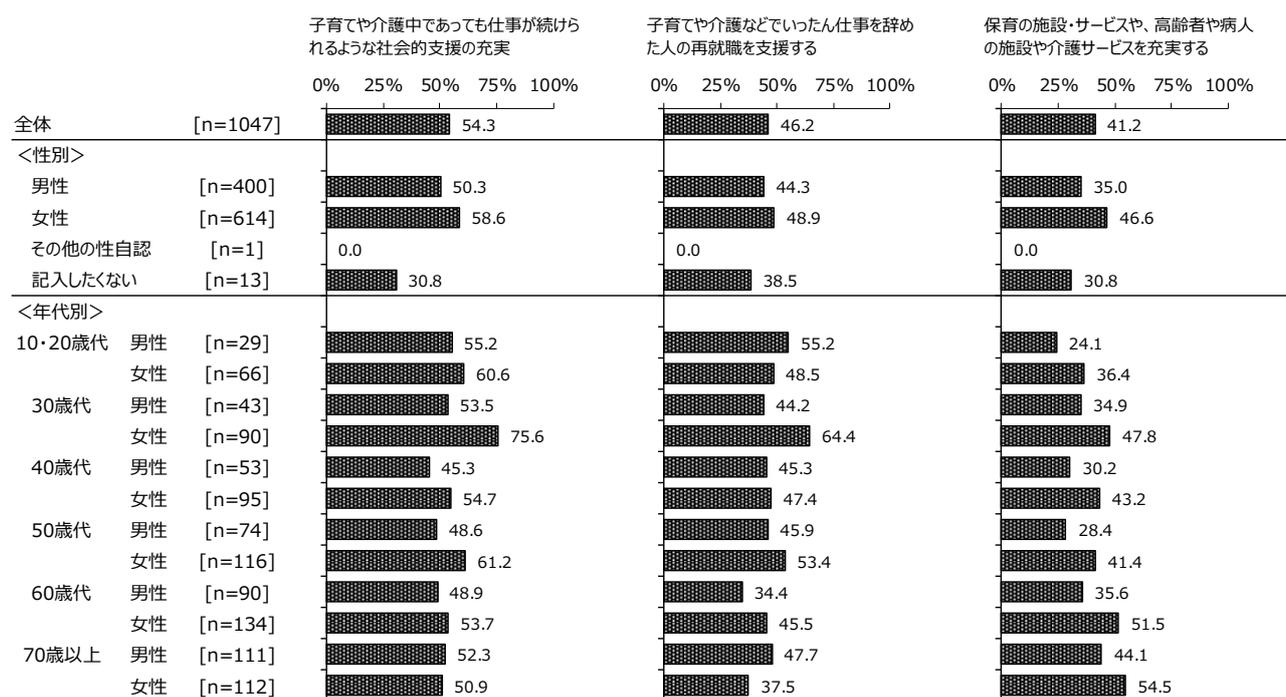
全体では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような社会的支援の充実」が 54.3%で最も高く、次いで「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 46.2%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が 41.2%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」が 33.0%となっている。

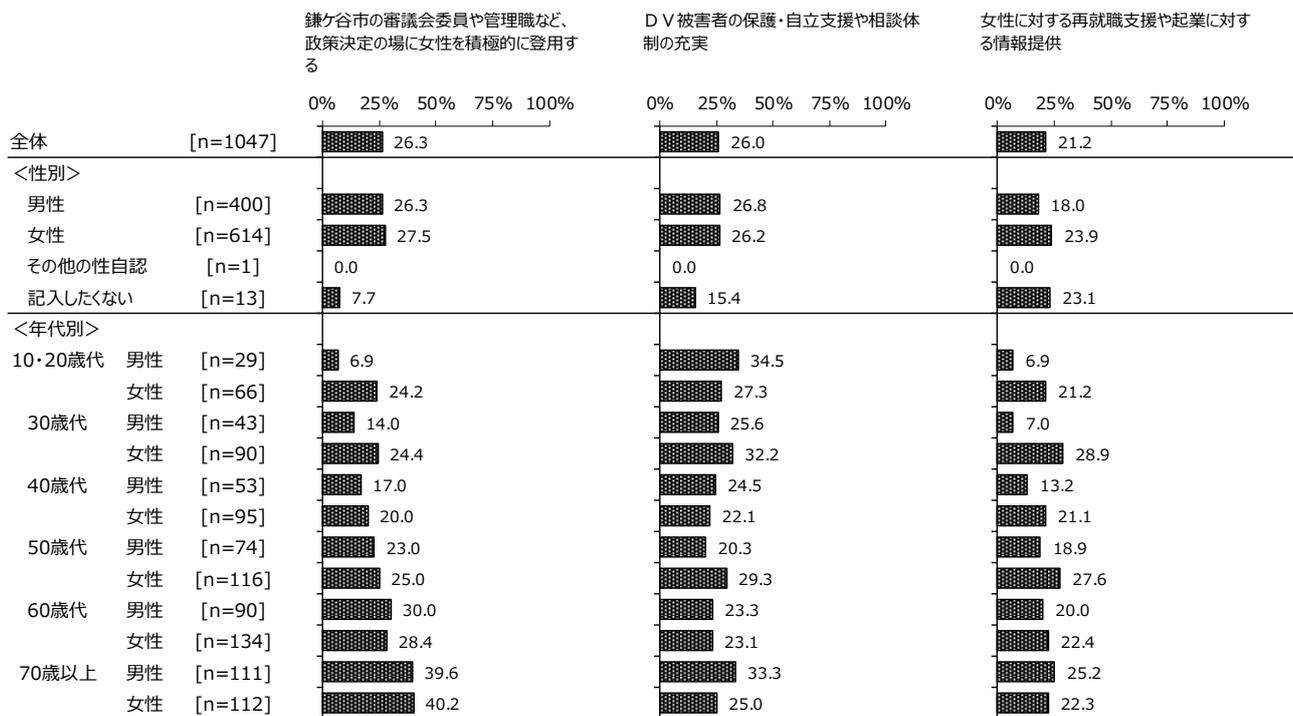
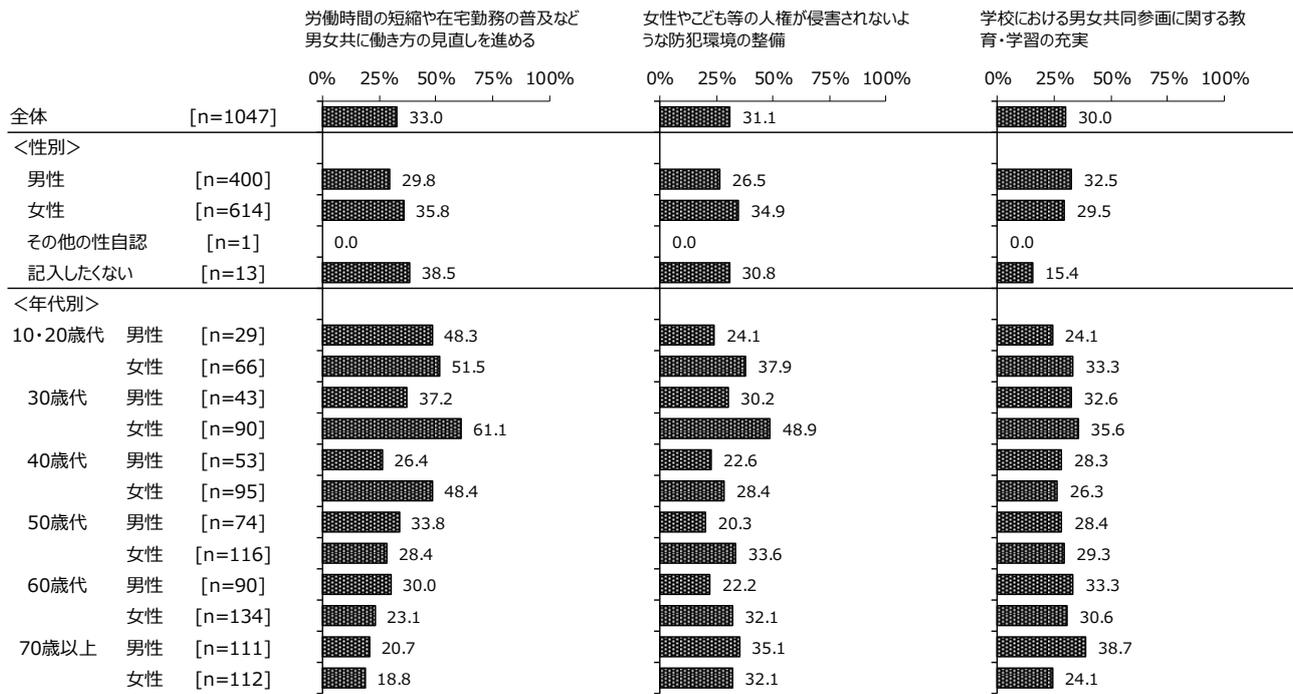


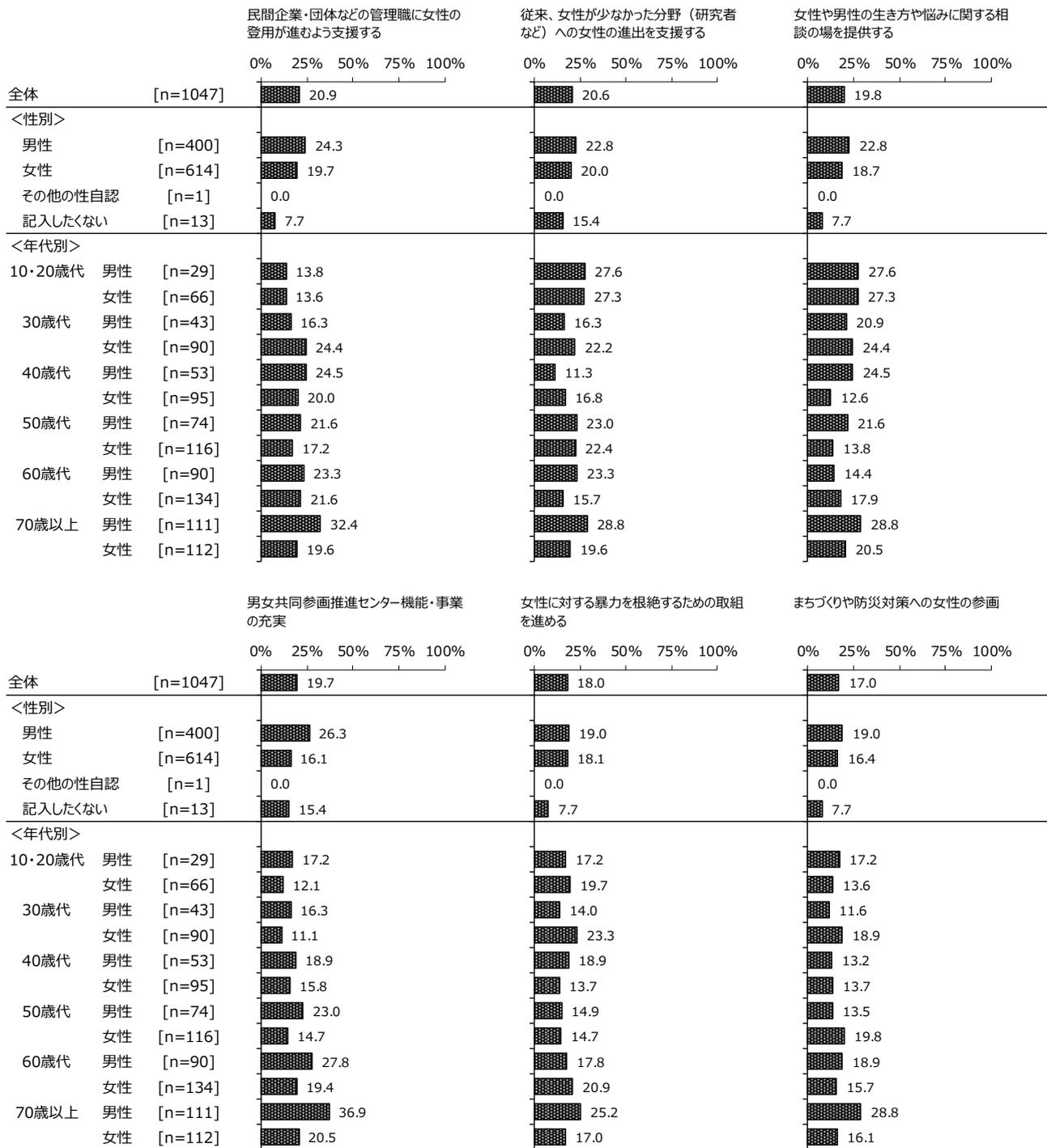
問 30 <性別・年代別>

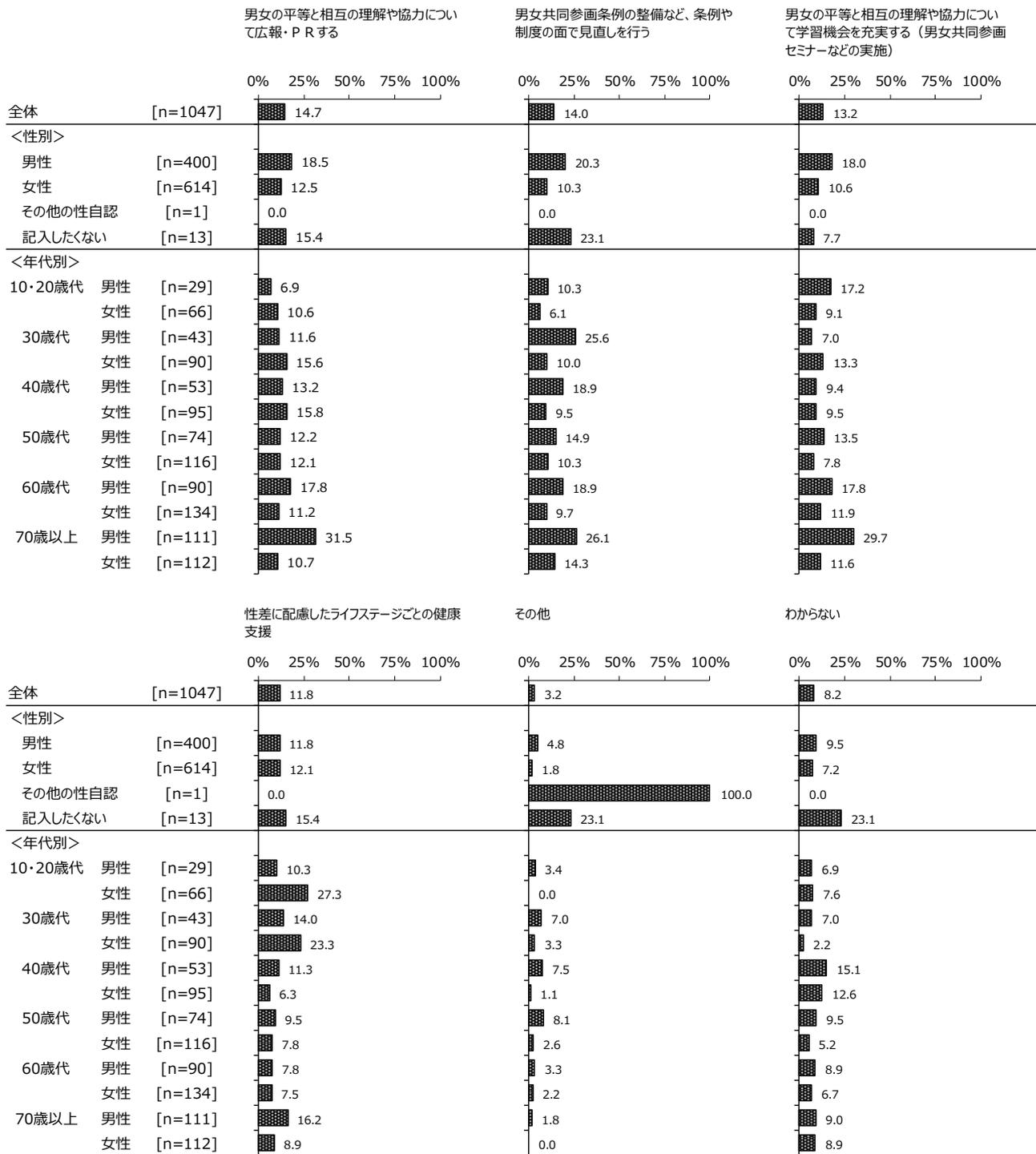
性別・年代別にみると、男女とも上位3項目は全体と共通となっているが、いずれも女性が男性より4ポイント以上高くなっている。「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような社会的支援の充実」は女性70歳以上を除き最も高く、男性40～60歳代以外で5割以上、女性30歳代は75.6%となっている。「子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は男性40歳代などで「子育てや介護中であっても仕事が続けられるような社会的支援の充実」と同率になっており、女性30歳代は64.4%、50歳代も53.4%となっている。「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は女性70歳以上で最も高く、女性60歳代も51.5%となっている。

また、「男女共同参画推進センター機能・事業の充実」、「男女共同参画条例の整備など、条例や制度の面で見直しを行う」、「男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する（男女共同参画セミナーなどの実施）」、「男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする」は男性が女性より6ポイント以上高く、男性70歳以上はいずれも全体を1割以上上回っている。一方、「女性や子ども等の人権が侵害されないような防犯環境の整備」、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」、「女性に対する再就職支援や起業に対する情報提供」は女性で高くなっており、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」は女性30歳代以下で5割以上となっている。









最後に、固定化された意識や慣習にとらわれることなく、自分の意志によって職域、学校、地域、家庭などのあらゆる分野に参画でき、男女が共に協力しあう男女共同参画社会を実現するためのご意見やご提案がございましたら、ご自由にお書きください。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
男性	18～19歳	問題がある所に積極的に関わってほしい。変なセミナーとかにお金を使わないで、改善に向かう活動に使ってください。
男性	20～29歳	アンケートは電子の方が良い。(デジタル化推進)
男性	20～29歳	Quota制を無理に導入するよりも、男女関係なく、各々の能力で平等に人材を選出する事が望ましいと考えています。
男性	20～29歳	男女で気軽に話し合える環境が作ればいいかと思います。
男性	20～29歳	個人的には、男女平等というものはある程度既に達成されていると考えています。が、これは私が大学生であるという事も関係していると思います。私の学部では特に男女比がほぼ半数となっていて、発言力是对等で、大学院等への進学では、もはや優遇されているのではないかと考えた事もあります。また、就職でも私が目指している業界では、インターンに女性の数も多く、男女平等が進んでいる印象でした。また、私は中学生で生徒会活動をしていましたが、会長は在学中ずっと女性でした。この様に、私は男女平等の中で育ってきたという事もあり、多少課題もありながらも、対等に協力する事が良い事だと思っています。一方で、差別の存在する実態を身近に知らない事もあるので、その様なお話を聞く機会や、平等達成の「その後」を見据えたビジョンなどもあったら良いと思いました。
男性	20～29歳	教育の場において、男女平等教育を意識的に取り入れる事が重要だと思います。例えば、性別による役割を押しつけるのではなく、多様な生き方が存在する事を学ぶ機会を増やす事で、子ども達の価値観の幅が広がります。さらに、性別の違いだけでなく、能力や環境の違いについても学ぶ事により、他者を尊重し、多様性を受け入れる姿勢を育む事ができます。また、社会全体の構造として、給与から差し引かれる税金や消費税を見直し、手取り収入を増やす事も重要だと思います。手取りが増える事で生活に余裕が生まれ、男女共に多様な働き方を選びやすくなります。その結果、育児や家事の負担も柔軟になり、性別にとられない、働きやすく、子育てしやすい社会の実現につながると考えます。
男性	20～29歳	男女共に社会に進出できる様な意識改革は、積極的に行っていくべきだと考えてはいますが、小学校の「～くん」、「～さん」廃止など、無理に意識を変えさせるのは違うと考えます。女性の社会参画については、大学の女子枠など男性にデメリットが少しでもある政策は、男女平等の理解がむしろ浅くなってしまっているので、男女問わず社会に進出できる様な政策が望ましいと、一市民として考えています。男女問わず輝ける様な世の中になる事を願っています。
男性	20～29歳	性別に囚われず、能力の高い人間や適性の高い人間を採用する事は大切である。だが、女性を積極的に採用しようという考えのあまりに、本来適した人や見込みのある人を起用しない、適していない人を採用するのは本末転倒なので、女性枠などを作らず、様々な人を起用、活躍できる様な仕組みが理想ではないかと考えています。
男性	30～39歳	市が実施している支援、援助、施策が市民にわかりにくい、気づきにくいと感じる。SNS発信も大事だが、フォローしていないと全く気づかない。人が集まる場所(駅やスーパー、コンビニ、レストラン)に、こういったことをやっているということがわかるよう掲示、声掛けなどどんどん進めていくべき。共働き世代、子育て世代を増やしていくこと⇒町は盛り上がるので、より発信をしてほしいです。鎌ヶ谷は住みよい町と思っているので。
男性	30～39歳	DVの被害者は女性だけではない。
男性	30～39歳	質問とは関係ないかもしれないが、恥ずかしながら自分は、鎌ヶ谷市が男女共同参画推進センターを設置していることを全く知らなかった。自分が知らないだけなのかもしれないが、今後は鎌ヶ谷市が男女共同参画推進センターを設置していることを、広く周知すべきではないかと思う。
男性	30～39歳	実現するための意志、意見を受け止められる議員、職員、市長等、決定権を有する方々の意識改革が重要かと存じます。昨今、政治に関わる方々への信頼低下が著しいと思いますので、まずはそこへの信用回復は急務です。社会実現において、「言葉」だけの政治は無意味です。
男性	30～39歳	問14、15は10:0でも6:4でも「主に～が行う」になるので、良い集計ではないように思います。職場で女性社員が増え、能力的には問題ありませんが、産休、育休時の補充が困難です。(1～2年で復帰するのに人雇えない)⇒余力がある企業から人を派遣する。給与は政府も一部補助を出す。シニア人材の活用などできると良いです。守秘義務がある仕事もあり、そういった事を守ってくれるかも心配です。
男性	30～39歳	今あるルールベースで考えると、新しい社会構築は難しくなる。男女別々にルールを構築し、「男性から見た女性に対するルール」、「女性から見た男性に対するルール」を構築する事で、社会全体の意思が変わると思う。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
男性	30～39歳	質問の内容が、所々「あー今まで子育てや家事等をやった事がない男性が考えているんだな」と感じられた。元々の質問内容のベースが、平成一桁の様な感じがして、「女性が」を強く押しつけている割には、女性が質問づくりに入っていない。もしくは、確認作業を役職の付く男性が消していると思われた。そのため、この様なアンケートを行う上で、様々な年代の男女が関わり、作成してほしい。
男性	30～39歳	能力、実力があれば、男女関係なく評価されると思うので、自己能力の認識と自覚を持てば良いと思う。
男性	30～39歳	ジェンダー平等
男性	30～39歳	限られた財源なので、男女共同参画社会の実現よりも、育児や子育てに投資してもらいたい。必ずしもデータ上の数字が男女平等になる事は、より良い社会の実現に繋がるとは限らない。女性の社会進出によって変わった社会状況（特に少子化）に対応策をしてから、目指すべきと思う。
男性	30～39歳	・柔軟な働き方への対応と、人材確保（人的資源）が必要だと思います。
男性	30～39歳	女性への優遇ではなく、男性管理職世代のプライドを再教育するべきと考えます。社会生活における男女性差を特に感じていない世代は増えてきており、あからさまな女性優遇は男女の分断を生んでいるだけと感じます。結局、意志決定する人間が高齢男性である事が多く、この世代を再教育するか、引退を待つ方が総コストを抑えて、目指す社会の実現に近づけると感じます。
男性	30～39歳	本人の自由なので、行政がムダに予算をつける必要はない。私も他の自治体に勤める地方公務員ですが、逆に生きづらい世の中になっていると感じます。
男性	40～49歳	私は男女共同参画社会を否定するわけではありませんが、完全な男女共同参画は難しく、また実現すべきではないような気がします。というのは、人間も動物である以上、「雄は狩り」「雌は授乳」という本能からあまり逸脱すべきではないと思うからです。もちろん、女性が社会に出れない環境というのは無くしていき、シングルマザーや保育園の待機問題は解決すべきと思いますが、例えば、女性が稼いで男性が主夫として育児をするような家庭が増えてきた際に、どういった子どもに育つのか不安です。やはり家庭に「母」は必要であり、男女が入れ替わっても同じ結果が得られるというような意味の「男女平等」には懐疑的に感じる部分もあります。
男性	40～49歳	最近女性ばかりに過剰な配慮をして、男性が割り喰っているように感じます。男性の目線から言えば、昨今のあらゆることに対して、すぐに〇〇ハラメントなどの言葉を用いて男性を糾弾しようとする今の社会においては、女性と同じ空間で仕事をするそのものが非常に大きなリスクを感じてしまいます。男女それぞれの特性を尊重しつつ公平かつ平等な社会の仕組み作りが必要だと思います。
男性	40～49歳	とにかくアンケートが硬い。もっと、取っつきやすくしてほしい。鎌ケ谷の自然と一次産業縮小、衰退していて悲しい。緑を大切にしないのに男女平等とか言ってる場合ではない。鎌ケ谷の良さ、本質を見違えているのではないか？ 私は鎌ケ谷が大好きです。梨の花咲く鎌ケ谷、「ようこそ鎌ケ谷へ」をもっと大切にしてほしい。梨と緑が育てる男女の平等があってもいいじゃん！
男性	40～49歳	・このアンケート自体、紙で行くと送料や集計に金と時間がかかるのでデジタルにすべき。・男女共同と言いつつ、アンケート内容が女性に寄り添いすぎな気がする。・税金対象等、世帯主の年収を基準としているが、世帯主ではなく世帯（男女計）の年収で試算すべき。
男性	40～49歳	男女の違いを正しく理解すること、その上でお互いがお互いをサポートすること。
男性	40～49歳	個人的な悩みなど、解決できるまでの仕組み作り（例：市町村間を超えた専門機関との連携など）鎌ケ谷市だけではなく広い関係性の構築が必要だと思います。
男性	40～49歳	男女平等でなくて良いと思う。男は男、女は女でいい。
男性	40～49歳	鎌ケ谷市は女性市長で任期も長いので、市長ご自身がその活動をもっと市民に対して発信し、市民の評価を高めるような活動を更に強化して頂きたい。
男性	40～49歳	男女共同参画社会など、お題目を掲げる必要はなく、今まで通りでよろしいかと思う。個人的に"男は男" "女は女" 男女平等ではないと考えていますので、固定化された意識や慣習が悪いと思ってません。世の中が多様性を求めすぎるため、現に、職域、学校、地域、家庭などあらゆる分野が低迷していると思う。鎌ケ谷市から男女共同参画社会ということに突き進むのではなく、今一度考えるべきだと思う。
男性	40～49歳	固定化された意識や慣習がなくなると、どうにもならないと思います。
男性	40～49歳	行政と民間が協力して対応する必要があると考えます。一方で、現在（過去含む）が、悪いとも感じていません。
男性	40～49歳	女性の社会進出を支援する中で、行き過ぎた理解や過度の保護を監視、抑制する仕組みを作る。女性の権利や発言権などが過大に評価され、むしろ男性が生きづらい社会になっていると感じる。「それは拡大解釈ではないか？」という視点を持ち、男性が生きづらくなっている現実がある事は、注視されたい。
男性	40～49歳	皆がお互いを尊重できる社会になると良いですね。
男性	40～49歳	今は分からない…
男性	40～49歳	男女と区別だけでなく、多様な人種を受け入れられる様な支援が必要だと思います。多様性が一般的になれば、自ずと男女の差別（区別）も意識しなくなると思います。
男性	40～49歳	男女共同参画の背後に共産主義思想があります。ニューヨークでは女性の消防士を増やしましたが、体力がなく使い物になりませんでした。性転換手術をした多くの若者が、手術後の後遺症で身体がボロボロになっています。詳しくは「悪魔が世界を統治している」という本を読んでみて下さい。伝統的価値観からいえば、男女は助け合って生きるものです。男らしさ、女らしさは大切です。男には男の役割、女には女の役割があります。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
男性	40～49歳	男女平等の精神は素晴らしい事。女性に対してはもちろん、男性に対しても対策が必要。どちらか片方だけでは平等ではない。対策そのものも正しいかどうか確認し続ける事。自分の意識も偏っていないか、偏っていたとしてそれを自覚しているか、確認し続けていきたい。
男性	40～49歳	社会的地位の高い男性の意識改革が必要と思われる。また、子どもへの教育が重要。
男性	50～59歳	男女と問う時点でまだ表現が足りていないので、選挙などでもっとアピールした方がいい。絶対的に男・女で差がある事柄もあるので、一概には言えない事もあるはずなので、適材適所を判断できる仕組みを作る事が重要です。難しい事ですが、見た目で判断しない意識を養っていく教育を作る。現代教育者が不埒な行動を取る事が目立つので、教育の見直しも必要。SNSで今まで目立たなかった細かな事も拾われて世間にさらされる事が多く、モラル、マナーなどに対し、たまに間違った正義をふりかざす人もいるので、行き過ぎた押しつけをしない教育も必要。
男性	50～59歳	このアンケート自体の意義に疑問
男性	50～59歳	女性の社会進出は賛同する。ただし、管理職は男女関係なく能力で判断すべきで、一定数（一定割合）登用するという考え方には反対。
男性	50～59歳	出産などのように、どうしても女性でないと出来ない事をもっと尊重し、社会の中で女性の立場を強いものにしなければならない。そのためには、「女なんだから」とか「女性の仕事だ」という考えを持っている人は早々に引退して頂き、男女平等の阻害要因を1つずつ取り除いていく必要がある。力仕事は男がという考えもあるが、道具を使えば大概の事は解決できる時代になっている。能力のある女性の活躍を期待し望んでいます。協力できる事があれば積極的に参加したいと考えます。
男性	50～59歳	男女平等社会をより強化してほしい。
男性	50～59歳	男女共同参画そのものに異論はありませんが、自治体が「啓発事業」と称して講演やイベントを繰り返すことは、効果の割に費用がかかりすぎ、税金の無駄使いになっていると感じます。すでに男女平等の理念は社会に根付いており、役所がキャンペーンをしなくても、人々は自分の意志で学び、働き生活しています。国や自治体が関与するのはなく、民間の自由な活動に任せる方が自然で持続的な変化につながると思います。
男性	50～59歳	唐突にこのようなアンケートを実施する趣旨がわからない。「男女」に送るなら我が家にいる全成人をアンケート送付すべきだが、自分宛のみ。しかもいい紙使って経費かけて・・・そんなに金持ってたっけ、鎌ヶ谷市。そんなことより船取線と木下街道の渋滞、何とかして。
男性	50～59歳	色んな事が関連し合っただけで社会が成り立っているから、バランス良く理想的な社会を実現するのは難しい。
男性	50～59歳	・本人のやる気。 ・好奇心の触発。 ・道德教育。
男性	50～59歳	男女の肉体的な差はきちんと理解した上での平等の実現を目指す。
男性	50～59歳	難しい問題であると思います。まずは行政が取り組み、社会に浸透させていく事が良いと思います。
男性	50～59歳	女性の出産後の待遇に、変化なく受け入れる体制。誰もが休みを取っても、会社が回る制度づくり。
男性	50～59歳	制度の問題だけでなく、長期的目線で社会を変えていく必要がある。女性の社会進出のために「ゲタ」を履かせるばかりでなく、男性の仕事からの解放も必要であると考えます。
男性	50～59歳	私は男女が平等と思っておらず、仕事でも何でも適材適所で良いと思っています。人間として、人として平等である考えは持ちたいと思っています。政治、政策等、決め事をする場などには男女比を合わせるのには良いと思うが、仕事などは適材適所で、男女比を気にするべきではないと思っています。
男性	50～59歳	日本政府の誕生以来、緩やかに男女共同参画社会は浸透していると思います。生物としての雌雄を有する人類が、本能を超越するには時間をかけて、建設的な知見を得ていく必要があるでしょう。若年層と高齢層のジェネレーションギャップですら解決の一手がないことより、男女のギャップは深く、難しい事だと思います。今できる事は、子ども教育の中で大いに議題として議論し、考えていくことが必要かもしれません。質の高い学校教育に力を入れていただきたい。
男性	50～59歳	男女が共に尊重し合う事が大切と思っています。
男性	50～59歳	男女共同参画もとても大事だが、それより市政の充実をしっかりとっていく事が最優先である。行政に問題点が多々ある。
男性	50～59歳	平等を正しく理解する事が重要だと思う。支援＝優遇と勘違いしない様に。個を尊重すべきで、集団でないと何もできない（やろうとしない）のは卑怯。教育の質を向上し、精神的に豊かでなければ、他を敬えない。
男性	50～59歳	セミナーや講演会などでアピールしていく。
男性	50～59歳	市長、議員、市職員は、男女の性別でアピールやアンケート、任命するのではなく、能力に基づいて実行、アピール、任命したら良い。
男性	50～59歳	男女は平等であり、職域、学校、地域、家庭などのあらゆる分野で差別があってはならないと思う。だが、男と女は同じ人間ではあるが、身体も、脳も、作りが違う。スポーツの競技や着替えの場所やトイレなど、男女は別々に分けられるが、これらは区別はされるけど、それを差別とは言わない。つまり、男女は平等ではあるが、男性には男性の、女性には女性の合った生活スタイルというものも、考える必要は場合によってあると思う。
男性	50～59歳	自主的に声を上げようという責任感まではないが、困っている人や平等に向けての取組には、協力していきたいと考えている。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
男性	60～69歳	この問題は少子化と深く関係している事を行政の方全員で考えていただきたい。
男性	60～69歳	偽りのない公平な政治。
男性	60～69歳	実態の把握と課題を認識できないと自分事化できない。
男性	60～69歳	男と女は本来、生物が別物であるという根本的な教育、考え方が必要。必要以上に男女平等を謳っても根本が違うので、男と女は相互に理解するのが第一優先。各々の個性を生かした支援が必要。
男性	60～69歳	まず、市（役所）が見本をみせること。管理職の%Upなど、結果をみせて欲しい。
男性	60～69歳	男女平等とはいえ、女性が働く状況が多くなれば、結局、結婚の意識が遠のく。あまり平等ばかりを強調すると少子化は止められないと思う。
男性	60～69歳	男女差による不幸、苦痛、悲劇の実態例を知らない人がたくさんいるので、その事を知らせる、聞かせる、見せることが大きいと思います。"立場"の違う人の思いを知らない人が多いのですから。
男性	60～69歳	早急な実現は不可能。時間をかけて世の中の仕組みや人の考えをその方向へ導く。
男性	60～69歳	このアンケートは「紙」でなくWebで出来るようにすべき（省コスト、省資源のため）。
男性	60～69歳	古い人が少なくなってますから世代交代で、男女の差はなくなってゆくと思います。ただし、男も女もお互いにもっと勉強して自分をみがく事が必要だ。ポーっと生きてんじゃネーヨー！ インターネットで情報の量が増えて、いろいろな意見がみられるが、変な人が多すぎます。匿名の暴力がひどい！
男性	60～69歳	関係ないことですが、紙媒体でしか回答できないことに大変驚きました。現代においてQRコード等の用意のないアンケート、それも行政のアンケートでこのような事があってもよいのかと疑問に思いました。次回このようなスタイルであつたら、もう回答しないと思います。
男性	60～69歳	アメリカのバイデン政権時代に無理矢理LGBT法が可決され、ごくごくマイノリティの人権をマジョリティの人々に強制的に押しつけ、少数派を過度に守りすぎて、日本がおかしな方向に傾いてきた。LGBTの方の人権ももちろん大事ですが、あまりにも平等という言葉を盾にして、大多数の人を虐げる結果になっていると思う。男女が人として平等であるのは当たり前ですが、体のつくり、考え方など、生物学的な違いがあるので、やはり男性の得意な事、女性の得意な事は違うので、何でもかんでも男女共同参画にする必要はないと思う。
男性	60～69歳	家庭内の役割は男女というより、主たる生計維持者が誰かによるものと思いますし、普段から"男性""女性"という言葉は使う必要がない言葉で、そもそも男女差を感じていなければ不要な言葉と思います。行政やマスコミが過剰に使っているだけで、私自身男女を意識する機会はほとんどありません。世間に言われてなのか不明ですが、勤務先の人事（昇格）も女性優遇と思う事さえあります。優秀な子どもはほとんど女性ですし、最近の社会生活で接する相手もほとんど女性で、働き盛りの男性は一体どこに行ったのかも思います。男性の方が弱者のように感じますし、今回のアンケートも、現在、男女間で問題の所在がどこにあるのか、私にはびんとこないものであります。
男性	60～69歳	本アンケートをWeb対応が良い。経費や集約作業を考慮すると…。男女共同参画社会を進めるには、幼い頃からの教育が必須。公共団体では女性の登用人数を多くし、男性と同様の職に就ける様に配慮する事が必要。
男性	60～69歳	「自分の意志」がキーワードと考えます。家庭や学校で、自分で考えて行動する事の重要性を植え付ける教育が大切だと思います。私は、「男だから、女だからこうしなければならない」という考え方はなくしてほしいと考えます。男、女ではなく「人」です。
男性	60～69歳	行政として軽薄な世間の風潮に流されず、人間の本質や性差も踏まえた施策をとってもらいたい。
男性	60～69歳	何が問題なのかを、もう少し地域等、知らせる事をした方が良いのかと思います。
男性	60～69歳	誰もが一個人として尊重され、認められる社会を望みます。
男性	60～69歳	男女共に思い合う事です。
男性	60～69歳	まず、生活していく上での経済的な自立ができる働く環境（仕事内容、職場、家庭）を整える制度や仕組みを作る。男女共に社会の一員、家庭の一人としての自覚（役割と責任）を促し、それを実行に移せる環境を作る。これらを支える社会の理解と支援の拡充を図る。
男性	60～69歳	設備や条例の整備も重要だが、それに伴う草の根活動を、自主的かつ組織的に行う必要性を感じている。
男性	60～69歳	男女の性別関係なく、お互いに楽しめる交換の場（情報、趣味、他）を広く設けて頂く事を願っています。また、一人で悩む、悩み続ける事による孤立化を未然に防ぐため、市全体が一丸となって検討して頂く相談窓口を開設してもらおう事を期待しています。男だから、女だからといった固定概念を捨て、誰もが気軽に話せる環境づくりが求められると思います。
男性	70～79歳	個人の概念、信念、考え方の変革が必要な事柄もあり、市レベルでは手に余る事が多いように感じます。
男性	70～79歳	同事業の対照範囲が広く、参加の難しさが感じられてた。
男性	70～79歳	鎌ヶ谷市は小さな町なので、大変事が多いと思いますが、今、農業している者として言いたい事は、年齢も多く体力も下がって大変なのでやめたいが、土地が市街化調整畑なので売る、貸す、物をやるのが全然だめなので今、困っています。早く調整区をやめて正当な方法で市に頼んでいる人々はいっぱいいると思うので、それを実現して農家を良い方に行くようにして下さい。本当にその事は困っています。農家は本当に困っています。よろしくお願いします。
男性	70～79歳	男社会で生きてきた我々高齢者に、男女共同参画社会のあり方等を教育してほしい。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
男性	70～79歳	以前に、男女共同参画事業に2回参加しました。その活動が、市が事前に計画した作業的なものでした。がっかり。参画とは名ばかりで、もうごりごりです。現状では新たな問題点発見とそれを改善すべき活動がストップされている様です。参画事業とは名ばかりはもう止めましょう!
男性	70～79歳	市役所始め地域の公共施設を利用して、だれでも参加できるイベントや沢山の趣味の会の参加（行政だけでなく民間の人も参加しての意見交換）。時間を持て余している高齢者が多いので⇒活用する。
男性	70～79歳	今後も夫婦のみで生活していきます。
男性	70～79歳	小中学生への教育が必要だと思う。低学年から男女共同参画の教育が分かりやすく説明し、理解させる事が大事だと思います。現在の70～以上の方は、男は働き女性は掃除、洗濯のパターンの方が多いと思う。
男性	70～79歳	・男女共に意識改革が必要だと考えます。
男性	70～79歳	最後の問を一番前に持っていき、年代や現場の環境により問を変えるべき。国との調査分析をしていた者としては、正確な調査結果が得られるか疑問。
男性	70～79歳	仕事や行事に対し、「女性を積極的に登用する」と設問する状況を変える必要があります。こうした設問をしなくて良い社会を作る様努力すべきです。 ※返信用封筒が小さすぎます。
男性	70～79歳	従事できる仕事と安定した収入があつての社会生活（豊かな）！社会構造の変革と、行政の適確な支援が不可欠であると思う！
男性	70～79歳	特にありません。かなりボリュームあるアンケートだったので、全員にクオカードとかお礼があると嬉しいです。
男性	70～79歳	夫婦の家事、育児の協力関係は、男女共同参画の第一歩であると考えています。私は退職後、食器洗い、片付け、風呂洗い、洗濯干し、取り入れなどを行い、妻と家事分担していますが、家事は結構大変だと分かりました。私の健康にも良いし、妻も余裕ができて、家庭が円満になった様に感じています。夫婦の家事、育児での分担、協力は当たり前という考えが広がる事を期待しています。
男性	70～79歳	性差による社会的適応力は千差万別。男性ならではの、また、女性ならではの・・・と、いい面、悪い面がある。いわゆる凹凸の社会だけに、これがうまくみ合えばいいのだが・・・。何でもかんでも平等平等ではなく、性に応じた対応も時には必要。行政が性差が及ぼす社会生活等にあまり手を差し伸べることは関心できません。形（型）を作っても生理的な問題だけに、そうは簡単にうまくはいかないと思います。
男性	80歳以上	高校生以上の方、家庭意識を重視してほしい。
男性	80歳以上	外に出て、多くの人と友達付き合いし遊び事。
男性	80歳以上	私は中部小の近くに住んでいる者です。鎌ヶ谷駅前自治会の防犯パトロールをしておりますが、地域のためになればと思い、中部小の下校の時間に正門前にて子ども達に声かけをしております。私がやっている事に「お前のやっている事は地域のために何もなっていない」と言う人もいますが、私は子どもが好きで、子ども達はみんな自分の孫と思い、これから元気である限り続けたいと思います。
男性	80歳以上	俗に申すところの戦前生まれの後期高齢者にとりましては、生活習慣もしくは慣習の習いの中で長らいてまいりましての今日、各設問の内容主旨等々に馴染みを覚え、理解には遠く、当惑した次第です。よってまさに期待されるに添えられず、誠に恐縮です。
男性	80歳以上	高齢なので、あまり参考にならないと思います。
男性	80歳以上	教育現場の実情はよく分かりませんが、やっぱり小学校、中学校など、小さい時から男女共同参画に関する教育、啓発が必要だと思います。小さい時からそういう意識を持つ様に育てるという事が、成人してからも活かされるのではないのでしょうか。
男性	80歳以上	本アンケートに感想ですが、各設問文に役所の上から目線を感じてしまい、馴染みませんでした。市民に親しめる質問をお願いします。
男性	80歳以上	この年になって仕事、ものづくりをしてきましたが、自分の意志で職域、学校、地域、家庭など興味が湧いてきた。今までは何の興味もなかった。ただ仕事々に家庭を守ってきた今のアンケートなんて、自分の頭になかった。でも、これからの子ども達は、これから生きていくのには大変だと思った。気候変動、学校、就職、親も大変。いつの時代も同じかもしれないけど、先が分からない、やるしかない、少しでも子どもに援助してやりたい。81歳だけど、まだ現役で働いている。まだ社会に貢献しなければと思う。体が動く限り、頑張るつもり、以上。
男性	80歳以上	社会全体でジェンダー平等の実現に向けて取り組んでほしい。
女性	18～19歳	50代後半、フランチャイズや個人営業など上の立場にいて、部下や学生アルバイトを雇っている、固定化された意識や慣習にとらわれている方に向けた講習を行ってほしい。
女性	18～19歳	ずっと昭和の頭の人がいるように、概念や意識を簡単に変えるのは難しいので、次の世代の若い子たちに、その意識を継がせないことが大事だと思う。
女性	20～29歳	新鎌ヶ谷エリアでの5年保育が少なすぎます。フルタイムで働きたくても働けない状況がうまれています。小規模保育園後の預け先がないです。
女性	20～29歳	育休や産休の取得条件や期間を同じにする。私の職場は女性が長く男性が短いので、「子育て＝女性の役割」という印象が当事者も周囲も無意識に植え付けられてしまそう。
女性	20～29歳	保育園にそろそろ入りたいです。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	20～29歳	女性が仕事を産後も続けられることや男性が家事、育児に関して積極的であることが求められることだと思う。だが、女性と男性は脳のつくりや体の形からして違う生物だと自分は考えているので、差別をなくすことや共同参画は難しいと考える。
女性	20～29歳	このようなアンケートを定期的に様々なところで行うべき。
女性	20～29歳	出生数を増加させ、鎌ヶ谷市の人口を増加させる。
女性	20～29歳	子どもができてから、育児と仕事の両立がいかに難しいのか理解しました。経済的な支援がもっと充実すれば自分だけががんばるという事なく、もう少し子どもとゆっくり自宅での時間が過ごせたのかなと思います。また、復帰してから子どもの病気で仕事を休むことが多く、任される仕事の量が少なくなりました。働く親への支援がもっと充実すれば、育児と仕事の両立が叶うのではないかと思います。
女性	20～29歳	いつもありがとうございます。幸せに思うことのできる社会となれるよう、私自身も携われる人となるよう、意識していこうと感じました。機会があった際には、ご協力させて頂けたらと思います。
女性	20～29歳	共働きでも子どもが育てやすい環境を作ってほしい。→子どもを作る様に色々な面で安心したい。
女性	20～29歳	現在25歳ですが、3年後、5年後、出産に伴い仕事に不安です。産休、育休中の手当、保育園に入れるか、フルタイムで働けるかなど。まだ調べてないので、大まかな仕組みや制度しか分かりかねますが、良くなる事を祈ります。
女性	20～29歳	今後、子育てなどライフステージが変わった後の生活が心配で、女性が出産後も経済的安定や職場復帰しやすい環境があると良いと考えています。
女性	20～29歳	今まで当たり前の様に男女で分ける事で、立場や力、役割などを決めていた私達にとって、「どちらも人間だから」というのは理解しているけど、難しい問題だなと感じます。しかし、ここで「男が参加する事で！」や「女がやる事で！」など、性別を誇張して活動や取組を行う事は、個人的に何だか違和感を覚えます。皆さんが色々な事に対して理解を深め、お互いが尊重する事で、もっと生きやすい社会になるのではないかと思います。この度は貴重な機会をありがとうございます。
女性	20～29歳	必要な人に必要な時に、誰もが支援を受ける事ができる体制へ少しずつ変わっていく事で、差別がといった意識も薄れていくと感じます。男女というより個人の意識が大事だと思います。
女性	20～29歳	一人一人が自分らしく生きていける様、仕事、私生活を充実させ、生を楽しめる社会になってほしいと思う。
女性	20～29歳	社会において性別にとらわれず生きていくために、男女共同参画社会を実現する取組は非常に有効に働いてくると考える中で、今の小中学生には男女共同参画という性別の枠組みだけでなく、あらゆる多様性を尊重するダイバーシティを理解する学びが届けられると望ましいのではないかと考えます。見える世界が限られる幼少期に「人は皆グラデーションである」ことに気づくことで、互いを尊重し合える人間関係をつくる感覚を養うきっかけになると好ましいです。
女性	20～29歳	防災訓練や町内会の行事などでも、女性の意見や若い世代の声がもっと反映されると多様な視点が活かされ、より安心して暮らせる地域になると思います。東京に比べると、まだまだ古い考えが根付いているなど引越して来て強く思いました。（「男は外、女は内」みたいな考え）こうした考えをなくして、性別に関わらず誰でも挑戦できるようにすることが、男女が協力し合える地域づくりにつながると思います。あと、こうした活動を新鎌ヶ谷駅付近だけでなく他の地域でもしっかりわかるようにしていただきたいです。
女性	30～39歳	性差にとらわれない働きやすさのある環境が大事であって、半強制的に男性及び女性が働かされる、参画させられないような計画を策定いただきたいです。
女性	30～39歳	男女共に産休、育休を取っても、その後復職しても出世に響かないようにする。男女共同参画社会ですが、働いて社会を支えているのは主に日本人です。そのため、日本人がより住みやすい制度を実現してください。仕事や家事・育児と両立していくために残業を減らす取組を。
女性	30～39歳	そもそも女性の進出を支援というのが、男女平等でないと思います。（支援しないと進出できない社会であるとは思いますが。）男女の区別をなくすために意識改革（広報等）から始まり、徐々に企業や福祉等の男女区別の抵抗をなくしていくのがいいのかなと思います。
女性	30～39歳	男女共に仕事以外の分野に参画するには、家事、育児、介護のサポートと仕事を休んで活動した場合の賃金の保障及び勤め先の理解が必要だと思います。仕事と個人の趣味などの時間以外にあてる時間がないのが実情なので、興味を持ったとしても働き盛りの年代の男女が参画するハードルは高いと思います。
女性	30～39歳	女性枠、女子枠はなく、完全に能力で試験、昇進などを決める。母子手帳を受け取る時や妊婦健診で、女性は妊娠中の体の変化や子育てについて知る機会があるが、男性は自主的に知ろうとしないと感じる機会がない。「妻、パートナーが母子手帳をもらったら」という講習会等を開いて、妊娠、出産について、産後、子育てについて情報を与えるようにする。「夫→父」の教育を妻の負担にしない。
女性	30～39歳	啓発活動は大事だが、個人の意識改革だけでは難しい。また、家事、育児では保育園の問題ばかり取り上げられているが、家事が家庭内において極めて負担になっているにも関わらず、家事代行等のサービス活用はとて利用率が低い気がする。（毎日のルーティーンが同じ家庭が殆どだと思うので、アウトソーシングしやすいはず）→ 高齢者等の人材をもっと活用していく等、制度やサービスの充実は不可欠と考える。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	30～39歳	子どもをもっている主婦の方や事情があってフルタイムでは働けないけれどパートタイムで一生懸命働きたい人が、収入の壁を気にせず働ける制度にしていってほしい。能力も前向きな気持ちもあるのに、働く時間をおさえて勤務している人が自分の周りに多くいます。103万の壁から123万の壁へと変わったことは大きな変化でしたが、ぜひ鎌ヶ谷市としても新しい施策を打ち出していただきたいです。
女性	30～39歳	2人目が産まれたばかりの頃は両親に手伝ってもらったり助けてもらっていたが、主人は仕事が忙しく、朝は早く帰りは遅い日々だった。いろいろな制度はあったが使わず、なるべく早く帰れるよう努力してくれていたが、本当に大変だった。世の中の母親はこんなに大変なんだと身をもって知った。まだまだ男性が子育てに参加することの理解が少なく、母親がみて当たり前。できないとおかしいような社会の感じがあるので、せめて生後6ヶ月くらいまでは男性も積極的に参加する（強制的に）社会をつくってほしいと思う。
女性	30～39歳	私には子どもがいませんが、子どもがいなくても30～40代が交流できる場があると良いなと思いました。例えば、ヨガ教室や料理教室など。横のつながりを持つことがタイミングがなく難しいため、そういった取組があると嬉しいと思いました。最近は鎌ヶ谷市の取組がLINEで配信されるので、身近に感じることができてとても良いと思います。これから頑張ってください。
女性	30～39歳	女性が多い職場にいるのもあって、日頃それほど不平等を感じることは少ないです。むしろ男性側が肩身の狭い思いをしていないか、逆に不平等を感じていないかの視点も忘れてはならないなと思っています。また、アンケートもオンラインでもできるようにするとより効果的だと思います。
女性	30～39歳	私の職場は女性が多く、上に立つ人も女性が多いので、社会としては男女平等（むしろ男性の方が低い？）と思うことが多いですが、やはり家庭に戻ると男性の方が社会として立場があるのか、そこで差が出るように思います。（例えば、夜勤なら家のことをして仕事に行く、待機なら子どものことをどうするか考える）男性が文句も言わず、家事育児できるといいと思います。最後に男性の性欲の差もあります!! 私は仕事に家事に子育てに、そんな気にならないのに、なんで偉そうに誘ってくるのか、イライラしますが、謝ってしまう自分が嫌いになってしまいます。
女性	30～39歳	大人世代の意識を変えるのは非常に難しいと思いますし、悲しいですが期待もしていません。これからの世代、若者や子ども達には、男女平等は「当たり前」であるという考え方がスタンダードとなる様な社会づくり、教育がされていく事を切に望んでいます。どうぞよろしく願いいたします。
女性	30～39歳	男性は外で仕事、女性は内て家事、育児という考え方は、男性の収入だけで十分に裕福な生活が送れていた時代のものであり、現代は共働きでないと生活ができない時代に変ったという事を、主に男性側が認識する必要があると思います。時代が変わった事、それによって価値観も変える必要がある事、親世代とは同じではなく、自分達の世代は変化しなければならない事を、まず周知徹底する必要があると思います。また、行政も時代の変化に応じなければなりません。例えば、紙媒体の資料では市民に届きにくいので、ホームページ等では不十分で、SNSの活用が求められる時代に変化している等です。
女性	30～39歳	コツコツ少しずつ皆の潜在的な価値観を変えていくのが大切だと思う。男性、女性の良さ、違い、性差を認めつつ、寄り添って対等な存在になっていけると良いと思う。アンケートありがとうございます。男女共同参画社会、素敵だと思います。
女性	30～39歳	こういったアンケートで現状を知る事は大切だと思います。記述ではなく、Web回答ができる様になると良いと思います（労力、コスト含め）。
女性	30～39歳	保育等のサービスを充実する事で助かる家庭も沢山あるかと思いますが、結局そのしわ寄せは預けられる子ども（または要介護者等）へいってしまうと思います。子どもも無理せず、親も無理なく暮らしたいと日々考えています。良い提案があるわけではなくすみません、応援しています。
女性	30～39歳	私は社会が許せば家庭に入り、専業主婦になりたかった。「女性への機会」ばかりを推進する現在のやり方には疑問を感じる。男女関わらず、仕事でも家庭でも自由に選べて、男女関係なく能力のある人が重用され（「女性が重用される様に調整する」のは違う。そこに能力のある男性しかいなければ、男性だけで良いと思う）、男女というカテゴリーすら必要のない社会が理想である。「家庭に入りたい男性」への支援は全くないので、「専業主夫」「専業主婦」「ワーパバ」が普通にありふれている社会を目指してほしい。
女性	30～39歳	・鎌ヶ谷市は、他市より保育園への応募規定が厳しく（月15日以上、1日4h以上）、他市から移住してきた際、保育園へ入れず退職するしかなかったため、市から「働く事を妨害された」気持ちでいっぱいでした。月60時間以上働き、納税する者（育休からの復職者等）には、せめて「応募ができる」チャンスを与えてほしい。女性が働きに外に出られる環境を整えてほしい。・鎌ヶ谷市は障がい児への児童福祉に手厚い印象です。そんな子を持つ親（特に母）は、なかなか働きに出るのは難しく、働きたいのに働けない状況です。子が学校に行っている5hほど、人手不足の学校等（子育てに理解のある現場）で補助として働ける様な求人があると、救われる人が多いと思います。
女性	30～39歳	既に協力し合っている様に感じます。男女共に、これ以上やる事が増えてはパンクしてしまうのではないかと心配です。子ども達が自由に遊べる空間がもっとあれば、母親としては嬉しいです（小学校の校庭開放は週一のため、子どもはストレスが溜まる様です）。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	30～39歳	日本はまだまだ男尊女卑の世の中だと思います。少子化だからと、沢山子どもを産んで育ててください！！それには、できる環境をまず、作り上げる事が先決です。政治家、会社役員など、考え方がなっていない！！私の母は、男社会の中で努力し、昇進し、役職に就いて、仕事も責任ある仕事を沢山任されて、こなしていました。でも、子どもを産み、育てる母親になった時、仕事と子育てを両立できる環境がなく、悩んで仕事のキャリアを諦めました。母は専業主婦になっても、色んな事を沢山頑張ってくれました。専業主婦の仕事の内容は、色んな仕事を掛け持ちして、こなしている様なものです。世の中の真面目な専業主婦が、家事や、子育てや、安心してこなせて、男性達に尊敬してもらえる様な世の中ができればと願っています。専業主婦に給与を給付する！！（毎月30万円）→少子化対策の一番の解決策だと思います。
女性	30～39歳	上層部をおじさんで固めている様では駄目だと思います。市長が女性なので、周りをパワフルな女性で固めて、強い市を作り上げてほしいと思います。ご当地戦隊、女性ヒーローを作り上げるなんてどうですか！！！！
女性	30～39歳	私は、結婚してから男女差別や女性の負担だけが明らかに大きい事を感じる様になりました。女性だけ苗字が変わる事、それにより、嫁に来たのだからという様に義両親からの態度も変わりました。家事は女がやるものだし（当時共働き正社員）、夫からの暴力をふるわれる様になりました。妊娠すると会社ではマタハラが酷く、つわりが酷くても休ませてもらえませんでした。嫌がらせされる事も何度もありました。子どもが生まれてからも夫の暴力がよくならず、警察署へ相談に行きましたが、女性警官の方に「女性なんだからあなたが我慢すべき」と言われました。女性蔑視を生み出しているのは女性なんだと思います。その時はっきりと「それはおかしい」と言えなかった私も良くなかったと思います。女性が女性蔑視を受け入れてしまう事のない世の中になってほしいと思います。
女性	30～39歳	相談できる場所などの提供。
女性	30～39歳	男女の区別自体は必要な事だと思う。これがなくなると、男性が女性用トイレを使用できないのはおかしい、などと言う人間が必ず出てくる（絶対ここまでエスカレートする）。最低限、その性としてやってはいけない事を決めた上で、そうでなければ本人の希望を通すのがいいのではないと思う。男女が共同参画社会を実現するためにやった方がいい事ではなく、共同参画社会であっても、ここだけは踏み越えてはいけないというのを決めるのが先だと思う。
女性	30～39歳	・男女という触れ込みは、肉体的な差としては必要だと思うが、人権という概念で捉えた方が汎用性もあり、展開しやすいと思う。今20代以下の人は、性別だけで物事を測ろうとは思っていないと感じたりする。・DVや文化的な違いによる違和感は、渦中にある本人は分かりにくい。気軽に啓発の文言が目につくと良いと思う。・近隣の教育機関、大学のゼミのフィールドワークの一環として、鎌ヶ谷に来てもらい、客観的な目線で何か一緒に考えてみる。
女性	30～39歳	独身で子どもなしの女性は、男女が共に協力し合う社会は主に職場となります。そのため、更なる女性のための職業支援（リーダーシップ以外にPCのAI関連）を充実させて、弱点？であるホルモンバランスを整えるイベント（ヨガ、漢方、薬膳etc.）を実施頂ける事を希望します。
女性	30～39歳	平等ではなく公平を目指すべき。
女性	30～39歳	幼稚園や学校などで、家事や仕事に対しての「思い込み」を意識しない様な、関わり方をしていく事が大事だと思います。家では年配の方々の言動で、私も随分不自由な思いをしました。子ども達にはもっと柔軟な考え方で、自由に、でも一人一人が責任のある生き方をしていってほしいです。大人の考え方を考えるのはとても難しいです。
女性	40～49歳	男女関係なく、"やりたい"と思うことを性別で判断せずに取り組んだりチャレンジできるようになればいいと思います。私の職場は性別関係なく仕事に取り組むことができ、とても良い環境だなと思っています。
女性	40～49歳	子どもたちにSDGsの考え方が大人より浸透していると思う。これは授業の中で積極的に取り入れてくれているから。男女参画、男女平等も子どもの教育の中でしっかり取り入れていくとよいのだと思う。子ども時代は男女平等は、結構あたり前なのに、社会に出るとあたり前ではなくなる。出産、育児は女性にはどうしても発生しがちだが、育児に男女の差はない。どちらでもできる環境を整えてほしい。
女性	40～49歳	子どもの話を聞いていると、すでに学校では男女の隔たりなく育ってきていると感じる。古い人たちがいるので、これからだと思う。
女性	40～49歳	男尊女卑って言葉があるくらい、日本の伝統ですしね…。どう頑張ってもパワーじゃ勝てない…。啓発しても家庭という閉鎖された環境に意識改革は難しいと感じます。期待しております。
女性	40～49歳	日本では長い間、性別役割分業の慣習があり、団塊の世代以上やその世代に育てられた世代は、なかなか男女参画ということを実現できずにいるが、社会が少しずつ変わってきているとは感じるため、男女共同参画社会を実現するために次世代を担う子どもに対し、性を超えて個性と能力を十分発揮できる機会を与えていくことが、実現への道につながっていくと考える。とはいえ、男には男の、女には女の良さがあると思うので、そこも上手に活かしたらよいと思う。
女性	40～49歳	推進センターがいつからあるのか知りませんが、機能してますか？具体的にどの様な取組を行っているのか、自治会活動がチ勢でも理解も把握もできてませんか？周知する事が大切かと思ひます。頑張ってください！！

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	40～49歳	自分が生きてきた中で、知らないうちに性別によって区別している事がある。やはり小さい頃からの教育によって、意識を変えていく必要があると思います。
女性	40～49歳	場を仕切る方が、男性が多い気がします。仕切る方にも女性が含まれていると、意見しやすいと思いました。
女性	40～49歳	認め合う事、受け入れる事、寄り添う事。
女性	40～49歳	一人一人のライフスタイルの変化に合わせて、働き方が選べる様にする。
女性	40～49歳	若い人は男女平等の意識があるが、年配者など年が上の人ほど理解が少ない。その様な人達の意識も変えなければ、本当の意味で居心地の良い社会にはならないと思う。大きな組織が率先して行動を起こす事により、社会全体での意識も変わるのではないかと思う。
女性	40～49歳	柔軟な働き方の推進。男女共に育児、介護、地域活動に参加しやすい様、フレックスタイム制度の普及。現在、午前休や午後休などの制度はあるが、1時間単位（30分）での遅れ出勤、早退などもっと普及すれば、子どもの病院受診や介護サービスの送り出しなどやすくなると思う。
女性	40～49歳	地域で今後防災訓練などしたら、男性がもっと参加してほしい。仕事さえしていれば、家の事は任せている様な考え方は、考え直した方がいいと思う。古すぎる。
女性	40～49歳	・幼少期からの意識改革。・料理教室や筋トレ、ヨガなど、気軽に参加できるイベント（同じ講師ではなく、男性講師や女性講師をバランス良く、老若男女誰でも参加できるイベントを定期的に開催）。鎌ヶ谷に住んでいて良かったと思える様、期待しています。
女性	40～49歳	国も地域社会、会社も子育て世帯への支援ばかり。子育て支援を否定はしませんが、独身で一生懸命生きている人達にも、もっとスポットを当ててほしい。独身は国の手当を受けられた事はありません。また、会社でも結婚や出産をしていない人は、時短の人や子育て中の人の仕事をカバーするばかりで、給料や手当が増える事ないまま、どんどん仕事量だけが膨大になる一方。一旦受けてしまった仕事その人達に戻る事なく、不満も口に出せない事に不公平感が拭えません。結局、こちらが仕事を退職する事になり、現在求職中。生活が厳しいのは子育て世代だけではなく、もっと社会全体を見るべきで、偏った支援はやめてほしいです。後、質問には関係ありませんが、市内の道路の渋滞、どうにかありませんか？
女性	40～49歳	子どもが小さいと、なかなかフルタイムでの仕事は無理です。「短期で」「すぐに」タイミーなどの、隙間時間などのバイトやパートができる所が増えたいと思います。鎌ヶ谷なら夏は梨のバイトや、小さい店でも隙間バイトができる場所が増えてくれると助かります。
女性	40～49歳	PTA活動や地域活動する時間帯がほぼ日中という事で、男性の参加が難しいのでは！？と感じる。男性は家庭の経済状況では柱なので、休んでの参加というのは現状的に難しいと思う。男女が共に…というのなら、現状に合わせた参加を促す必要があると思う（時間、場所、日時、年代など）。
女性	40～49歳	男女どうこうではありませんが…時短も育児も取りやすくなっていると思いますが、取る事で他の人の負担が増す事に変わりはなく、増えた負担に対する報酬がないというのが問題かなと思います。あれば、取る方も取らない方も気持ち的に楽になるので。
女性	40～49歳	年を重ねるほど固定観念に囚われている人が多く感じ、それを今更変えてもらう事はとても難しいと感じる場面が、自分の生活の中によく起こります。社会全体の意識を変えとなると相当難しいと思うので、子どもや若い世代に対する教育等で、将来的に社会の意識を変えていく事は、長い目で見て必要な事なんだろうと思います。
女性	40～49歳	・政治にせよ、一般企業の管理職にせよ、女性の割合が少ない分野にクォーター制を推し進める事は反対である。無能な女性がクォーター制の頭数合わせのためだけに登用されかねない。能力や素養を見込んで登用してほしい。・本人に能力や素養はあるが、「あなたは女性なので管理職に登用しません」というのは女性差別だと思う。妊婦に高所作業はさせないなど、常識的な配慮のみでよい。「女性だから」とか、「女性が」云々と議論になるが、前述の常識的配慮さえあれば、それ以上の配慮は社会的にも政治的にも不要だ。
女性	40～49歳	考え方も違うのに、実現するのは難しいと思います。・頭の固い世代から、固定観念を受けてきている世代を動かさなければならないのではないのでしょうか？・政治にも問題あり。・来年から徴収される独身税、差別です（やめるべき）。結婚したくてもできない人もいるのに、偽装結婚する人が多く出てくると思います。
女性	50～59歳	考え的には、男と女とかじゃなく、どの家庭も、一人親だとしても、親が二人揃っていても、私は平等にすべきだと思う。父親、母親が二人いて、働いていても生活は大変な人もいる。同じ子どもを育てているのだから、平等でいてほしい。不公平だと思う。給食とか旅行代金とか、学校費など、どんだけ費用がかかっているのはわかるが、それが一人親だからといって戻ってくるのが平等ではない。児童手当も高校卒業までいいと思う。学生なのだから。こうやって書いても、鎌ヶ谷市は変わらないだろう。税金ばかり高くて。
女性	50～59歳	60歳以上の働く場所を増やして下さい。
女性	50～59歳	私の親（80代）を含め、年配者の考えはもう変わらない（変えられない）と思うので、子どものうちから教育して徐々に変わっていくことが大切かと思っています。このようなアンケートがあるということは、男女が対等でない事が多いということですね。私は恵まれた環境で生活できているのだと思いました。
女性	50～59歳	家庭環境により変わるので、内容による相談窓口があれば、周知を図る。
女性	50～59歳	行動するためには、生活の安定が重要です。相談窓口等は有効ですが、鎌ヶ谷は生活インフラの整備を進め、暮らしやすい地域となって欲しいです。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	50～59歳	具合が悪くなったら、すぐ病院へ行ける。我慢せずに気兼ねなく行ければよくなるかも。そのために、ある程度稼ぎがないと困ってしまう。私自身、入院した時にけっこうかかったので、仕事もかなり休んでしまったので大変でした。
女性	50～59歳	学生時代までは男女平等に感じていたが、社会に出て現実を知りました（氷河期世代）。私が20代の頃と比べると少しずつ少しずつ良い方向に変化しており、今、私が20代であつたらずいぶん生きやすかったのでは？と思います。私より下の世代は男女が協力しあって子育てしているように見えます。実際のところどうなのか？はわかりませんが。私の世代とそれより上の世代が変わっていかないといけないと思います。でもアンケートで問われても"わからない"としてしまうことが多かったです。なかなか難しい問題ですね。
女性	50～59歳	芝田市長が鎌ヶ谷市長になってから、とても良くなっている感じがします。引き続きよろしく願い致します。
女性	50～59歳	男女共同参画社会についての知識がなく、今回のアンケートも曖昧で答えている部分が多くあります。離婚して何十年も経っており、子育ても介護も終わっています。金銭面でのサポートや子育てする上での環境が大切かと実感しています。
女性	50～59歳	世の中は確かに変わってきていると思います。男性も女性も意識改革が必要だと思います。（特に40代以上）
女性	50～59歳	男女共同参画について考えたことがなかったので、知ることができて良い機会になりました。私はパートナーに恵まれ苦労せずに生活ができていますが、いろんな環境の中で生活されている方にとっては「男女共同参画」の活動が必要なのだと思います。DVや性的少数者の方などが、皆と同じように普通に生活できる環境は、インターネットやメディアの力を生かして情報や活動を沢山の人の目に触れさせていけば受け入れやすいかと思います。また、学校でも道徳の時間を増やして、人と人との関わりとか、他人がどう思うか等、勉強ばかり重視の社会を変えていってほしいと思います。自分を含め、人を大事にできる人を育てる社会になればいいなと思います。よろしく願い致します。
女性	50～59歳	現在40代以下の方は、男女平等、男女共同参画の意識があり、実行されている方が多いと思います。ただ、60代以上の方になると、偏った考え方を持っている方が多いので、その考え方や意識の差を埋めることが課題だと思います。行政がこういった取組を進める事は大切だと思いますので、頑張ってください。
女性	50～59歳	障がい者（児）も地域活動に参画して、皆で考え協力できる社会を。優しい気持ちを老若男女、健常者、外国人共に持っていただけると良いです。標語や活動をしなくても、内々で終わることなく幅広く広報してほしい。
女性	50～59歳	LGB特にTQについて、性自認が不確かな小学生に、教育という名での押しつけをするのは絶対に止めてほしい。
女性	50～59歳	男女共同参画社会を目指したせいで、少子化になったと思っています。そのため、男女共同…には反対です。偏った意見で済みません。国は今更後戻りできないだろうから、これからも女性に助け！と言うんでしょう…。でも、絶対働いたら、婚期は遅れなくても出産は遅れる。よって、少子化に拍車がかかると思います。妊娠、出産がいつでもOKじゃない仕事もあります。私の理想は、昭和の様にお父さんが働く、お母さんが家を守る、近所を奥様達が見守る、帰宅した子どもに「お帰り！」と言って、ちゃんとお母さんが迎える。こんな当たり前の世の中を戻す事です。関係ない件ですが、近年外国人が増え、とても怖いです。何となく日本人が肩身の狭い感じで歩いたり…。鎌ヶ谷市は外国人を入れる事に規制を設けるのはいかがでしょうか？その事でイメージが良くなるかと思うのですが…。都営住宅住民の6割中国人…川口のクルド人、元々そこに住んでいた日本人が気の毒です。子どもに手厚くし過ぎるのも移民が増える原因だと思っています。急に日本に住んで、給食無料で食べて、日本語教室まであって…その経費は税金から…。中国人が沢山転入してきて、大変な都内の小学校を知っています。日本語を話せない子が中国語で大きな声で話し、パニックだそうです。親としても、そんな小学校には行かせたくない。私は娘夫婦には、将来家を建てるなら外国人がいらない所か調査する様に！とアドバイスしています。
女性	50～59歳	・Future link Networkなどのまちづくり企業とコラボ。・実証検証への参画。・流山には送迎保育stationがあるが、その様なHubを何か考案しては？
女性	50～59歳	男女共同参画企画（と思われる）のセミナーに、年齢で申込みを断られてしまい、ショックでした。
女性	50～59歳	ネットで色々な情報を発信して頂きたい。LINEも作って、質問コーナーも作って頂きたいです。
女性	50～59歳	男性の意識改革が必要。職場でも男性の方が役職が上がりやすく、男性優位な状況であり、そういった意識が家庭にも持ち込んでいる様に感じる。子どもの学費のため、家庭と仕事を両立してきたが、女性の方が負担が遥かに大きい。地域について…鎌ヶ谷でも外国人が多くなっており、移民を増やさないでほしい。安心して暮らせない！！
女性	50～59歳	男、女と区別する事なく、一人の人間として見る事ができる様になればいいですね。また、“こうあるべき”ではなく、個人の考えで自由に生きていける様になれば良いと思います。
女性	50～59歳	このアンケートは男女共同参画に関するものですが、なぜ性的少数者の件も入っているのか？その問題は少し違うのでは？と思いました。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	50～59歳	記憶では、賃金の公平性は公務員などの公的な所から始まった様に思います。利益を第一目標にしない職業が、率先して行う事から広がるのではないのでしょうか。教育現場、役所での事務方での女性の活躍は喜ばしいです。そして、同時に腕力で抑えようとする職種の警察で、女性の能力を活かした業務を行う様になると、不祥事の事例は減少するのではないのでしょうか。男性中心社会は男でないと、と刷り込まれたものが動いているので、少なくとも壁を壊そうとしている人（男女問わず）の足を引っ張る事は慎む様にしたいと思います。
女性	50～59歳	先ずは小さい時からの教育が大事だと思います。女性においては、出産、子育てで職場を離れる人が再就職しやすい様、もっと地域で後押しをしてほしいと思います。企業においては、管理職の意識改革が必要。男女の数を合わせたりするのは意味がない。優秀な人材は男女関係なく評価し、活躍の場は与えられるべきであると思います。個人的には、最近やたらとハラスメント（セクハラ）などが取り上げられるため、管理職（男性）は、女性を重要ポジションに起用する事を避けている気がします。意見交換会の様な場を沢山設けたらいいと思います。
女性	50～59歳	すでに若い世代の方は、性差に関係ない関係性を築いている様に感じています。私達の様な50代から上の世代が、考えを変えていく事が必要だと思っています。人口減少が続き、男女の別なく誰もが暮らやすく、活躍できる社会に今変える事ができないと、市、県、ひいては国の存続に関わる事態になりかねないと、危機感を持っています。市には積極的に意識改革を進める様に期待しています。
女性	50～59歳	・男女が共に協力し合う社会を実現するためには、まず義務教育の段階で学ばせる必要があると思います。また、男女平等、同じ必須科目にするのもいいかと。それに鎌ヶ谷市も賛同できたらいいかと思っています。鎌ヶ谷市をより良くするために、一人一人思いやりのある心を持って、助け合える地域社会になってほしいですね。
女性	50～59歳	こうあるべきと決めつけず、個人、家庭それぞれのベストを選択できる世の中になると良いと思う。
女性	60～69歳	男性の考え方が変わらないと女性は悲劇です。DVにあっても電話の履歴をみられたらと思うと怖くて誰にも相談できません。外出も細かく聞かれるので相談できません。きっと私のような人がまだいます。女性シェルターを誰にもわかるように広報して下さい。ネットで調べるのも怖いはず。私は家出しましたが、預金も家も相手ものになってしまいました。老後が不安です。
女性	60～69歳	まだまだ古い慣習や考えをお持ちの方が（特に高齢の男性）多い地域だと思います。自分の子どもや孫が自由に生活していける様、特に教育の場での取組を期待します。
女性	60～69歳	女性軽視をしない。学校でも平等を啓発する講義を積極的に行う。
女性	60～69歳	性別ではなく、本人の能力で正しい評価をする。女性を・をあまり主張すると男性に対しての逆差別になりうる。
女性	60～69歳	時代はどんどん変わっているのに、高齢者が古い考えのまま、いつまでたっても男は偉いと勘違いしている。セクハラやパワハラもまったく意味がわからない人が多すぎる。特に、年齢のいった政治家ですら、自分が間違っているとは全く気づかない。今は、ダメだと、とことん教育する必要があると思う。
女性	60～69歳	男性だから、女性だからと思ってしまう事なく、お互いを認め、できる事や不得意なことも理解し合いながら、協力し合いながら活動していける様になると良いと思います。
女性	60～69歳	とにかく独身なので、しかも働いていないし、どこにも参加できない感じです。社会生活に参加できたらいいかなあと思っています。そのためのサポート窓口がほしいです。
女性	60～69歳	女性、特に子どもを持ち仕事を続けられる社会が根です。先ほどから申します様に、少しでも楽に（のんきな意味の楽ではない）子どもを産み、働き続ける（自分の厚生年金を増やす）事が必要です。楽して子育てして仕事をできる鎌ヶ谷になれば、もっと若い世代の家族が増えていくはず。男女共同うんぬんはその基ができてからではないのでしょうか。それが実現できたら、鎌ヶ谷は子育て世代が増えると思います。息子達のためにも、それを望む。根は何か、そこから考えてほしい。
女性	60～69歳	公共の施設で働いています。LGBTQの方々などマイノリティの方が来ますが、私自身は通常の対応を心掛けています。社会の人々が、普通でいる事を心掛けられる社会であってほしいです。住みやすい鎌ヶ谷市になってほしいです。
女性	60～69歳	男性、女性共に意識を変える。特に昭和世代の男性には、“女に負けたくない”みたいな意識は大いにあると思う。また、女性もそういう人に諦めている所がある。
女性	60～69歳	男性が妊娠、出産が不可能な現実、男女平等には限界があると思う。そして個人個人の考え方、向き不向きで考えていけば良い。今の世の中、女性を優遇する傾向がある様に感じます。1年前まで（60歳まで）パートしていました…家事はやりながらでしたが、私はその生活に特に不満もありませんでした。男性も女性も何かをやるべき、何かをやらなくてはいけないと決めるのではなく、自分の周りの環境、それぞれの意志でそれぞれが決めていけば良いと思います。仕事も子育ても家事も、男女同じくらいやらなくてはいけないという事は決まっていなと思います。
女性	60～69歳	今回の様なアンケートが行われる事自体、男女差を意識している様に感じられるので、こんなアンケートが行われる事のない社会になってほしいと思います。とはいえ、人には向き、不向きがあり、家事の得意な男性もいれば、女性ですでに社会で活躍している人もいます。大切なのは各個人、“人”を尊重する事。力のない人が無理に重いものを持ちたり、繊細な作業が苦手な人がやらなくても、得意な人に任せれば良い。得意な事で助け合える社会になってほしいと思います。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	60～69歳	若い方はインターネット依存、年金生活者はスマホ使用が分らないと、世代が広すぎます。まず、世代別で先々意見を出し合ってもらい、男女平等方向へ前進していけばと思います。
女性	60～69歳	幼い頃からの教育が全て。
女性	60～69歳	男女共同参画社会のアンケートを頂くが、難しすぎてよくわかりませんが、取りまとめをする市民活動推進課の職員の皆さん、ご苦労様です。暑い日が続きます。ご自愛しながら無理せずお過ごし下さい。水分はこまめにとって、ご飯もしっかり食べましょう。お疲れ様です。
女性	60～69歳	私自身は幸運にも、幼い頃より比較的男女差の偏見外で人生を送ってきたが、大人になり、私の様な恵まれた環境の人は少数派だと知った。この問題は途切れる事なく一歩ずつ継続して、少しずつ意識を変えていく事を諦めない。そして大人は次世代へ、言葉だけではなく行動として、まず家庭から、地域から、微力でも繋げていきたい。
女性	60～69歳	国のトップが動かなければ、国民の意識も変わらない。天皇制についても、男系でなければ駄目だという反対で余計に進まないし、国会議員の女性の数も少ない。法律も男性の視点で作られた事によって、偏ったものになっている事もあるでしょう。女性の視点が加わる事によって、変わっていくのではと思います。
女性	60～69歳	東京都鎌ヶ谷の、同じ事で薬も同じ病院にかかったが、鎌ヶ谷は高い。なぜ？人口の問題ですか？
女性	60～69歳	固定化された意識や慣習にとられる事が無い様にするための意識づくり、教育、環境が必要だと思います。一人一人が物事に対してきちんと自分の考えを持てる事。考えを共有する環境がある事。自分と違う考えの人であっても、それを良い、悪いで決めてしまわず、それぞれの意見を尊重し合って、問題点を改善して共存できる社会になればいいと思います。
女性	60～69歳	・片親で子どもを育てるために必死で働いても、食費や学校のものなどが買えないご家庭がある様です。子ども食堂や学用品のリユース、塾に行けない子には学生ボランティアをつけるなど、経済状況に関わらず一定水準の生活をみんなができる様にあげられないものでしょうか。夏休みなど給食のない時期に、育ち盛りの子ども達の食べる物を十分確保してあげたいです。土日は小学校の空き教室を使って、補習コースなどできないものでしょうか？もしできたら、鎌ヶ谷の子育ての大きな魅力になると思います。理想は補習と子ども食堂のセットです。お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん皆で、市民全体で恵まれていない鎌ヶ谷市の子どもを育てられたらと思います。
女性	60～69歳	・この様なアンケートがある事は、まだ男性が強く、女性が弱い立場や印象が未だにある空気感なのか？と思いました。少しずつ女性の目線に立って優遇されつつある社会になってきたなと思いますが、男性しかできない作業や、女性が比較的できる作業もあり、男女の区別はあってやむを得ない場面もあります（力仕事等、女性は厳しいです）。子育て、家計等は夫婦で話し合う事で、他の方が意見する事ではなく、でも、社会が平等になる様にとの空気感は大事ですね。社会でも家庭でも十分女性は強くなってきてますし、今は女性が活躍している場面を多く見かける様になりました。同じ職場に男女様々いて、男性の得意な分野、女性の得意な分野が混ざり合って、弱い部分を補い合って進めていける職場や、家族、地域の関わりが良い空気感をもちたいと思います。それは理想ですが…。
女性	60～69歳	いくら制度を充実させても、男性、女性の意識が変わらないといけないと思う。子どもが3人いるので、103万以内しか働けないし、テレビのインタビューで女性が答えていましたが、私は保育士をしていたので、子ども3人保育園に預けて区役所の職員として働いている人や、正社員、正職員同士の夫婦で子育てをしている人を沢山見えています。子どもがいる、結婚しているから働けないと女性が言い訳にしているうちは変わらないと思う。また、女だから高卒、女だから三流大学でいい、男だから大学に入れる、一流大学に入れるという人が、私の周りに何人もいます。私はがんになり、抗がん剤の副作用で苦しんでいるのに、家の事は全てやらされました。私だけではなく、治療で辛いのに家族は全然協力してくれないという話も多く聞きます。女性で生まれたからには、意識がなくなる限り家の仕事をしなくては行けないと、現在も続いています。本当に男女が平等にお互いに助け合って生きていく社会なんて、後100年経たないと来ないと思います。
女性	60～69歳	政治不信、人間の質の悪さ…最悪です。長くそういう性格の人は変わらないし、年を重ねるたびに酷くなっていく様です。働いても働いてもお給料は上がらず、税金は増えるし、物価高…性格も怒りっぽくイライラするのめ仕方がないのかと思いつながら、男女共に同じ土台に立つのは難しいのが現実です。男女共に、まず“やさしさ”や、困っている人がいたら助けてあげる人が増えてほしいです。まずそこからだと思いますが、難しいですよ…。考えてもらえると嬉しいです。
女性	70～79歳	理想では素晴らしいと思います。大人になってからは、考え方はなかなか変わらないと思います。子どもの頃より小学校や家庭において教育していかななくては難しいと思います。
女性	70～79歳	高齢者の孤立問題を考えてほしいです。
女性	70～79歳	男性、女性、年少者問わず、基本的人権や個々のプライバシー等を尊重する。家庭教育、学校教育において、上記事項を心がける。
女性	70～79歳	私自身、仕事や生活面で女性だからという理由で、意志を曲げなければならない場面に出会わなかった。福祉関係の仕事に従事していたのも、一つの理由かもしれない。で、賃金格差は他の職種と大きく、男女を問わず賃金が低かった。このアンケートの答えにはなっていないが、問題は大きいと考え記す。鎌ヶ谷市は女性市長であり、市男性職員の育児休業の取得率が100%とあった事もあり、男女共同参画社会には大きな期待が持てると思っている。

性別	年齢	男女共同参画社会の実現のための意見や提案
女性	70～79歳	現在70代後半に突入、地域の老人クラブで第三の人生を楽しんでおります。ボランティアされる立場ではなく、ボランティアしていく事を模索中。
女性	70～79歳	3人息子がいて、2番目だけ独身です。仕事柄現場の仕事が多く、本人も望んでるので、女性と触れ合う機会がなく、市の方で婚活のチャンスを色々企画して頂けましたらと、広報見たり、地域新聞を見たり探しています。
女性	70～79歳	男女に限らず、個々の知識、見聞を高める。社会情勢に敏感になる。張り切りすぎて空回りしない様にする。
女性	70～79歳	・働きながら子育てをしている親を支援する制度を充実させるべきです。・例えば、子どもが発熱したときも見守る保育園を支援してほしい。・学童保育時にも、習い事を希望するのであれば、支援してあげてほしい（保育所内での習い事や、自習の手伝いなど）。
女性	70～79歳	長となるのは男性の方が圧倒的に多く、その考え方で色々決められていく面が多いと感じる。女性目線で考える事も大切であるが、面倒な事は男性に任せておいた方が男性の面子も立つし、任されて失敗した時に、やはり女じゃなと言われるのも嫌だから、やってもらえるならと一歩下がっている自分もいます。共同参画であるなら、自分自身でも知る、考える、努力するをしなければと思います。
女性	70～79歳	男女は、例えば力が強いのは男性、子どもを産めるのは女性という違いがあります。ただ、人としては同等だという事を教えるのは教育です。また、社会においては特に子どもが小さい時、親が休める時間を作る事が、心にゆとりを持って子どもに接する事ができる様になると思います。そのため、両親が週に1回ずつでも残業なしに早く帰れる会社のシステム、学童、保育園の体制、ファミリーサポートセンター等の活用と、あると思います。ただ、会社の役員（中小企業）としては、働き方改革で残業なしになると、会社の業務が滞ってしまうので、難しい問題です。あまり良い回答ができませんでした。申し訳ありません。
女性	70～79歳	・このアンケート、基礎調査の実施により、本市の第4次鎌ヶ谷市男女共同参画計画が充実したものになる様望む。・誤記がある。1項問2.11、リプロダクティブライツ・アンドヘルスは、正しくはリプロダクティブヘルス・アンドライツである。・4項（案）第3次鎌ヶ谷市男女共同参画計画【概要版】によるの基本目標、誰もが安全・安心に暮らせる社会づくりに関心がある。特に具体的施策の（1）リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する意識啓発は必要だと感じる。世界中誰もが同じ様に性に関する事や、子どもを産む事に関する健康と権利が守られる様になる事は、SDGs 5 - 6にも明記されている。
女性	70～79歳	男女共同参画というと、まだ多くの方が「女性の問題」と思われているのではないだろうか。これは「男性も問題」でもある。男性が生きやすくなると、女性も生きやすくなる。共にいたわり合いながら暮らしていける様にしていく事が大切。男性にとっての男女共同参画を考えてほしい。女性も辛いけど、男性も辛いと言える社会である事を願います。老若男女の共同参画の必要性。
女性	70～79歳	昨今の事件、通り魔、先生が盗撮するなどという事件が繁雑に起こり、信じられない様な時代になってきました。自由な解放的な考えが進み、街中を歩いていると目を背けたい様なファッションを見つけます。これ以上進むとどうなるか心配します。自分が育ってきた時代、華道に茶道に日本古来のお稽古を、今再び習い始めてますが、お稽古が基礎となり、人への気づかい、慎ましさを学んだ様な気がします。男女共同参画社会実現も素晴らしい事ですが、人間の基礎を学ぶ教育が根底にあるべきだと思います。
女性	80歳以上	PR不足
女性	無回答	いちいち何かにつけて性別が～差別が～と騒ぎ立てておかしうしているのは当事者達。大体性の自認って何だよ。男と女しかないんだよ。精神異常って認めるよ。（卑語記載）。心は女なんですって、本当にそうなら、（卑語記載）おっさんが平等♡って言いながら、同じ風呂場やトイレに入り込んでくる気味悪さ、恐ろしさを理解できる筈ですけど。だって女性の気持ち分かるんでしょ？多様性って騒ぐ奴に限って、そういう事を気にしない人間の存在を認めないよね。そんなのに無関心な人がいる事も多様なのに、異常者達を優遇する人種しか認めてないよね。配慮しろ？じゃあ変態異常者達はまともな人間に配慮をしていますか？すすきの、女装レイプ犯のジジーが首落とされたのは、調子に乗りまくった当然の結果だよ。
記入したくない	20～29歳	女性専用等は「女性」だけでなく、「男性専用」も作るべき。女性が少数だから女性を優遇しよう、男性が少数から男性を優遇しようではなく、男性も女性も同じ条件にするべき。どちらかを優遇するなら、それは差別。
記入したくない	40～49歳	人生は一度ということが前提で、気にしないで少しずつやっていく。
記入したくない	50～59歳	MtF TG当事者です。偶然なのでしょうね。
記入したくない	無回答	男女が違う事は事実だから、変に取っ払おうとはせず（がいいかな）、お互いに協力する社会目指して頑張る事はとても良いことなので、頑張って下さい。どうして目指すのか、一言でまとめたら良いっすよ。馬鹿でも分かる様に。
無回答	無回答	男性、女性が平等な権利や機会をもてるようになることは賛成ですが、それにしても男性と女性の特異な点は認め合って、良い社会を創れるようにしたい。いわゆる「らしさ」とは、他から、外から求められるものではなく、自覚としてそのようなものであってほしい。
無回答	無回答	・アンケートの意図不明確 ・自治体は前線で動くべき。

鎌ヶ谷市男女共同参画に関するアンケート調査 ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政にご理解ご協力をいただきありがとうございます。
ございます。

鎌ヶ谷市では、男女が互いに人権を尊重しあい、個性と能力を發揮できる男女共同参画社会の実現を目指して、さまざまな取組を進めています。

このたび、次期男女共同参画計画を策定するにあたり、18歳以上の市民の方3000人の方を対象（無作為抽出）に、基礎調査を実施いたします。この調査は無記名としており、統計的に処理しますので、個人が特定されることはございません。

つきましては、ご多忙の折り、誠に恐縮ではございますが、調査へのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、ご回答いただきました調査票につきましては、同封の返信用封筒に入れて、9月16日（火）までに、郵便ポストに投函（切手不要）いただきますよう、お願い申し上げます。

令和7年8月

鎌ヶ谷市長 芝田 裕美

この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。



鎌ヶ谷市 市民生活部 市民活動推進課
男女共同参画室

〒273-0195

千葉県鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷二丁目6番1号

TEL 047-445-1277（直通）

FAX 047-445-1400



I 男女共同参画社会についてお伺いします。

「男女共同参画社会」とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことです。（男女共同参画基本法より抜粋）

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

項目ごとに、あなたのお考えに近い番号に1つずつ○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

		男性の方が 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない
① 家庭生活	⇒	1	2	3	4	5	6
② 職場	⇒	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育	⇒	1	2	3	4	5	6
④ 地域生活	⇒	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度	⇒	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念・慣習	⇒	1	2	3	4	5	6
⑦ 政治、政策決定の場	⇒	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体	⇒	1	2	3	4	5	6

問2 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも可）

- 1 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
- 2 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
- 3 ジェンダー（社会的文化的につくられた性別）
- 4 DV：ドメスティック・バイオレンス（配偶者などからの暴力）
- 5 LGBTQ+（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー・
クエスチョニング又はクィア・プラス（分類できないその他の性））
- 6 セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）
- 7 SOGI（性自認・性的指向を表す言葉）
- 8 ダイバーシティ（多様性）
- 9 鎌ケ谷市男女共同参画（推進）計画
- 10 鎌ケ谷市パートナーシップ・ファミリーシップ届出制度
- 11 リプロダクティブライツ・アンドヘルス（性と生殖に関する健康と権利）
- 12 パープルリボン（女性に対する暴力根絶のシンボル）
- 13 クォータ制（女性の割合を一定数定めて積極的に起用する制度）
- 14 女性支援新法（困難な問題を抱える女性への支援に関する法律）
- 15 LGBTQ理解増進法（性的指向及びジェンダーアイデンティティの
多様性に関する国民の理解の増進に関する法律）
- 16 見たり聞いたりしたものはない

問3 鎌ケ谷市は、男女が互いに個性と能力を十分発揮できる男女共同参画社会を推進するための拠点施設として、男女共同参画推進センターを設置し、「男女が互いに人間として平等に尊重されつつ、責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすまち鎌ケ谷」を基本理念とした男女共同参画推進に向けたさまざまな取組を行っています。

あなたは、「鎌ケ谷市男女共同参画推進センター」についてご存知でしたか。 (○は1つ)

- 1 男女共同参画推進センターのセミナーや講座・展示会などの催しに参加したことがある
- 2 男女共同参画推進センターの催しに参加したことはないが、確かに見聞きしたことがある
- 3 見聞きしたような気がする
- 4 見聞きしたことはない

II 家庭生活や働き方についてお伺いします。

問4 全員の方にお伺いします。

今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか
あてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

- 1 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 7 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
- 8 男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
- 9 男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他（)
- 12 特に必要なことはない

問5 生活の中での「仕事」、家族と過ごすこと、家事・育児・介護などの「家庭生活」、地域活動・スポーツ・学習・趣味・娯楽・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。 (○は1つ)

- 1 「仕事」を優先したい
- 2 「家庭生活」を優先したい
- 3 「地域・個人の生活」を優先したい
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

問6 引き続き、生活の中での「仕事」、家族と過ごすこと、家事・育児・介護などの「家庭生活」、地域活動・スポーツ・学習・趣味・娯楽・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

それでは、あなたの現実・現状に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。 (○は1つ)

- 1 「仕事」を優先している
- 2 「家庭生活」を優先している
- 3 「地域・個人の生活」を優先している
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 5 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

問7 一般的に、男女が共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような環境整備が必要だと思いますか。

必要だと思う番号を最大3つまで○をつけてください。 (○は3つまで)

- 1 育児・介護休業を取得できる期間を延ばすなど、制度を充実させること
- 2 管理職の意識、代替要員の確保など、制度を利用しやすい職場環境を整備すること
- 3 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実すること
- 4 地域や職場内の保育所、学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容を充実すること
- 5 病児保育を充実させること
- 6 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- 7 残業を減らすなど、年間労働時間を短縮すること
- 8 パートタイマーなど非正規職員の労働条件を改善すること
- 9 男女が共に仕事と家庭を両立していくことに対して、家族など周囲の理解と協力があること
- 10 その他 ()
- 11 わからない

問8 女性が働くことについてあなたの考えに最も近いものひとつに○をつけてください。 (○は1つ)

- | | |
|---|--|
| 1 | 女性は仕事をもたない方がよい |
| 2 | 結婚するまでは仕事をもつ方がよいが、結婚後はもたない方がよい |
| 3 | 結婚後も子どもができるまでは仕事をもつ方がよいが、その後は仕事をもたない方がよい |
| 4 | 結婚や出産で仕事を辞め、その後子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい |
| 5 | 結婚や出産にかかわらず仕事をもつ方がよい |
| 6 | 会社に就職するよりも、女性自ら起業を選択できる方がよい。 |
| 7 | その他 () |

問9 あなたは、女性が起業することについてどう思いますか。

それぞれについて、一番近い考え方の番号ひとつに○をつけてください。 (○はそれぞれ1つずつ)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	わからない
① 男性に比べて女性は起業をしにくい環境がある ⇒	1	2	3	4	5	
② 資金、知識、人脈等が不足している場合が多く、女性にはリスクが大きい ⇒	1	2	3	4	5	
③ 時間を有効に使うことができ、子育て等家庭との両立が図りやすい ⇒	1	2	3	4	5	
④ 趣味や資格を活かし、好きな仕事ができる ⇒	1	2	3	4	5	
⑤ 生活者としての視点や、地域資源を活かすことができる ⇒	1	2	3	4	5	
⑥ 女性の潜在労働力を活かすことができ、雇用の拡大や社会の活力に資する ⇒	1	2	3	4	5	

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会とは「一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」のことです。

問 13 **全員の方にお伺いします。**

「ワーク・ライフ・バランスが実現した社会」に関する以下の3つの項目について、あなた自身の生活や身の回りの環境から判断して、それぞれの項目が1年前と比較してどのように変化していると思いますか。

最も近いものをそれぞれ1つだけお答えください。 （○はそれぞれ1つずつ）

	良くなったと思う	良くなったかと思う どちらかといえば	変わらないと思う	悪くなったかと思う 悪くなったかと思う	悪くなったと思う	わからない
① 就労による経済的自立が可能な社会 （経済的に自立し、いきいきとした働き方ができる ⇒ など、暮らしの基盤が確保できる）	1	2	3	4	5	6
② 健康で豊かな生活のための時間が 確保できる社会 （健康で、家族や友人と過ごしたり、自己啓発や地域 ⇒ 活動に参加する時間を持てる豊かな生活ができる）	1	2	3	4	5	6
③ 多様な働き方・生き方が選択できる社会 （誰もが、子育てや介護など個人の状況に応じて多様 ⇒ で柔軟な働き方や生き方ができる）	1	2	3	4	5	6

問 14 **現在結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。**

あなたのご家庭では現在、家事等の日常的な仕事は、主にどなたがしていますか。

①～⑧それぞれについて、一番近い番号ひとつに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

現在の仕事の分担		主に自分が 行う	主に配偶者 ・パートナー が行う	どちらも 同じくらい 行う	主にその他の 人が行う	こどもや 介護が必要 な高齢者は いない
① 食事の支度・あとかたづけ ⇒		1	2	3	4	
② 掃除・洗濯 ⇒		1	2	3	4	
③ 食料品・日用品等の買物 ⇒		1	2	3	4	
④ 役所等への用事・書類の作成 ⇒		1	2	3	4	
⑤ 町内会などの地域活動 ⇒		1	2	3	4	
⑥ 乳児・幼児の世話 （現在、または過去に） ⇒		1	2	3	4	5
⑦ こどもの学校行事等への参加 （現在、または過去に） ⇒		1	2	3	4	5
⑧ 高齢者の世話（介護） （現在、または過去に） ⇒		1	2	3	4	5

問 15 **引き続き、現在結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。**

また、あなたはどのような仕事の分担が理想的だと考えますか。

①～⑧それぞれについて、一番近い番号ひとつに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

理想と考える仕事の分担		主に自分が 行う	主に配偶者 ・パートナー が行う	どちらも 同じくらい 行う	主にその他の 人が行う	こどもや 介護が必要 な高齢者は いない
① 食事の支度・あとかたづけ ⇒		1	2	3	4	
② 掃除・洗濯 ⇒		1	2	3	4	
③ 食料品・日用品等の買物 ⇒		1	2	3	4	
④ 役所等への用事・書類の作成 ⇒		1	2	3	4	
⑤ 町内会などの地域活動 ⇒		1	2	3	4	
⑥ 乳児・幼児の世話 ⇒		1	2	3	4	5
⑦ こどもの学校行事等への参加 ⇒		1	2	3	4	5
⑧ 高齢者の世話（介護） ⇒		1	2	3	4	5

問 16 **引き続き、現在結婚（事実婚含む）している方のみお答えください。**

1日24時間のうち、家事や育児や介護などに携わっている時間は、平均して何時間くらいですか。

日曜日・祝日なども含めて、およその1日あたりの平均時間をご記入ください。

1日あたり

時間くらい

Ⅲ 教育についてお伺いします。

問 17 あなたは、こどもの教育における男女平等の意識についてどう思いますか。

①～④それぞれについて、一番近い考え方の番号ひとつに○をつけてください。 (○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
① 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる方がよい ⇒	1	2	3	4	5
② 性別にとらわれず、男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につけることが必要である ⇒	1	2	3	4	5
③ 小学校や中学校で、教師が児童・生徒の名前を呼ぶときは、性別で「くん」「さん」を使い分けられない方がよい ⇒	1	2	3	4	5
④ 小学校や中学校で、名簿について男女で分けず、男女混合の名簿を使用する方がよい ⇒	1	2	3	4	5

問 18 こどもへの性の多様性に関する教育の必要性について、どの程度必要だと思いますか。

一番近い考え方の番号に○をつけてください。 (○は1つ)

1 必要だと思う 2 どちらかといえば必要だと思う 3 どちらかといえば必要だと思わない 4 必要ないと思う 5 わからない
--

問 19 あなたは、こどもを性被害から守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。

この中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

1 保護者や学校が、こどもに対し教育を行うこと 2 メディアやイベントなどを通じて、こども、保護者、社会に対し、広報啓発を行うこと 3 こどもや保護者が困った時に相談できる窓口を設けること 4 相談したこどもや保護者の支援体制を構築すること 5 取締りや規制を強化すること 6 こどもにインターネットなどから、いわゆるJKビジネス等怪しい求人の情報を見せないようにすること 7 その他 () 8 わからない

Ⅳ 配偶者や恋人からの暴力などについてお伺いします。

問 20 配偶者や恋人からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）と言いますが、あなたは次のような行為をDVだと思えますか。

①～⑯の項目ごとにあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

		DVだと思う	DVだと思わない	わからない
① なぐったり、けったりする ⇒		1	2	3
② 平手で打つ ⇒		1	2	3
③ なぐるふりをしておどす、物を投げる ⇒		1	2	3
④ 性的な行為を強要する ⇒		1	2	3
⑤ 避妊に協力しない ⇒		1	2	3
⑥ 妊娠中絶を強要する ⇒		1	2	3
⑦ 何を言っても長期間無視し続ける ⇒		1	2	3
⑧ 私物を壊す、勝手に捨てる ⇒		1	2	3
⑨ 大声でどなる、ののしる ⇒		1	2	3
⑩ 「死ぬ」「キモイ」などと言う ⇒		1	2	3
⑪ 「誰のおかげで生活できるんだ」 「もっと稼いできなさいよ」と言う ⇒		1	2	3
⑫ 電話・メール・SNSなどを細かく チェックする ⇒		1	2	3
⑬ 親戚・友人との付き合いや、外出する ことを、禁止したり制限したりする 位置情報などを細かくチェックする ⇒		1	2	3
⑭ 必要な生活費を渡さない ⇒		1	2	3
⑮ お金の使い道を細かくチェックする ⇒		1	2	3
⑯ 外で働くことを制限する ⇒		1	2	3

問 21 **配偶者や恋人がいる方（いた方）にお伺いします。** ⇒ **いない方は問 24 にお進みください。**

あなたはこれまでに、配偶者や恋人から次の①～④のようなことをされたことがありますか。

①～④のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。 （○はそれぞれ1つずつ）

※なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚を解消した相手）も含まれます。

	これまで、 まったくない	これまで1、2度 あったが、 この1年間はない	これまで何度も あったが、 この1年間はない	この1年間に 1、2度あった	この1年間に 何度もあった
① 身体的暴行 ⇒	1	2	3	4	5
② 心理的攻撃 ⇒	1	2	3	4	5
③ 経済的圧迫 ⇒	1	2	3	4	5
④ 性的強要 ⇒	1	2	3	4	5

身体的暴行： なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行

心理的攻撃： 人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など

経済的圧迫： 生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど

性的強要： 嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど

問 22 **問 21 の①～④のうち、1つでも「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた方にお伺いします。**

⇒ **問 21 の①～④のすべてが「これまで、まったくない」という方は、問 24 にお進みください。**

あなたはこれまでに、配偶者や恋人から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 （○はいくつでも可）

- 1 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所等）や男女共同参画センターに相談した
- 2 警察に連絡・相談した
- 3 法務局・地方法務局・人権擁護委員に相談した
- 4 上記（1～3）以外の公的な機関（市役所など）に相談した
- 5 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
- 6 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
- 7 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）に相談した
- 8 職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した
- 9 家族や親戚に相談した
- 10 友人・知人に相談した
- 11 インターネットの掲示板やSNSなどに投稿したり、相談した
- 12 その他（ ）
- 13 どこ（だれ）にも相談しなかった

問 23 問 22 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお伺いします。

どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

(○はいくつでも可)

- 1 どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
- 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談するほどのことではないと思ったから
- 5 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 6 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
- 7 自分にも悪いところがあると思ったから
- 8 相談窓口があるのを知らなかったから
- 9 そのことについて思い出したくなかったから
- 10 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や性的な画像のばらまきなど）
- 11 世間体が悪いと思ったから
- 12 他人を巻き込みたくなかったから
- 13 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 14 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
- 15 相手の行為は愛情表現だと思ったから
- 16 別れるつもりがなかったから
- 17 その他（）

V 性的少数者（セクシュアル・マイリティ）についてお伺いします。

問 24 あなたは、現在、性的少数者の方にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。

(○は1つ)

- 1 思う
- 2 どちらかといえば思う
- 3 どちらかといえば思わない
- 4 思わない
- 5 わからない

問 25 問 24 で「1 思う」「2 どちらかといえば思う」と答えた方にお伺いします。

性的少数者の方に対する偏見や差別などをなくし、生活しやすくなるために、どのような対策が必要だと思いますか
次の中から 3 つまで選んで○をつけてください。 (○は 3 つまで)

- 1 行政が市民等への周知啓発を行う
- 2 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する
- 3 生徒や市民への対応を想定し、小中高等学校の教員や行政職員への研修等を行う
- 4 法律等に、性的少数者の方への偏見や差別を解消する取組を明記する
- 5 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
- 6 働きやすい職場環境づくりの取組をする
- 7 防災計画の策定や避難所の運営等において配慮する
- 8 更衣室や制服など、性別での区別について配慮する
- 9 書類やアンケート等における性別欄を見直す
- 10 性の多様性を理解するための学校教育を行う
- 11 市民向け講座等を開催する
- 12 その他 ()
- 13 わからない

VI 社会活動等への参画についてお伺いします。

問 26 次の地域活動の中で、あなたが「現在参画している（事業の運営に関わるなど）活動」すべてに○をつけて
ください。 (○はいくつでも可)

- 1 町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動
- 2 保育園・学校等の保護者会・PTA活動、こども育成会活動
- 3 NPO、ボランティア団体等での活動
- 4 趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動
- 5 子育て・こどもの健全育成に関する活動
- 6 男女平等や女性問題について学習する会など男女共同参画に関する活動
- 7 消費者問題に関する活動
- 8 医療・社会福祉分野での奉仕活動
- 9 自然保護・公害防止など、環境問題に関する活動
- 10 国際交流・国際協力・国際平和に関する活動
- 11 観光・地域の活性化に関する活動
- 12 防犯・防災分野での活動
- 13 その他 ()
- 14 現在参画している活動はひとつもない

問 27 また、「今後参画してみたい地域活動、または引き続き参画したい地域活動」がありましたら、すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

- 1 町内会・自治会、青年団・婦人会・老人クラブでの活動
- 2 保育園・学校等の保護者会・PTA活動、こども育成会活動
- 3 NPO、ボランティア団体等での活動
- 4 趣味・スポーツ、教養・学習・文化に関する活動
- 5 子育て・こどもの健全育成に関する活動
- 6 男女平等や女性問題について学習する会など男女共同参画に関する活動
- 7 消費者問題に関する活動
- 8 医療・社会福祉分野での奉仕活動
- 9 自然保護・公害防止など、環境問題に関する活動
- 10 国際交流・国際協力・国際平和に関する活動
- 11 観光・地域の活性化に関する活動
- 12 防犯・防災分野での活動
- 13 その他 ()
- 14 今後参画したい活動はひとつもない

問 28 あなたは、自治会長やPTA会長など、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

- 1 女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
- 3 社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
- 4 女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
- 5 女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること
- 6 その他 ()

問 29 男女平等をいっそう進めるため、日ごろから心がけていることがありますか。該当するすべての番号に○をつけてください。 (○はいくつでも可)

- 1 「男性は仕事、女性は家庭」と、性別によって役割を決めつけない
- 2 家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う
- 3 自分の生活費は自分で稼ぎ、自分のことは自分で決め、身の回りのことは自分でする等、男女とも1人でも生きていけるようにする
- 4 男の子、女の子を区別しない子育て・しつけ、教育をする
- 5 社会のいろいろな出来事に目を向けるようにする
- 6 「男らしく」「女らしく」というような押しつけをしない
- 7 「女々しい」「男勝りな」などの、性別を強調した言葉はできるだけ使わない
- 8 性別を気にせず、自分の個性や好みに合った服装や髪型を選ぶ
- 9 その他 ()
- 10 特になし

Ⅶ 男女共同参画社会に関する行政への要望についてお伺いします。

問 30 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、鎌ヶ谷市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
この中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。 (○はいくつでも可)

- 1 男女共同参画推進センター機能・事業の充実
- 2 男女共同参画条例の整備など、条例や制度の面で見直しを行う
- 3 鎌ヶ谷市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 5 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
- 6 性差に配慮したライフステージごとの健康支援
- 7 従来、女性が少なかった分野（研究者など）への女性の進出を支援する
- 8 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
- 9 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
(男女共同参画セミナーなどの実施)
- 10 学校における男女共同参画に関する教育・学習の充実
- 11 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
- 12 子育てや介護中であっても仕事が続けられるような社会的支援の充実
- 13 子育てや介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 14 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする
- 15 女性に対する暴力を根絶するための取組を進める
- 16 DV被害者の保護・自立支援や相談体制の充実
- 17 女性や子ども等の人権が侵害されないような防犯環境の整備
- 18 女性に対する再就職支援や起業に対する情報提供
- 19 まちづくりや防災対策への女性の参画
- 20 その他 ()
- 21 わからない

最後に、あなたご自身のことについてお伺いします。

F 1 性別 （○は1つ）

- | | | | |
|------|------|-----------|-----------|
| 1 男性 | 2 女性 | 3 その他の性自認 | 4 記入したくない |
|------|------|-----------|-----------|

F 2 あなたの満年齢はおいくつですか。 （○は1つ）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～19 歳 | 2 20～29 歳 | 3 30～39 歳 | 4 40～49 歳 |
| 5 50～59 歳 | 6 60～69 歳 | 7 70～79 歳 | 8 80 歳以上 |

F 3 あなたのお仕事についてお伺いします。あなたは、この中のどれにあたりますか。 （○は1つ）

- | |
|---|
| 1 正規の職員・従業員 |
| 2 非正規の職員・従業員（パート、アルバイト、契約社員、労働者派遣事業所の派遣社員を含む） |
| 3 役員・理事 |
| 4 自営業主（家庭内職者を含む） |
| 5 家族従業者 |
| 6 専業主婦 |
| 7 専業主夫 |
| 8 学生（浪人生含む） |
| 9 無職（年金生活者を含む） |
| 10 その他（ ） |

F 4 あなたは結婚していらっしゃいますか。 （○は1つ）

- | |
|--------------------------------|
| 1 結婚している ⇒ F 5 へ |
| 2 結婚していないがパートナーと暮らしている ⇒ F 5 へ |
| 3 離別 ⇒ F 6 へ |
| 4 死別 ⇒ F 6 へ |
| 5 未婚 ⇒ F 6 へ |

F 5 **F 4で「1 結婚している」「2 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方にお伺いします。**

配偶者または一緒に暮らしているパートナーの方は、現在働いていますか。 （○は1つ）

- | |
|---|
| 1 フルタイムで働いている（週5日、1日あたり7時間以上働いている） |
| 2 フルタイムではないが働いている（週5日未満、1日あたり7時間未満で働いている） |
| 3 特に働いていない |

F 6 **全員の方にお伺いします。**

あなたの家族構成についてお答えください。次から1つ選び番号を○で囲んでください。 (○は1つ)

1 単身 (ひとり暮らし)	2 夫婦のみ
3 親と子	4 親と子と孫 (三世代同居)
5 その他 ()	

F 7 **全員の方にお伺いします。**

あなたに、お子さんはいらっしゃいますか。 (○は1つ)

1 いる ⇒ F 8へ	2 いない ⇒ F 9へ
-------------	--------------

F 8 **F 7で「1 いる」と答えた方にお伺いします。**

一番下のお子さんの年齢は次のどれにあてはまりますか。 (○は1つ)

1 乳幼児 (小学校入学前)	2 小学1～3年生
3 小学4～6年生	4 中学生
5 高校生以上の学生	6 社会人 (独身)
7 社会人 (既婚)	

F 9 最後に、固定化された意識や慣習にとらわれることなく、自分の意志によって職域、学校、地域、家庭などのあらゆる分野に参画でき、男女が共に協力しあう男女共同参画社会を実現するためのご意見やご提案がございましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。



鎌ヶ谷市マスコットキャラクター
かまたん

令和7年度 男女共同参画に関する市民意識アンケート調査報告書
鎌ヶ谷市 市民生活部 市民活動推進課 男女共同参画室
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷二丁目6番1号